

令和3年度  
市民意識調査「子どもの生活状況調査」

報告書

令和4年3月  
北九州市子ども家庭局



## 〈目次〉

1. 調査概要	
1.1. 分析結果の概要	1
1.1.1. 保護者の生活状況	1
1.1.2. 子どもの生活状況	6
1.2. 調査の実施方法等の概要	12
1.2.1. 調査の目的	12
1.2.2. 調査の仕様	12
1.2.3. 調査の設問	13
1.3. 調査回答者の基本属性等	14
1.3.1. 保護者	14
1.3.2. 子ども	17
2. 分析結果	
2.1. 保護者の生活状況	18
2.1.1. 経済的な状況、暮らしの状況	18
2.1.2. 就労の状況	27
2.1.3. 保育の状況	32
2.1.4. 子どもとの関わり方	34
2.1.5. 学校との関わり・参加	38
2.1.6. 進学期待・展望	40
2.1.7. 頼れる人の有無・相手	44
2.1.8. 保護者の心理的な状態	53
2.2. 子どもの生活状況	55
2.2.1. 学習の状況	55
2.2.2. 進学希望	63
2.2.3. 部活動等への参加状況	71
2.2.4. 日常的な生活の状況	74
2.2.5. 子どもの心理的な状態	81
2.2.6. 逆境体験	84
2.3. 新型コロナウイルス感染症の影響	87
2.3.1. 保護者の状況	87
2.3.2. 子どもの状況	95
2.4. 支援の利用状況や効果等	105
2.4.1. 保護者の状況	105
2.4.2. 子どもの状況	110

3. 参考資料	
3.1. 調査票.....	121
3.2. 等価世帯収入の算出.....	142

# 1. 調査概要

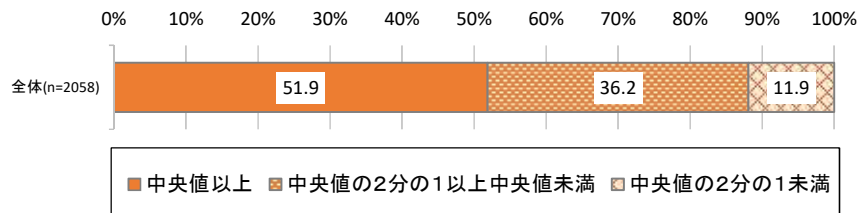
## 1.1. 分析結果の概要

- 本報告書では、保護者・子どもの生活状況について、北九州市の実態を把握するとともに、「等価世帯収入」の水準と「親の婚姻状況」別に比較分析を行った。分析の結果、世帯収入の水準や親の婚姻状況によって、子どもの学習・生活・心理など様々な面が影響を受けていた。
- 特に「等価世帯収入が中央値の2分の1未満」でもっとも収入が低い水準の世帯や、ひとり親世帯が、親子ともに多くの困難に直面している。ただし、「等価世帯収入が中央値の2分の1以上だが中央値未満」の、いわば収入が中低位の水準の世帯でも、多様な課題が生じていた。
- 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活状況がさらに厳しくなっている可能性がある。

### 1.1.1. 保護者の生活状況

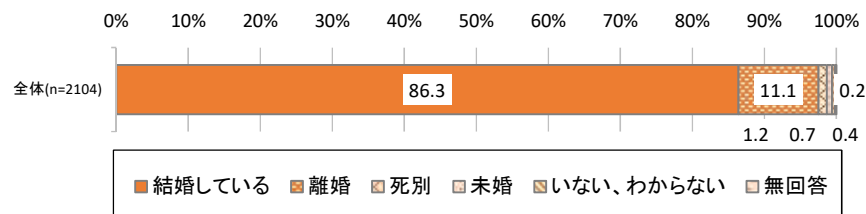
#### 【等価世帯収入】

- ① 2021年の世帯全員のおおよその年間収入について、家族の人数を踏まえて「等価世帯収入」の水準により分類した<sup>1</sup>。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当するのは11.9%、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当するのは36.2%、「中央値以上」に該当するのは51.9%であった。



#### 【親の婚姻状況】

- ② 子どもの親の婚姻状況は、「結婚している(再婚や事実婚を含む。)」が86.3%、「離婚」が11.1%、「死別」が1.2%、「未婚」が0.7%であった。「離婚」、「死別」、「未婚」は合わせて13.0%であり、これらを「ひとり親世帯」であるとして集計した。



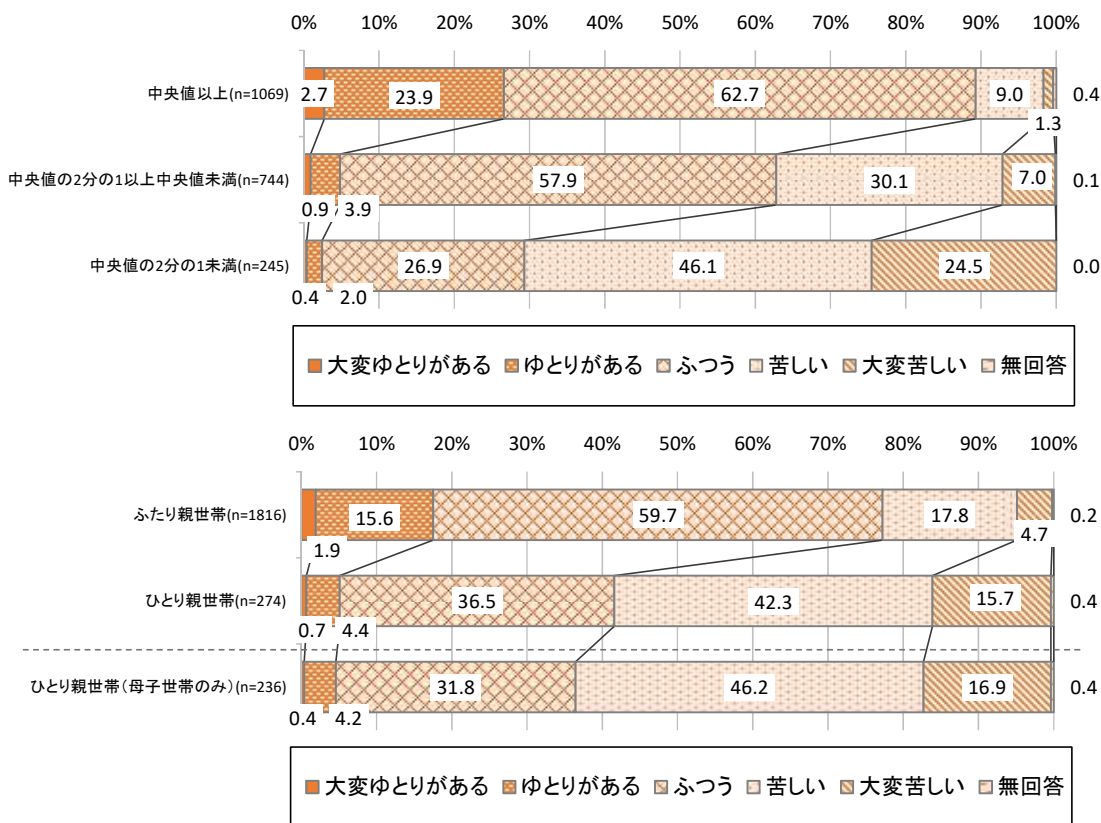
※等価世帯収入とは、年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入とし、(例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。)同居家族の人数の平方根をとったもので除した値のことをいう。

<sup>1</sup>分類の方法等、詳しくはP142 参考資料「3.2.等価世帯収入の算出」参照。

【現在の暮らしの状況①】

③ 現在の暮らしの状況について「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、もっとも収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、全体の2倍以上に及んだ。

「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合は、全体では27.3%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では37.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では70.6%、「ひとり親世帯」全体では58.0%、「母子世帯」のみでは63.1%であった。



【現在の暮らしの状況②】

④ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」、「公共料金の未払い」が生じている割合が高い。

「食料が買えなかった経験」が「あった」とする割合は、全体では14.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では19.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では48.6%、「ひとり親世帯」全体では34.4%、「母子世帯」のみでは36.1%であった。

「衣服が買えなかった経験」が「あった」とする割合は、全体では19.5%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では25.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では62.1%、「ひとり親世帯」全体では48.5%、「母子世帯」のみでは53.0%であった。

「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」のいずれか1つ以上で未払いが発生している割合は、全体では5.1%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では6.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では19.6%、「ひとり親世帯」全体では11.7%、「母子世帯」のみでは12.7%であった。

【子どもや学校との関わり】

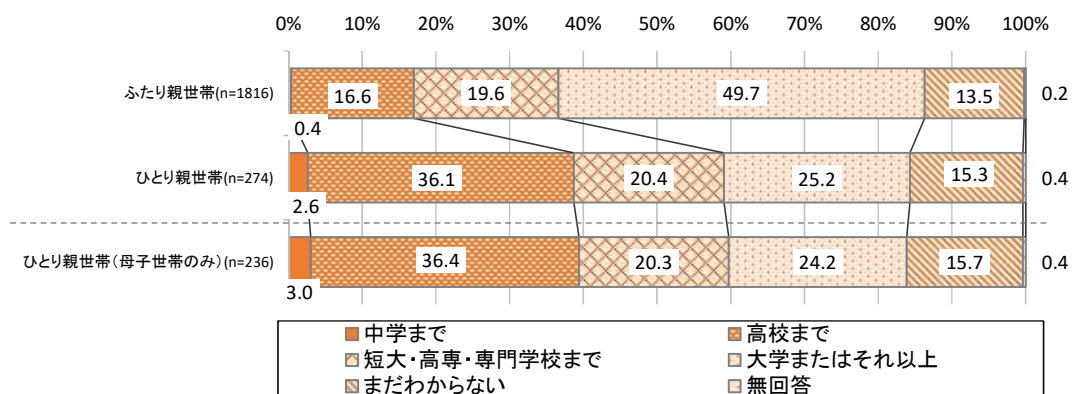
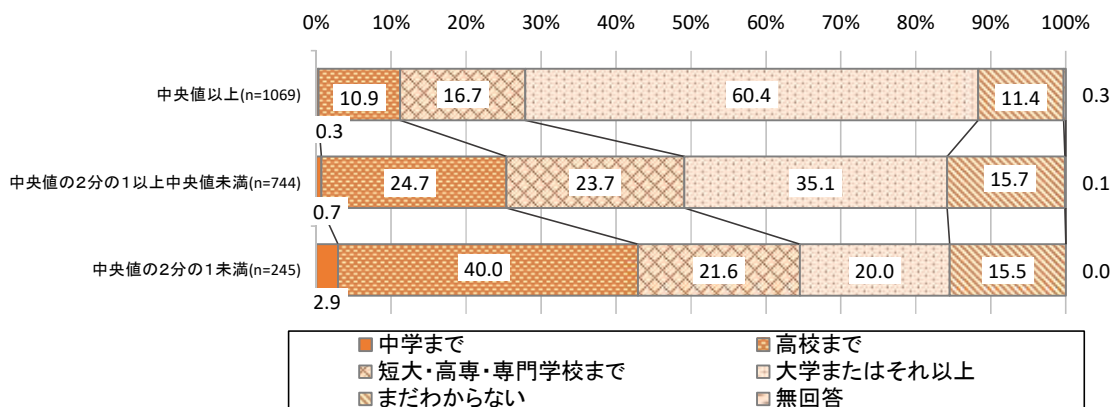
- ⑤ 収入の水準や世帯の状況の違いは、「子どもとの関わり方」や「学校との関わり・参加」の状況の差異にも関連する。

一例として、「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」かについて、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合は、全体では36.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では37.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では47.0%、「ひとり親世帯」全体では42.3%、「母子世帯」のみでは44.1%であった。

【進学の見込み・展望①】

- ⑥ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、子どもが将来どの段階まで進学するかの希望・展望に関して「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。

「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では46.4%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では35.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では20.0%、「ひとり親世帯」全体では25.2%、「母子世帯」のみでは24.2%であった。





## 【進学の期待・展望②】

- ⑦ 子どもの進学段階について「高校まで」と考える理由として、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合が高い。

子どもの進学段階について「高校まで」と考える理由として「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合は、全体では 29.9%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 34.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 42.9%、「ひとり親世帯」全体では 48.5%、「母子世帯」のみでは 50.0%であった。

## 【頼れる人の有無】

- ⑧ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、頼れる人がいないと回答した割合が高い。

一例として、「いざというときのお金の援助に関して頼れる人」について、「いない」の割合は、全体では 12.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 14.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 29.4%、「ひとり親世帯」全体では 23.0%、「母子世帯」のみでは 24.2%であった。

## 【心理的な状況】

- ⑨ 保護者の心理的な状況に関して、収入の低い世帯やひとり親世帯では、「うつ・不安障害相当」に該当する者の割合が高い。

保護者の心理的な状況に関して、「うつ・不安障害相当」にあると考えられる割合は、全体では 8.0%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 9.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 21.6%、「ひとり親世帯」全体では 18.6%、「母子世帯」のみでは 20.8%であった。

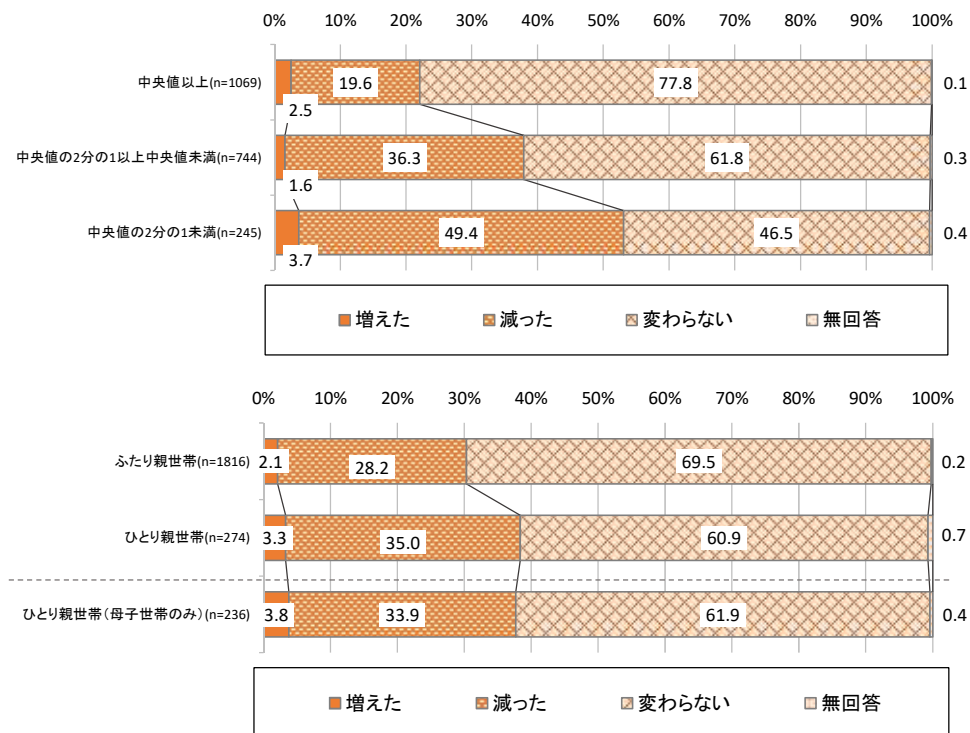
※「保護者の心理的な状態」に関して、調査では「K6」と呼ばれる指標を把握するための6つの項目を設定し、結果を足し合わせて、K6のスコアを算出した。

K6とは、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。

## 【新型コロナウイルスの影響①】

- ⑩ 新型コロナウイルス感染症の拡大による「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合は、収入が低い世帯で高い。

「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合は、全体では 29.2%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 36.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 49.4%であった。



## 【新型コロナウイルス感染症の影響②】

- ⑪ 「生活に必要な支出の変化」、「お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」、「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」について「増えた」と回答した割合は、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「生活に必要な支出の変化」について「増えた」と回答した割合は、全体では 38.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 43.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 58.8%、「ひとり親世帯」全体では 48.5%、「母子世帯」のみでは 52.5%であった。

「お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」について「増えた」と回答した割合は、全体では 12.5%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 17.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 38.4%、「ひとり親世帯」全体では 27.4%、「母子世帯」のみでは 29.7%であった。

「あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」について「増えた」と回答した割合は、全体では 33.5%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 36.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 51.4%、「ひとり親世帯」全体では 45.6%、「母子世帯」のみでは 49.2%であった。

### 1.1.2.子どもの生活状況

#### 【学習の状況①】

- ① 「学校の授業以外で勉強はしない」と回答した割合は、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「学校の授業以外で勉強はしない」と回答した割合は、全体では9.0%であったのに対し、等価世帯収入の水準が、「中央値の2分の1未満」の世帯で15.2%、「ひとり親世帯」全体では17.9%、「母子世帯」のみでは18.7%であった。

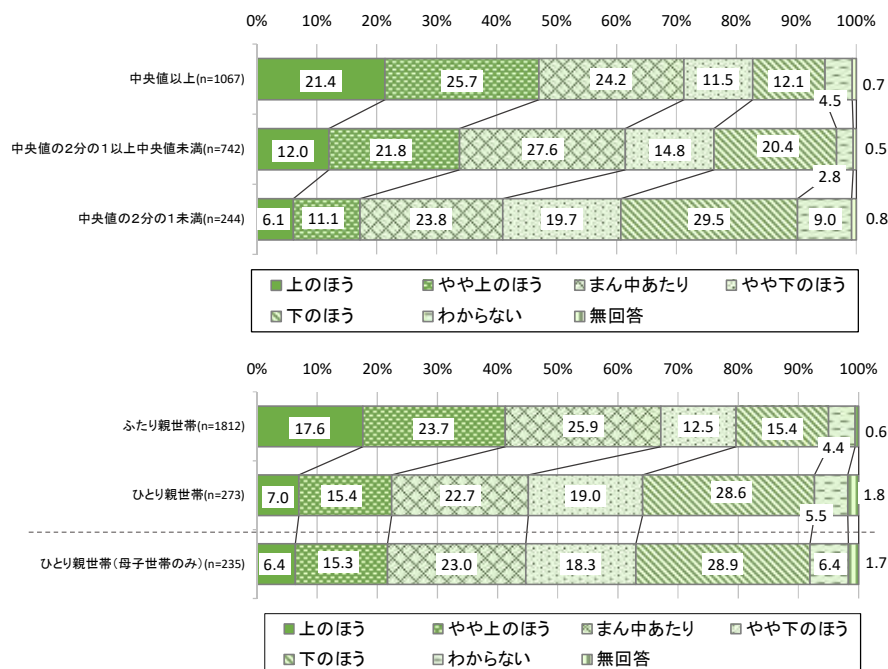
#### 【学習の状況②】

- ② 学校がある日に授業以外の勉強を「まったくしない」と回答した割合、クラスのなかでの成績について「下のほう」と回答した割合、学校の授業について「わからない」と回答した割合は、それぞれ収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

学校がある日に勉強を「まったくしない」と回答した割合は、全体では10.9%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では12.7%、「中央値の2分の1未満」の世帯では18.0%、「ひとり親世帯」全体では17.9%、「母子世帯」のみでは17.0%であった。

クラスのなかでの成績について「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合は、全体では30.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では35.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では49.2%、「ひとり親世帯」全体では47.6%、「母子世帯」のみでは47.2%であった。

学校の授業について「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」を合わせた割合は、全体では13.3%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では15.5%、「中央値の2分の1未満」の世帯では28.7%、「ひとり親世帯」全体では29.7%、「母子世帯」のみでは29.8%であった。



## 【進学希望】

- ③ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、進学したいと思う教育段階について「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。

「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では 44.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 35.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 25.0%、「ひとり親世帯」全体では 29.7%、「母子世帯」のみでは 28.5%であった。

## 【部活動】

- ④ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、部活動等に参加していない割合が高い。また、部活動に参加していない理由として、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「費用がかかるから」と回答した割合が高い。

部活動等に「参加していない」と回答した割合は、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯では 16.6%であったのに対し、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 22.6%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 40.2%、「ひとり親世帯」全体では 36.3%、「母子世帯」のみでは 37.0%であった。

部活動等に参加していない理由として「費用がかかるから」と回答した割合は、全体では 6.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 4.8%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 11.2%、「ひとり親世帯」全体では 12.1%、「母子世帯」のみでは 13.8%であった。

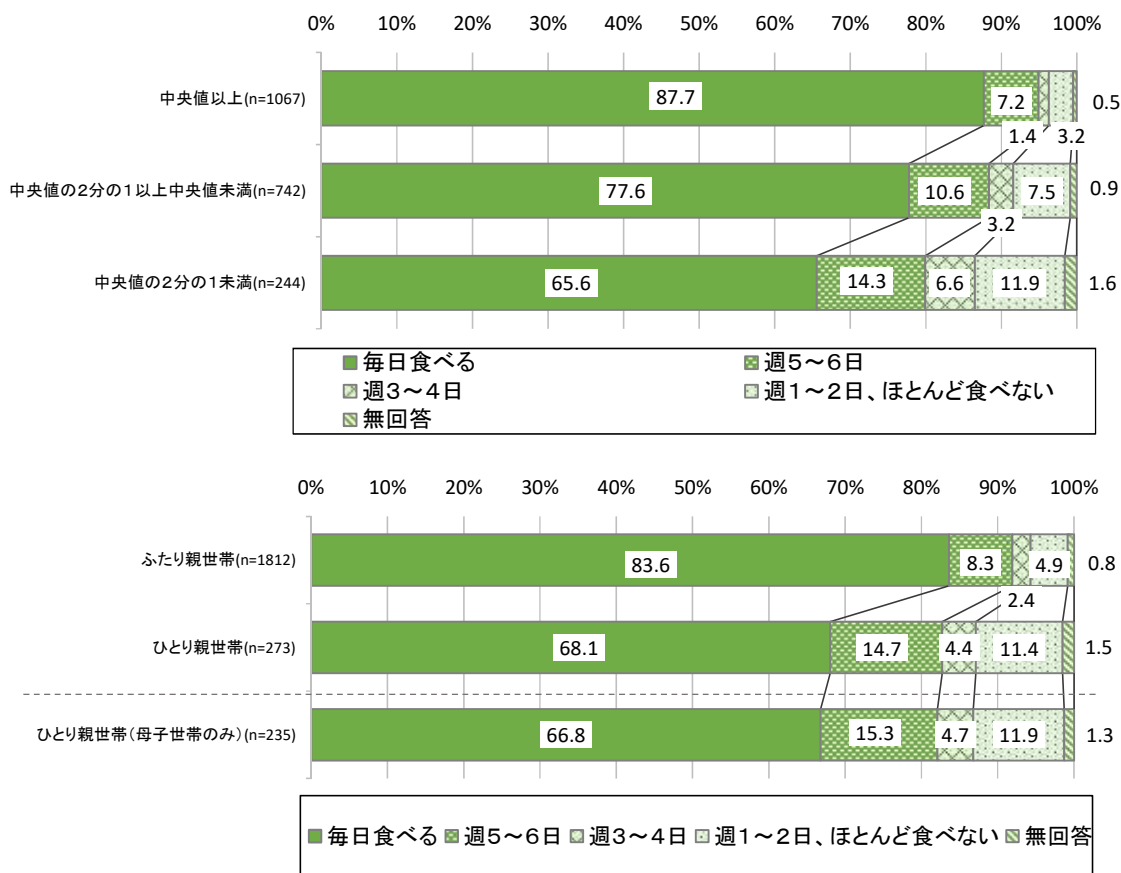
【日常生活の状況】

- ⑤ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「朝食」や「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について「毎日食べる」と回答した割合が低い。また、就寝時間についてほぼ同じ時間に寝ていると回答した割合が低い。

「朝食」について「毎日食べる（週7日）」と回答した割合は、全体では81.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では77.6%、「中央値の2分の1未満」の世帯では65.6%、「ひとり親世帯」全体では68.1%、「母子世帯」のみでは66.8%であった。

「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について「毎日食べる（週7日）」と回答した割合は、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯では90.5%であったのに対し、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では84.8%、「中央値の2分の1未満」の世帯では79.5%、「ひとり親世帯」全体では76.9%、「母子世帯」のみでは77.0%であった。

「ふだんほぼ同じ時間に寝ているか」について、「そうである」と回答した割合は、全体では34.5%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では34.9%、「中央値の2分の1未満」の世帯では31.1%、「ひとり親世帯」全体では29.7%、「母子世帯」のみでは30.2%であった。



## 【相談相手】

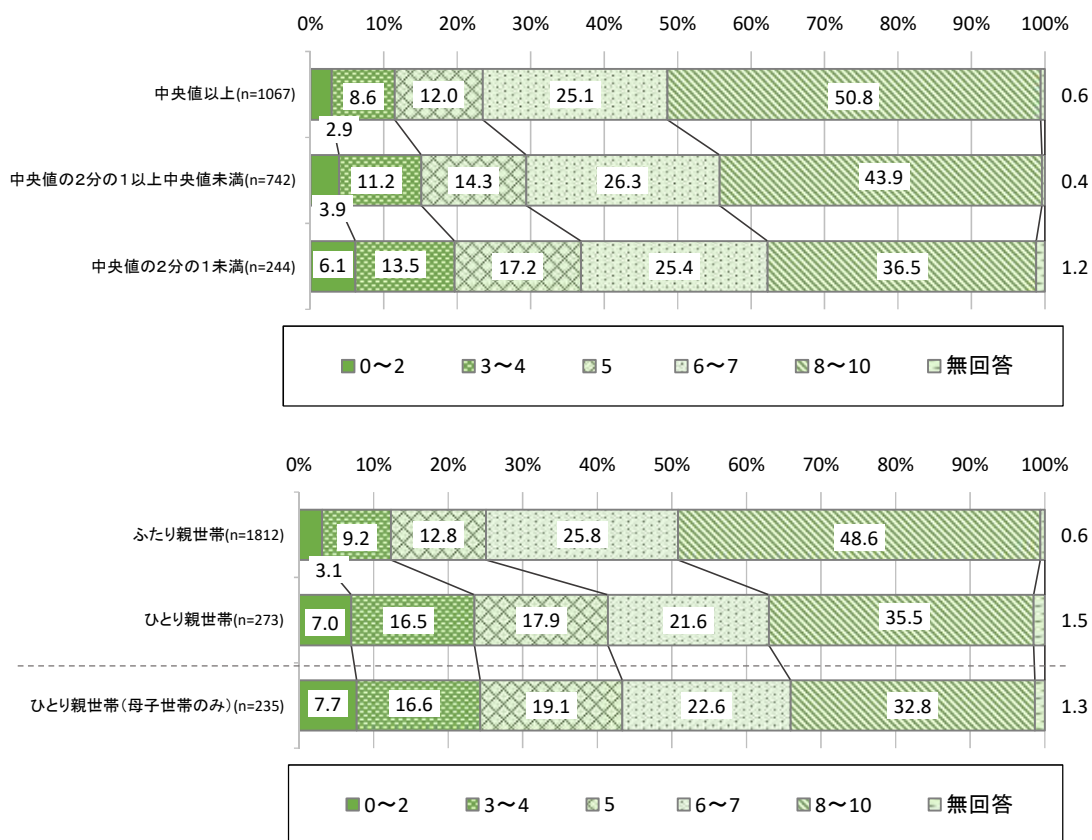
- ⑥ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、相談できる相手に関して、「だれにも相談できない、相談しない」と回答した割合が高い。

困っていることや悩みごとがあるとき相談できると思う人について、「だれにも相談できない、誰にも相談しない」と回答した割合は、全体では8.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では10.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では11.5%、「ひとり親世帯」全体、「母子世帯」のみともに13.2%であった。

## 【生活満足度】

- ⑦ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、生活満足度が低い。

生活満足度については、「0：まったく満足していない」から「10：十分に満足している」の11段階で回答を得たものを5つの分類に再分類して集計した。「6～10」（満足度が高い方の回答）に該当する割合は、全体では72.0%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では70.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では61.9%、「ひとり親世帯」全体では57.1%、「母子世帯」のみでは55.4%であった。

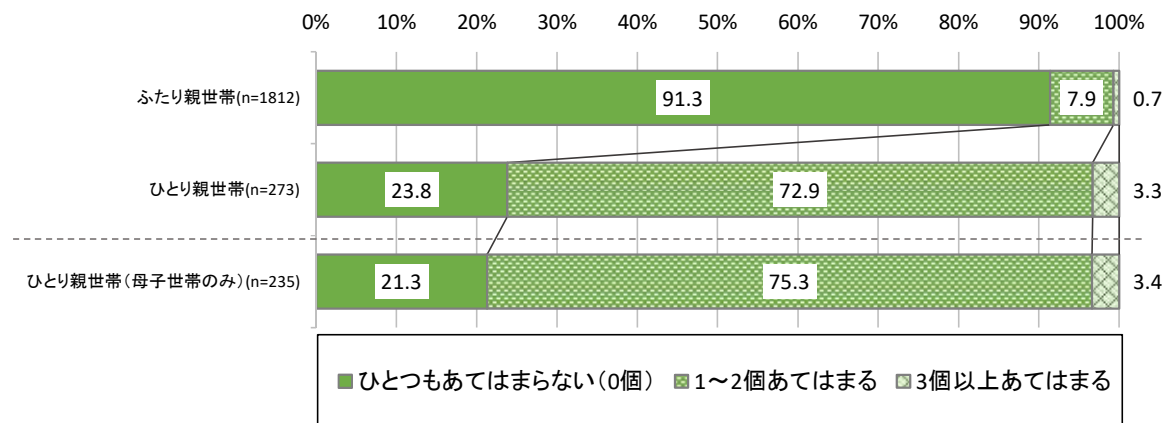
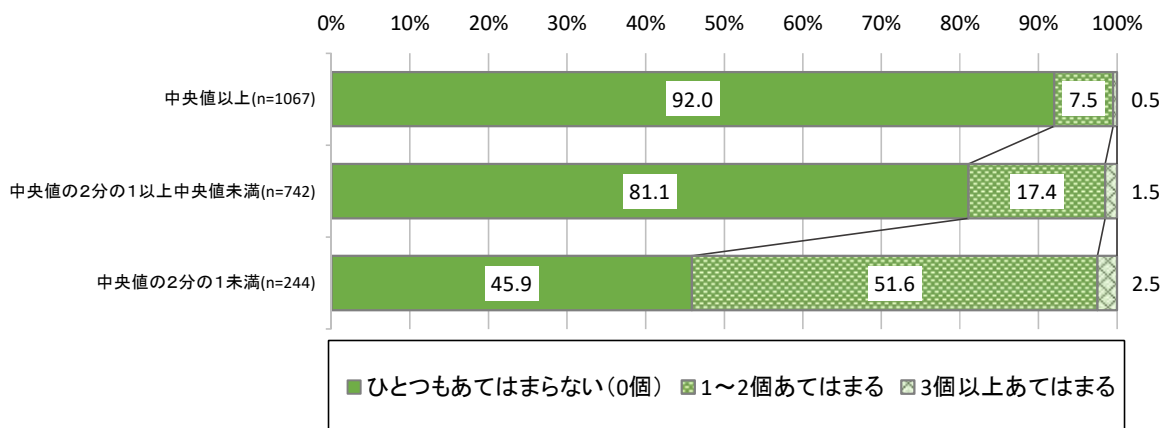


## 【逆境体験】

- ⑧ 収入の水準が低い世帯では、「逆境体験」を経験している割合が高い。また、「逆境体験」を経験している場合には、現在の生活満足度が低いという関連性がある。

「逆境体験」に関する8項目について、「ひとつもあてはまらない(0個)」と回答した割合は、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯では92.0%であったのに対し、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では81.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では45.9%であった。

生活満足度の平均値は、逆境体験について0個の場合では7.3、1個以上該当する場合には5.9であった。



### 【新型コロナウイルス感染症の影響①】

- ⑨ 新型コロナウイルス感染症の拡大による変化として「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した割合は、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「増えた」と回答した割合は、全体では 26.1%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 29.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 43.4%、「ひとり親世帯」全体では 36.3%、「母子世帯」のみでは 38.3%であった。

### 【新型コロナウイルス感染症の影響②】

- ⑩ 新型コロナウイルス感染症の拡大によって学校の授業がわからないと感じることが増えることと、現在の生活満足度には関連性がみられる。

生活満足度の平均値は、「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した場合は 6.2、「減った」と回答した場合は 7.3、「変わらない」と回答した場合は 7.3 であった。



## 1.2. 調査の実施方法等の概要

### 1.2.1. 調査の目的

子どもの貧困対策を進めるに当たっての課題や施策の効果等を確認するための基礎資料を得ることを目的として、「令和3年度 子どもの生活状況調査」を実施した。

この調査では、北九州市内に在住の子ども（中学2年生）及びその保護者に対し、現在の生活・経済状態、将来の貧困に影響を与える可能性のある行動実態、子どもの貧困対策に関連する施策の利用状況、新型コロナウイルス感染症による影響等について把握するための項目を設けた。

### 1.2.2. 調査の仕様

#### (1) 調査地域、調査対象者、標本数、サンプリング方法

北九州市内在住の中学生がいる世帯 5,000 組（中学2年生 5,000 人及びその保護者 5,000 人計 10,000 人） 住民基本台帳から無作為抽出

#### (2) 調査方法、調査期間、有効回収数・回収率

調査方法：郵送配布、郵送回収

調査期間：令和3年11月11日～令和3年12月15日

回収率：保護者 42.1%（2,104 票）

中学生 40.0%（2,000 票）

#### (3) 調査委託機関

委託機関：株式会社日本統計センター

#### (4) 本報告書を読む際の留意点

- 設問文の末尾に示した「SA」は単一回答形式（Single Answer）、「MA」は複数回答形式（Multiple Answer）を示している。
- 図表内の「n=〇〇」はその設問についての有効回答者数（集計対象件数）を示している。
- 回答の比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、単一回答の設問の各選択肢の回答に関する数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。

### 1.2.3. 調査の設問

調査項目は、令和3年2月に内閣府が実施した「子供の生活状況調査」と同じ項目とした。  
 なお、実際の調査票は、参考資料として掲載する。

表 1-2-1

保護者票

問番号	概要
1	回答者の続柄
2	世帯人数
3	家族構成
4	親の婚姻状況
5	ひとり親の養育費受取状況
6	家庭で使用している言語
7	親の学歴
8	親の雇用形態
9	就労していない理由
10	幼児期の教育(0～2歳)
11	幼児期の教育(3～5歳)
12	保護者の関わり方
13	学校行事への参加
14	進学の見通し
15	想定する進学先の理由
16	保護者の頼れる相手
17	暮らし向き(主観)
18	世帯収入
19	滞納・欠乏経験(食料)
20	滞納・欠乏経験(衣服)
21	滞納・欠乏経験 (電気・ガス・水道料金)
22	精神状態
23	コロナ禍の影響
24	支援の利用状況

子供票

問番号	概要
1	本人の性別
2	学習環境
3	学習習慣
4	学習成績
5	授業の理解度
6	授業についていけなくなった時期
7	進学希望
8	想定する進学先の理由
9	部活動等の状況
10	部活動等を行わない理由
11	食事の頻度
12	就寝時間の規則性
13	信頼できる大人・友人
14	主観的幸福(生活満足度)
15	精神状態
16	コロナ禍の影響
17	逆境経験
18	支援の利用状況
19	支援の効果

## 1.3. 調査回答者の基本属性等

### 1.3.1. 保護者

#### (1) 子どもとの続柄

保護者票問1. お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(SA)

調査回答者の、子どもからみた続柄は、「母親（継母を含む。）」が68.2%、「父親（継父を含む。）」が31.2%、「祖父母」が0.2%、「その他」が0.2%となっている。

表 1-3-1 子供との続柄

	母親	父親	祖父母	その他	不明・無回答	合計
件数(件)	1,435	657	4	4	4	2,104
割合(%)	68.2	31.2	0.2	0.2	0.2	100.0

#### (2) 同居家族の人数

保護者票問2. お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の人数(お子さんを含む。)を教えてください。単身赴任中の方は含めないでください。(SA)

子どもと同居し、生計を同一にしている家族の人数は、「4人」が42.1%、「5人」が23.4%、「3人」が20.8%となっている。

表 1-3-2 同居家族の人数

	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上	不明・無回答	合計
件数(件)	74	438	885	493	135	45	18	16	2,104
割合(%)	3.5	20.8	42.1	23.4	6.4	2.1	0.9	0.8	100.0

#### (3) 同居家族に含まれる方(複数回答)

保護者票問3. 前問で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。(MA)

子どもと同居し、生計を同一にしている家族に含まれる方としては、「母親」が87.1%、「父親」が72.4%、「祖父母」が7.3%、「兄弟姉妹」が77.3%、「その他」が1.5%となっている。

表 1-3-3 同居家族に含まれる方

	母親	父親	祖父母	兄弟姉妹	その他	不明・無回答	合計
件数(件)	1,832	1,524	153	1,627	31	4	2,104
割合(%)	87.1	72.4	7.3	77.3	1.5	0.2	100.0

#### (4) 婚姻の状況

保護者票問4. お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(SA)

子どもの親の婚姻状況は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が86.3%、「離婚」が11.1%、「死別」が1.2%、「未婚」が0.7%となっている。

「離婚」、「死別」、「未婚」は合わせて13.0%であり、これらは「ひとり親世帯」であると考えられる。また、調査回答者の子どもとの続柄に関する回答（表1-3-1を参照）から、「母子世帯」であるか「父子世帯」であるかを判別すると、ひとり親世帯であると考えられる世帯のうち12.4%は父子世帯となっている。

このほか、「ふたり親世帯」、「ひとり親世帯」それぞれについて、同居家族に祖父母が含まれている割合をみると、「ふたり親世帯」で祖父母と同居している割合は5.6%、「ひとり親世帯」では17.5%となっている。

表1-3-4 婚姻の状況

	結婚している	離婚	死別	未婚	いない、わからない	不明・無回答	合計
件数(件)	1,816	234	25	15	9	5	2,104
割合(%)	86.3	11.1	1.2	0.7	0.4	0.2	100.0

表1-3-5 ひとり親世帯の内訳

	回答者母親(母子世帯)	回答者父親(父子世帯)	祖父母・その他	ひとり親世帯計
件数(件)	236	34	4	274
割合(%)	86.1	12.4	1.5	100.0

表1-3-6 ふたり親・ひとり親それぞれの祖父母との同居の有無

		父母以外の同居者なし	祖父母同居	祖父母以外の者と同居	不明・無回答等	計
ふたり親世帯	件数(件)	1,690	101	25	0	1,816
	割合(%)	93.1	5.6	1.4	0.0	100.0
ひとり親世帯	件数(件)	189	48	35	2	274
	割合(%)	69.0	17.5	12.8	0.7	100.0
全体	件数(件)	1,885	153	62	4	2,104
	割合(%)	89.6	7.3	2.9	0.2	100.0

## (5) 日本語以外の言語使用

保護者票問6. ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(SA)

家庭での使用言語については、「日本語のみを使用している」が97.6%、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が1.9%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.1%となっている。

表 1-3-7 日本語以外の言語使用

	日本語のみを使用している	日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	日本語以外の言語を使うことが多い	不明・無回答	合計
件数(件)	2,053	40	3	8	2,104
割合(%)	97.6	1.9	0.1	0.4	100.0

## (6) 最終学歴(卒業した学校)

保護者票問7. お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)をお答えください。(SA)

子どもの親の最終学歴(卒業した学校)に関し、「母親」については、「高校(高等部)まで」が31.2%、「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」が44.6%、「大学またはそれ以上」が19.1%となっている。

「父親」については、「高校(高等部)まで」が33.3%、「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」が16.0%、「大学またはそれ以上」が39.1%となっている。

母親・父親の最終学歴の組み合わせとして、「いずれも、大学またはそれ以上」、「いずれかが、大学またはそれ以上」、「その他(不明等を含む)」の3つの分類で判別すると、それぞれ、割合は13.5%、31.2%、55.3%となっている。

表 1-3-8 母親・父親の最終学歴(卒業した学校)

		中学まで	高校まで	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	いない、わからない	不明・無回答	全体
母親	件数(件)	75	657	938	401	8	25	2,104
	割合(%)	3.6	31.2	44.6	19.1	0.4	1.2	100.0
父親	件数(件)	108	700	337	823	30	106	2,104
	割合(%)	5.1	33.3	16.0	39.1	1.4	5.0	100.0

表 1-3-9 母親・父親の最終学歴(卒業した学校)の組み合わせ

	父母のいずれも、大学またはそれ以上	父母のいずれかが、大学またはそれ以上	その他(不明等も含む)	全体
件数(件)	284	656	1,164	2,104
割合(%)	13.5	31.2	55.3	100.0

### 1.3.2.子ども

#### (1) 性別

中学生票問1. あなたの性別を教えてください。(SA)

調査に回答した子どもの性別は、「男」が48.1%、「女」が50.1%、「その他・答えたくない」が0.9%となっている。

表 1-3-10 子どもの性別

	男	女	その他・ 答えたくない	無回答	合計
件数(件)	1,011	1,052	19	18	2,100
割合(%)	48.1	50.1	0.9	0.9	100.0

## 2. 分析結果

## 2.1. 保護者の生活状況

### 2.1.1. 経済的な状況、暮らしの状況

#### (1) 世帯全体の年間収入

保護者票問18. 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(SA)

2021年の世帯全員のおおよその年間収入(税込)については、「1000万円以上」が13.6%で最も割合が高く、次いで、「600～700万円未満」が12.5%、「700～800万円」が12.4%、「500～600万円」が11.6%となっている。

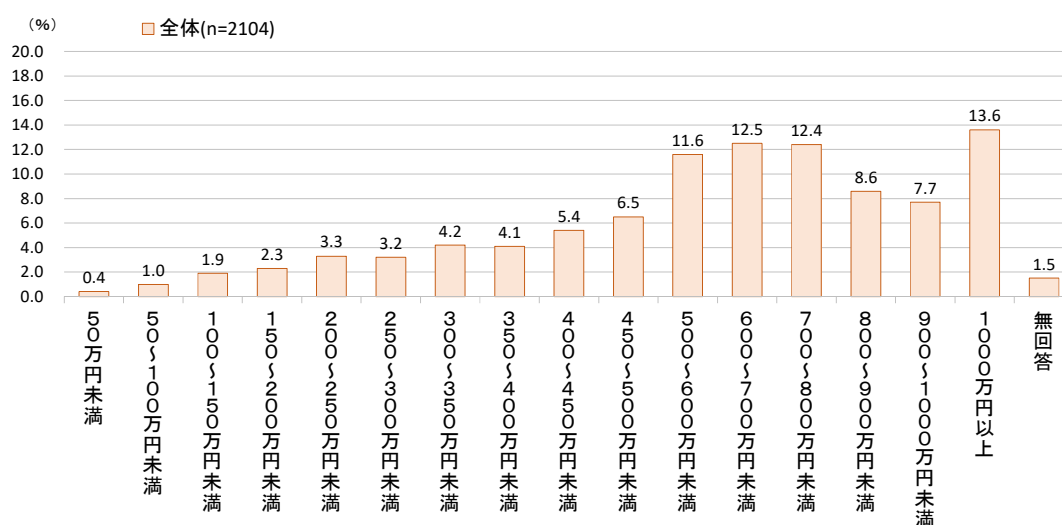


図 2-1-1-1 世帯全員の年間収入

収入が1000万円を超える世帯の割合が1割を超えて高くなっている一方で、「300万円未満」に該当する割合も1割を超えており、収入の水準が低い世帯があることも把握される。本報告書においては、世帯の年間収入の水準について、「子どもと同居し、生計を同一にしている家族の人数」(表 1-3-2 を参照)の情報も踏まえて下記のような処理をし、「等価世帯収入」による分類を行った。

- 年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする(例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1000万円以上」は1050万円とする。)
- 上記の値を、保護者票問2で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
- 上記の方法で算出した値(等価世帯収入)の中央値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで分類する。



分類の結果、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当するのは11.9%、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当するのは36.2%、「中央値以上」に該当するのは51.9%となった。

本報告書では、特に「中央値の2分の1未満」に該当する世帯を、「貧困」の課題を抱えている世帯であると考え、集計・分析を行った。また、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する世帯も「貧困」の課題を抱えるリスクが高い世帯であると考え、回答傾向の把握を行った。

世帯の状況別に等価世帯収入の水準をみると<sup>2</sup>、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合は、「ひとり親世帯」では53.1%となっており、「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。また、「中央値の2分の1未満」に該当する割合は、「母子世帯」のみでは、58.0%となっている。

母親・父親の学歴の状況別にみると、母親・父親ともに、学歴が高いほど等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合は低くなっている。母親・父親の学歴の組み合わせでみた場合には、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合は、「父母のいずれも、大学またはそれ以上」の場合は0.7%、「父母のいずれかが、大学またはそれ以上」の場合には4.5%、「その他（不明等を含む）」の場合には18.8%となっている。

また、家庭での使用言語の状況（日本語以外の言語使用の状況）別にみると、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」に該当する世帯では、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」である割合は33.3%で、「日本語のみを使用している」世帯と比べて高くなっている。

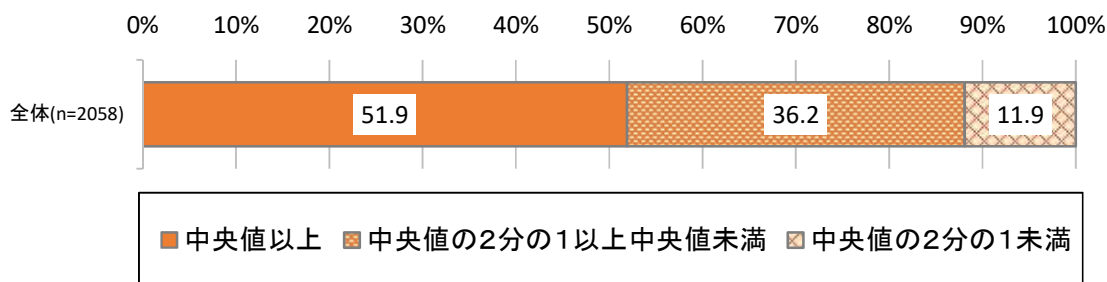


図 2-1-1-2 等価世帯収入の水準

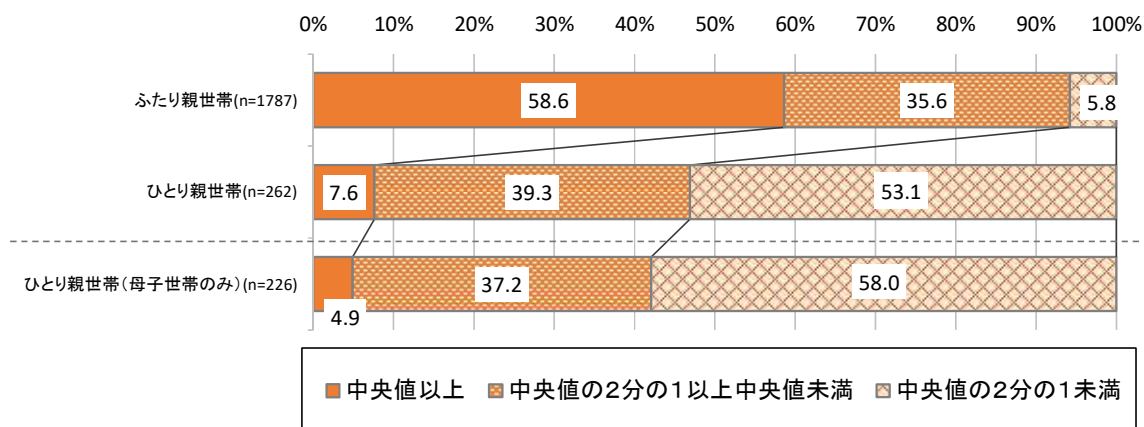


図 2-1-1-3 世帯の状況別、等価世帯収入の水準

<sup>2</sup> 本報告書では、「世帯の状況別」として、ふたり親世帯であるかひとり親世帯であるか別に集計し、結果を比較した。また、ひとり親世帯のうち、母子世帯に限った集計を行い、その結果も示した。

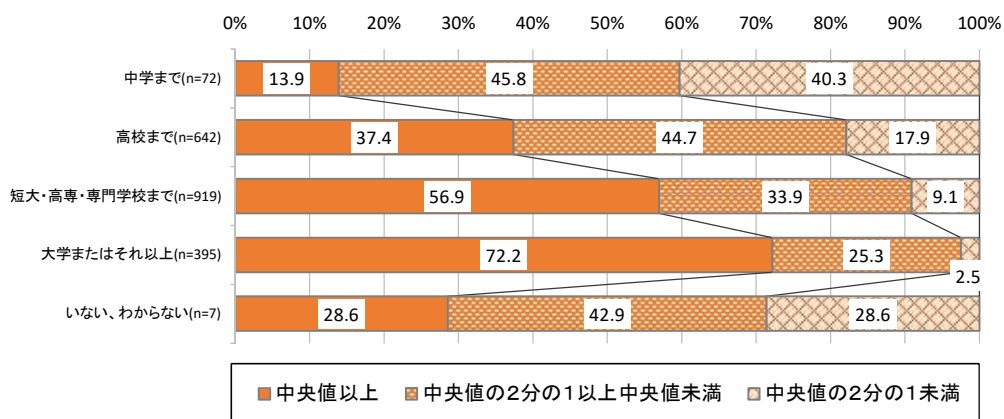


図 2-1-1-4 母親の学歴の状況別、等価世帯収入の水準

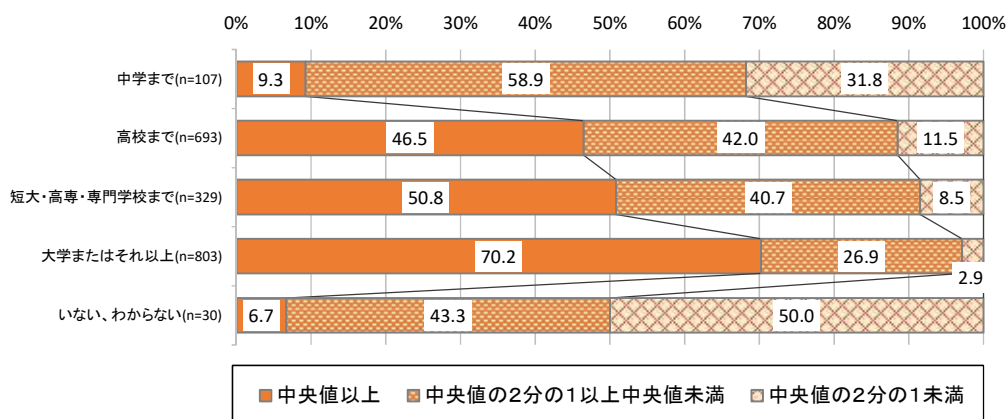


図 2-1-1-5 父親の学歴の状況別、等価世帯収入の水準

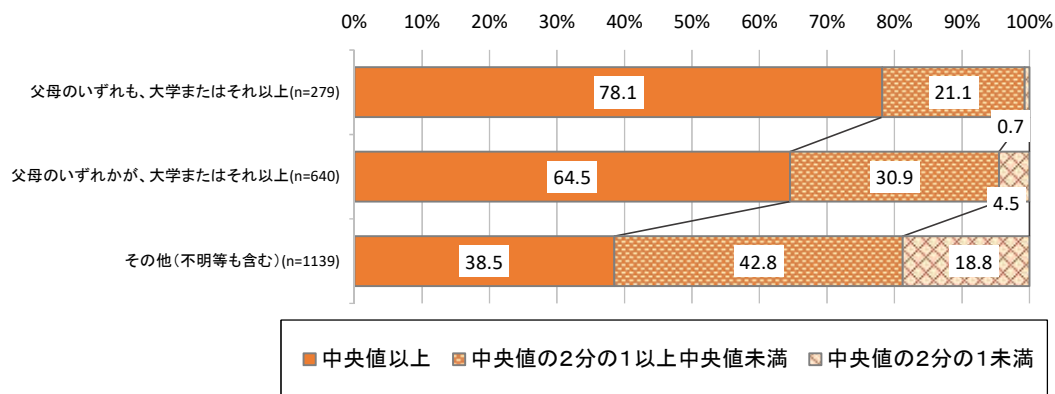


図 2-1-1-6 母親・父親の学歴の状況別、等価世帯収入の水準

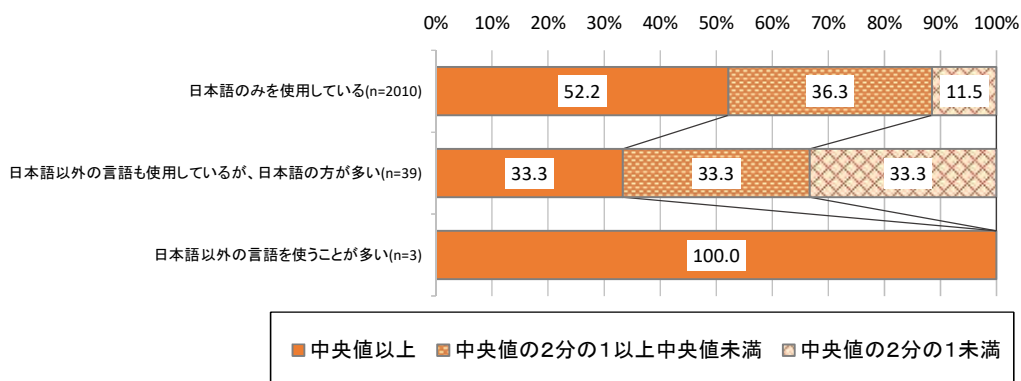


図 2-1-1-7 日本語以外の言語使用の状況別、等価世帯収入の水準

## (2) 暮らしの状況についての認識

保護者票問17. あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(SA)

現在の暮らしの状況をどのように感じているかについては、「大変ゆとりがある」が1.8%、「ゆとりがある」が14.1%、「ふつう」が56.5%となっており、合わせて72.4%となっている。他方で、「苦しい」は21.1%、「大変苦しい」は6.2%となっており、合わせた割合は27.3%となっている。

「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では10.3%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では37.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では70.6%となっている。

世帯の状況別にみると、「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では22.5%、「ひとり親世帯」全体では58.0%、「母子世帯」のみでは63.1%となっている。

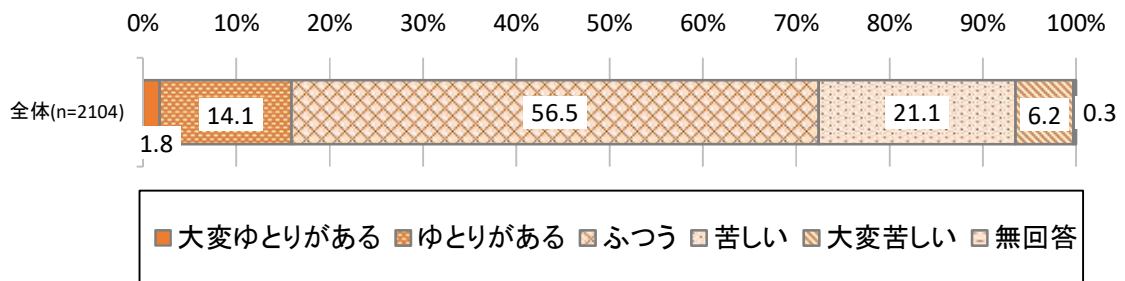


図 2-1-1-8 暮らしの状況についての認識

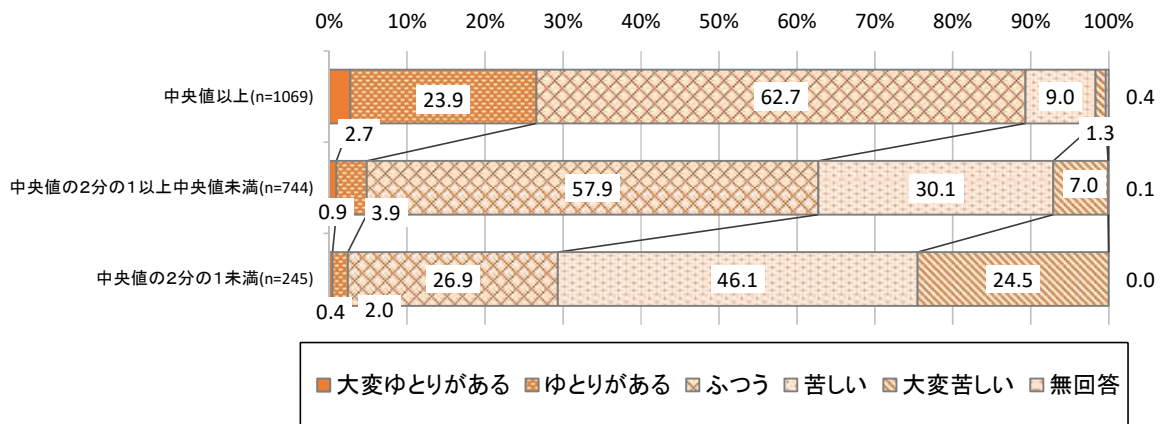


図 2-1-1-9 等価世帯収入の水準別、暮らしの状況についての認識

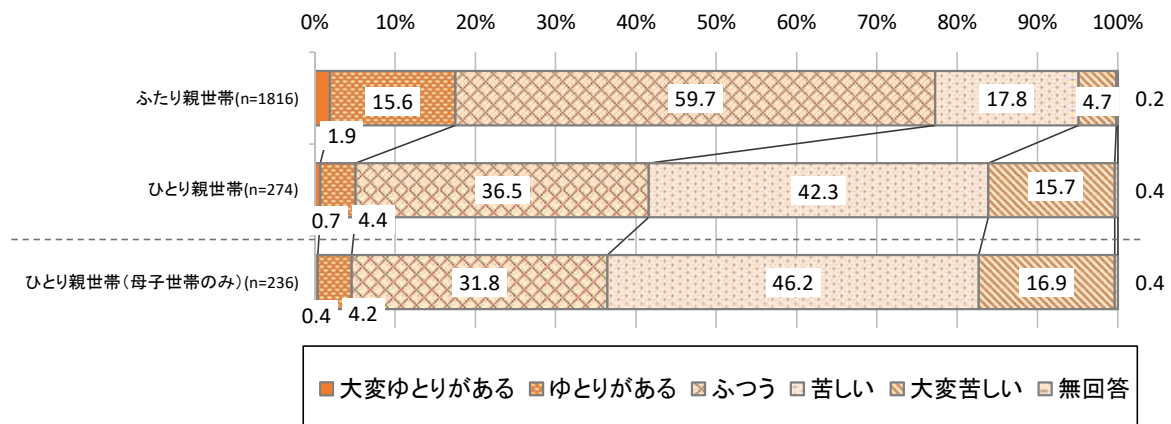


図 2-1-1-10 世帯の状況別、暮らしの状況についての認識

### (3) 食料が買えなかった経験

保護者票問19. あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(SA)

過去1年間に必要とする食料が買えなかった経験があったかについては、「よくあった」が1.3%、「ときどきあった」が5.3%、「まれにあった」が8.0%となっており、合わせた割合は14.6%となっている。

「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では4.0%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では19.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では48.6%となっている。

世帯の状況別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では11.5%、「ひとり親世帯」全体では34.4%、「母子世帯」のみでは36.1%となっている。

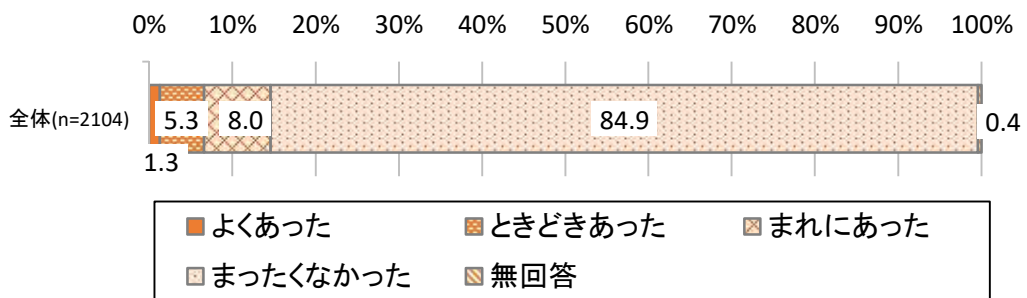


図 2-1-1-11 食料が買えなかった経験

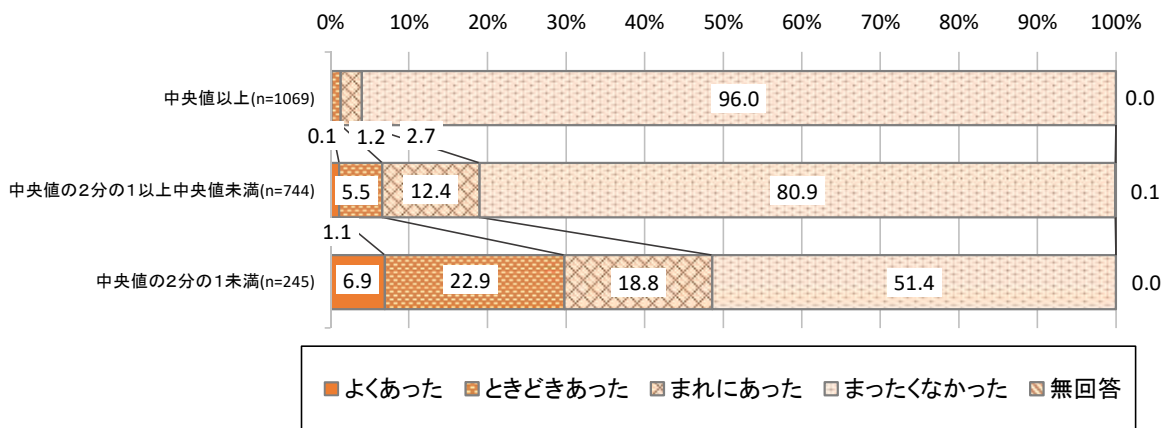


図 2-1-1-12 等価世帯収入の水準別、食料が買えなかった経験

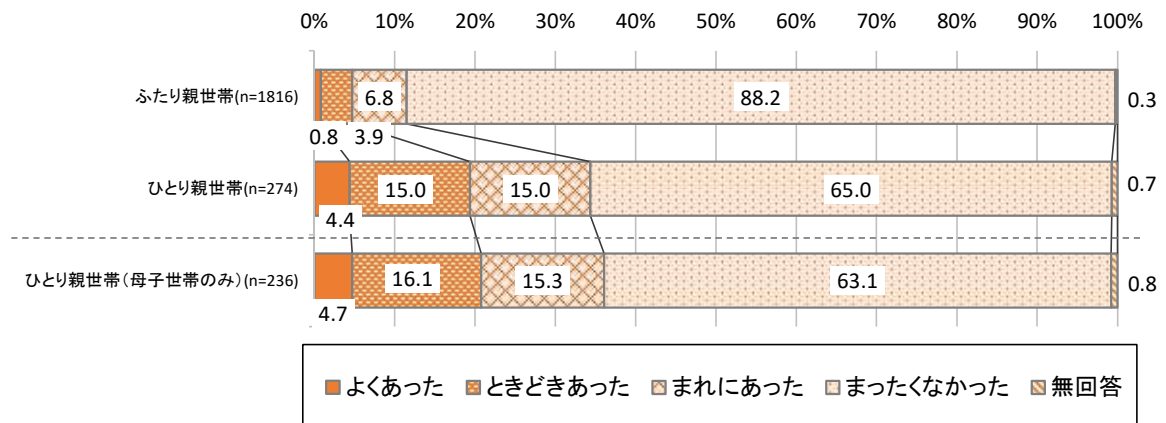


図 2-1-1-13 世帯の状況別、食料が買えなかった経験

#### (4) 衣服が買えなかった経験

保護者票問20. あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(SA)

過去1年間に必要とする衣服が買えなかった経験があったかについては、「よくあった」が2.8%、「ときどきあった」が5.1%、「まれにあった」が11.6%となっており、合わせた割合は19.5%となっている。

「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別に見ると、「中央値以上」の世帯では6.3%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では25.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では62.1%となっている。

世帯の状況別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では15.0%、「ひとり親世帯」全体では48.5%、「母子世帯」のみでは53.0%となっている。

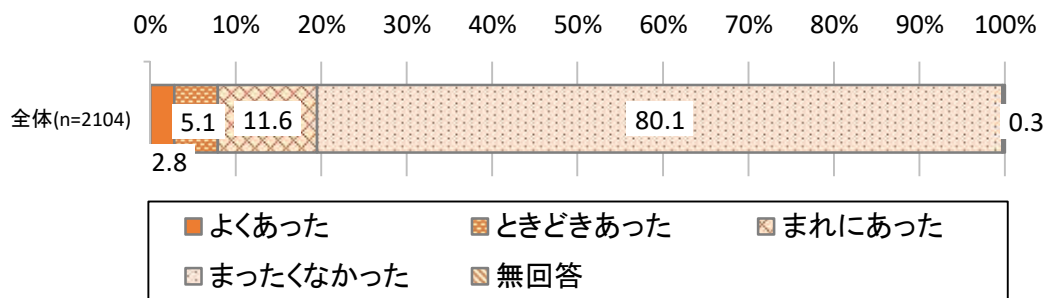


図 2-1-1-14 衣服が買えなかった経験

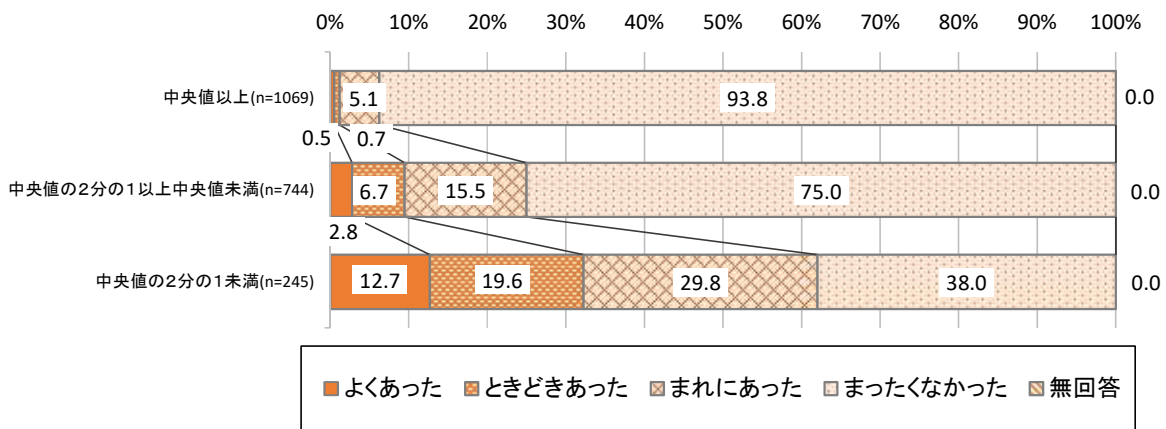


図 2-1-1-15 等価世帯収入の水準別、衣服が買えなかった経験

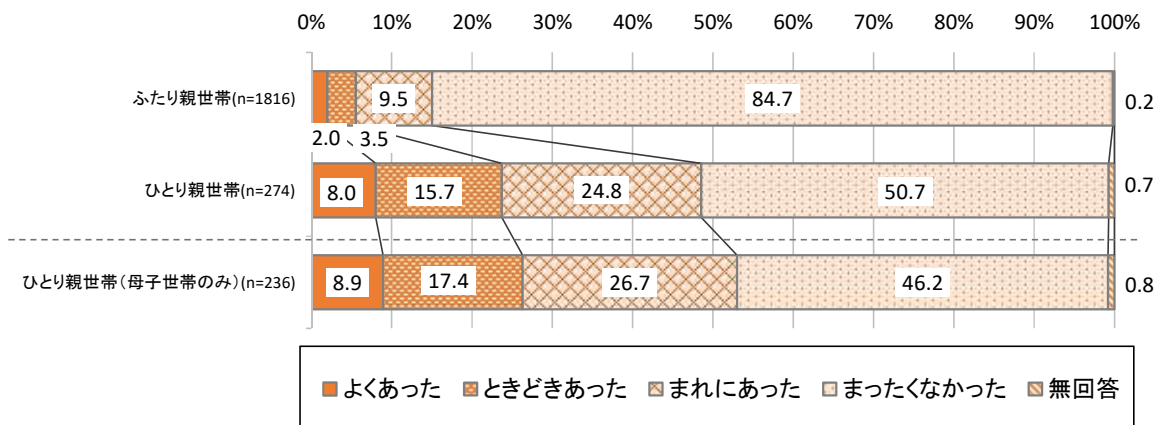


図 2-1-1-16 世帯の状況別、衣服が買えなかった経験

## (5) 公共料金における未払いの経験

保護者票問21. あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありますか。(MA)

過去1年間に、「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」について経済的な理由で未払いになったことがあったかについて、「あった」(該当)の割合は、それぞれ3.8%、2.9%、3.5%となっている<sup>3</sup>。また、いずれか1つ以上該当する割合は5.1%となっている。

未払いの経験について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「電気料金」は15.9%、「ガス料金」は13.5%、「水道料金」は14.7%が「あった」(該当)となっている。いずれか1つ以上該当する割合は、「中央値以上」の世帯では0.9%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では6.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では19.6%となっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「電気料金」は9.5%、「ガス料金」は7.7%、「水道料金」は8.4%が「あった」(該当)と回答している。いずれか1つ以上該当する割合は、「ふたり親世帯」では4.0%、「ひとり親世帯」全体では11.7%、「母子世帯」のみでは12.7%となっている。

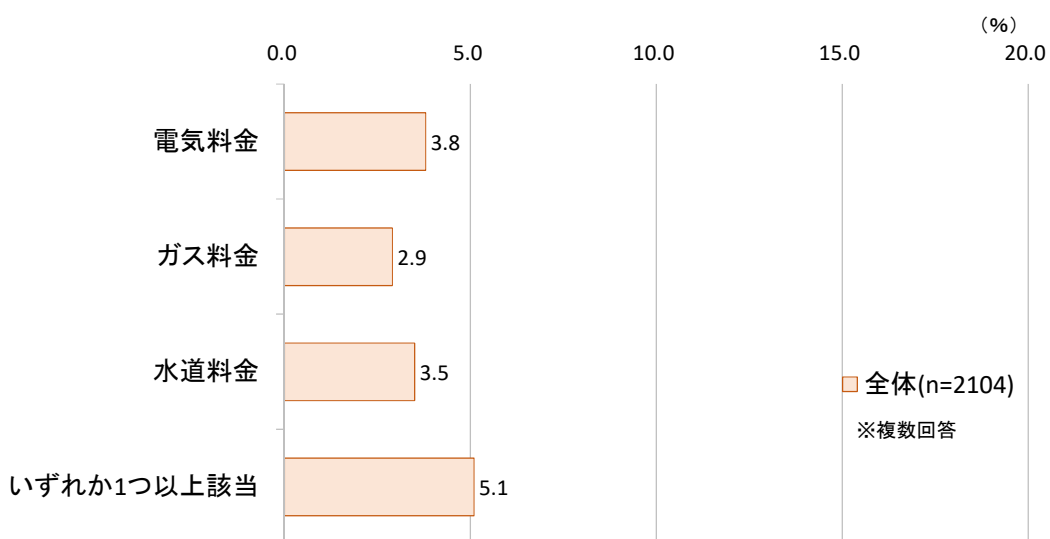


図 2-1-1-17 公共料金における未払いの経験

<sup>3</sup>当該設問では、「いずれもあてはまらない」などの選択肢を設定していなかったことから、「不明・無回答」の割合を「いずれもあてはまらない」の割合と読み替えることとしている。

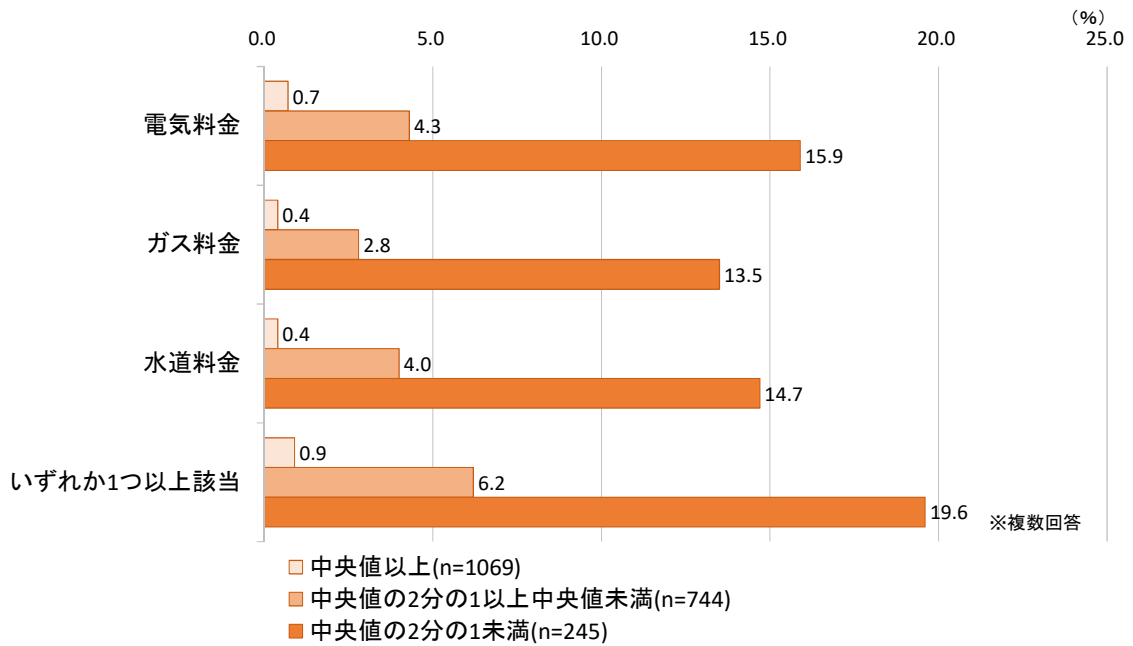


図 2-1-1-18 等価世帯収入の水準別、公共料金における未払いの経験

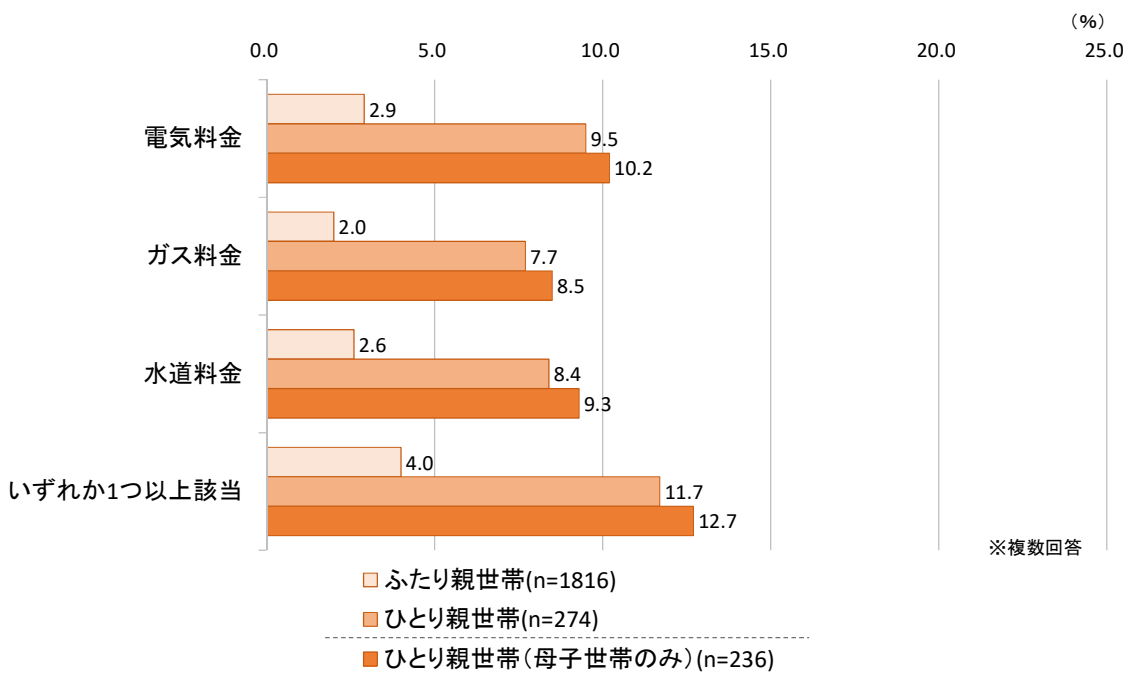


図 2-1-1-19 世帯の状況別、公共料金における未払いの経験

## (6) 養育費の取り組めの有無

【問4で2(「離婚」と回答した方に)】

保護者票問5. 離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。(SA)

婚姻の状況について「離婚」と回答した方に関し、離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしているかについて尋ねた。取り決めの状況について、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が27.8%、「特に取り決めはしていないが、養育費を受け取っている」が1.7%、「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない」が18.4%、「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が52.1%となっている。「受け取っていない」との回答は、合わせると70.5%となっている。

母子世帯のみで集計すると、「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない」が18.2%、「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が49.8%となっており、合わせた割合は68.0%となっている。

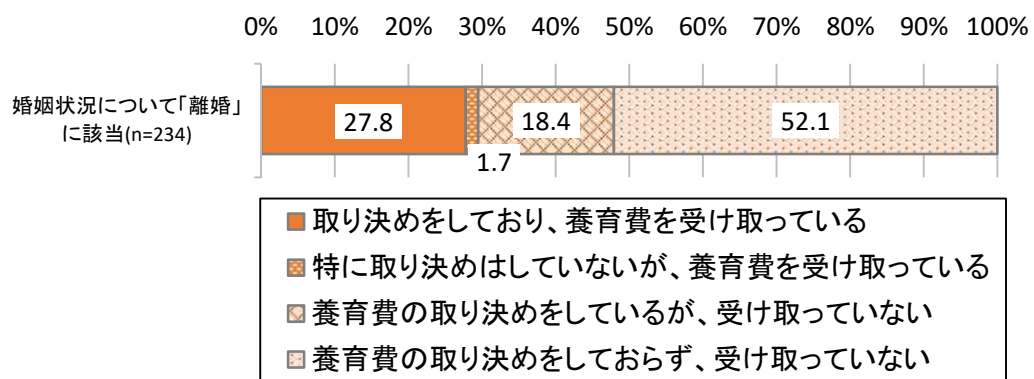


図 2-1-1-20 養育費の取り決めの有無

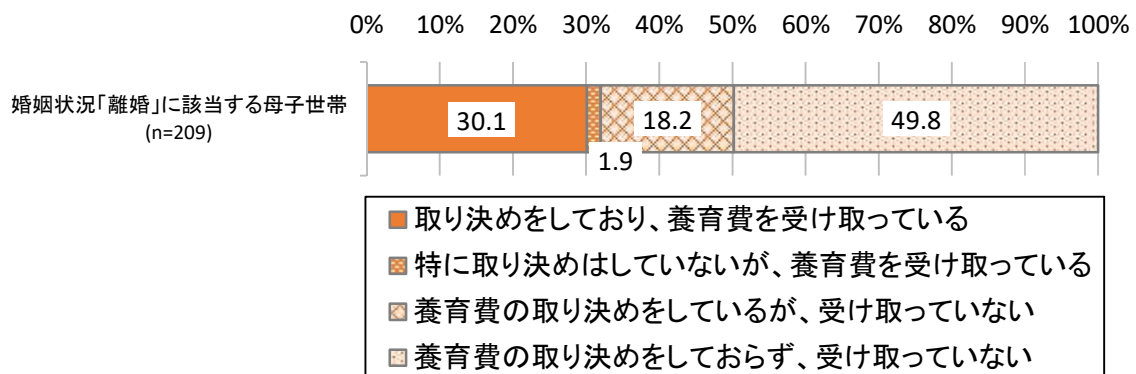


図 2-1-1-21 母子世帯、養育費の取り決めの有無



## 2.1.2. 就労の状況

### (1) 母親・父親の就労状況

保護者票問8. お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。(SA)

「母親」の就労状況については、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が38.6%、次いで「正社員・正規職員・会社役員」が27.3%、「働いていない」が20.0%となっている。また、「父親」の就労状況については、「正社員・正規職員・会社役員」が78.5%、次いで「自営業」が9.0%となっている。

「母親」の就労状況について等価世帯収入の水準別にみると、世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が41.2%となっており、他方で、「正社員・正規職員・会社役員」は17.6%と低くなっている。「父親」に関しては、「中央値の2分の1未満」の世帯では「正社員・正規職員・会社役員」が26.1%と他の世帯と比べて低くなっており、他方で、「自営業」が17.1%と高くなっている。なお、「父親」に関して、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「いない、わからない」も13.1%となっている。

また、「母親」の就労状況について世帯の状況別にみると、「ふたり親世帯」では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が40.5%で最も割合が高く、「ひとり親世帯（母子世帯）」では「正社員・正規職員・会社役員」が42.8%で最も割合が高くなっている。「父親」に関しては、「ふたり親世帯」では「正社員・正規職員・会社役員」が87.2%、「ひとり親世帯（父子世帯）」では79.4%となっている。

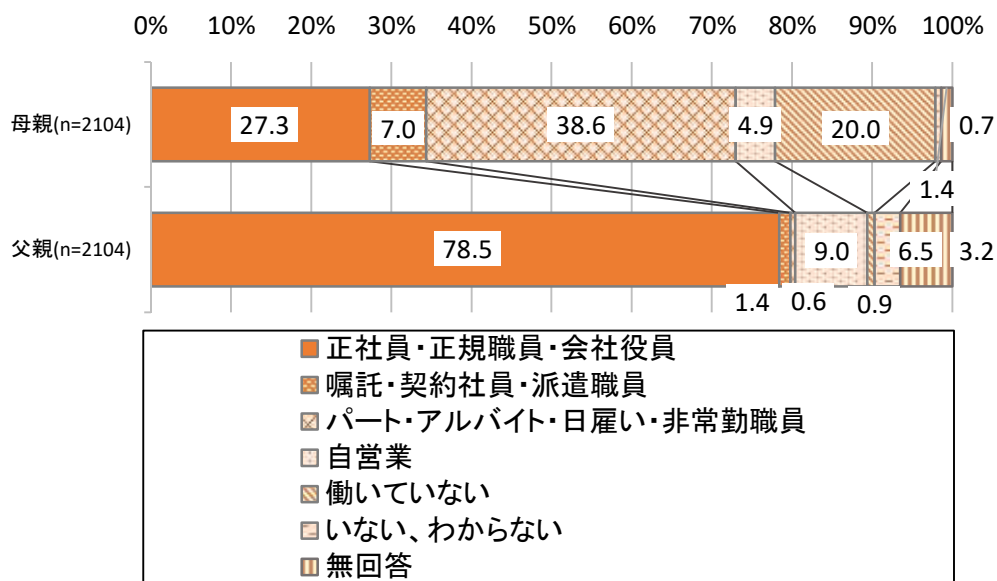


図 2-1-2-1 父母の就労状況

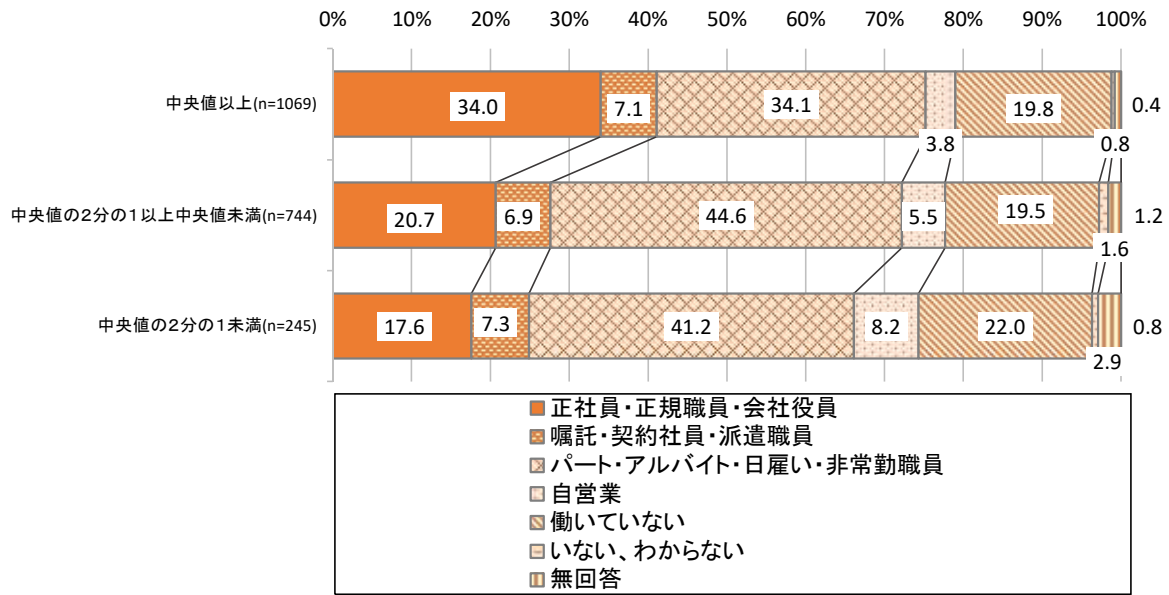


図 2-1-2-2 等価世帯収入の水準別、母親の就労状況

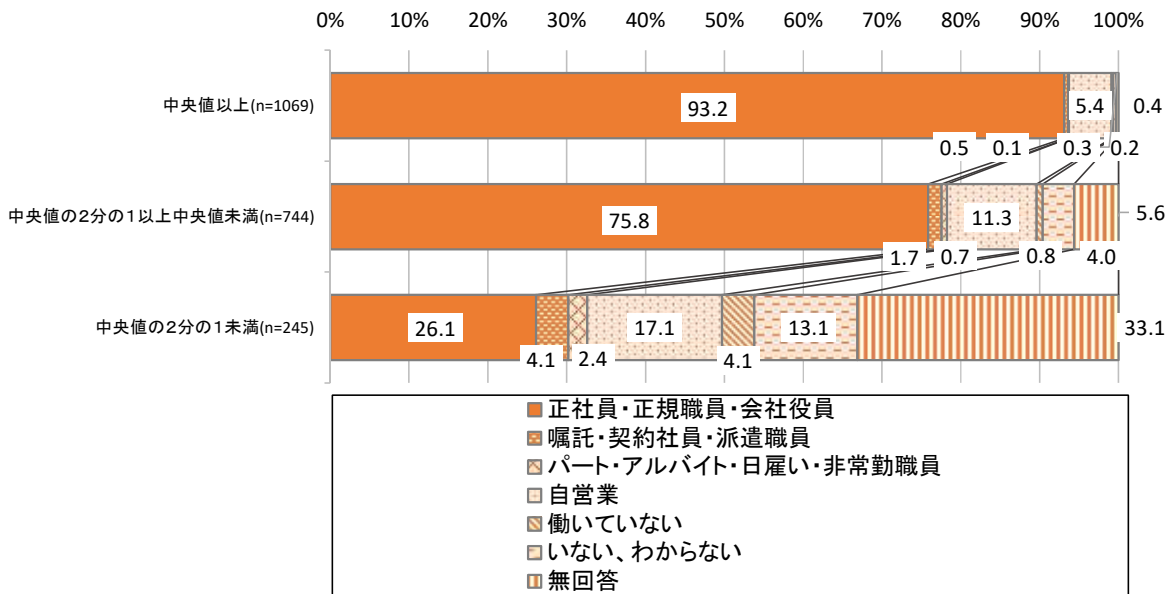


図 2-1-2-3 等価世帯収入の水準別、父親の就労状況

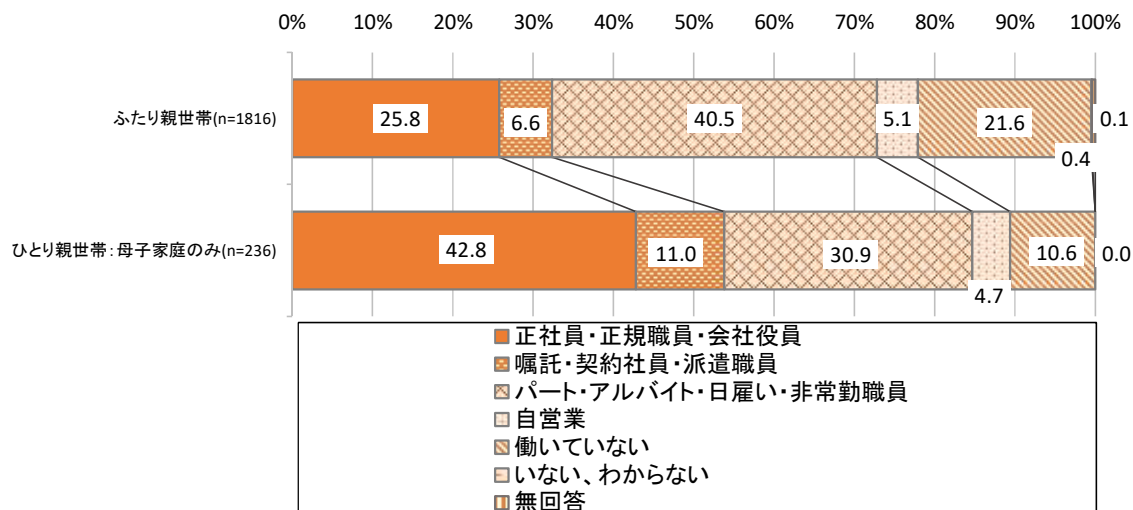


図 2-1-2-4 世帯の状況別、母親の就労状況

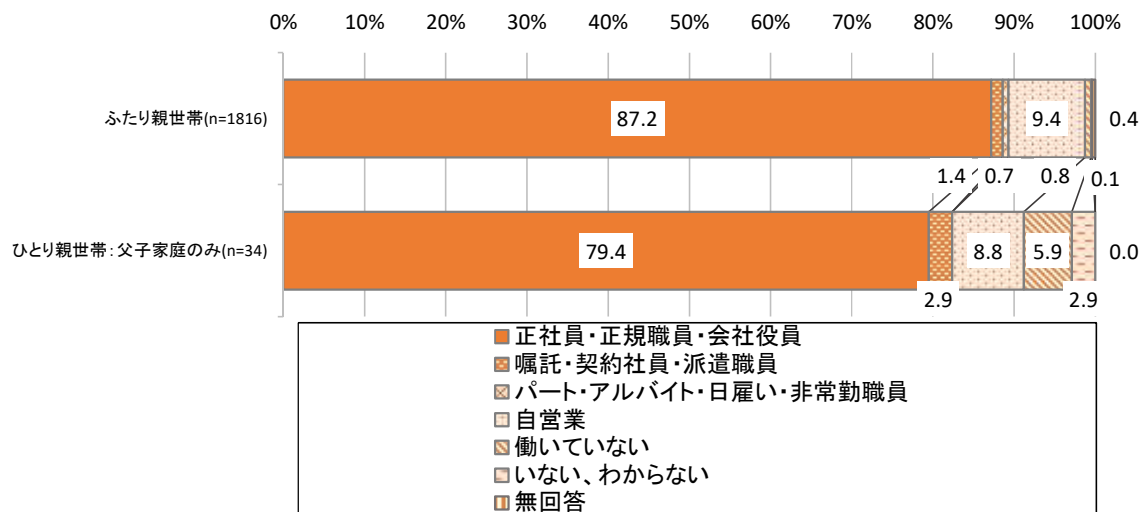


図 2-1-2-5 世帯の状況別、父親の就労状況

## (2) 働いていない理由

【問8で5(「働いていない(専業主婦/主夫を含む。)」)と回答した方に】

保護者票問9. 働いていない最も主な理由を教えてください。(SA)

就労状況について「働いていない」と回答した方に関し、働いていない理由を尋ねた。働いていない最も主な理由として、「母親」では、「子育てを優先したいため」が49.6%、「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」が16.9%となっている。「父親」に関しては、「自分の病気や障害のため」、「その他の理由」がそれぞれ約3割となっている。

「母親」が働いていない理由について等価世帯収入の水準別<sup>4</sup>にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「自分の病気や障害のため」が25.9%、「働きたいが、希望する条件の仕事が少ないため」が24.1%で、それぞれ他の世帯と比べて高くなっている。

「母親」が働いていない理由について世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯(母子世帯のみ)」では「自分の病気や障害のため」が44.0%で「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

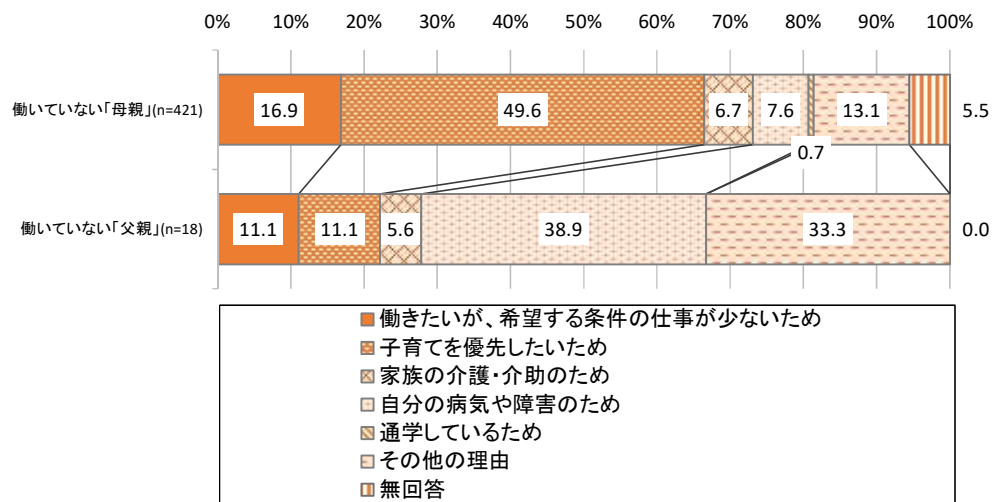


図 2-1-2-6 母親・父親が働いていない理由

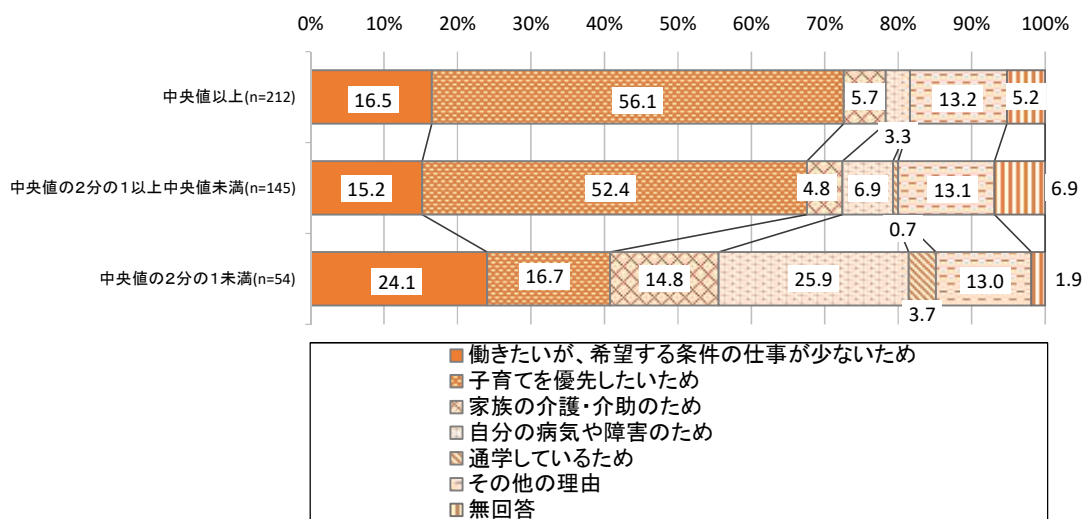


図 2-1-2-7 等価世帯収入の水準別、母親が働いていない理由

<sup>4</sup> 「父親」が働いていない理由に関しては集計対象件数が少ないため解釈等が難しいが、等価世帯収入の水準別、世帯の状況別のそれぞれについて集計結果を示した。

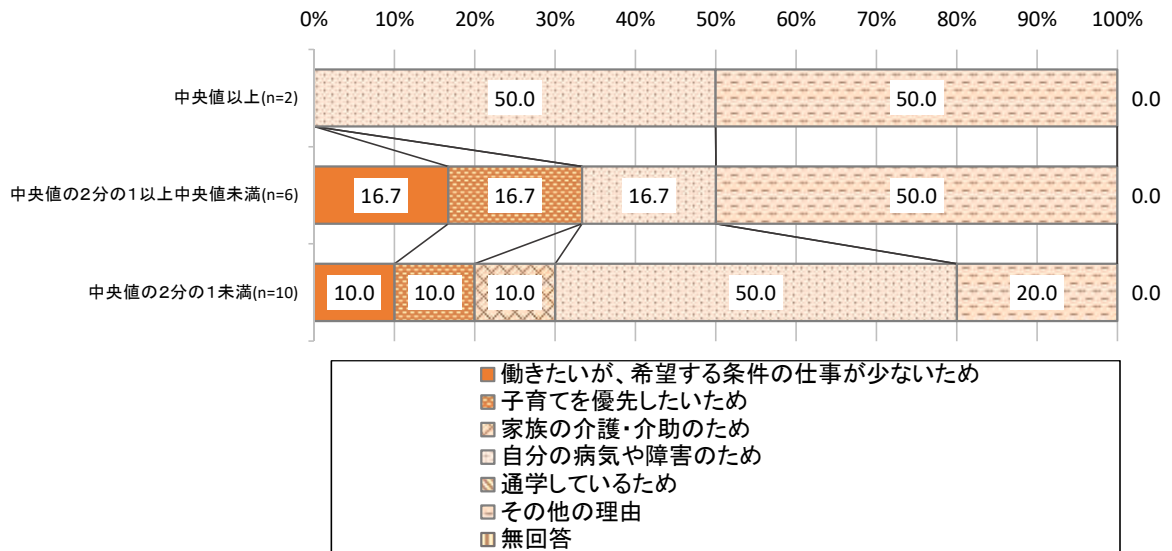


図 2-1-2-8 等価世帯収入の水準別、父親が働いていない理由

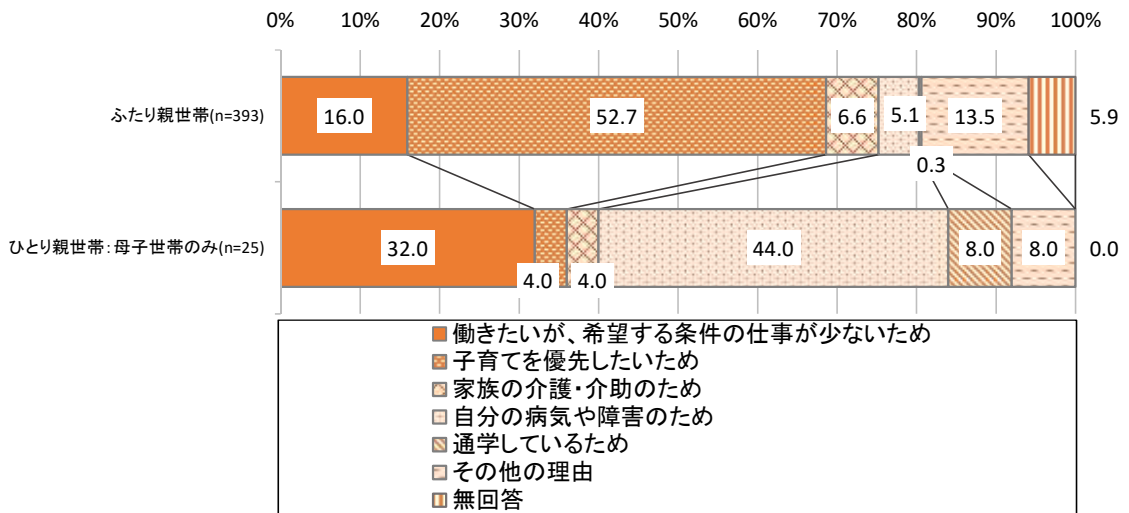


図 2-1-2-9 世帯の状況別、母親が働いていない理由

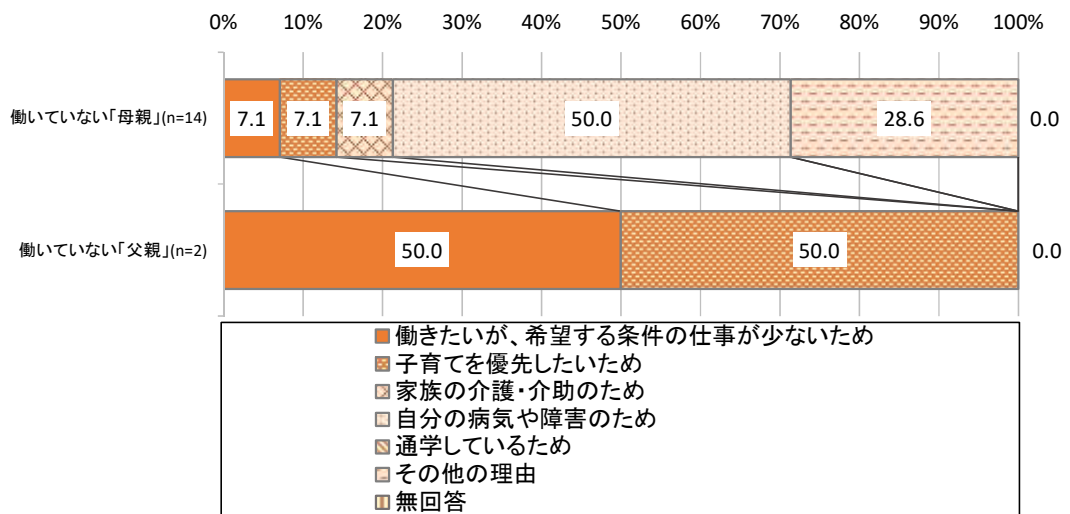


図 2-1-2-10 世帯の状況別、父親が働いていない理由

### 2.1.3. 保育の状況

#### (1) 子どもが0～2歳の時に通っていた教育・保育施設等

保護者票問10. お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。  
(SA)

子どもが0～2歳の時に通っていた教育・保育施設等で最も主なものについては、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が58.2%、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」が33.7%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」は51.0%で他の世帯と比べて低く、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」は39.6%と高くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では「ふたり親世帯」に比べて、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合が低く、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」の割合が高くなっている。

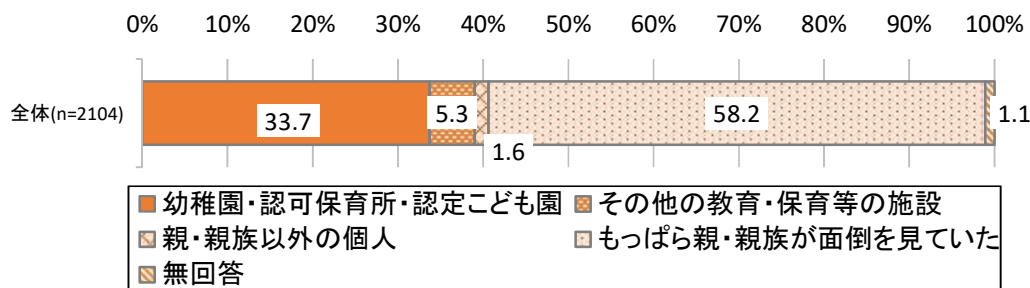


図 2-1-3-1 子どもが0～2歳の時に通っていた教育・保育施設等

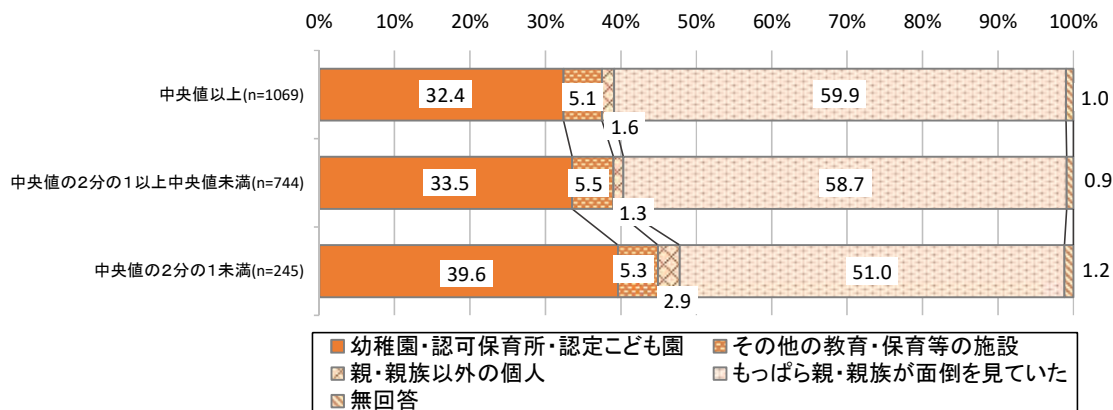


図 2-1-3-2 等価世帯収入の水準別、子どもが0～2歳の時に通っていた教育・保育施設等

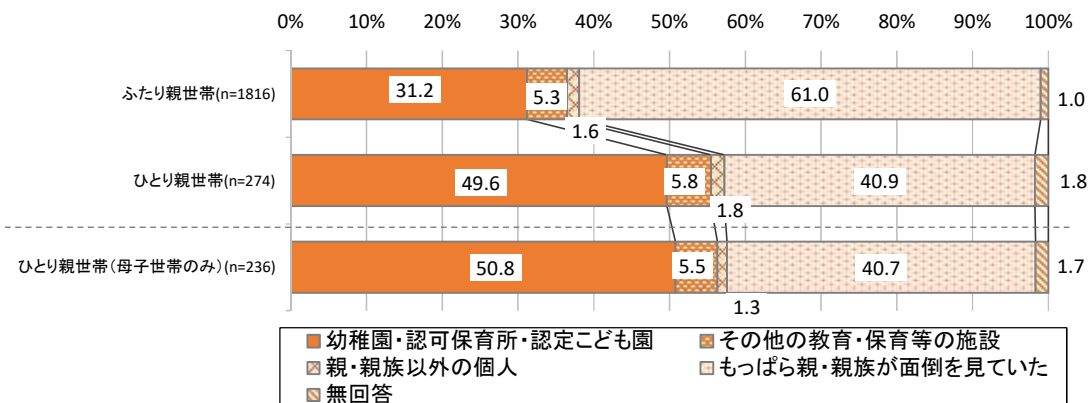


図 2-1-3-3 世帯の状況別、子どもが0～2歳の時に通っていた教育・保育施設等

(2) 子どもが3～5歳の時に通っていた教育・保育施設等

保護者票問11. お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。  
(SA)

子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等は、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」が95.2%、「その他の教育・保育等の施設」が3.0%、「親・親族以外の個人」が1.2%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」が92.2%、「その他の教育・保育等の施設」は4.1%となっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」が92.7%、「その他の教育・保育等の施設」は5.1%となっている。

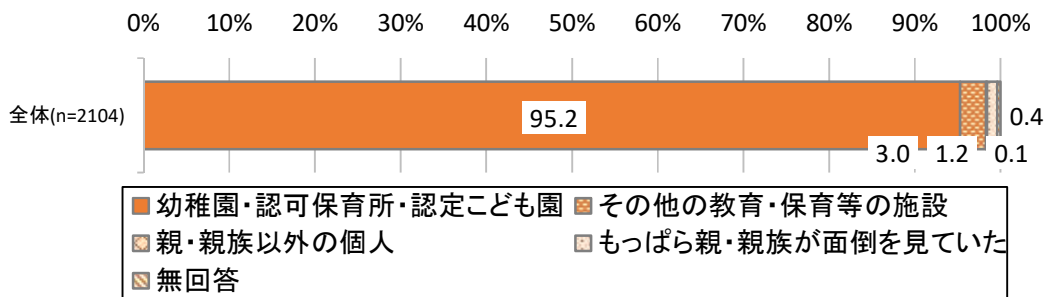


図 2-1-3-4 子どもが3～5歳の時に通っていた教育・保育施設等

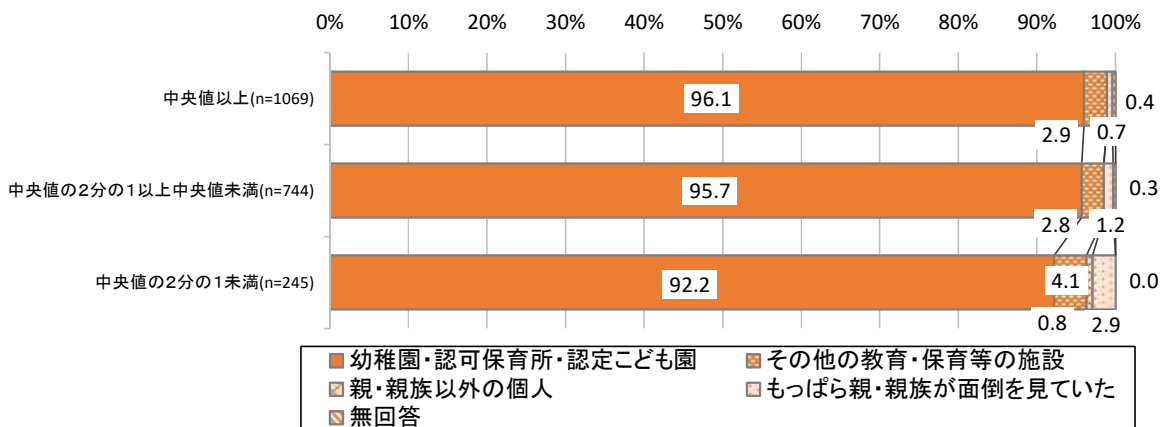


図 2-1-3-5 等価世帯収入の水準別、子どもが3～5歳の時に通っていた教育・保育施設等

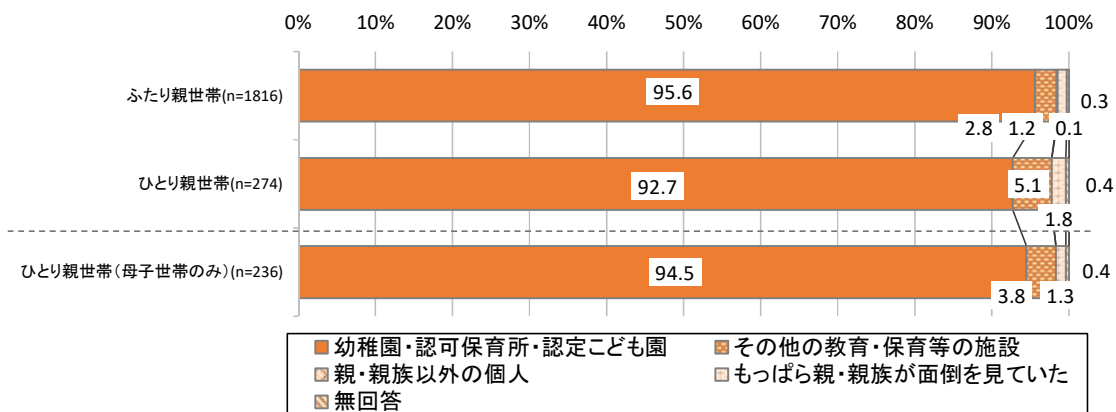


図 2-1-3-6 世帯の状況別、3～5歳の時に通っていた教育・保育施設等

## 2.1.4.子どもとの関わり方

### (1) テレビ等のルールについて

保護者票問12. あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(SA)

a. テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めているかについて、「あてはまる」は25.8%、「どちらかといえば、あてはまる」は37.3%となっており、合わせた割合は63.1%となっている。他方で、「どちらかといえば、あてはまらない」は21.1%、「あてはまらない」は15.5%となっており、合わせた割合は36.6%となっている。

「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では34.6%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では37.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では47.0%となっている。

世帯の状況別にみると、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では35.8%、「ひとり親世帯」全体では42.3%、「母子世帯」のみでは44.1%となっている。

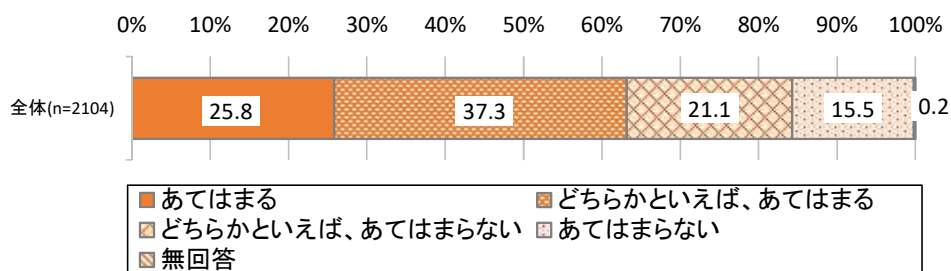


図 2-1-4-1 テレビ等のルールについて子どもとの関わり方

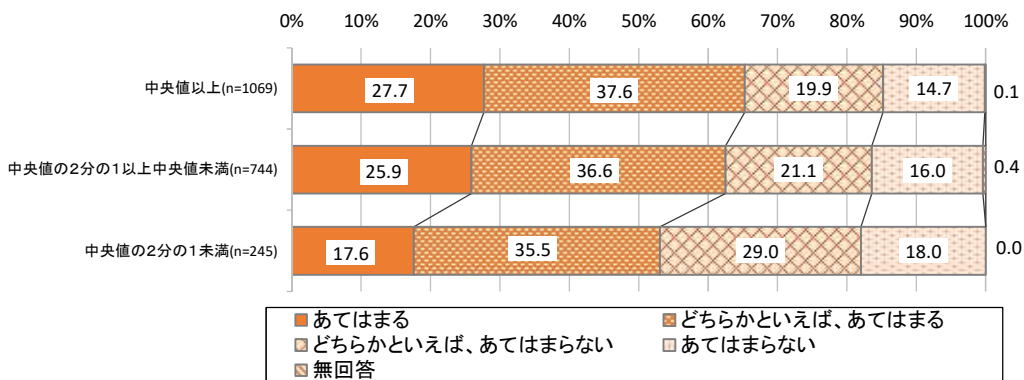


図 2-1-4-2 等価世帯収入の水準別、テレビ等のルールについて子どもとの関わり方

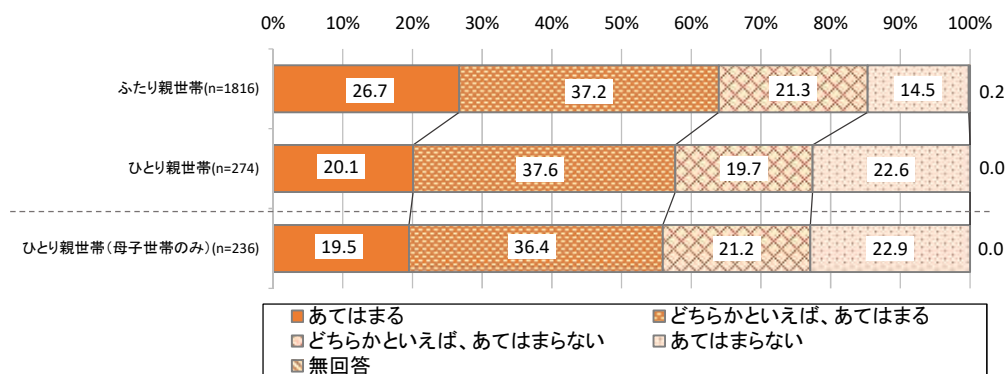


図 2-1-4-3 等価世帯収入の水準別、テレビ等のルールについて子どもとの関わり方



(2) 本や新聞を読むことについて

保護者票問12. あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(SA)

b. お子さんに本や新聞を読むように勧めている

子どもに本や新聞を読むように勧めているかについて、「あてはまる」は21.5%、「どちらかといえば、あてはまる」は36.9%となっており、合わせた割合は58.4%となっている。他方で、「どちらかといえば、あてはまらない」は24.7%、「あてはまらない」は16.3%となっており、合わせた割合は41.0%となっている。

「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では35.1%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では47.5%、「中央値の2分の1未満」の世帯では51.0%となっている。

世帯の状況別にみると、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では39.3%、「ひとり親世帯」全体では54.4%、「母子世帯」のみでは56.0%となっている。

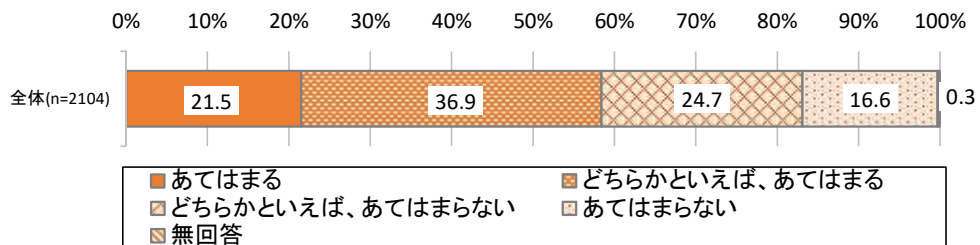


図 2-1-4-4 本や新聞を読むことについて子どもとの関わり方

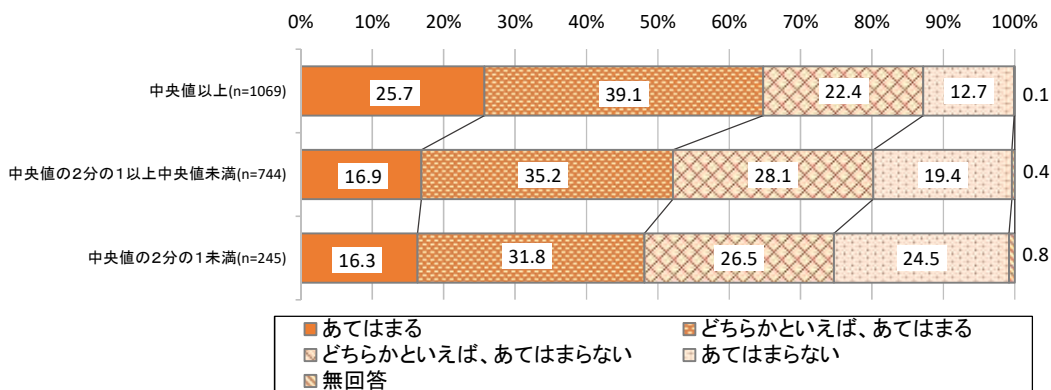


図 2-1-4-5 等価世帯収入の水準別、本や新聞を読むことについて子どもとの関わり方

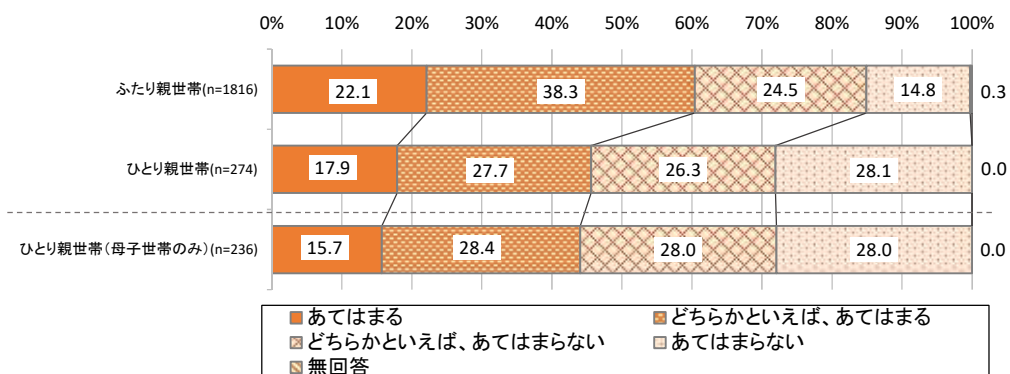


図 2-1-4-6 世帯の状況別、本や新聞を読むことについて子どもとの関わり方

### (3) 絵本の読み聞かせについて

保護者票問12. あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(SA)

c. お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

子どもが小さいころに絵本の読み聞かせをしたかについて、「あてはまる」は45.8%、「どちらかといえば、あてはまる」は32.6%となっており、合わせた割合は78.4%となっている。他方で、「どちらかといえば、あてはまらない」は16.1%、「あてはまらない」は5.3%となっており、合わせた割合は21.4%となっている。

「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では18.4%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では24.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では26.1%となっている。

世帯の状況別にみると、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では21.1%、「ひとり親世帯」全体では23.7%、「母子世帯」のみでは23.3%となっている。

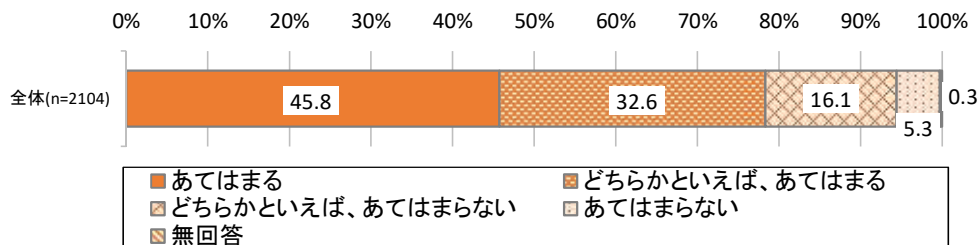


図 2-1-4-7 絵本の読み聞かせについて子どもとの関わり方

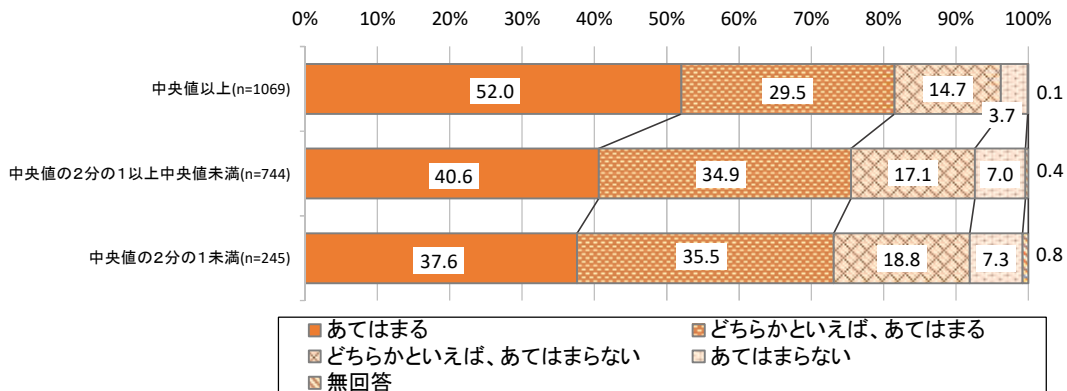


図 2-1-4-8 等価世帯収入の水準別、絵本の読み聞かせについて子どもとの関わり方

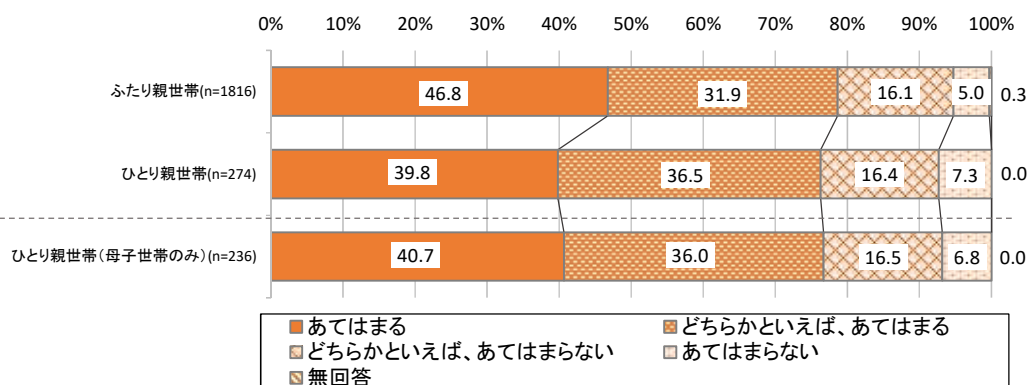


図 2-1-4-9 世帯の状況別、絵本の読み聞かせについて子どもとの関わり方

#### (4) 勉強や成績のことについて

保護者票問12. あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(SA)

d. お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる

子どもから勉強や成績のことについて話をしてくれるかについて、「あてはまる」は46.8%、「どちらかといえば、あてはまる」は31.7%となっており、合わせた割合は78.5%となっている。他方で、「どちらかといえば、あてはまらない」は14.3%、「あてはまらない」は6.9%となっており、合わせた割合は21.2%となっている。

「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では20.3%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では21.6%、「中央値の2分の1未満」の世帯では23.7%となっている。

世帯の状況別にみると、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では20.6%、「ひとり親世帯」全体では25.2%、「母子世帯」のみでは24.1%となっている。

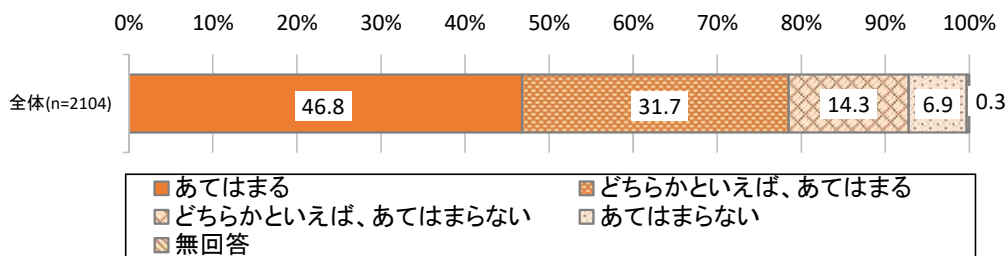


図 2-1-4-10 勉強や成績のことについて子どもとの関わり方

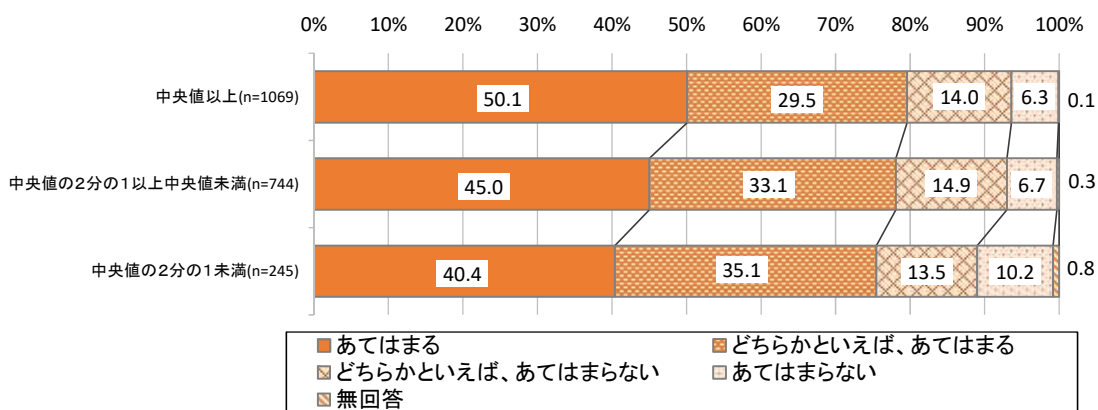


図 2-1-4-11 等価世帯収入の水準別、勉強や成績のことについて子どもとの関わり方

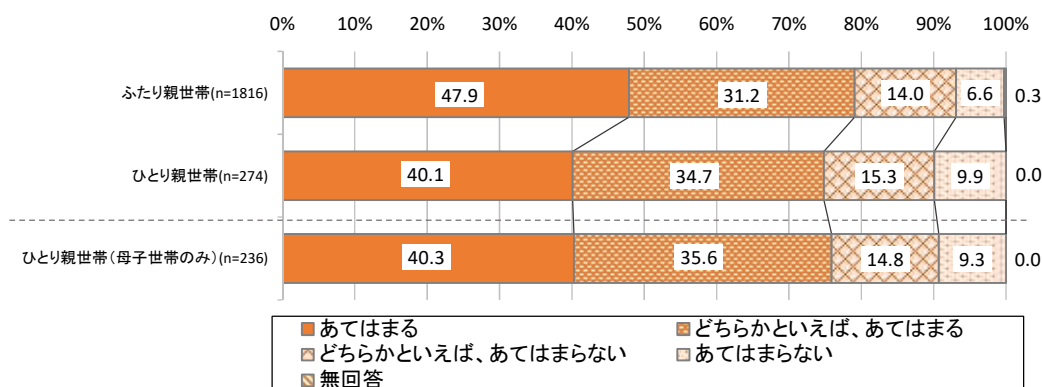


図 2-1-4-12 世帯の状況別、勉強や成績のことについて子どもとの関わり方

## 2.1.5. 学校との関わり・参加

### (1) 学校行事への参加

保護者票問13. あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(SA)

a. 授業参観や運動会などの学校行事への参加

授業参観や運動会などの学校行事について、「よく参加している」は80.7%、「ときどき参加している」は13.2%となっており、合わせた割合は93.9%となっている。他方で、「あまり参加していない」は3.0%、「まったく参加していない」は2.9%となっており、合わせた割合は5.9%となっている。

「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では95.3%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では93.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では91.4%となっている。

世帯の状況別にみると、「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では94.7%、「ひとり親世帯」全体では89.1%、「母子世帯」のみでは90.7%となっている。

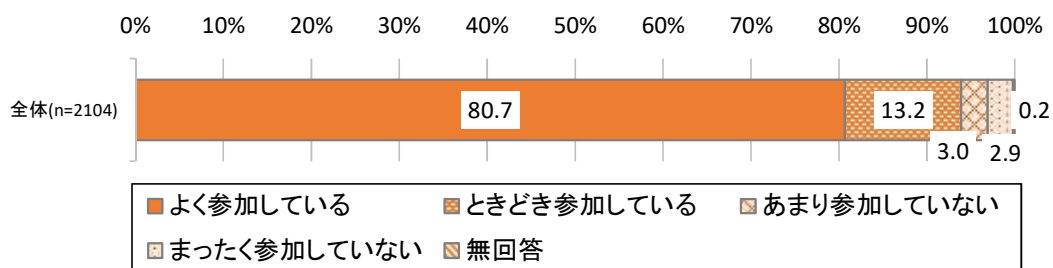


図 2-1-5-1 学校行事への参加

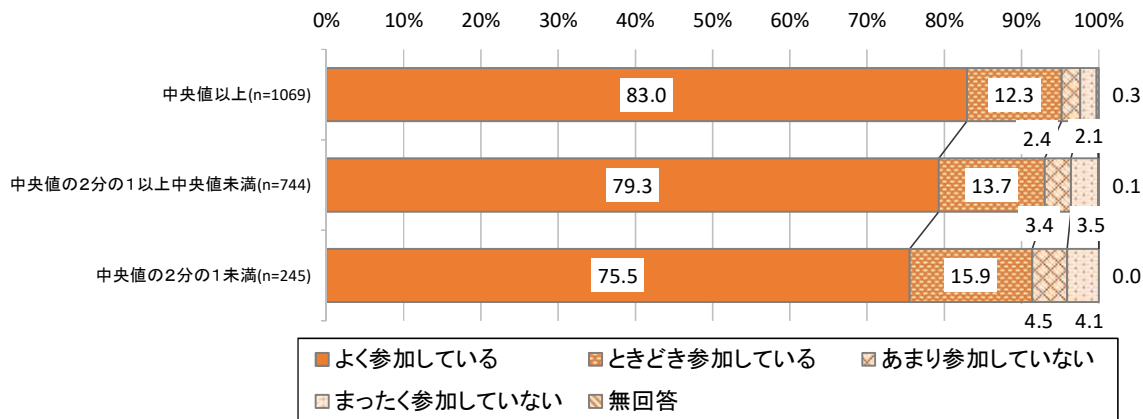


図 2-1-5-2 等価世帯収入の水準別、学校行事への参加

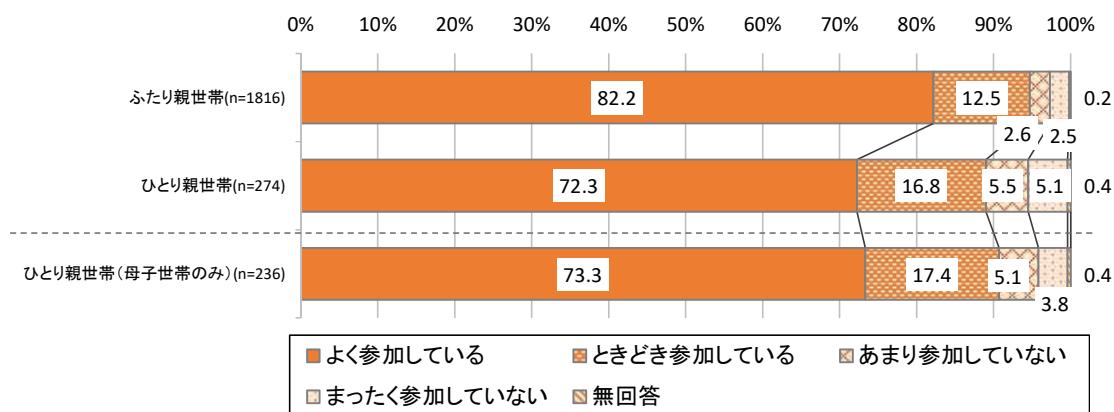


図 2-1-5-3 世帯の状況別、学校行事への参加

## (2) PTA 活動等への参加

保護者票問13. あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(SA)

b. PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

PTA 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどについて、「よく参加している」は 24.7%、「ときどき参加している」は 33.5%となっており、合わせた割合は 58.2%となっている。他方で、「あまり参加していない」は 24.4%、「まったく参加していない」は 16.8%となっており、合わせた割合は 41.2%となっている。

「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では 61.6%、「中央値の 2分の1 以上中央値未満」の世帯では 56.0%、「中央値の 2分の1 未満」の世帯では 50.2%となっている。

世帯の状況別にみると、「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では 59.8%、「ひとり親世帯」全体では 47.8%、「母子世帯」のみでは 48.3%となっている。

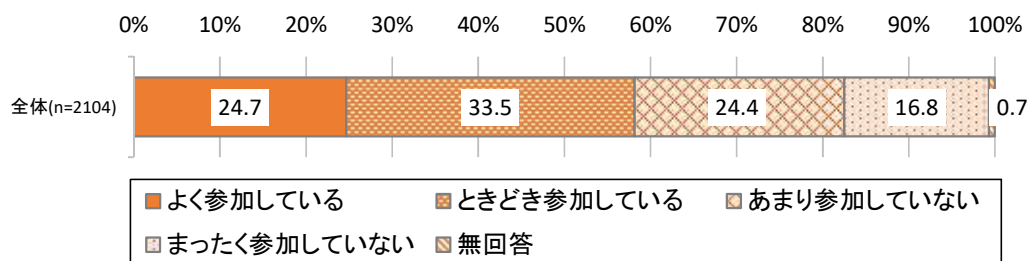


図 2-1-5-4 PTA 活動等への参加

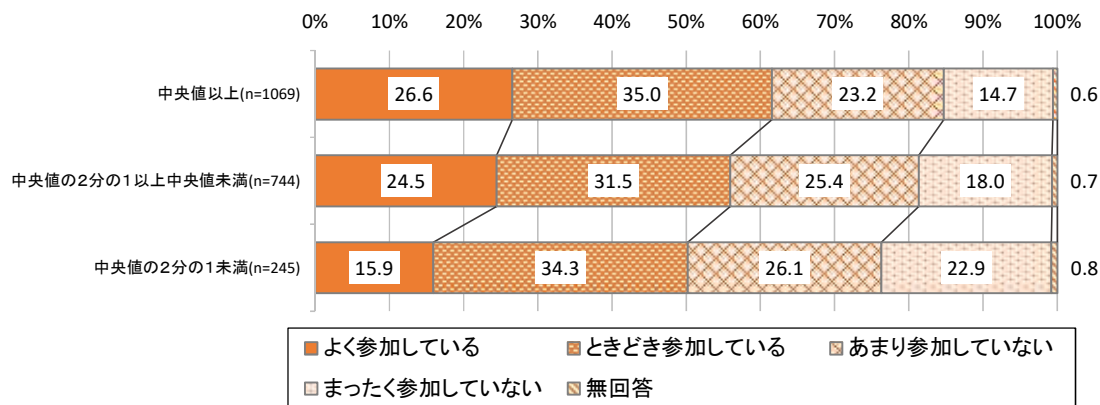


図 2-1-5-5 等価世帯収入の水準別、PTA 活動等への参加

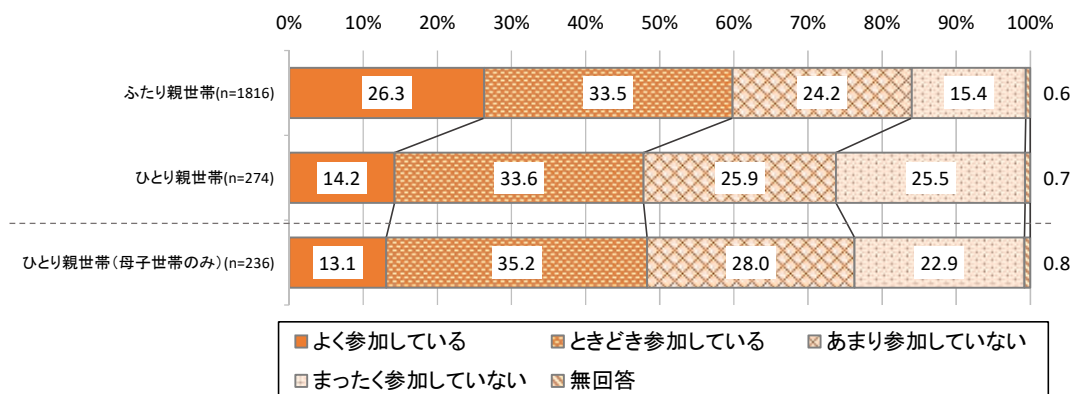


図 2-1-5-6 世帯の状況別、PTA 活動等への参加

## 2.1.6.進学期待・展望

### (1) 子どもの進学段階に関する希望・展望

保護者票問14. お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか。(SA)

子どもが将来どの段階まで進学すると思うかについては、「大学またはそれ以上」が46.4%、「短大・高専・専門学校まで」が19.7%、「高校まで」が19.1%、「まだわからない」が13.8%、「中学まで」が0.8%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「大学またはそれ以上」の回答割合は、「中央値以上」の世帯では60.4%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では35.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では20.0%となっている。「中央値の2分の1未満」の世帯では、「高校まで」の回答割合が40.0%で、他の世帯と比べて高くなっている。

世帯の状況別にみると、「大学またはそれ以上」の回答割合は、「ふたり親世帯」では49.7%、「ひとり親世帯」全体では25.2%、「母子世帯」のみでは24.2%となっている。「ひとり親世帯」では、「高校まで」の回答割合が36.1%で、「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

また、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の場合に、母親・父親の学歴の状況別にみると、収入の水準が低い場合であっても、母親・父親の学歴の組み合わせが「父母のいずれも、大学またはそれ以上」の場合には、子どもの進学段階に関する希望・展望について「大学またはそれ以上」の割合が50.0%で、他の場合と比べて高くなっている。

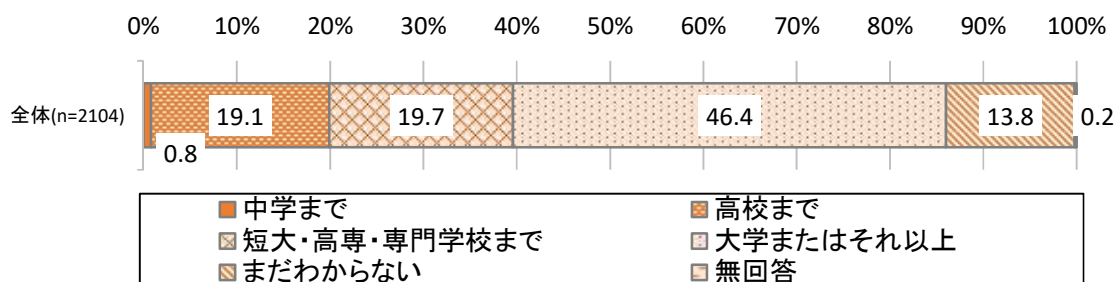


図 2-1-6-1 子どもの進学段階に関する希望・展望

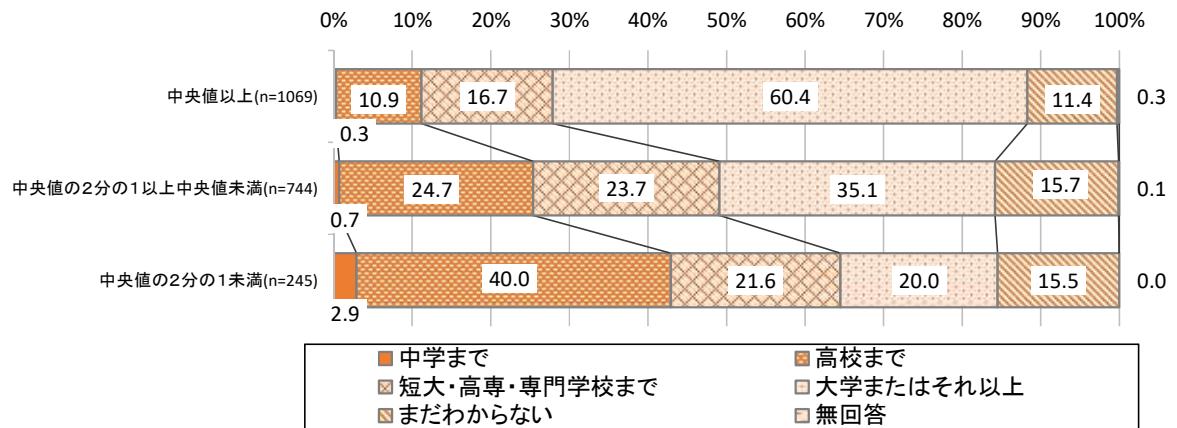


図 2-1-6-2 等価世帯収入の水準別、子どもの進学段階に関する希望・展望

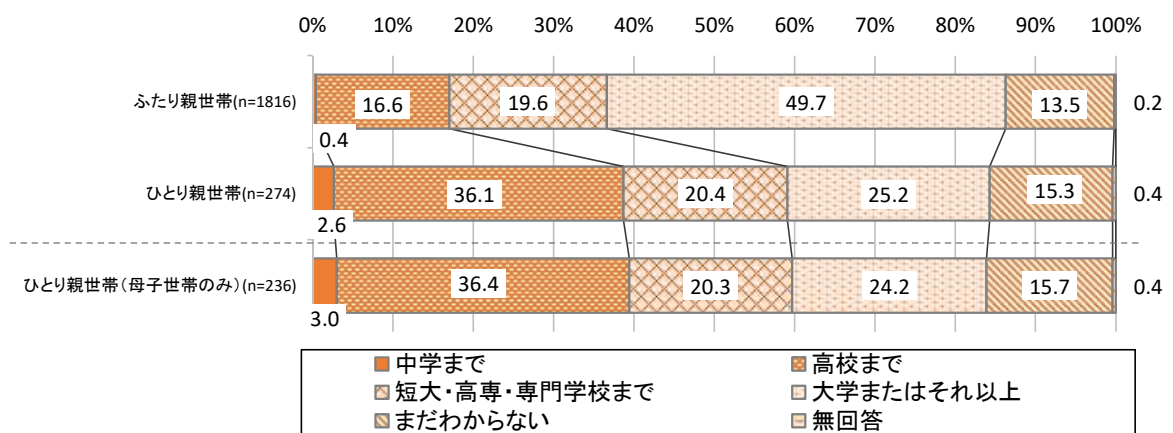


図 2-1-6-3 世帯の状況別、子どもの進学段階に関する希望・展望

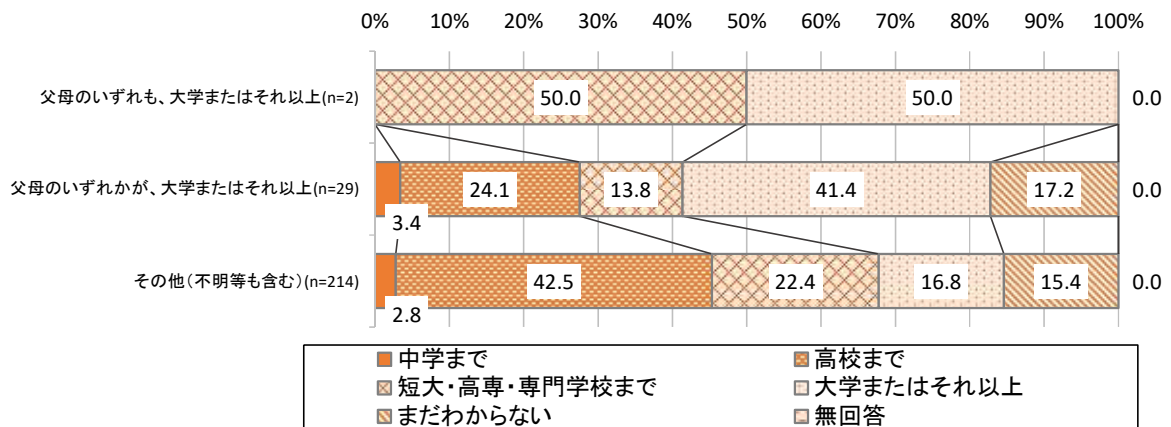


図 2-1-6-4 等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の場合の母親・父親の学歴の状況別、子どもの進学段階に関する希望・展望

## (2) 進学段階に関する希望・展望についてそう考える理由

【問14で1～4と回答した方に】

保護者票問15. その理由は何ですか。(MA)

子どもの進学段階に関する希望・展望について保護者がそう考える理由としては、「お子さんがそう希望しているから」が51.1%、「お子さんの学力から考えて」が35.2%、「一般的な進路だと思うから」が25.5%となっている。

子どもの進学段階に関する希望・展望の回答別にみると、「高校まで」と回答した場合は、「お子さんの学力から考えて」が46.8%、「家庭の経済的な状況から考えて」が29.9%となっており、「短大・高専・専門学校まで」や「大学またはそれ以上」と回答した場合と比べて高くなっている。

「高校まで」と回答した場合の理由を等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「家庭の経済的な状況から考えて」の回答割合が他の世帯と比べて高くなっている。

また、「高校まで」と回答した場合の理由を世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「家庭の経済的な状況から考えて」の回答割合が「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

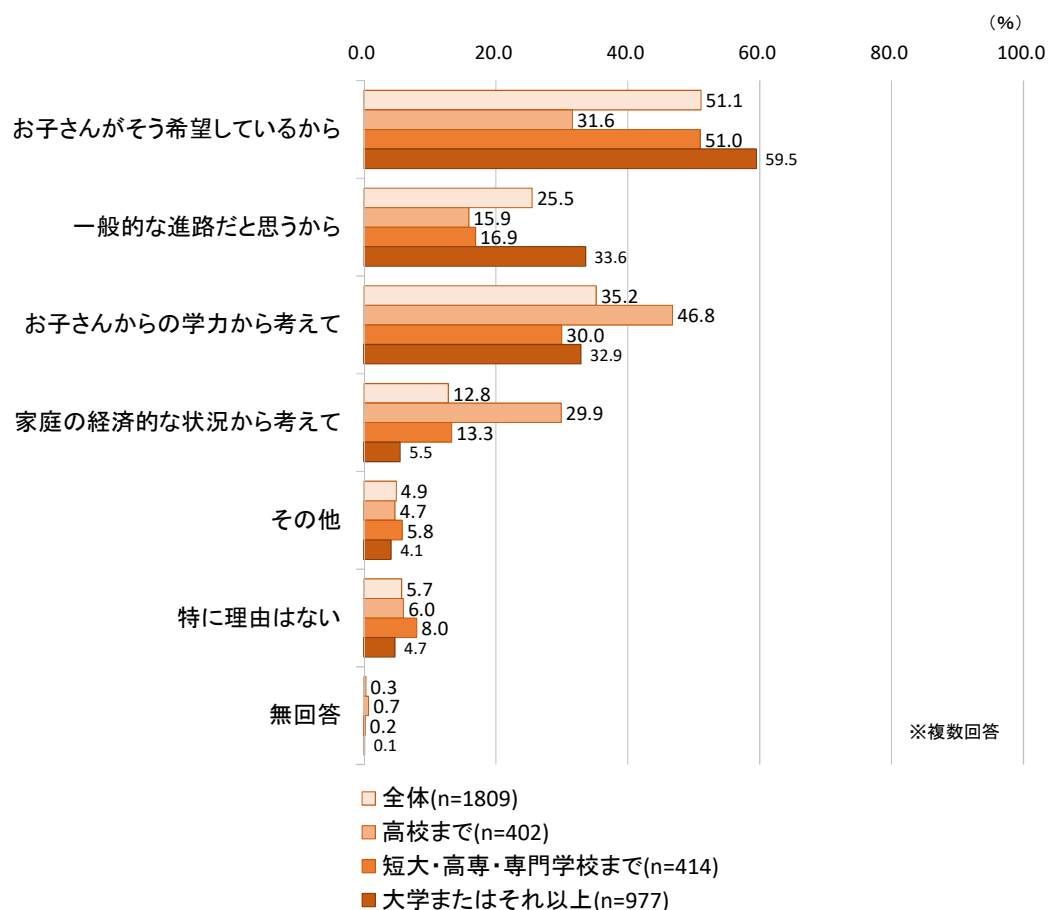


図 2-1-6-5 子どもの進学段階に関する希望・展望の回答別、そう考える理由



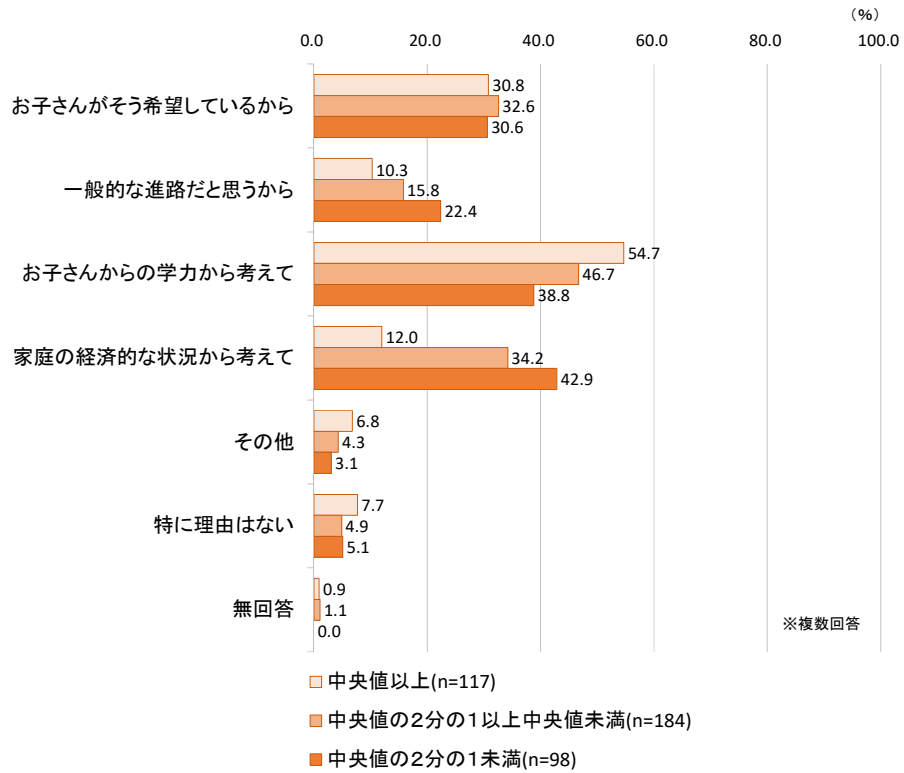


図 2-1-6-6 等価世帯収入の水準別、進学段階に関する希望・展望について「高校まで」と考える理由

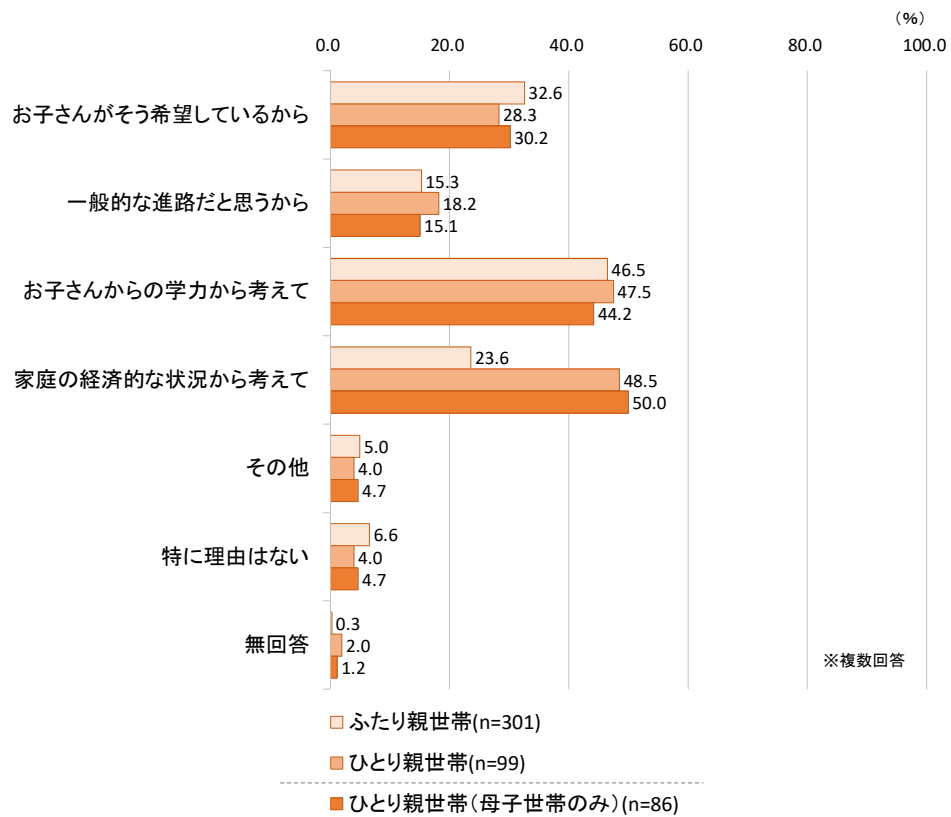


図 2-1-6-7 世帯の状況別、進学段階に関する希望・展望について「高校まで」と考える理由

## 2.1.7.頼れる人の有無・相手

### (1) 子育てに関する相談

保護者票問16. あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(SA)

【問16で1(「頼れる人がいる」)と回答した方に】保護者票問16-1. それはだれですか。(MA)

a. 子育てに関する相談

子育てに関する相談について、「頼れる人がいる」は92.3%、「いない」は4.0%、「そのことでは人に頼らない」は3.2%となっている。また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、「家族・親族」が90.7%、「友人・知人」が57.3%、「職場の人」が28.1%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「中央値以上」の世帯では2.7%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では3.8%、「中央値の2分の1未満」の世帯では9.4%となっている。また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、「家族・親族」の割合が83.6%で他の世帯と比べて低くなっている。

世帯の状況別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「ふたり親世帯」では3.4%、「ひとり親世帯」全体では7.7%、「母子世帯」のみでは7.2%となっている。また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、「ひとり親世帯」では「家族・親族」の割合が81.5%、「近所の人」が3.7%で、それぞれ、「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。

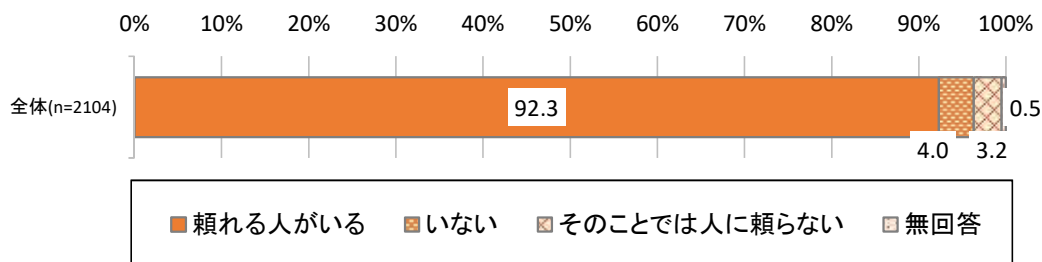


図 2-1-7-1 子育てに関する相談相手の有無

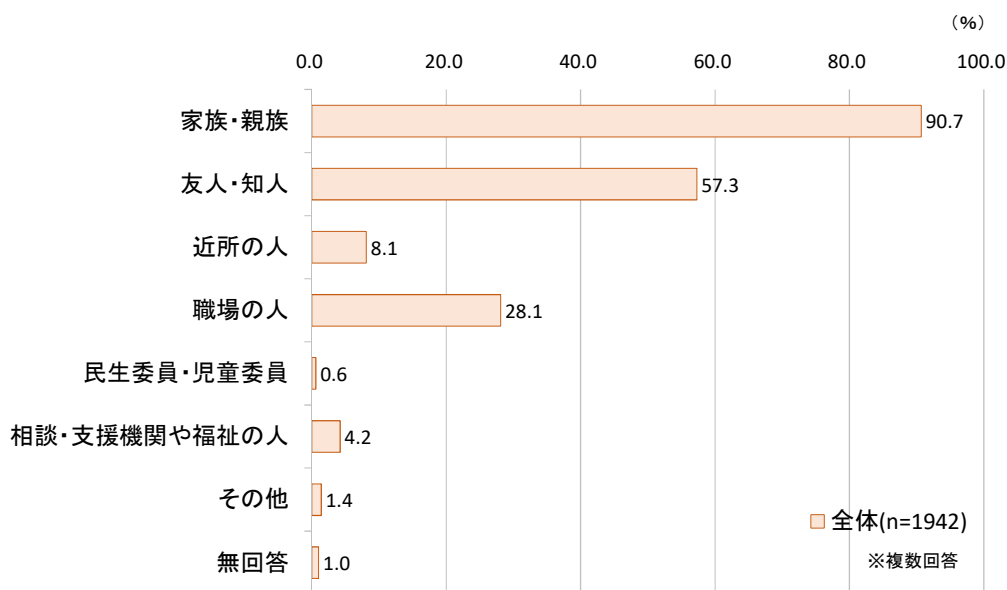


図 2-1-7-2 子育てに関する相談相手

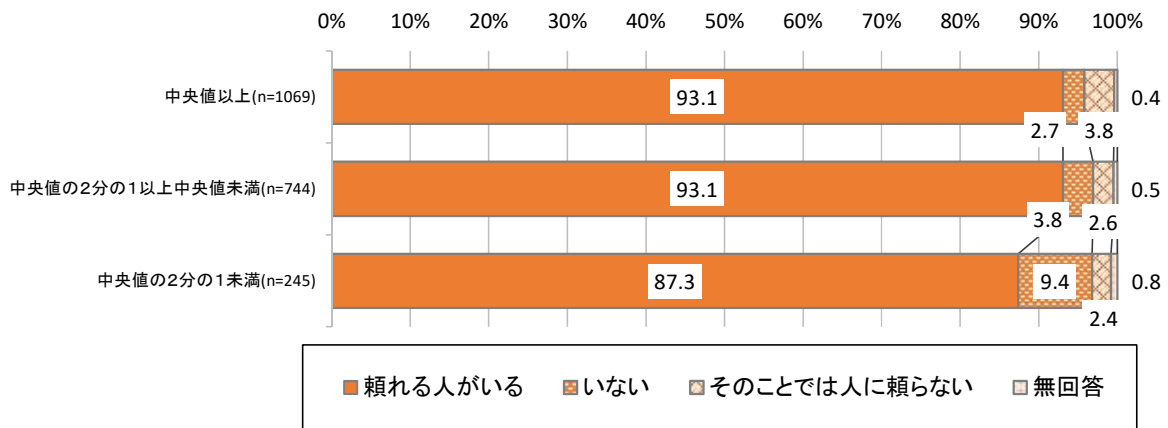


図 2-1-7-3 等価世帯収入の水準別、子育てに関する相談相手の有無

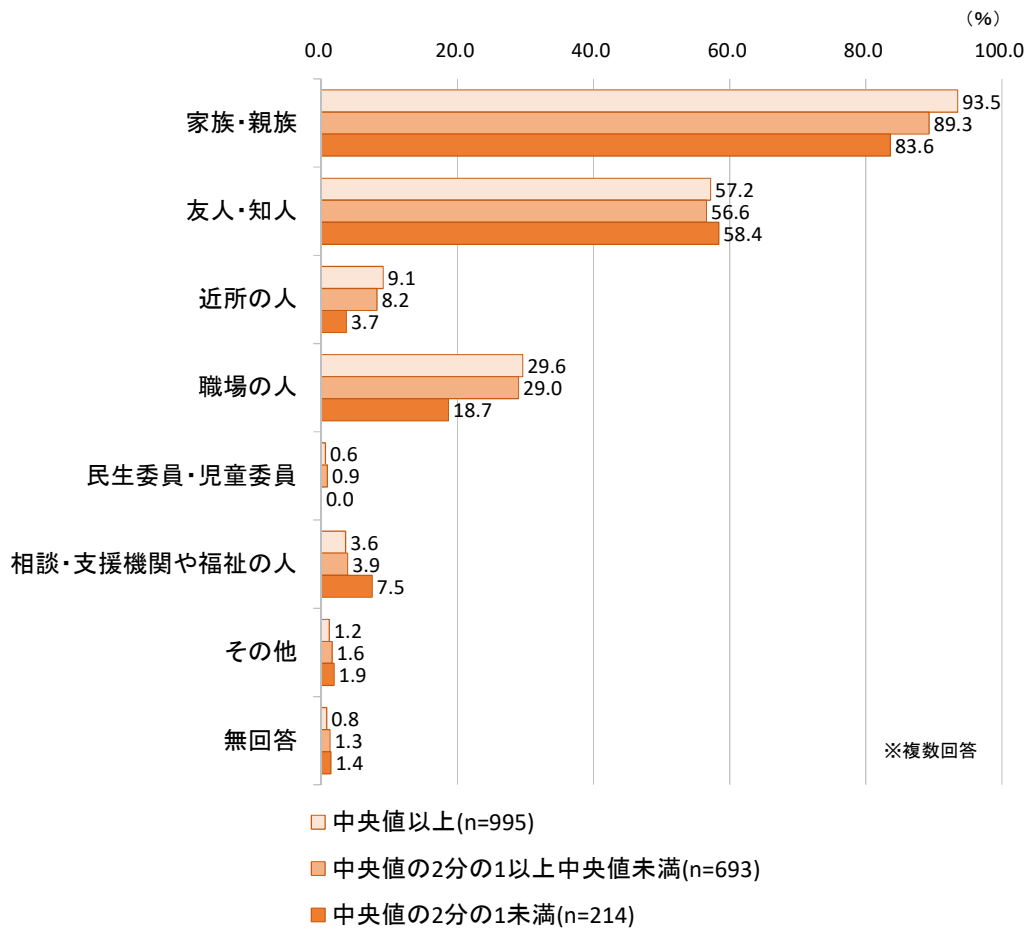


図 2-1-7-4 等価世帯収入の水準別、子育てに関する相談相手

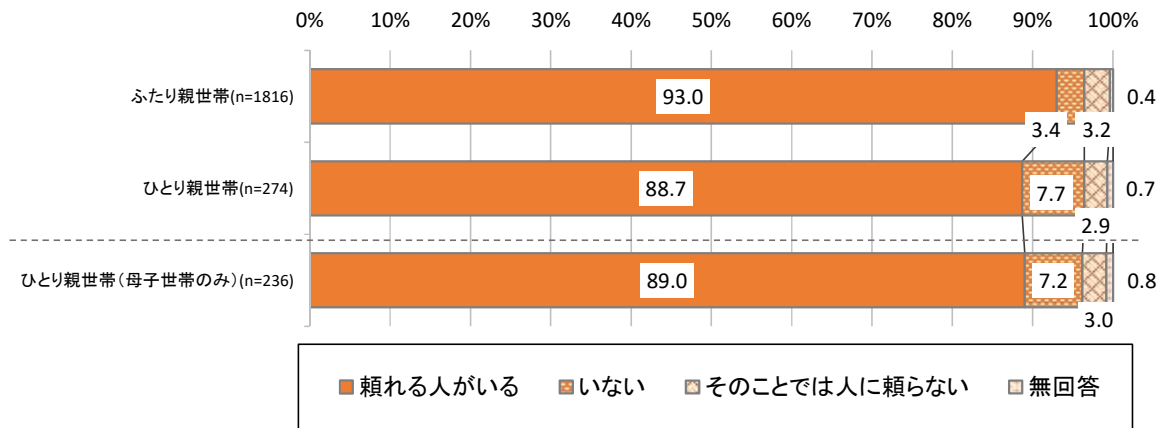


図 2-1-7-5 世帯の状況別、子育てに関する相談相手の有無

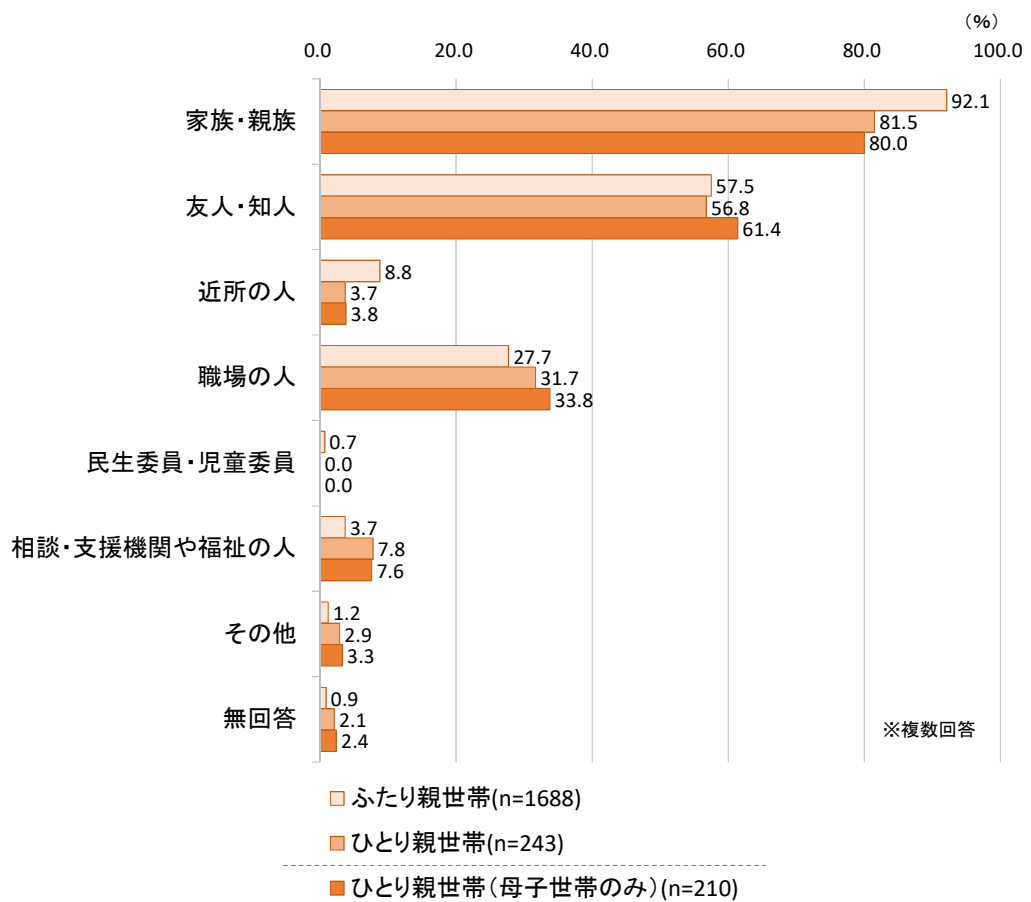


図 2-1-7-6 世帯の状況別、子育てに関する相談相手

## (2) 重要な事柄の相談

保護者票問16. あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(SA)

【問16で1(「頼れる人がいる」)と回答した方に】保護者票問16-1. それはだれですか。(MA)

### b. 重要な事柄の相談

重要な事柄の相談について、「頼れる人がいる」は91.1%、「いない」は4.8%、「そのことでは人に頼らない」は3.3%となっている。また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、「家族・親族」が95.4%、「友人・知人」が29.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「中央値以上」の世帯では2.9%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では4.6%、「中央値の2分の1未満」の世帯では12.2%となっている。また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、「家族・親族」の割合が93.2%で、他の世帯と比べて低くなっている。

世帯の状況別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「ふたり親世帯」では3.7%、「ひとり親世帯」全体では11.3%、「母子世帯」のみでは11.4%となっている。また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、「ひとり親世帯」では、「家族・親族」の割合が90.3%で「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。一方で、「友人・知人」の割合は35.4%で「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

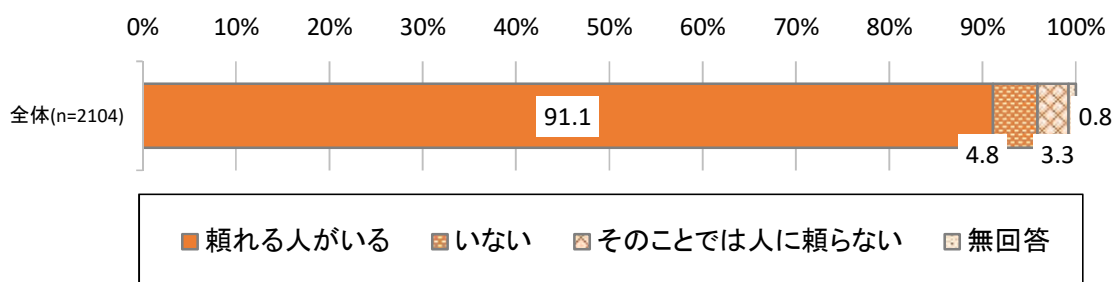


図 2-1-7-7 重要な事柄の相談相手の有無

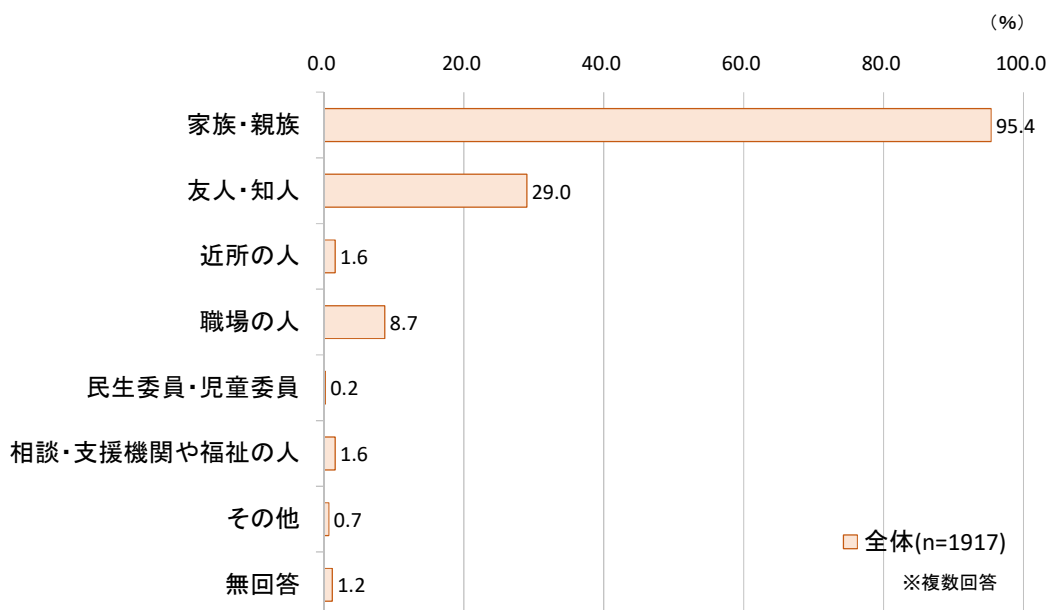


図 2-1-7-8 重要な事柄の相談相手

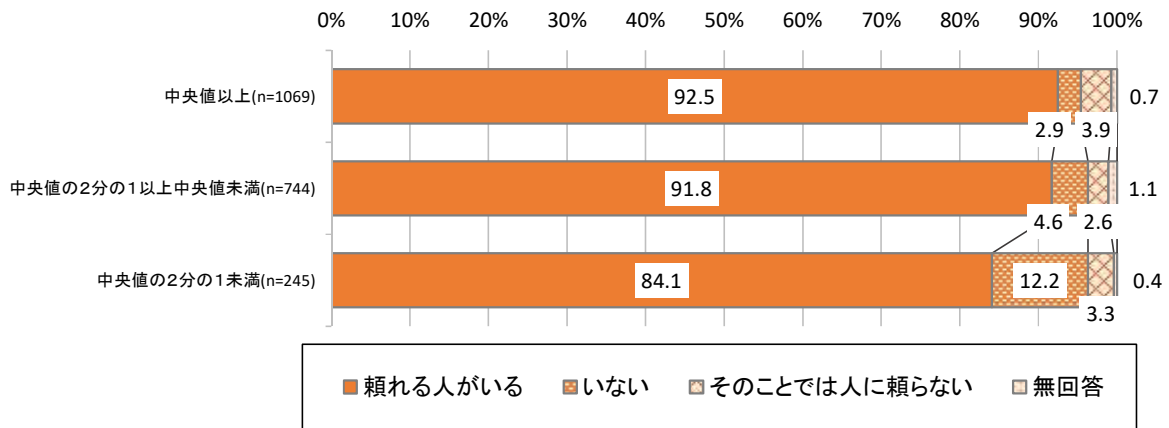


図 2-1-7-9 等価世帯収入の水準別、重要な事柄の相談相手の有無

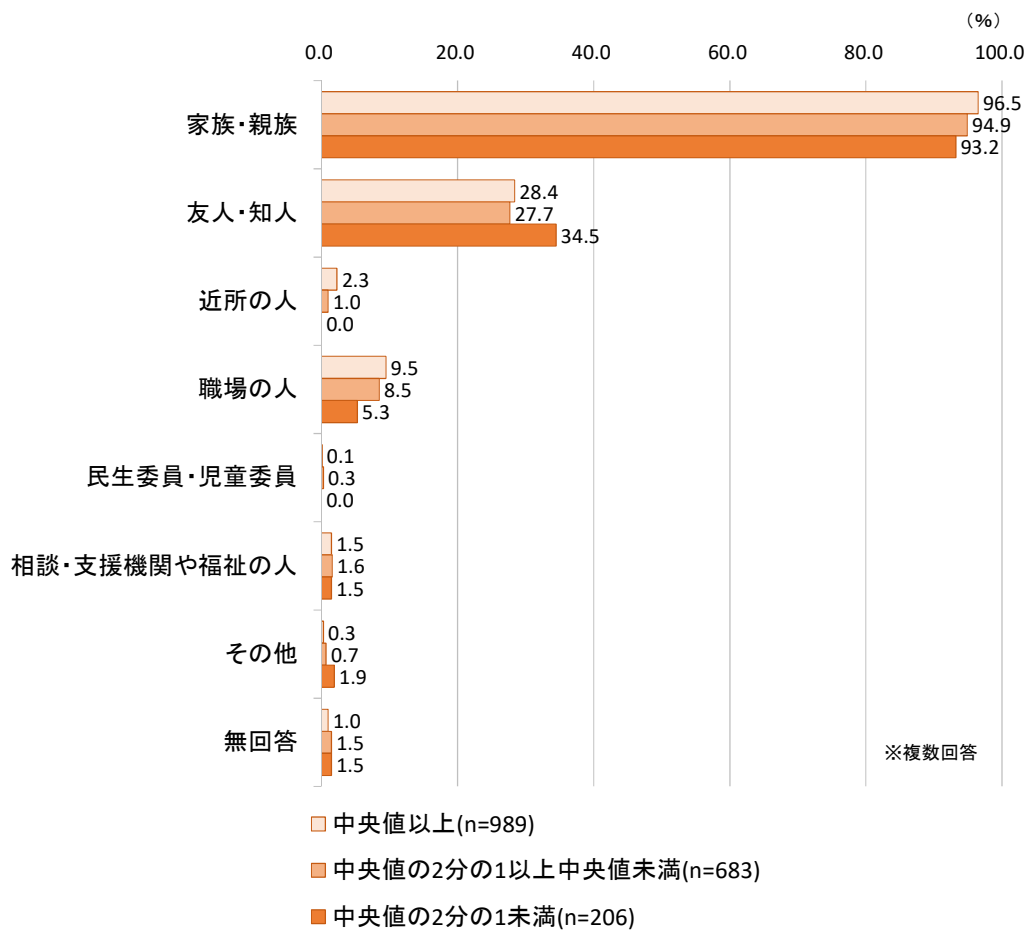


図 2-1-7-10 等価世帯収入の水準別、重要な事柄の相談相手

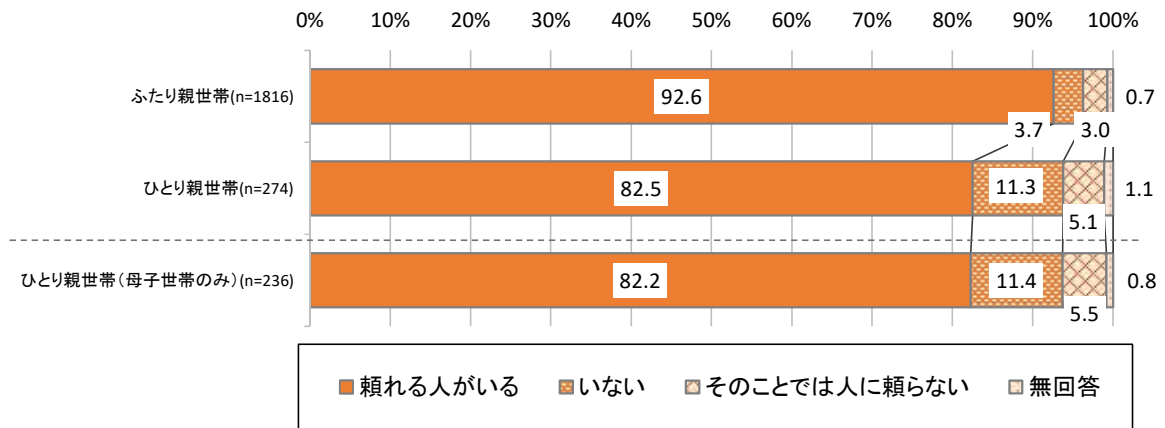


図 2-1-7-11 世帯の状況別、重要な事柄の相談相手の有無

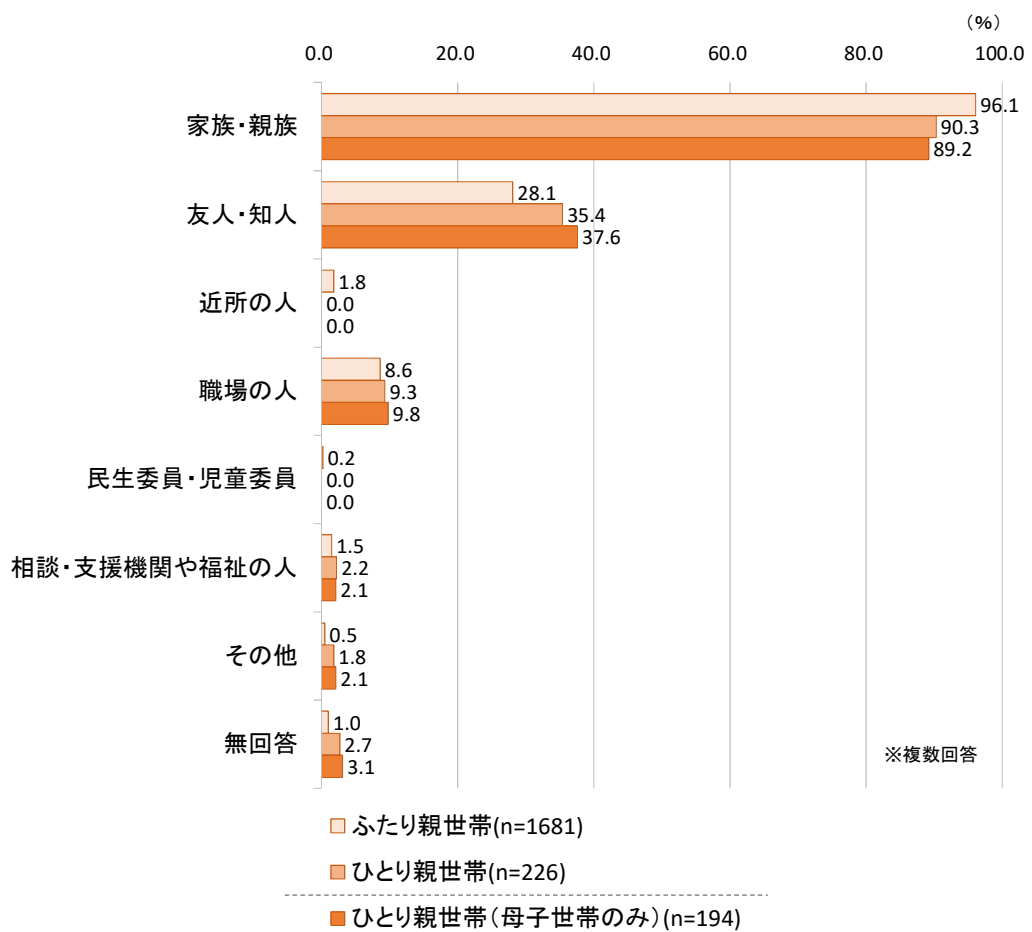


図 2-1-7-12 世帯の状況別、重要な事柄の相談相手

### (3) いざという時のお金の援助

保護者票問16. あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(SA)

【問16で1(「頼れる人がいる」)と回答した方に】保護者票問16-1. それはだれですか。(MA)

c. いざという時のお金の援助

いざという時のお金の援助について、「頼れる人がいる」は65.4%、「いない」は12.8%、「そのことでは人に頼らない」は20.8%となっている。また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、「家族・親族」が98.1%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「中央値以上」の世帯では7.6%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では14.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では29.4%となっている。また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、「友人・知人」「相談・支援機関や福祉の人」が、他の世帯と比べて高くなっている。

世帯の状況別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「ふたり親世帯」では11.1%、「ひとり親世帯」全体では23.0%、「母子世帯」のみでは24.2%となっている。また、「頼れる人がいる」と回答した場合の相談相手は、「ひとり親世帯」では「家族・親族」の割合が95.4%で、「ふたり親世帯」と比べて低くなっている

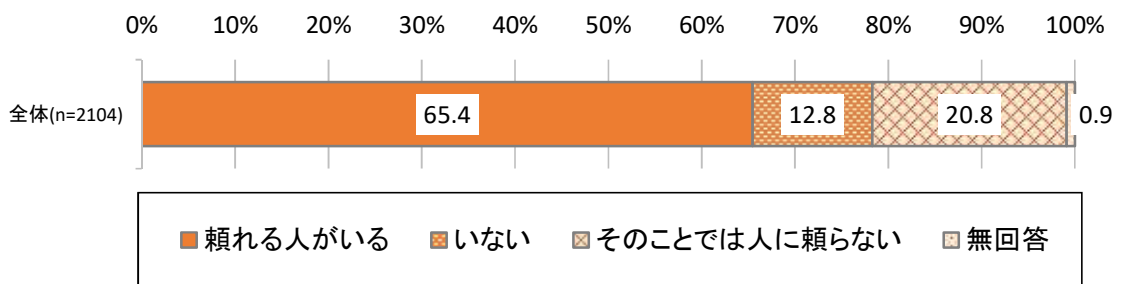


図 2-1-7-13 いざという時のお金の援助に関して頼れる人の有無

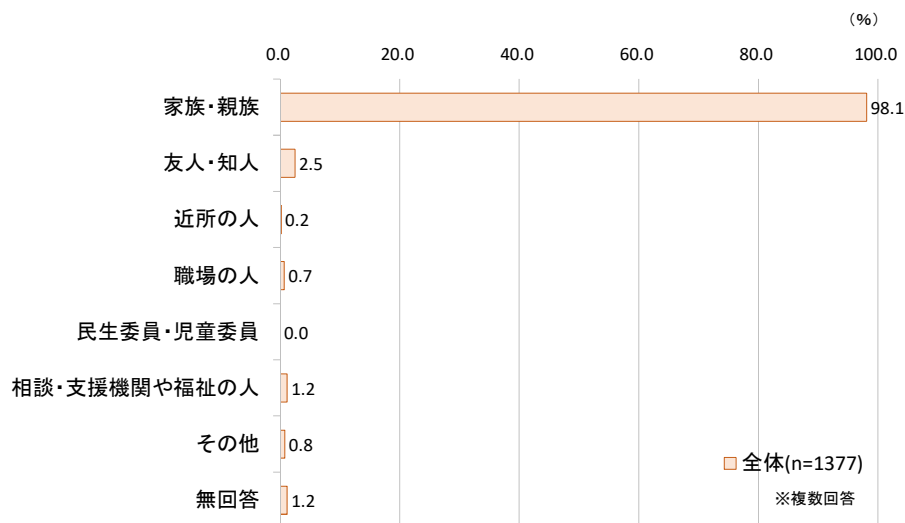


図 2-1-7-14 いざという時のお金の援助に関して頼れる相手



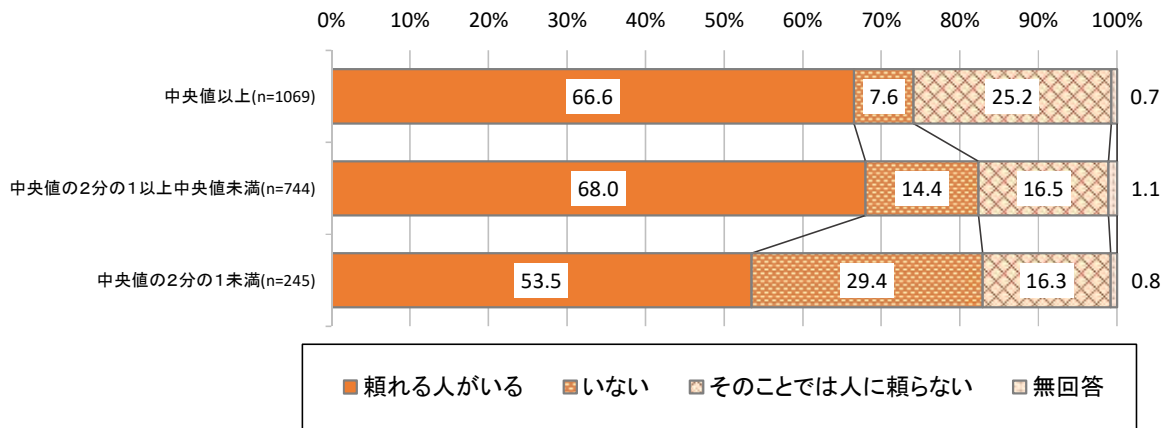


図 2-1-7-15 等価世帯収入の水準別、いざという時のお金の援助に関して頼れる人の有無

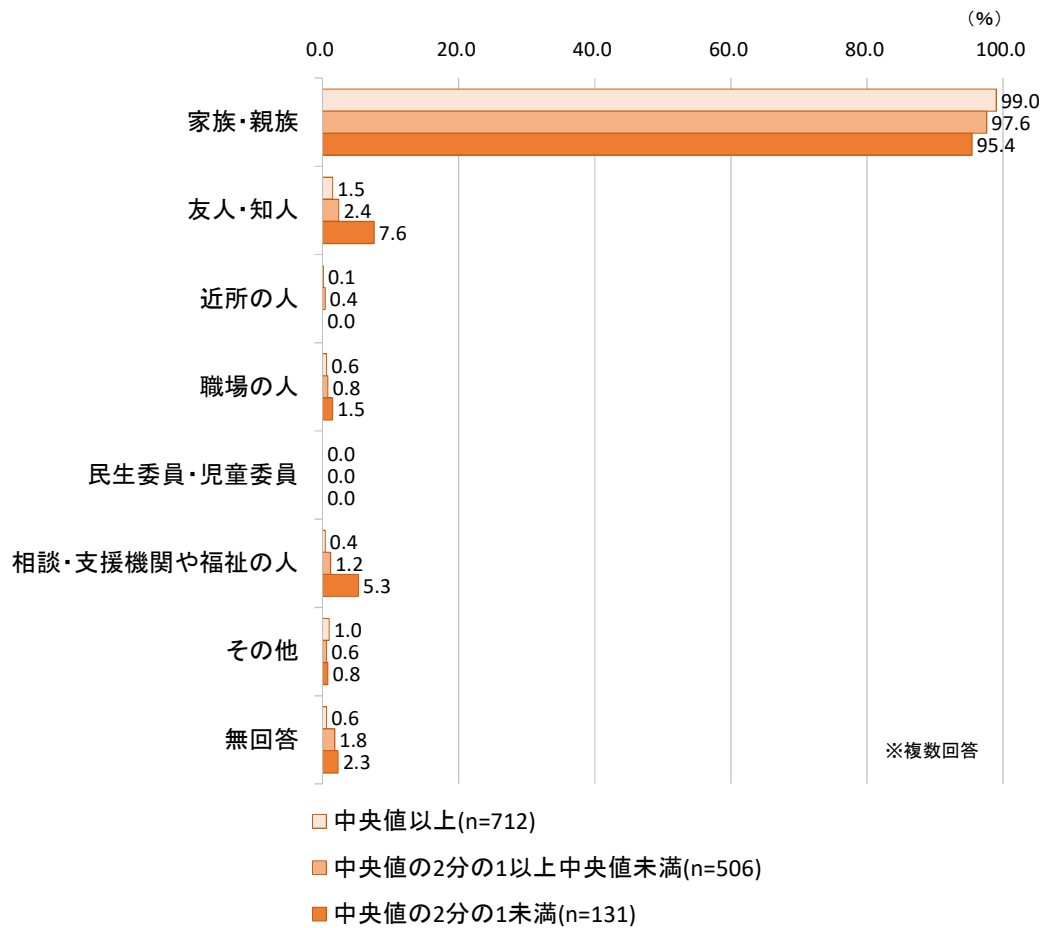


図 2-1-7-16 等価世帯収入の水準別、いざという時のお金の援助に関して頼れる相手

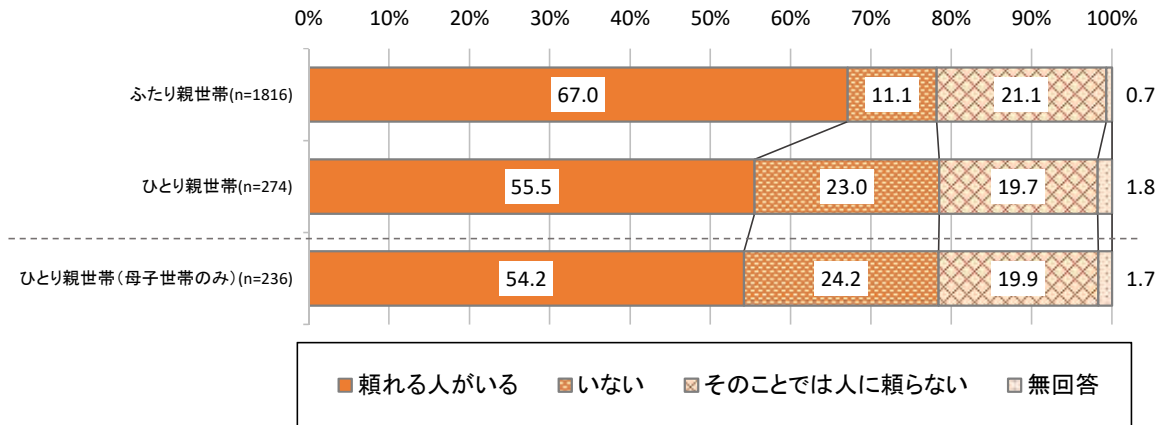


図 2-1-7-17 世帯の状況別、いざという時のお金の援助に関して頼れる人の有無

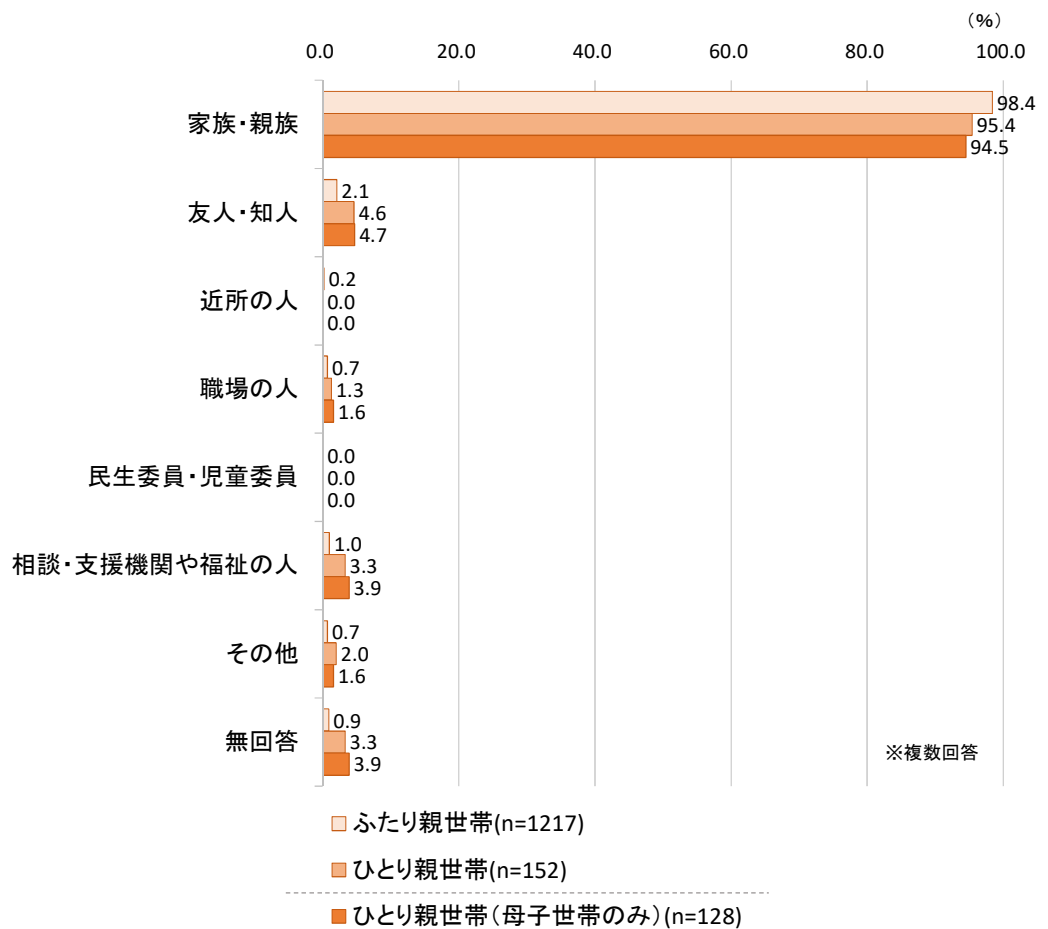


図 2-1-7-18 世帯の状況別、いざという時のお金の援助に関して頼れる相手

### 2.1.8. 保護者の心理的な状態

保護者票問22. 次の a)~f)の質問について、この1か月のあなたの気持ちはどのようでしたか。(SA)

- a. 神経過敏に感じた
- b. 絶望的だと感じた
- c. そわそわ、落ち着かなく感じた
- d. 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた
- e. 何をするのも面倒だと感じた
- f. 自分は価値のない人間だと感じた

「保護者の心理的な状態」に関して、調査では「K6」と呼ばれる指標を把握するための6つの項目を設定した<sup>5</sup>。

この6つの調査項目の結果を足し合わせて、K6のスコアを算出した(0~24点)。「うつ・不安障害相当」とされている「13点以上」の割合は8.0%であった。

等価世帯収入の水準別にみると、K6のスコアが「13点以上」の割合は、「中央値以上」の世帯では4.1%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では9.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では21.6%となっている。

世帯の状況別に見ると、K6のスコアが「13点以上」の割合は、「ふたり親世帯」では6.4%、「ひとり親世帯」全体では18.6%、「母子世帯」のみでは20.8%となっている。

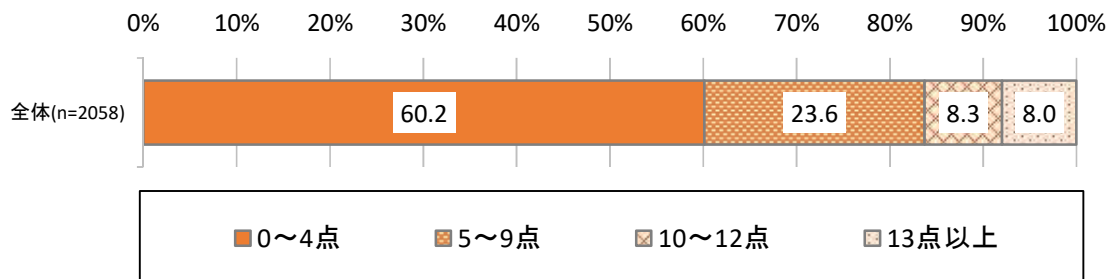


図 2-1-8-1 保護者の心理的な状態 (K6 のスコア)

<sup>5</sup> K6 は米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。

採点方法は、ひとつの質問ごとに0点(5.まったくない)から4点(1.いつも)を振り、0点から24点で合計を計算した。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示している。厚生労働省による解説・紹介ページ

(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kytosa/k-tyosa10/yougo.html>)

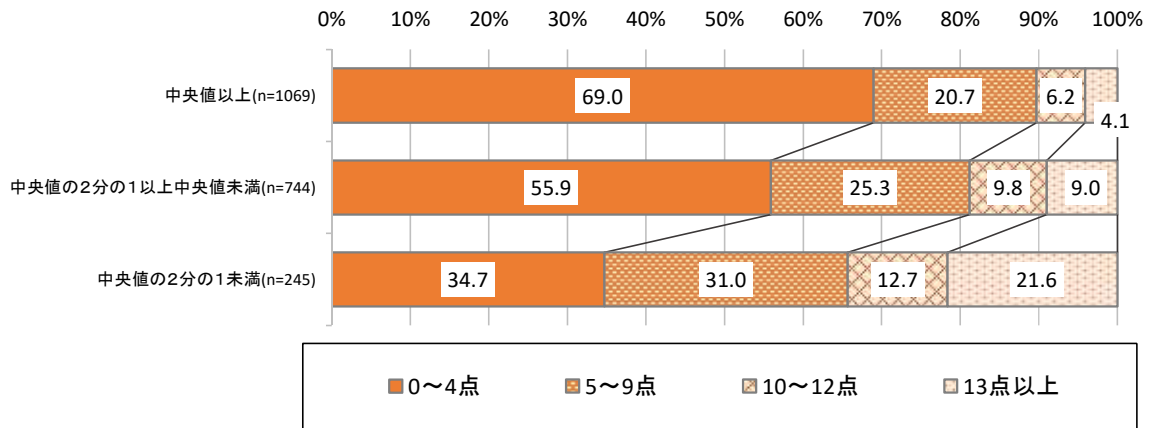


図 2-1-8-2 等価世帯収入の水準別、保護者の心理的な状態 (K6 のスコア)

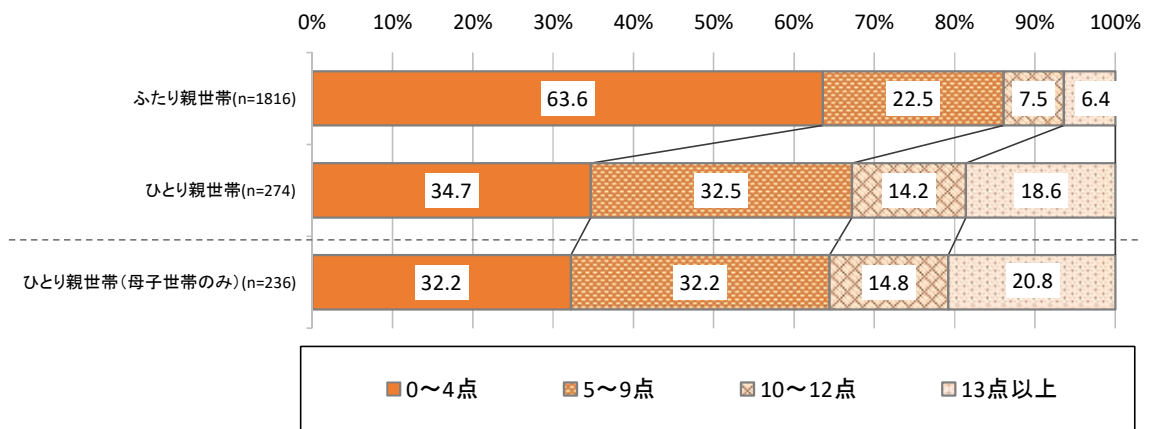


図 2-1-8-3 世帯の状況別、保護者の心理的な状態 (K6 のスコア)

## 2.2. 子どもの生活状況

### 2.2.1 学習の状況

#### (1) ふだんの勉強の仕方

中学生票問2. あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。(MA)

ふだん学校の授業以外でどのように勉強をしているかについては、「自分で勉強する」が70.6%、「塾で勉強する」が41.3%、「家の人に教えてもらう」が22.7%、「友達と勉強する」が19.7%となっている。なお、「学校の授業以外で勉強はしない」の割合は9.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「塾で勉強する」が23.0%で、他の世帯と比べて低くなっている。他方で、「友達と勉強する」が25.4%、「学校の授業以外で勉強はしない」の割合は15.2%で、他の世帯と比べて高くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」の場合には、「自分で勉強する」が63.7%、「塾で勉強する」が24.9%、「家の人に教えてもらう」が18.7%で、それぞれ「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。他方で、「学校の授業以外で勉強はしない」の割合は17.9%で、「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

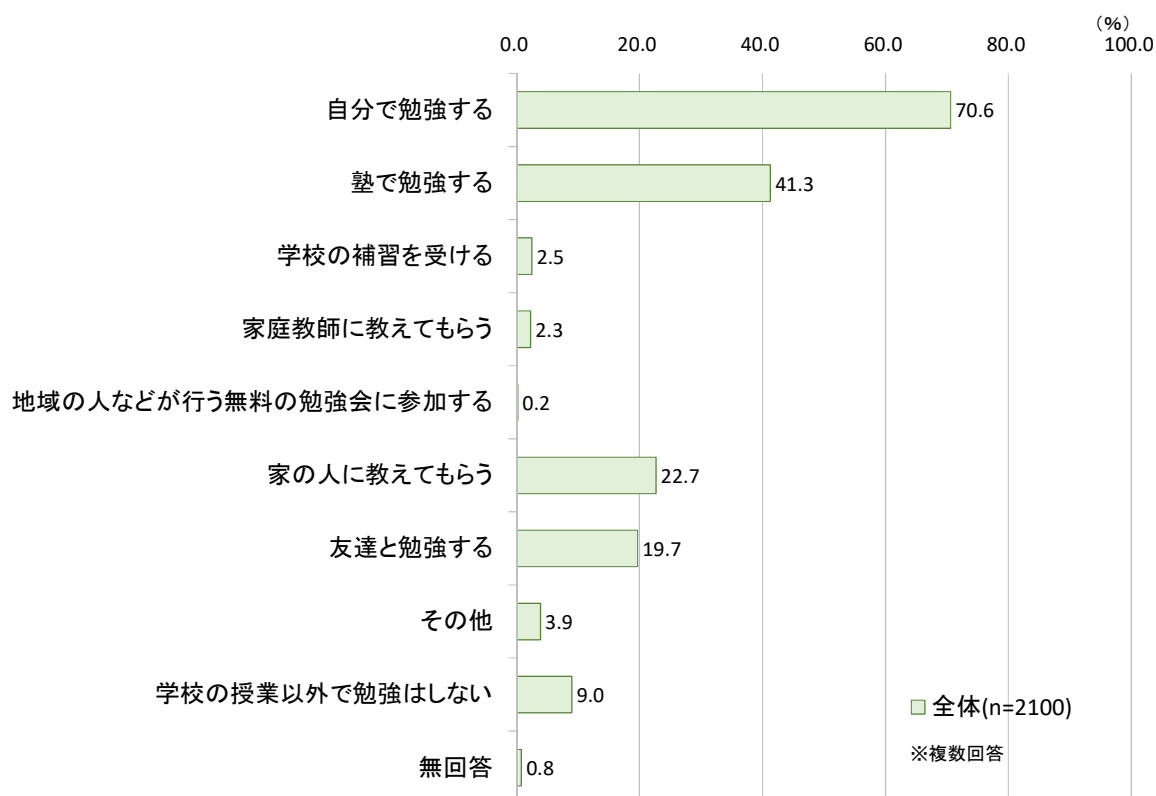


図 2-2-1-1 ふだんの勉強の仕方

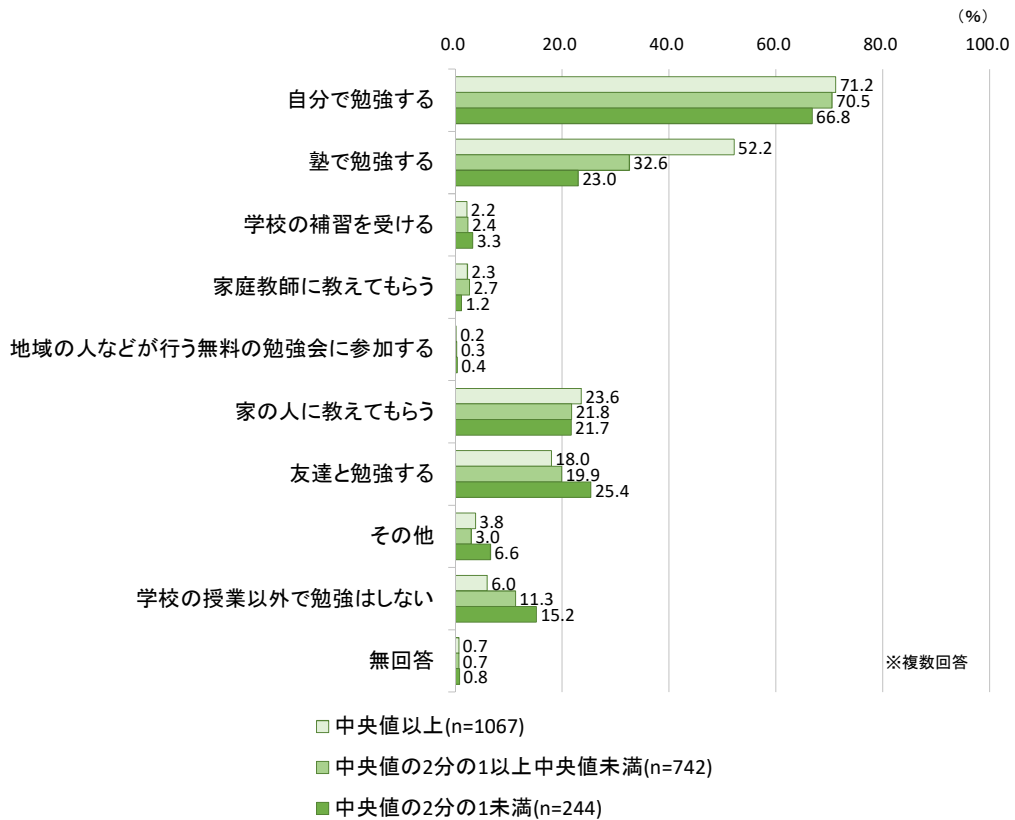


図 2-2-1-2 等価世帯収入の水準別、ふだんの勉強の仕方

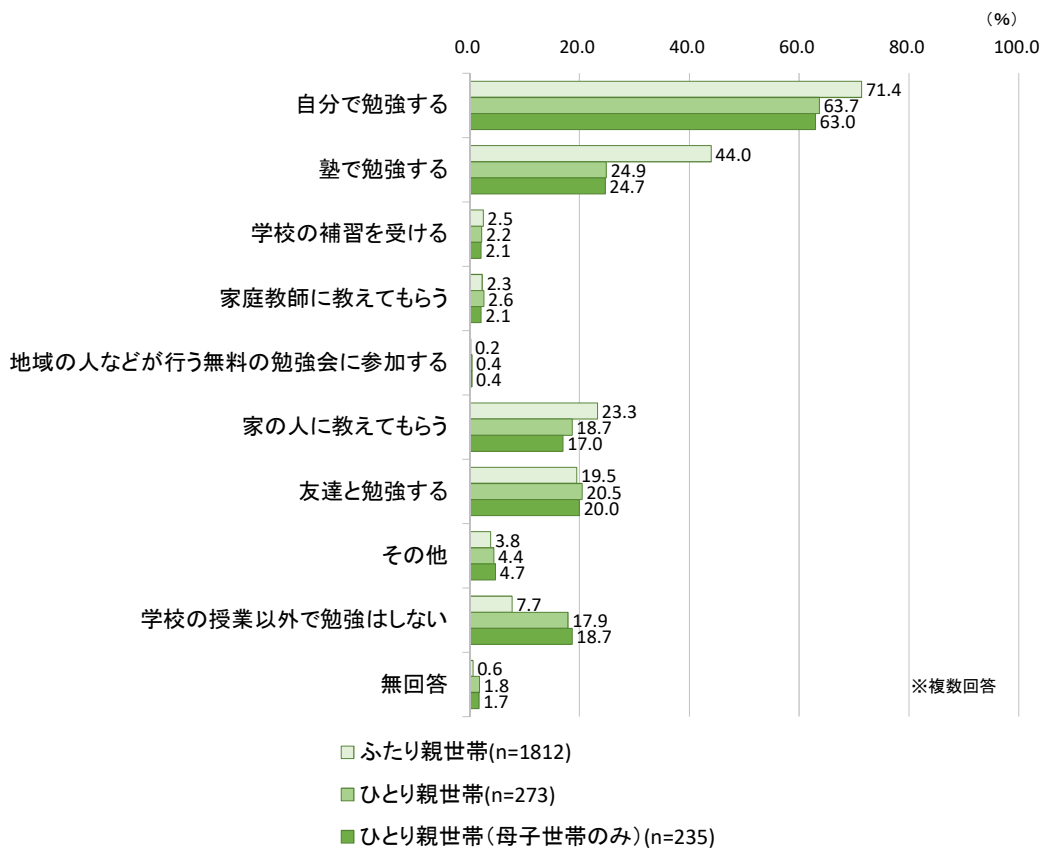


図 2-2-1-3 世帯の状況別、ふだんの勉強の仕方

## (2) 1日あたりの勉強時間

中学生票問3. あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。(SA)

学校の授業以外での1日あたりの勉強時間について、「学校がある日（月～金曜日）」では、「30分以上、1時間より少ない」が27.0%で最も割合が高く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が25.0%となっている。また、「まったくしない」は10.9%となっている。

「学校がない日（土・日曜日・祝日）」では、「30分以上、1時間より少ない」が22.3%で最も割合が高く、次いで「30分より少ない」が21.0%となっている。「まったくしない」は18.7%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「まったくしない」の割合が、「学校がある日（月～金曜日）」では18.0%、「学校がない日（土・日曜日・祝日）」では25.0%となっており、それぞれそれ以外の世帯と比べて高くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「まったくしない」の割合が、「学校がある日（月～金曜日）」では17.9%、「学校がない日（土・日曜日・祝日）」では28.6%となっており、それぞれ「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

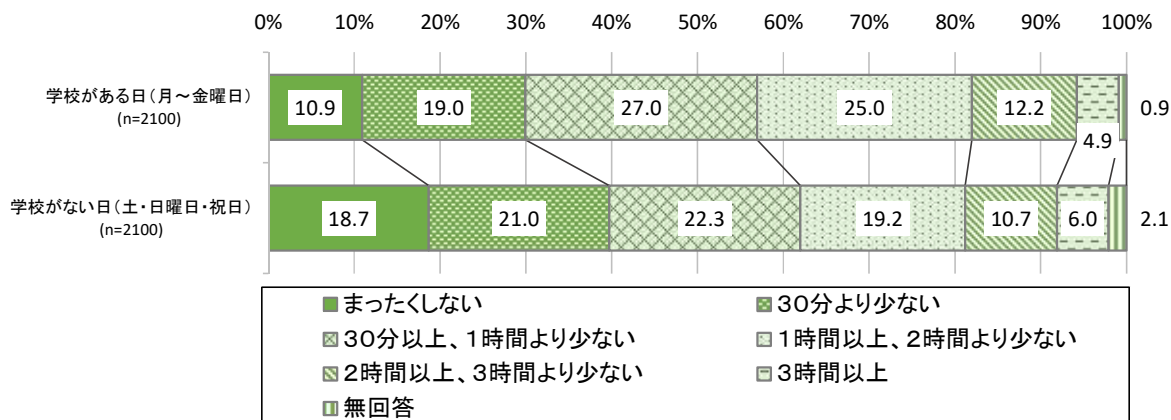


図 2-2-1-4 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間

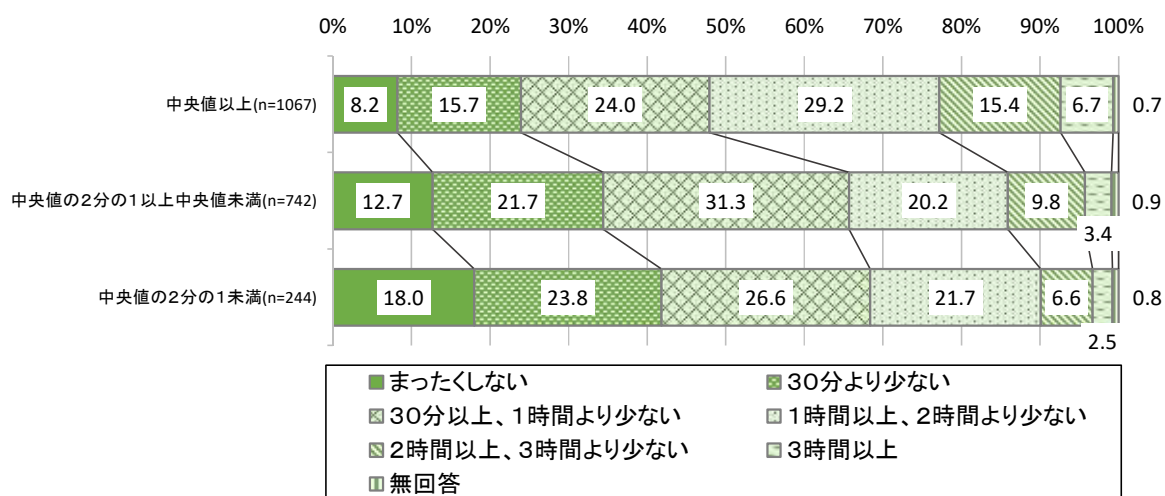


図 2-2-1-5 等価世帯収入の水準別、学校の授業以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

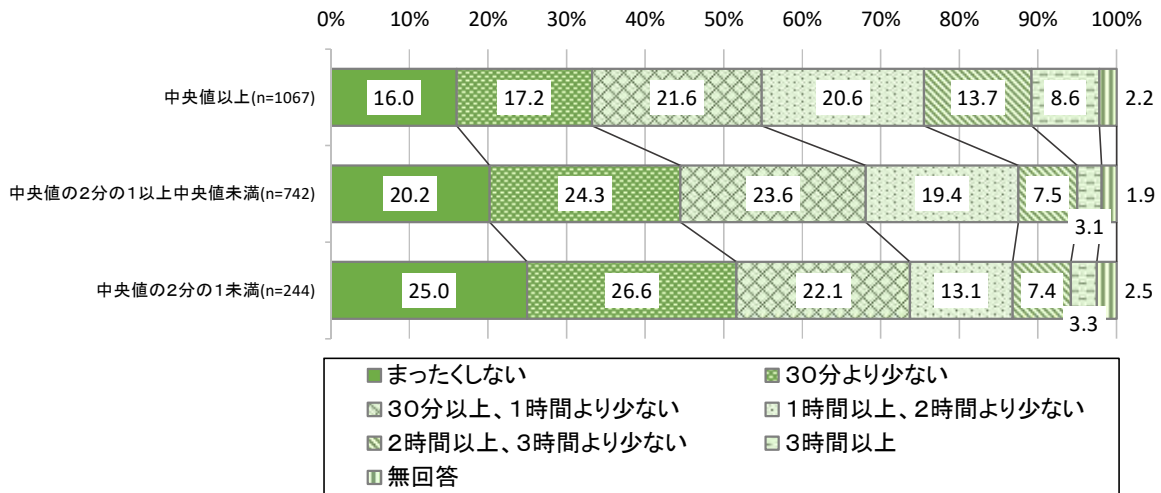


図 2-2-1-6 等価世帯収入の水準別、学校の授業以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

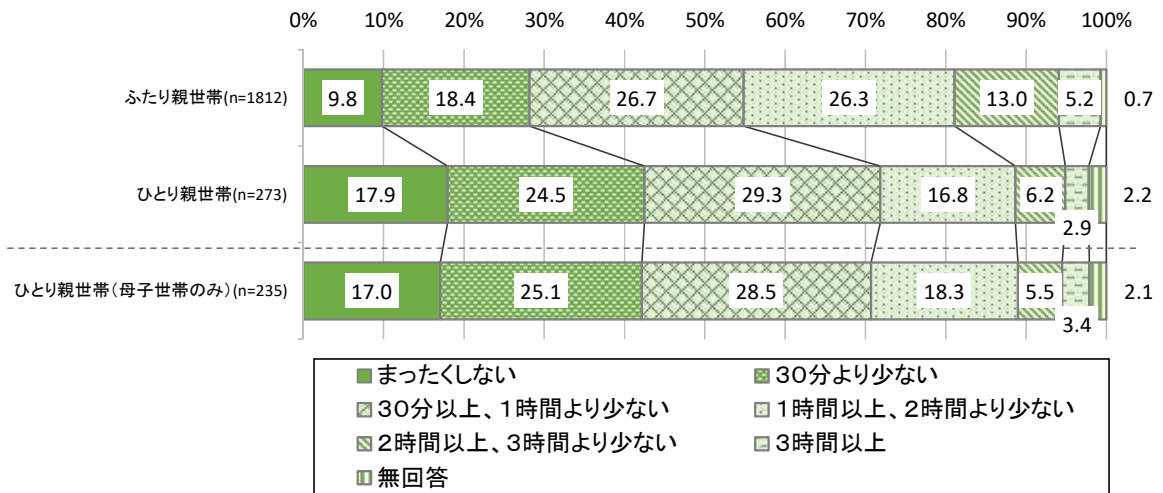


図 2-2-1-7 世帯の状況別、学校の授業以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

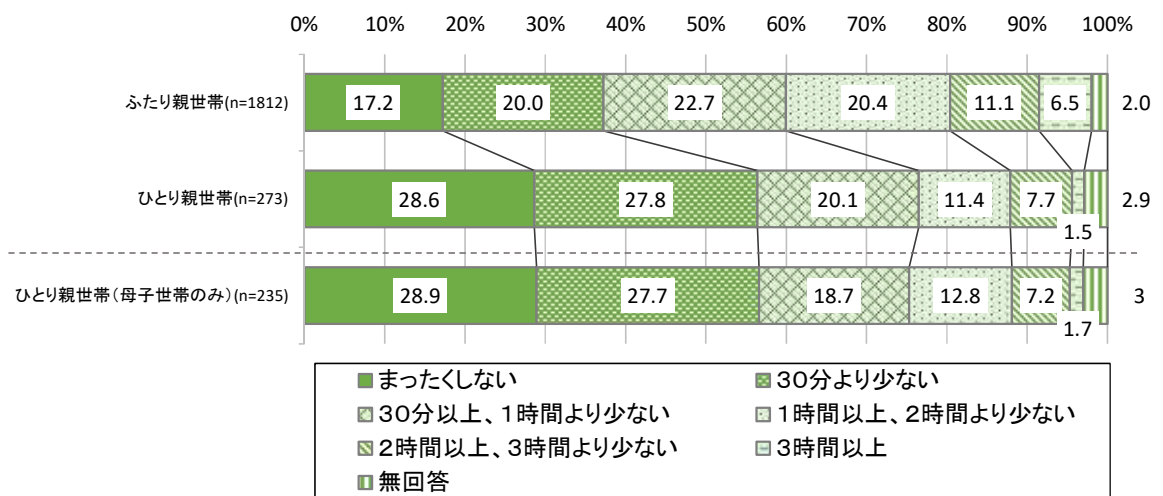


図 2-2-1-8 世帯の状況別、学校の授業以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）



### (3) クラスの中での成績

中学生票問4. あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(SA)

クラスの中での成績については、「上のほう」は16.1%、「やや上のほう」は22.6%、「まん中あたり」は25.5%、「やや下のほう」は13.5%、「下のほう」は17.1%、「わからない」は4.5%となっている。「やや下のほう」と「下のほう」を足し合わせた割合は30.6%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「やや下のほう」と「下のほう」を足し合わせた割合は、「中央値以上」の世帯では23.6%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では35.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では49.2%となっている。

世帯の状況別にみると、「やや下のほう」と「下のほう」を足し合わせた割合は、「ふたり親世帯」では27.9%、「ひとり親世帯」全体では47.6%、「母子世帯」のみでは47.2%となっている。

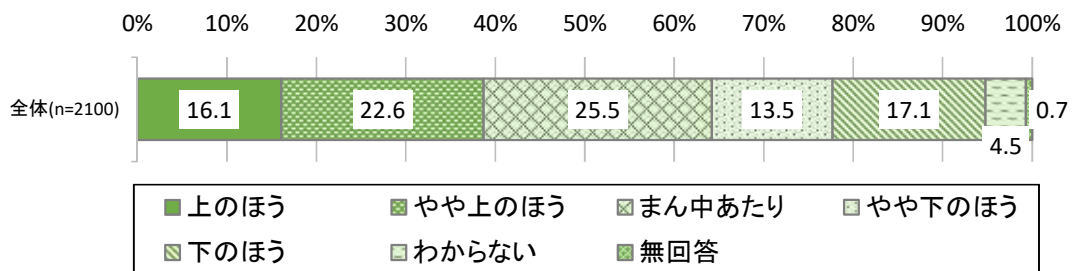


図 2-2-1-9 クラスの中での成績

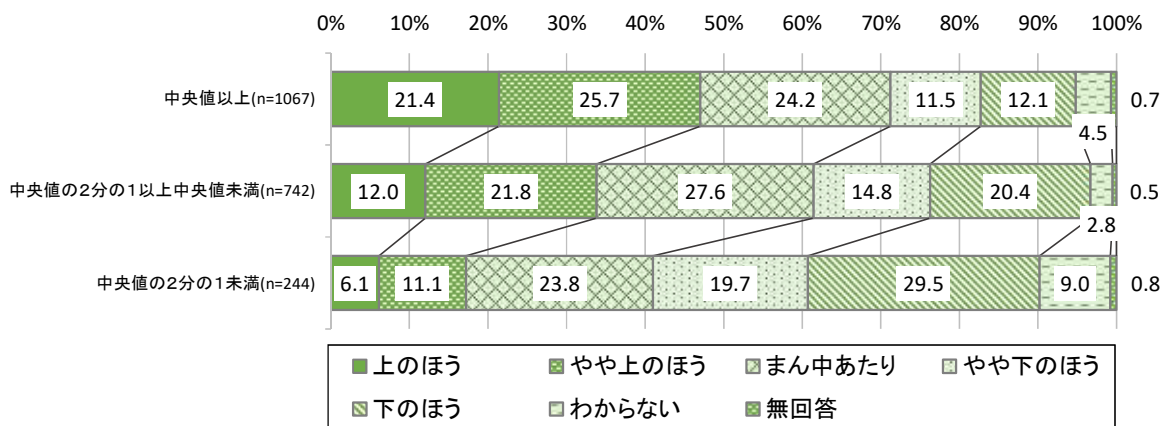


図 2-2-1-10 等価世帯収入の水準別、クラスの中での成績

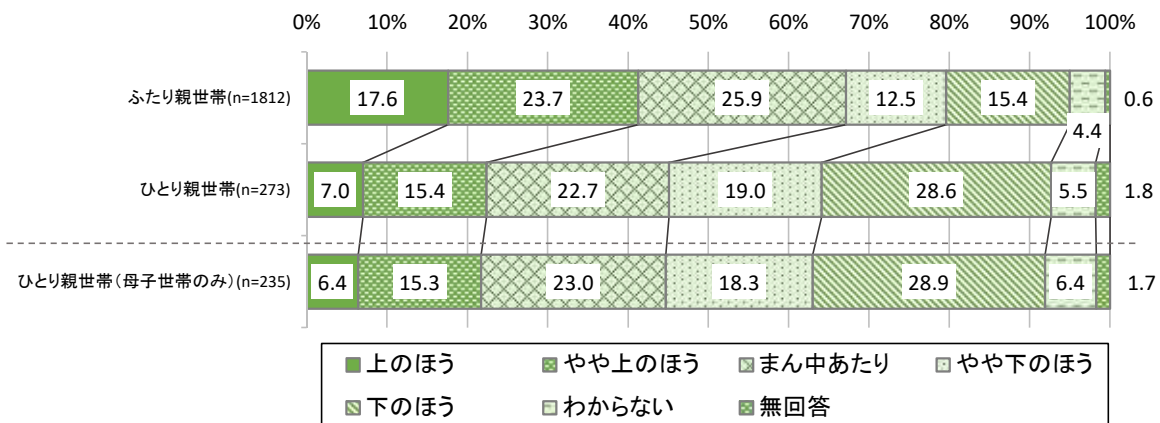


図 2-2-1-11 世帯の状況別、クラスの中での成績

#### (4) 授業の理解状況

中学生票問5. あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(SA)

学校の授業の理解状況については、「いつもわかる」が9.6%、「だいたいわかる」が35.1%、「教科によってはわからないことがある」が41.2%、「わからないことが多い」が9.6%、「ほとんどわからない」が3.7%となっている。「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」を合わせた割合は13.3%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「ほとんどわからない」と「わからないことが多い」を合わせた割合は、「中央値以上」の世帯では8.2%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では15.5%、「中央値の2分の1未満」の世帯では28.7%となっている。

世帯の状況別にみると、「ほとんどわからない」と「わからないことが多い」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では10.8%、「ひとり親世帯」全体では29.7%、「母子世帯」のみでは29.8%となっている。

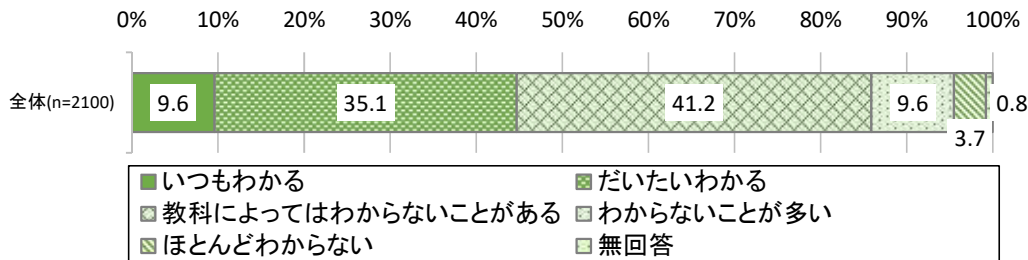


図 2-2-1-12 授業の理解状況

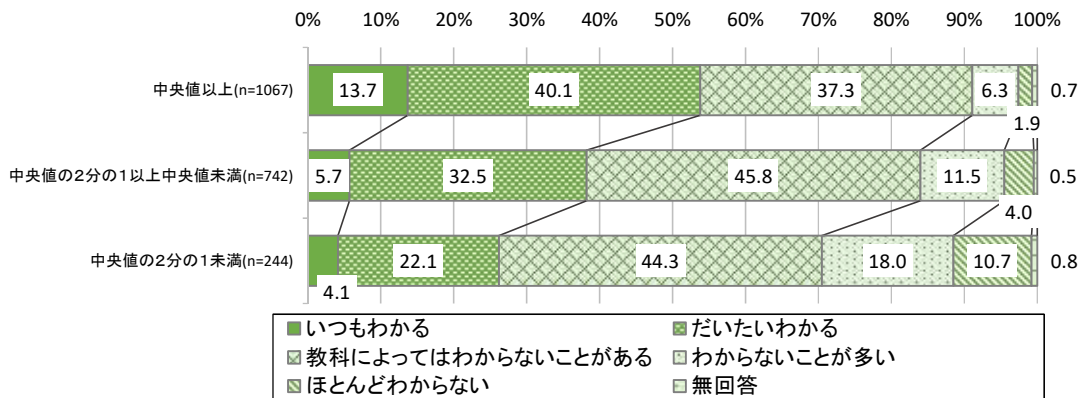


図 2-2-1-13 等価世帯収入の水準別、授業の理解状況

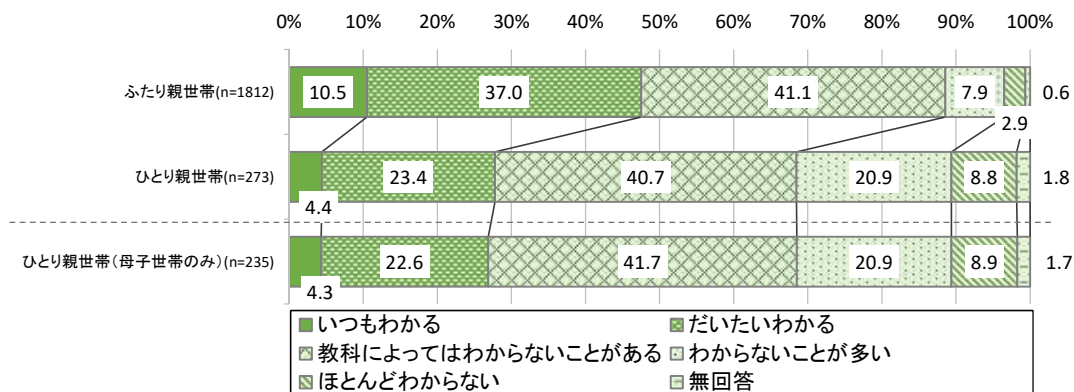


図 2-2-1-14 世帯の状況別、授業の理解状況

### (5) 授業がわからなくなった時期

【問5で3～5と答えた方に】

中学生票問6. いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(SA)

授業がわからなくなった時期については、「小学1・2年生のころ」が3.2%、「小学3・4年生のころ」が8.1%、「小学5・6年生のころ」が19.2%、「中学1年生のころ」が48.3%、「中学2年生になってから」が20.5%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、授業がわからなくなった時期について「中学2年生になってから」の割合が14.0%で他の世帯と比べて低く、「中学1年生のころ」、また、それよりも早い時期であったとの回答割合が高くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「中学2年生になってから」の割合が14.6%で「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。

また、授業がわからなくなった時期について授業の理解状況別にみると、授業の理解状況の回答がいずれの場合も、授業がわからなくなった時期の回答は「中学1年生のころ」の割合が最も高いが、「わからないことが多い」や「ほとんどわからない」と回答した場合には、「小学5・6年生のころ」の回答割合が約3割、さらにそれよりも早い時期であるとの回答が約2割から3割となっており、早期からわからなくなったと回答する割合が高くなっている。

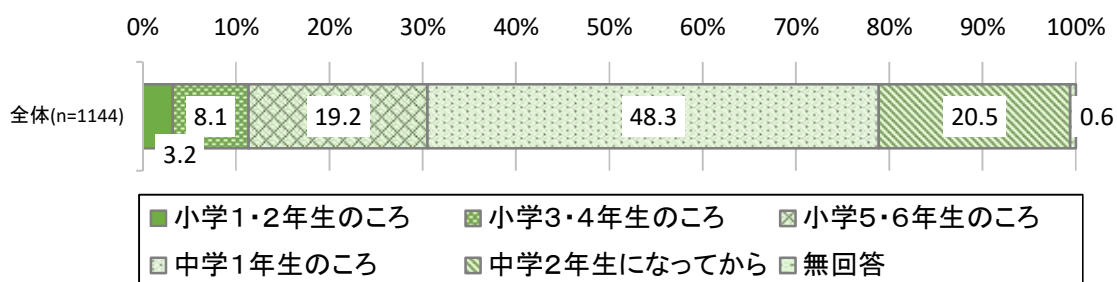


図 2-2-1-15 授業がわからなくなった時期

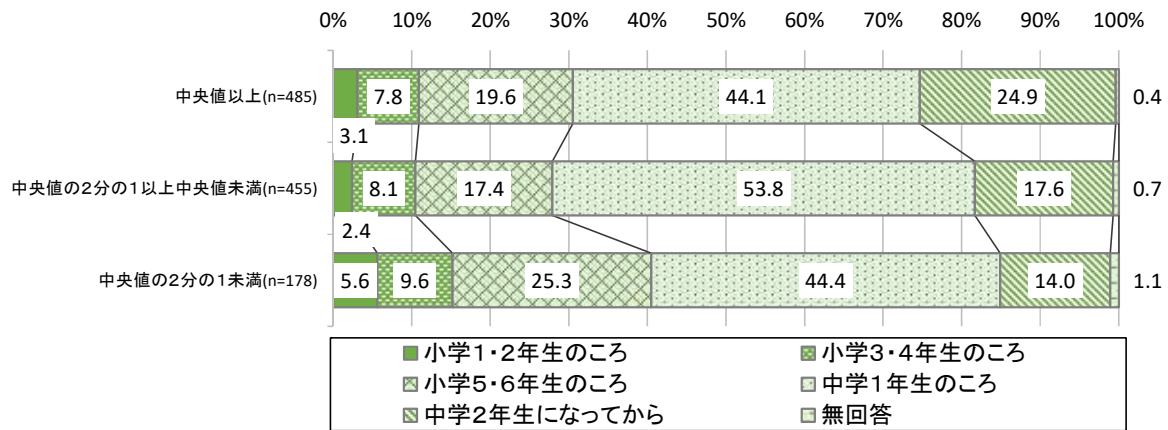


図 2-2-1-16 等価世帯収入の水準別、授業がわからなくなった時期

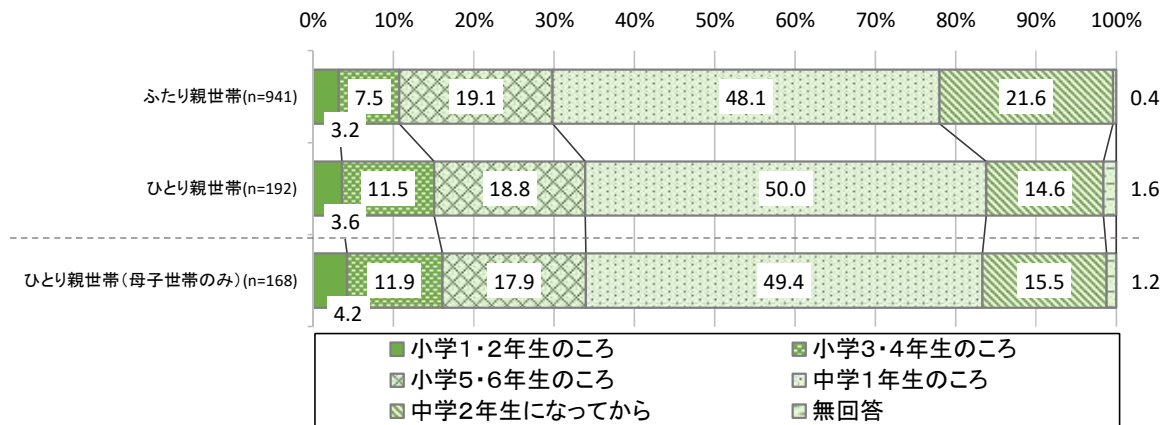


図 2-2-1-17 世帯の状況別、授業がわからなくなった時期

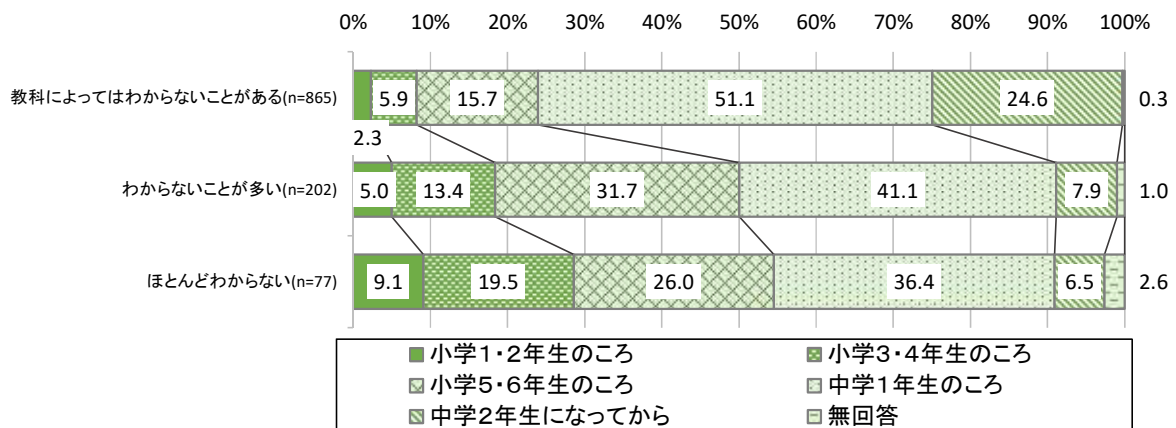


図 2-2-1-18 授業の理解状況別、授業がわからなくなった時期

## 2.2.2 進学希望

### (1) 進学したいと思う教育段階

中学生票問7. あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。(SA)

将来どの段階まで進学したいかについては、「大学またはそれ以上」が44.6%、「まだわからない」が21.2%、「高校まで」が17.5%、「短大・高専・専門学校まで」が15.0%、「中学まで」が0.3%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「大学またはそれ以上」の回答割合は、「中央値以上」の世帯では55.7%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では35.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では25.0%となっている。

世帯の状況別にみると、「大学またはそれ以上」の回答割合は、「ふたり親世帯」では46.8%、「ひとり親世帯」全体では29.7%、「母子世帯」のみでは28.5%となっている。

また、等価世帯収入水準が「中央値の2分の1未満」の場合に、クラスの中での成績別にみると、収入の水準が低い場合であっても、成績が「上のほう」「やや上のほう」の場合には、進学したいと思う教育段階について「大学またはそれ以上」の割合が比較的高くなっている。

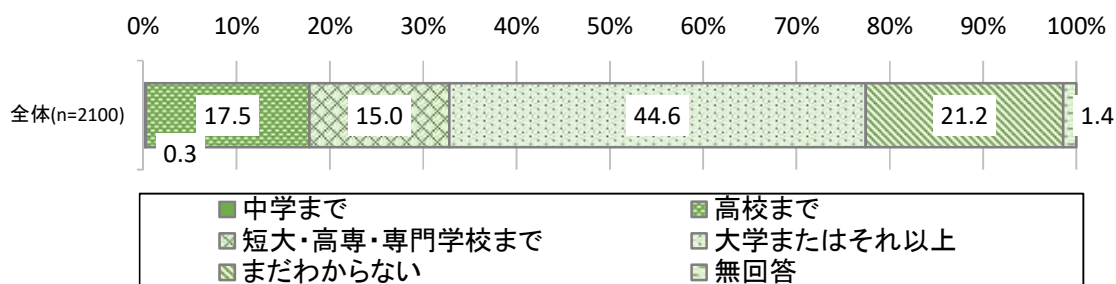


図 2-2-2-1 進学したいと思う教育段階

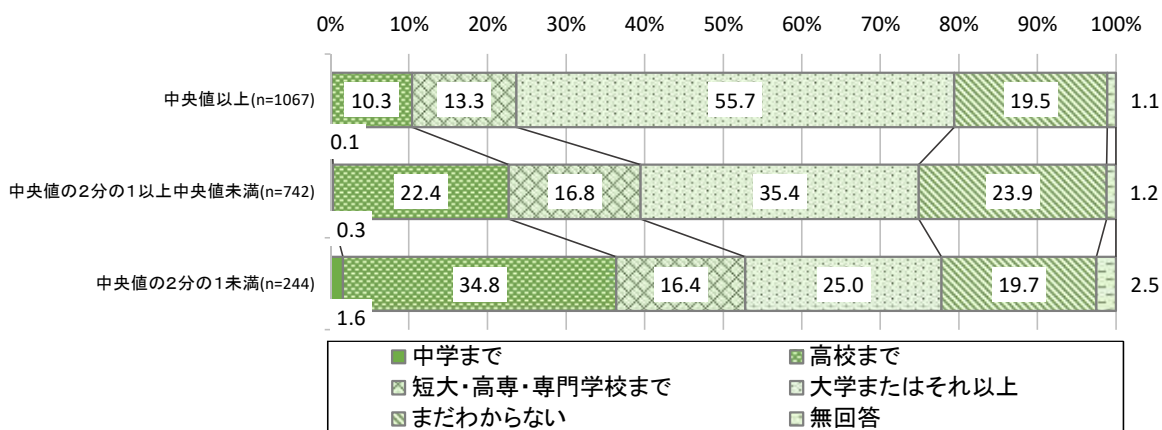


図 2-2-2-2 等価世帯収入の水準別、進学したいと思う教育段階

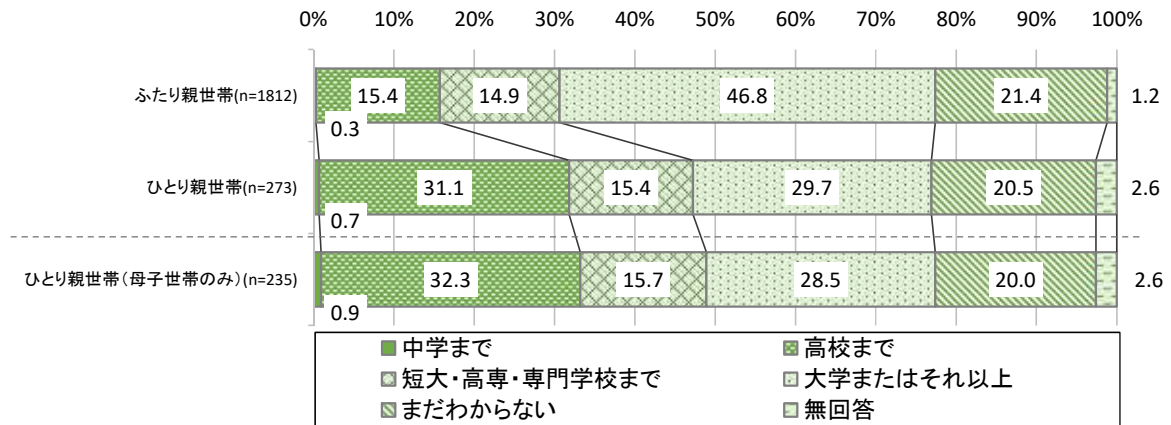


図 2-2-2-3 世帯の状況別、進学したいと思う教育段階

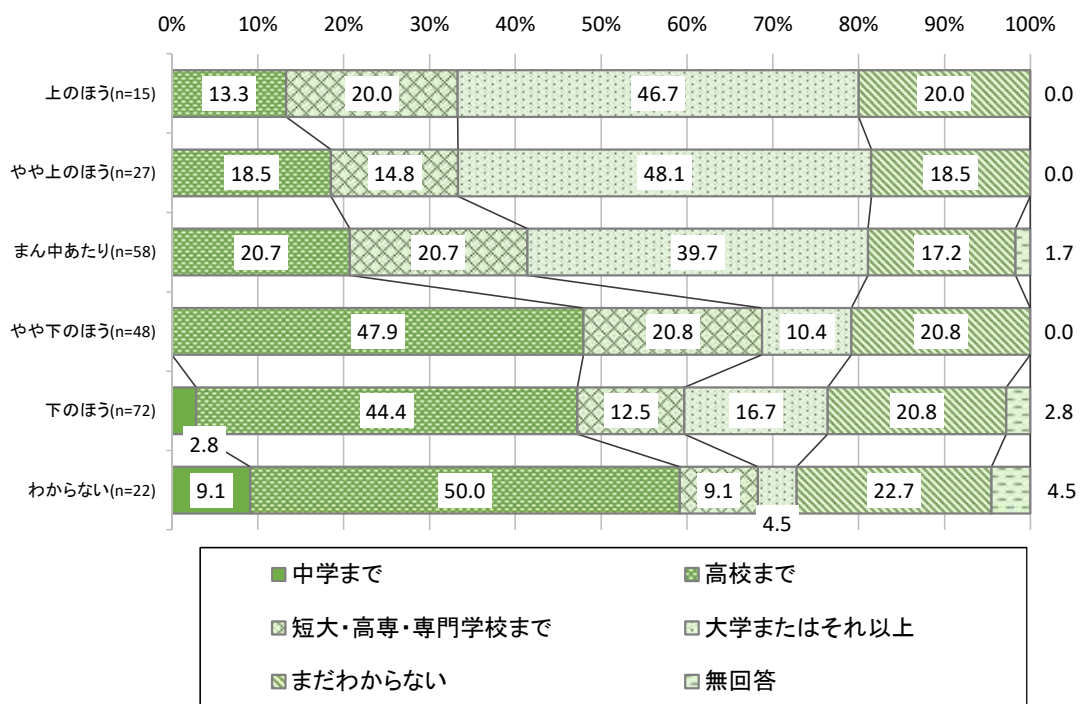


図 2-2-2-4 等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の場合のクラスの中での成績別、進学したいと思う教育段階

(2) 保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況

保護者が考える子どもの進学段階に関する希望・展望の回答（図 2-1-6-1 参照）と、子ども自身が進学したいと思う教育段階（図 2-2-2-1 参照）の一致・不一致の状況について、「教育段階一致」、「保護者の方が高い段階」、「子どもの方が高い段階」、「保護者・子どもともに未定」、「保護者未定」、「子ども未定」の 6 分類で集計した。その結果、「教育段階一致」の割合は 57.4%となっている。等価世帯収入の水準別にみると、「教育段階一致」の割合は、「中央値以上」の世帯では 63.3%、「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」の世帯では 53.3%、「中央値の 2 分の 1 未満」の世帯では 47.1%となっている。

世帯の状況別にみると、「教育段階一致」の割合は、「ふたり親世帯」では 58.5%、「ひとり親世帯」全体では 50.6%、「母子世帯」のみでは 50.4%となっている。

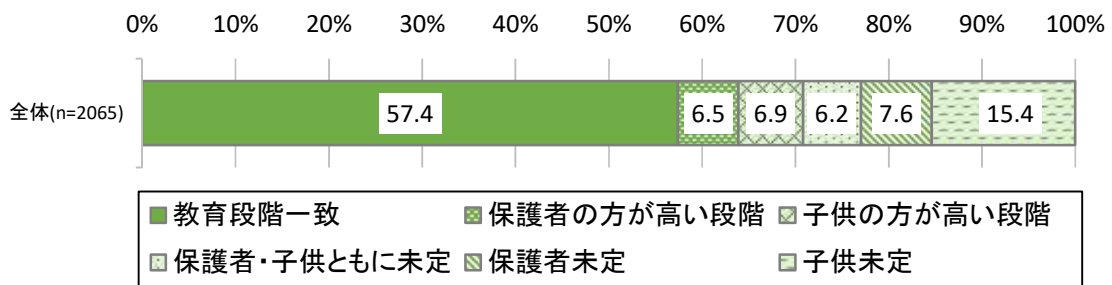


図 2-2-2-5 保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況

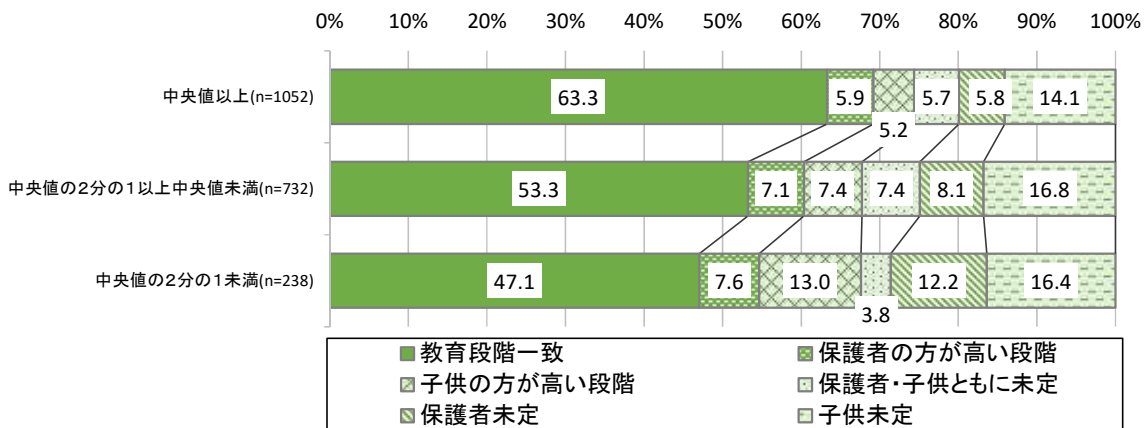


図 2-2-2-6 等価世帯収入の水準別、保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況

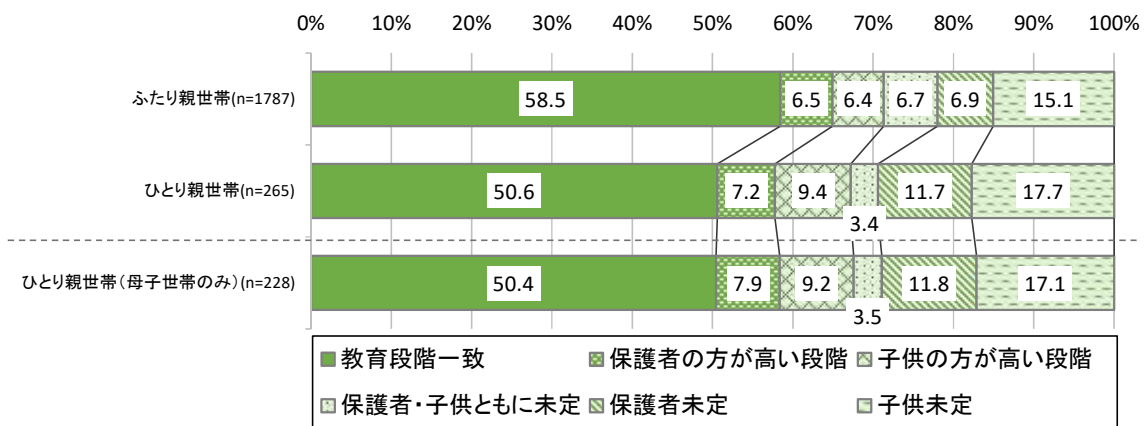


図 2-2-2-7 世帯の状況別、保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況

### (3) 進学希望の教育段階についてそう考える理由

【問7で1～4と答えた方に】

中学生票問8. その理由を教えてください。(MA)

進学希望の理由について、全体としては、「希望する学校や職業があるから」が53.0%、「親がそう言っているから」が17.4%、「自分の成績から考えて」が14.5%となっている。

進学したいと思う教育段階別にみると、進学希望の教育段階が「高校まで」の場合には、「自分の成績から考えて」が27.7%、「兄・姉がそうしているから」が7.3%、「まわりの先輩や友達がそうしているから」が5.7%、「家にお金がないと思うから」が8.7%、「早く働く必要があるから」が6.5%、「とくに理由はない」が26.9%で、他の場合と比べて高くなっている。他方で、「希望する学校や職業があるから」の回答割合は低くなっている。

「高校まで」と回答した場合の理由を等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「希望する学校や職業があるから」が23.5%、「自分の成績から考えて」が22.4%で、他の世帯と比べて低く、他方で、「親がそう言っているから」が29.4%、「家にお金がないと思うから」が20.0%と比較的高くなっている。「大学またはそれ以上」と回答した場合の理由を等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「希望する学校や職業があるから」の割合が68.9%と高くなっている。

世帯の状況別にみると、「高校まで」と回答した場合の理由について、「ひとり親世帯」では、「親がそう言っているから」は14.1%で「ふたり親世帯」と比べて低く、他方で、「家にお金がないと思うから」が12.9%と比較的高くなっている。「大学またはそれ以上」と回答した場合の理由を世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「希望する学校や職業があるから」の割合が65.4%となっている。



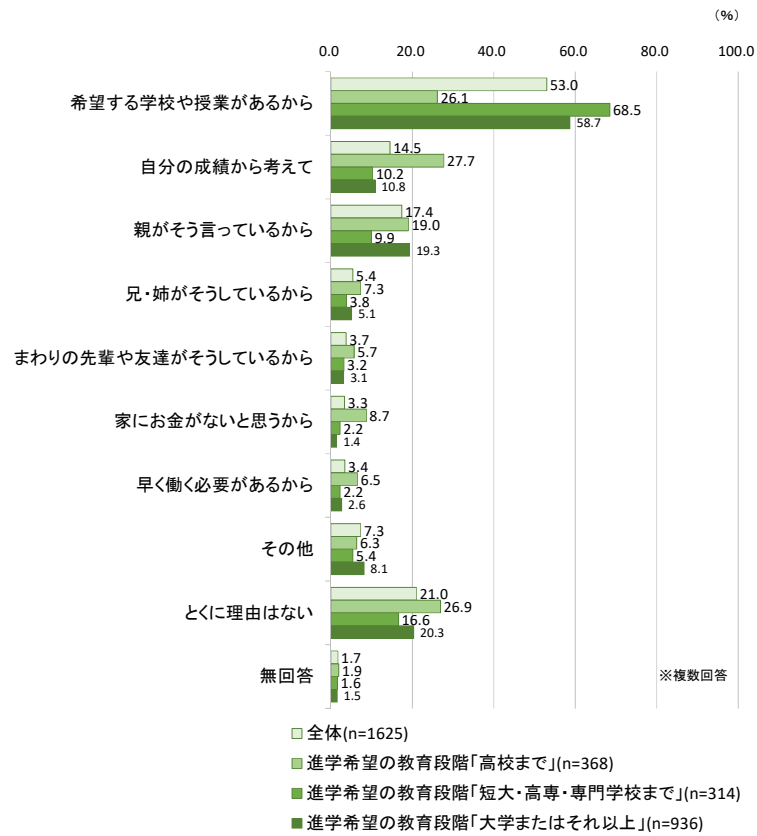


図 2-2-2-8 進学希望の教育段階についてそう考える理由

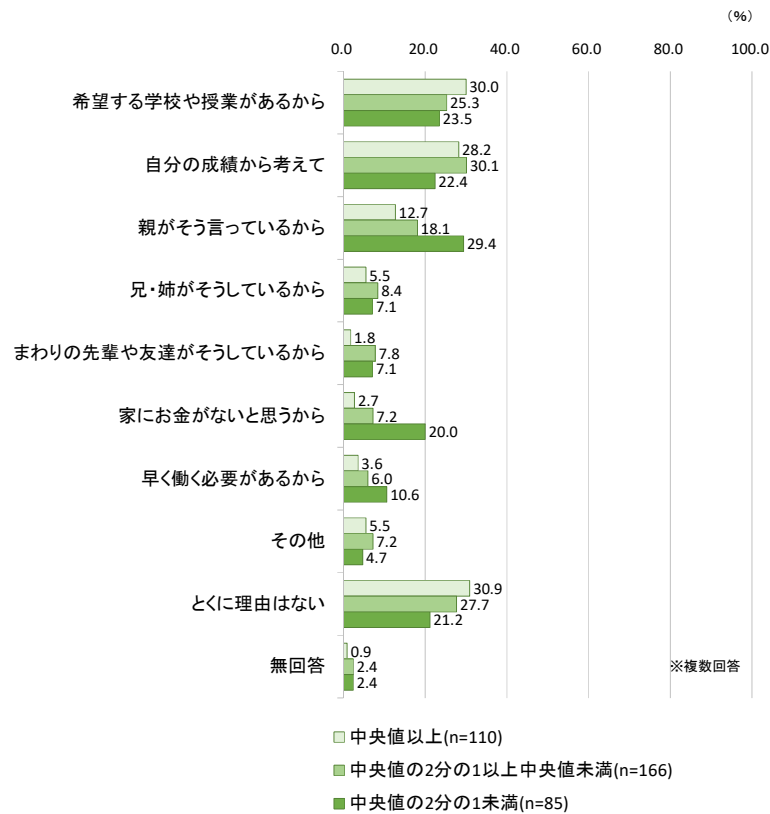


図 2-2-2-9 等価世帯収入の水準別、進学希望の教育段階について「高校まで」と考える理由

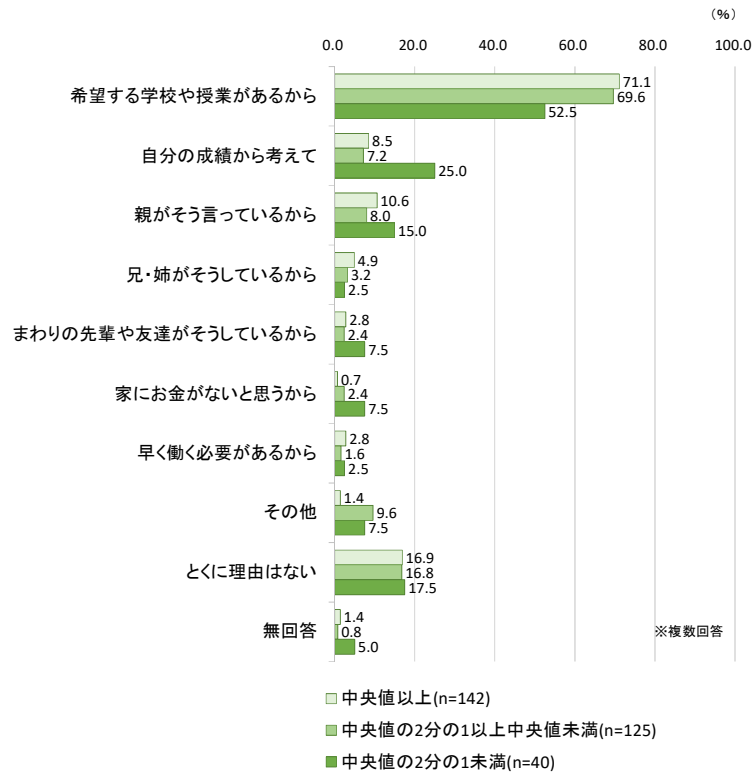


図 2-2-2-10 等価世帯収入の水準別、進学希望の教育段階について「短大・高専・専門学校まで」と考える理由

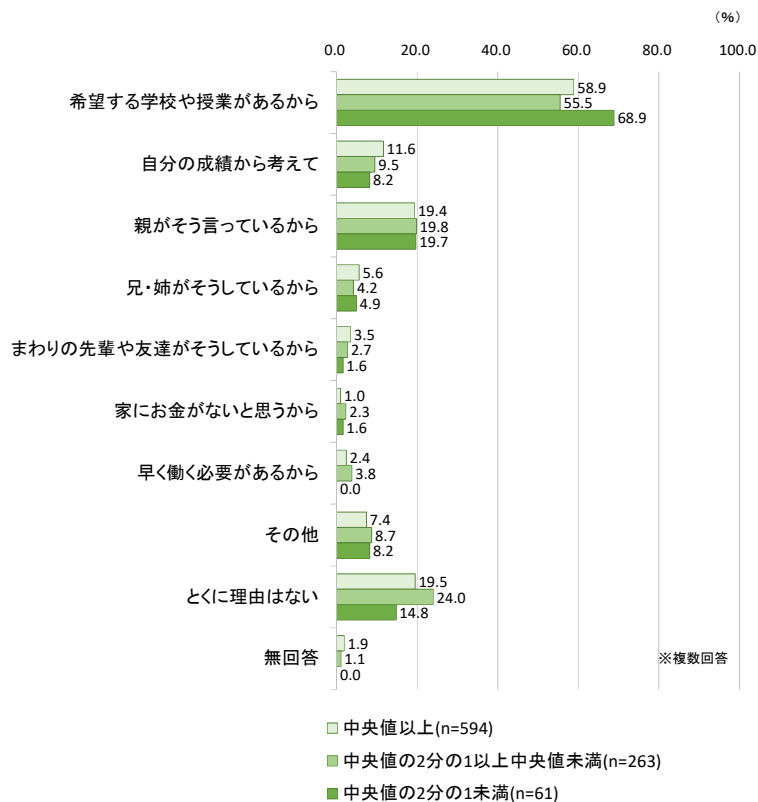


図 2-2-2-11 等価世帯収入の水準別、進学希望の教育段階について「大学またはそれ以上」と考える理由

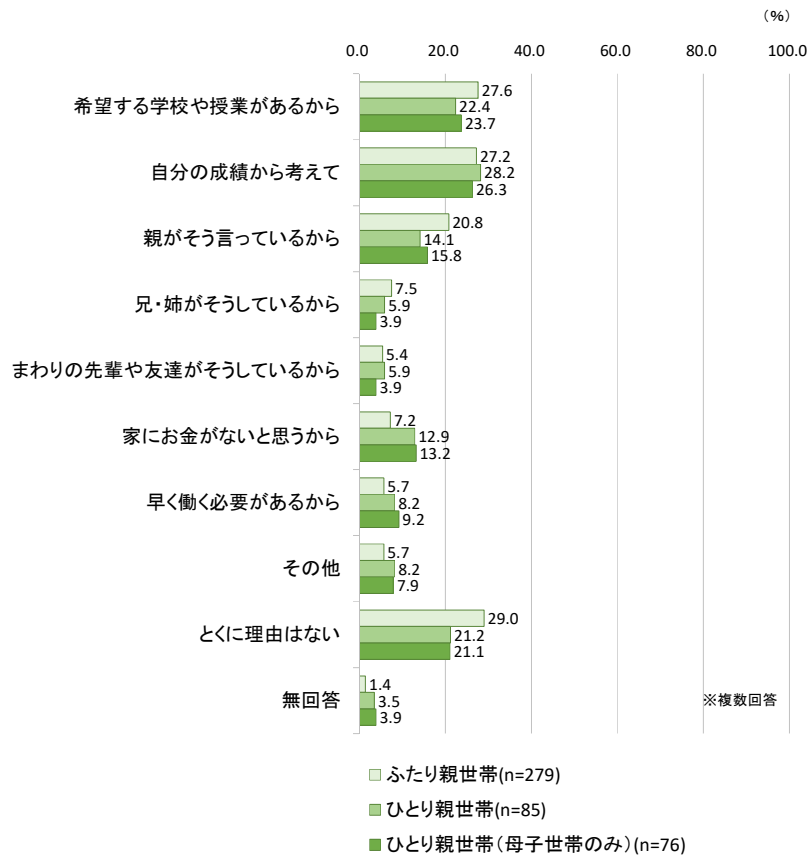


図 2-2-2-12 世帯の状況別、進学希望の教育段階について「高校まで」と考える理由

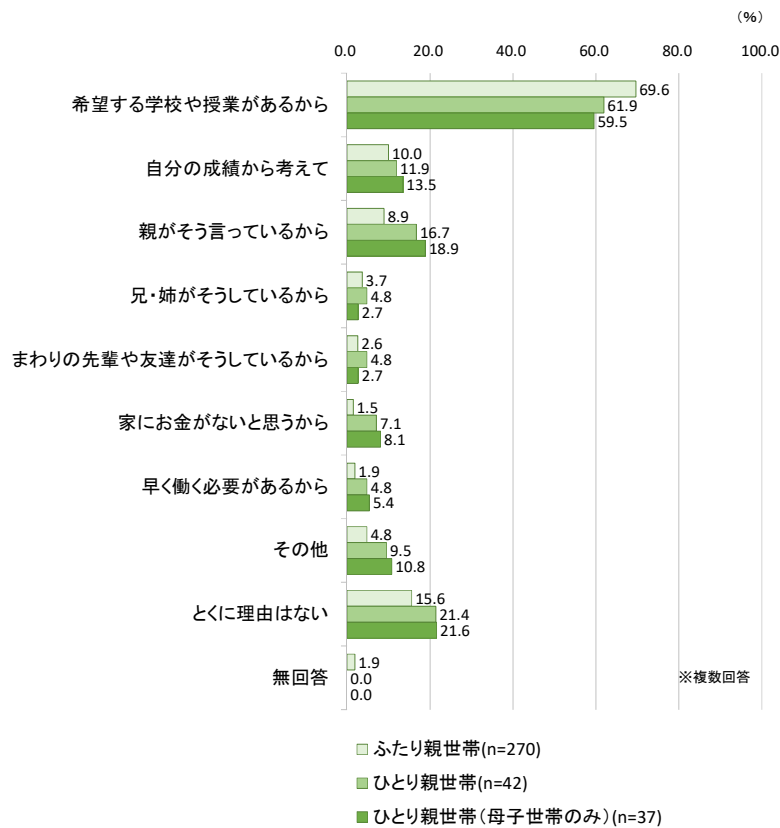


図 2-2-2-13 世帯の状況別、進学希望の教育段階について「短大・高専・専門学校まで」と考える理由

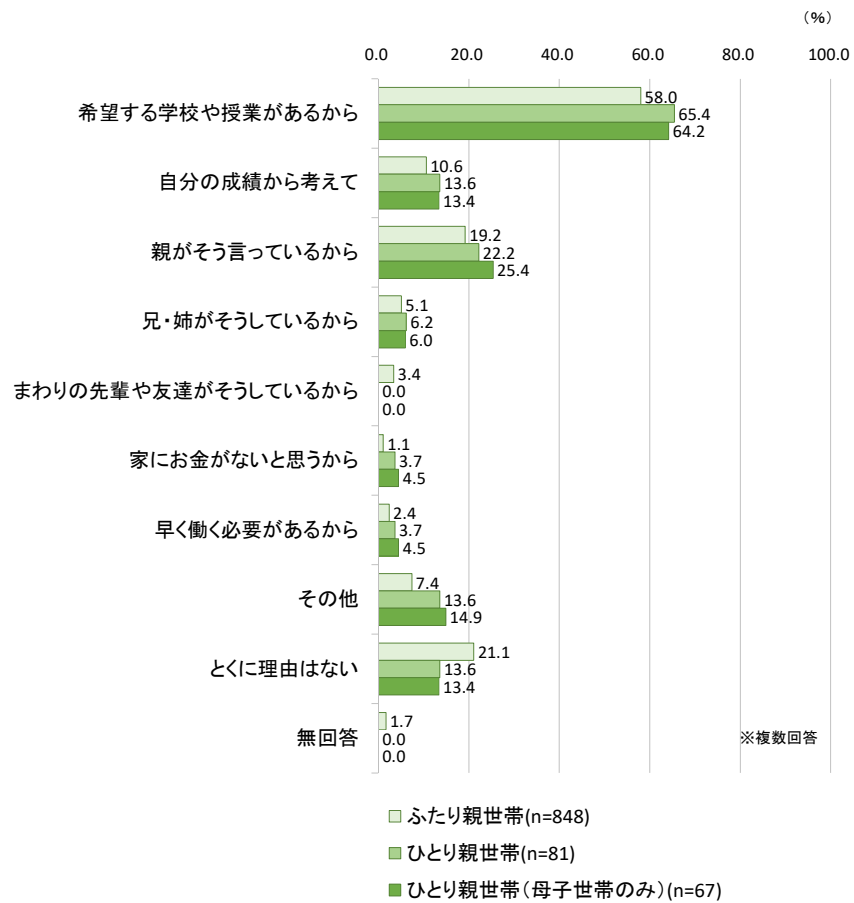


図 2-2-2-14 世帯の状況別、進学希望の教育段階について  
「大学またはそれ以上」と考える理由

## 2.2.3 部活動等への参加状況

### (1) 部活動等への参加状況

中学生票問9. あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。(SA)

地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動への参加状況については、「参加している」が77.5%、「参加していない」が21.7%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「参加していない」の割合は、「中央値以上」の世帯では16.6%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では22.6%、「中央値の2分の1未満」の世帯では40.2%となっている。

世帯の状況別にみると、「参加していない」の割合は、「ふたり親世帯」では19.4%、「ひとり親世帯」全体では36.3%、「母子世帯」のみでは37.0%となっている。

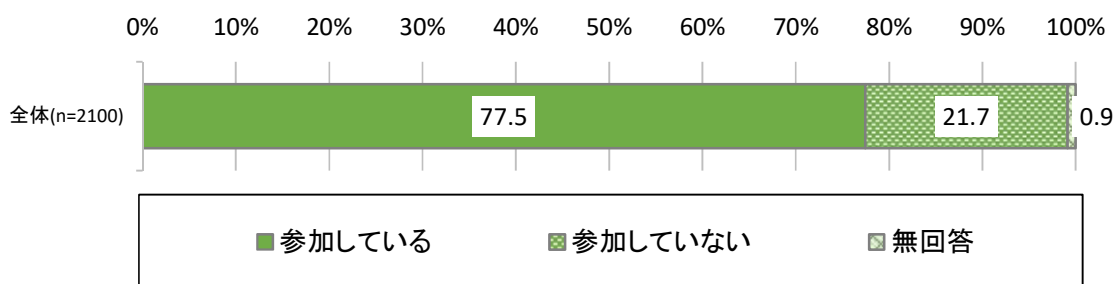


図 2-2-3-1 部活動等への参加状況

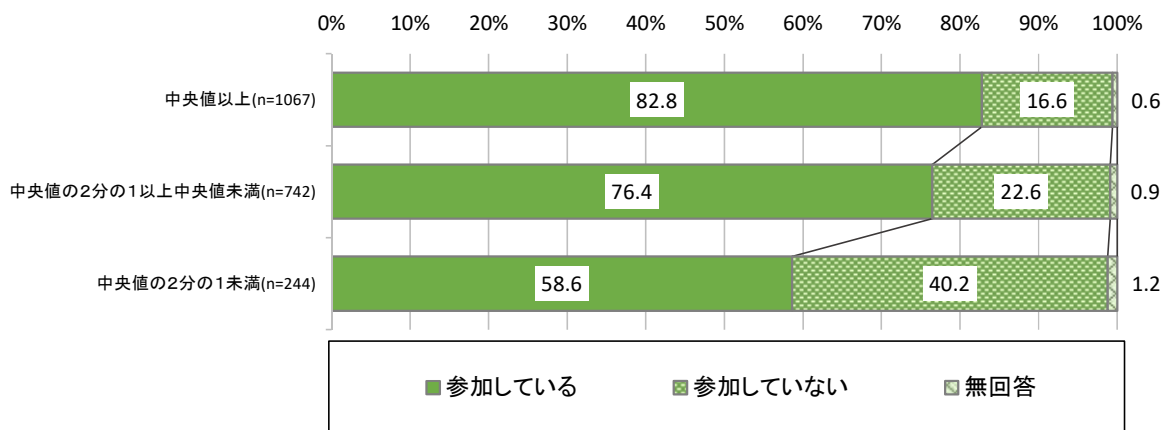


図 2-2-3-2 等価世帯収入の水準別、部活動等への参加状況

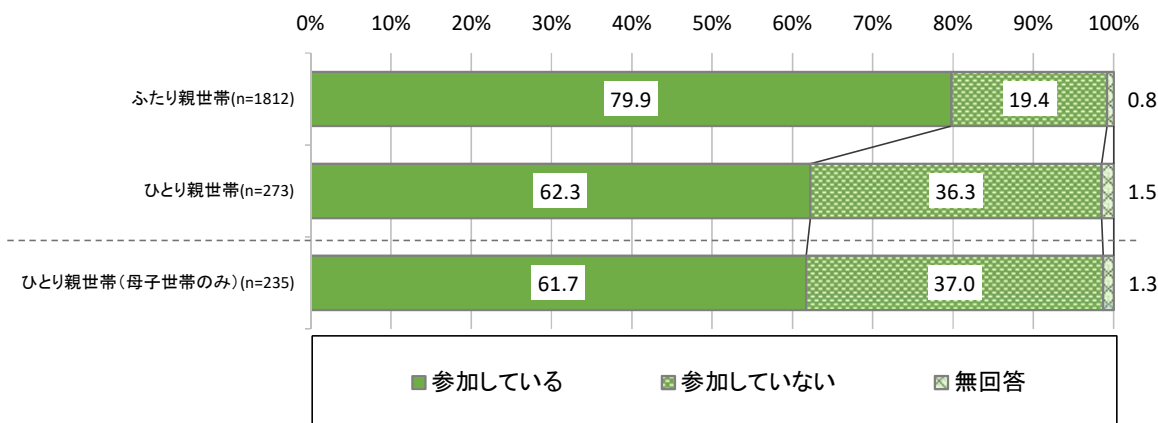


図 2-2-3-3 世帯の状況別、部活動等への参加状況

## (2) 部活動等に参加していない理由

【問9で2と答えた方に】

中学生票問10. 参加していない理由は何ですか。(MA)

部活動等に参加していない理由については、「入りたいクラブ・部活動がないから」が53.2%、「塾や習い事が忙しいから」が12.7%、「一緒に入る友達がいないから」が10.1%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「一緒に入る友達がいないから」が15.3%、「費用がかかるから」が11.2%で、他の世帯と比べて高くなっている。他方で、「入りたいクラブ・部活動がないから」は40.8%、「塾や習い事が忙しいから」は7.1%で、他の世帯と比べて低くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「費用がかかるから」が12.1%で「ふたり親世帯」と比べて高く、「塾や習い事が忙しいから」は8.1%で低くなっている。

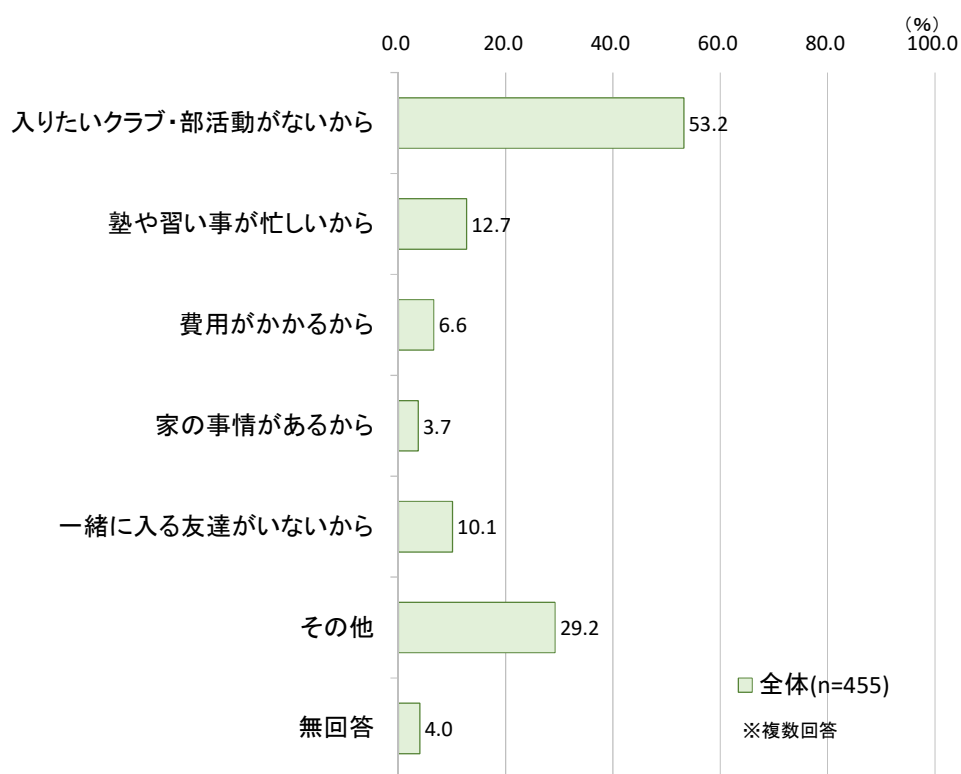


図 2-2-3-4 部活動等に参加していない理由

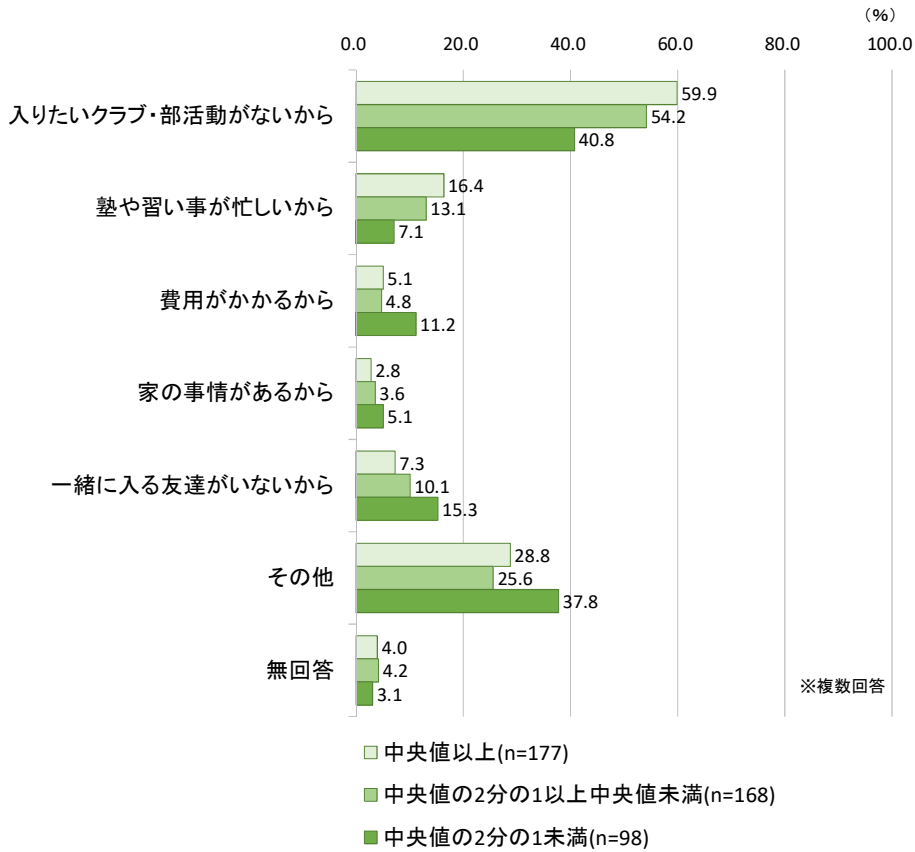


図 2-2-3-5 等価世帯収入の水準別、部活動等に参加していない理由

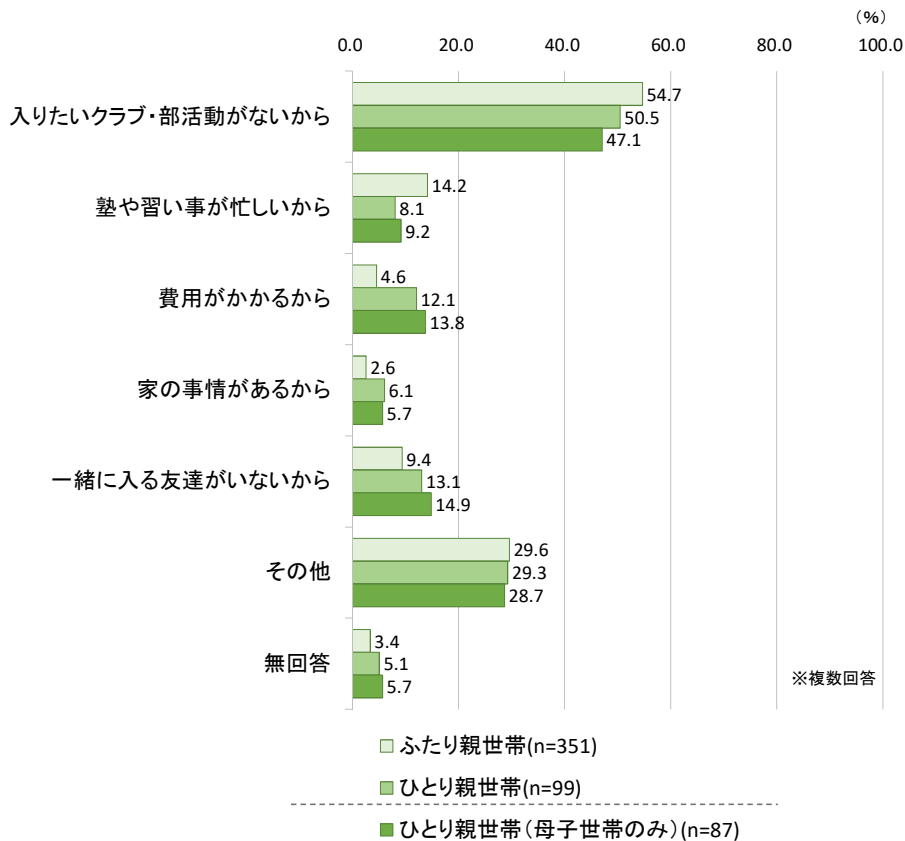


図 2-2-3-6 世帯の状況別、部活動等に参加していない理由

## 2.2.4 日常的な生活の状況

### (1) 食事の状況

中学生票問11. あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。(SA)

食事の状況について、「朝食」については、「毎日食べる（週7日）」が81.6%、「週5～6日」が9.2%、「週3～4日」が2.6%、「週1～2日、ほとんど食べない」が5.7%となっている。

「夕食」については、「毎日食べる（週7日）」が96.7%、「週5～6日」が2.0%、「週3～4日」と「週1～2日、ほとんど食べない」が0.2%となっている。

「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」については、「毎日食べる（週7日）」が87.1%、「週5～6日」が7.6%、「週3～4日」が2.8%、「週1～2日、ほとんど食べない」が1.3%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「毎日食べる（週7日）」の割合が、「朝食」について65.6%、「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について79.5%と、他の世帯と比べて低くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「毎日食べる（週7日）」の割合が、「朝食」について68.1%、「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について76.9%と、「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。

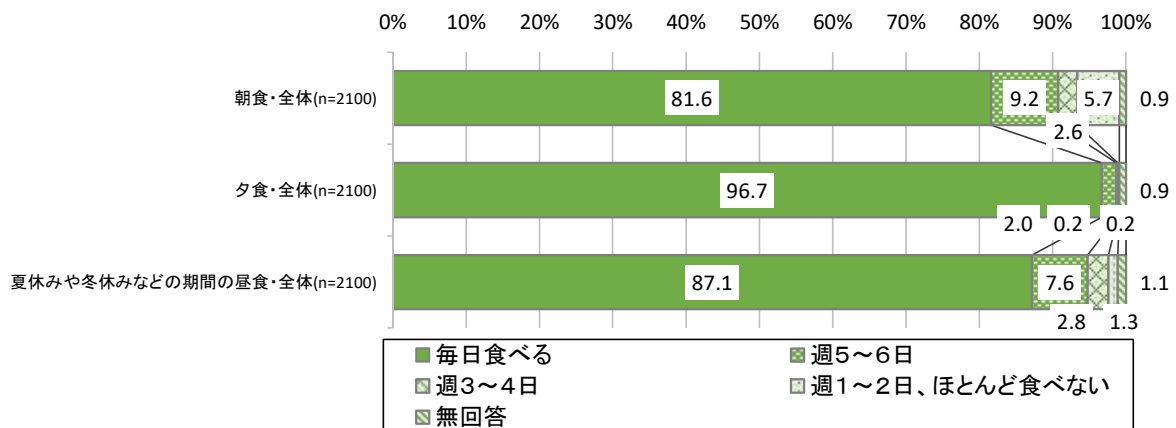


図 2-2-4-1 食事の状況



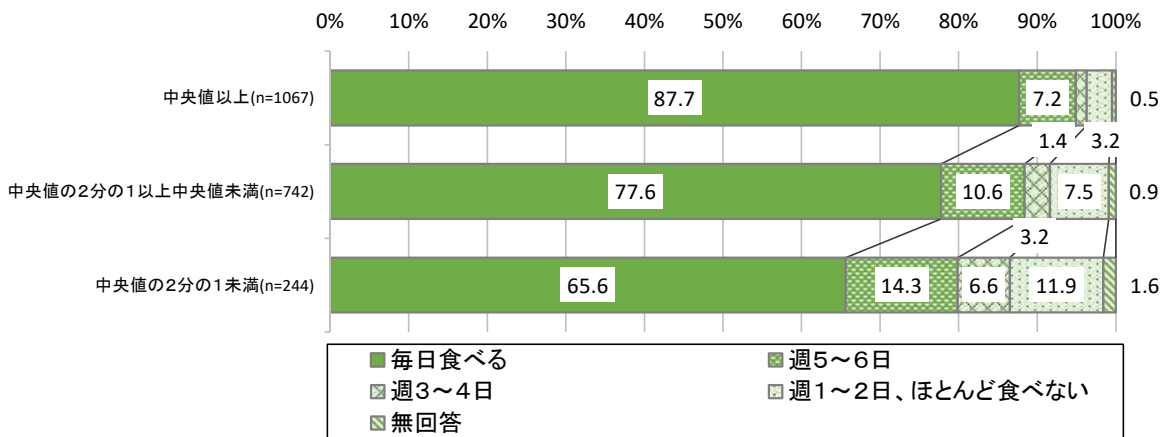


図 2-2-4-2 等価世帯収入の水準別、食事の状況（朝食）

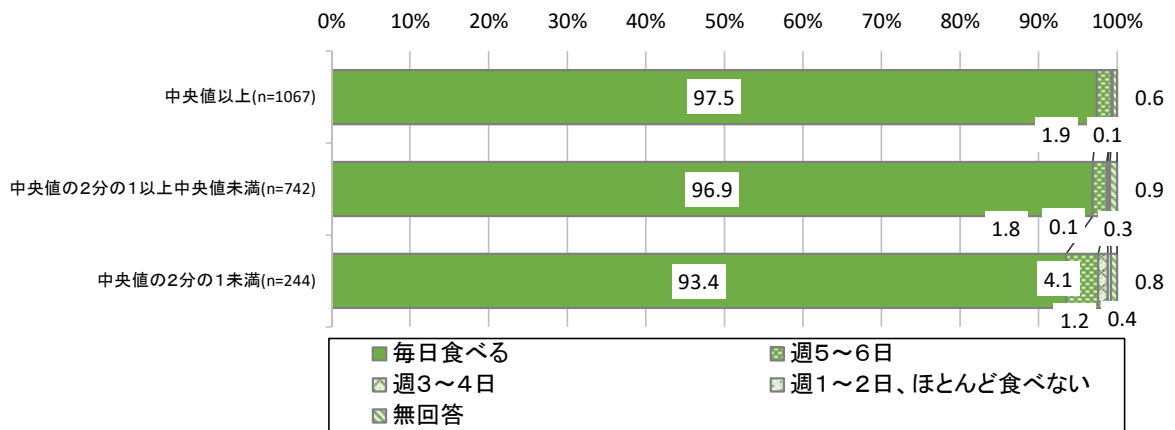


図 2-2-4-3 等価世帯収入の水準別、食事の状況（夕食）

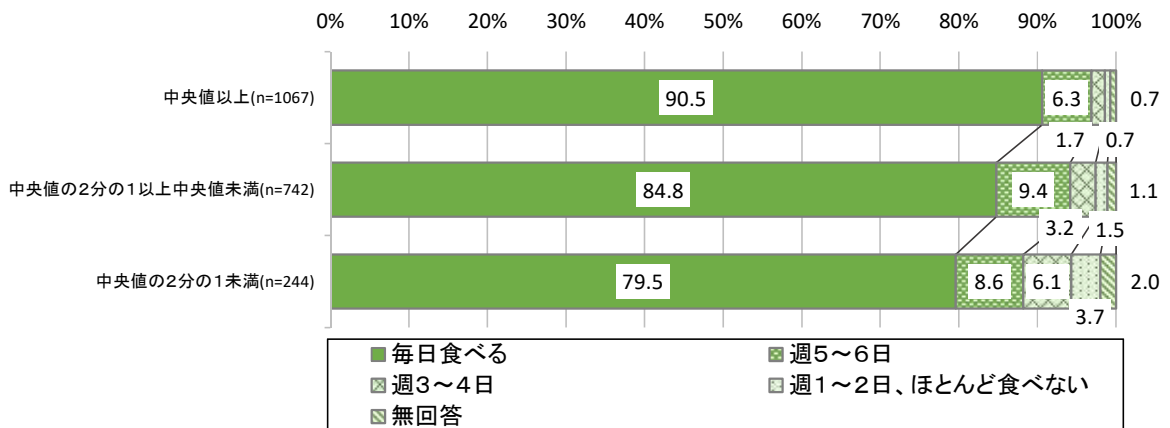


図 2-2-4-4 等価世帯収入の水準別、食事の状況（夏休みや冬休みなどの期間の昼食）

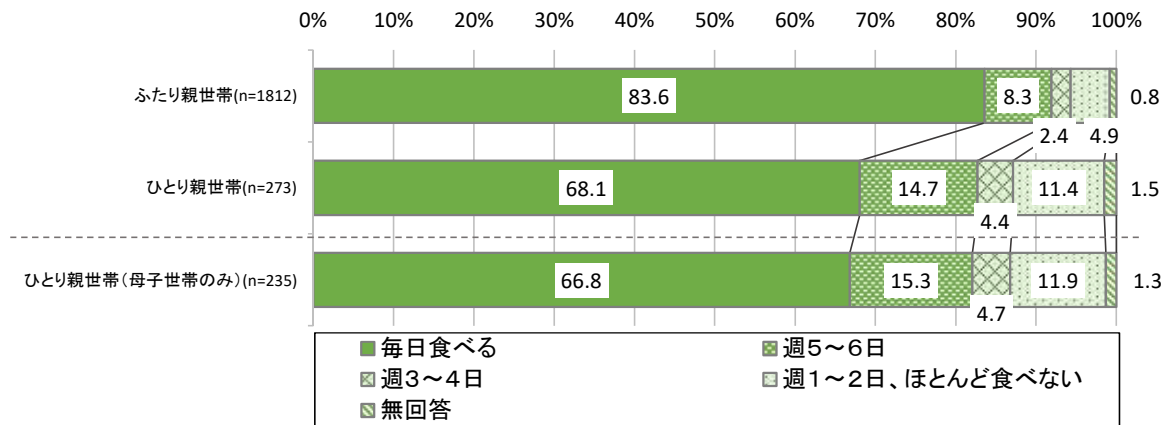


図 2-2-4-5 世帯の状況別、食事の状況（朝食）

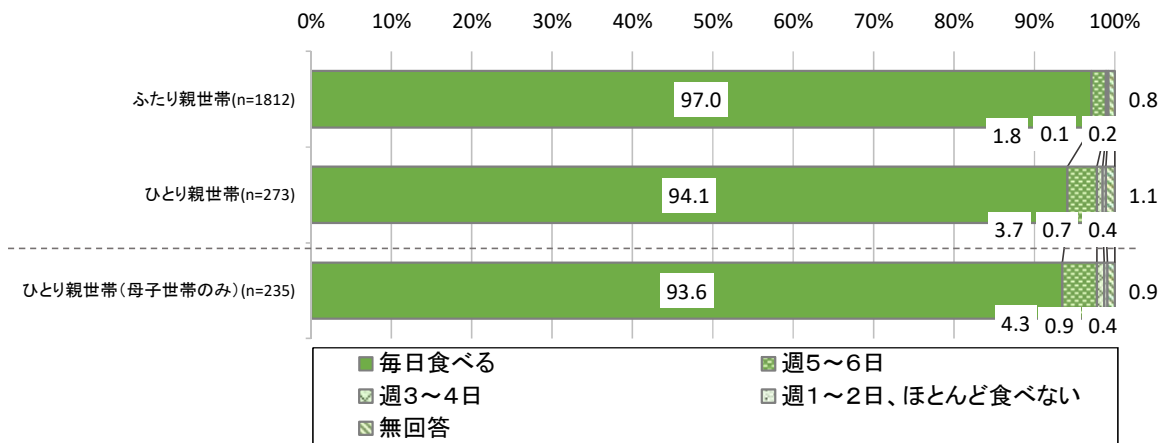


図 2-2-4-6 世帯の状況別、食事の状況（夕食）

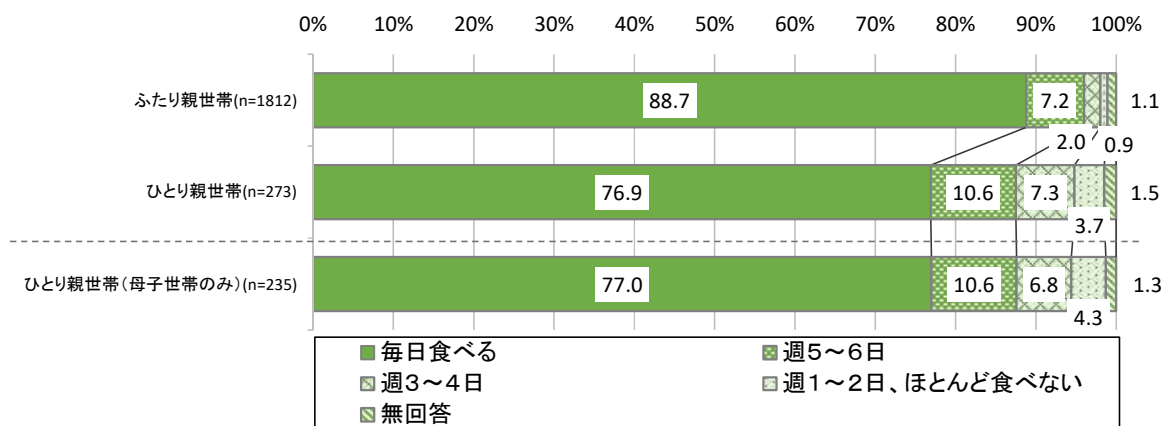


図 2-2-4-7 世帯の状況別、食事の状況（夏休みや冬休みなどの期間の昼食）

(2) 就寝時間

中学生票問12. あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(SA)

就寝時間に関して、ほぼ同じ時間に寝ているかについては、「そうである」が34.5%、「どちらかといえばそうである」が47.9%、「どちらかといえばそうではない」が11.0%、「そうではない」が6.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「そうである」「どちらかといえばそうである」を合わせた割合が75.0%と他の世帯と比べて低くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「そうである」「どちらかといえばそうである」を合わせた割合が75.5%と「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。

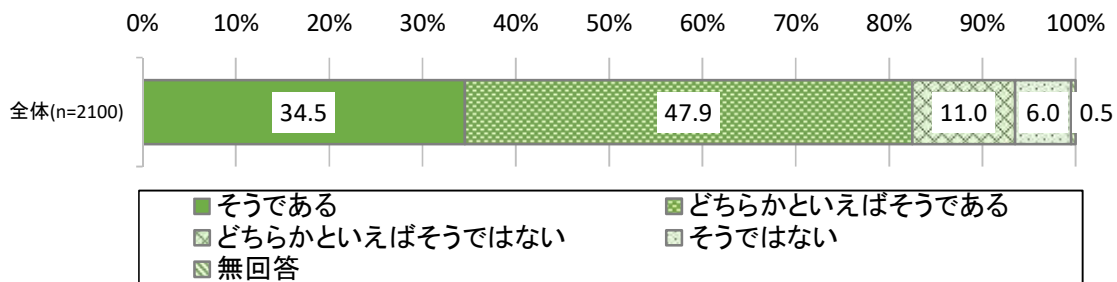


図 2-2-4-8 就寝時間

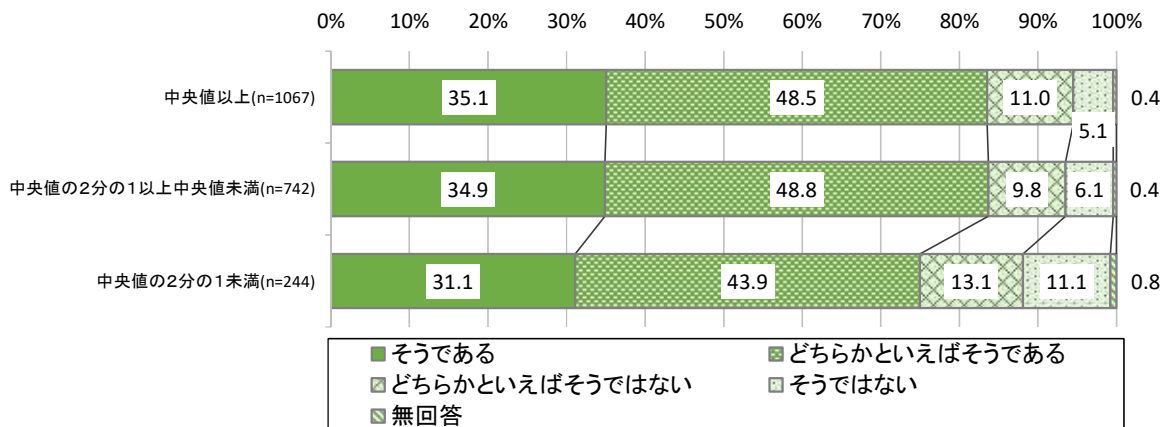


図 2-2-4-9 等価世帯収入の水準別、就寝時間

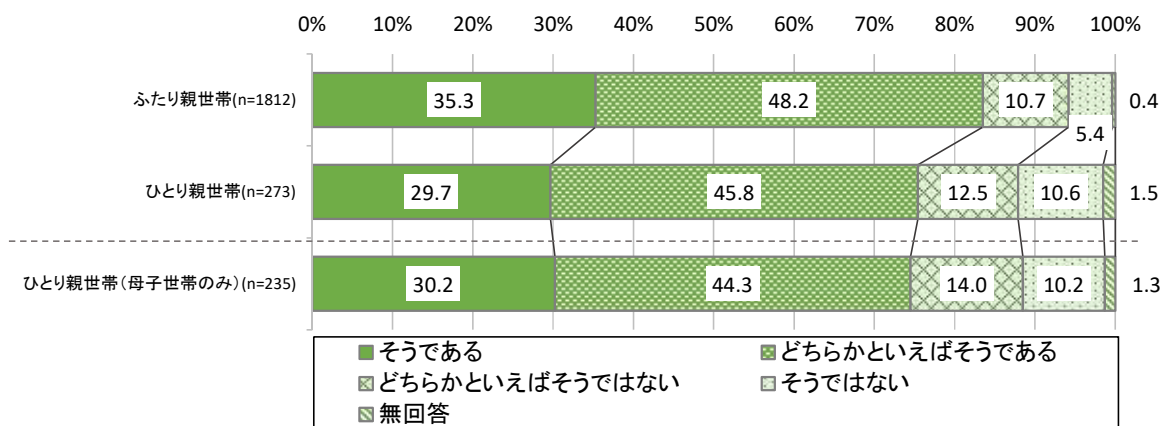


図 2-2-4-10 世帯の状況別、就寝時間

### (3) 相談できると思う相手

中学生票問13. あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(MA)

困っていることや悩みごとがあるとき相談できると思う人については、「親」が67.5%、「学校の友達」が66.1%、「学校の先生」が23.2%、「きょうだい、しまい」が21.4%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「学校の友達」が59.0%と他の世帯と比べて低くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「親」が59.0%、「学校の友達」が58.2%、「学校の先生」が19.8%で、それぞれ「ふたり親世帯」と比べて低くなっている。他方で、「祖父母」は14.7%、「だれにも相談できない、相談したくない」は13.2%と、それぞれ「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

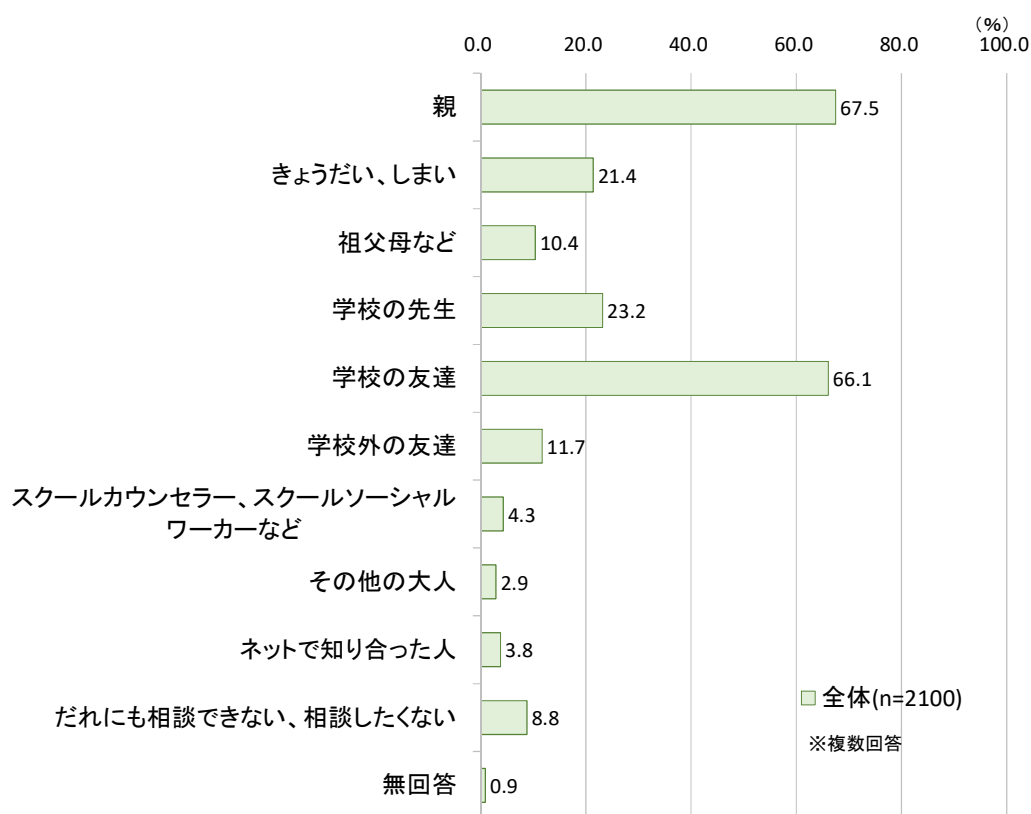


図 2-2-4-11 相談できると思う相手

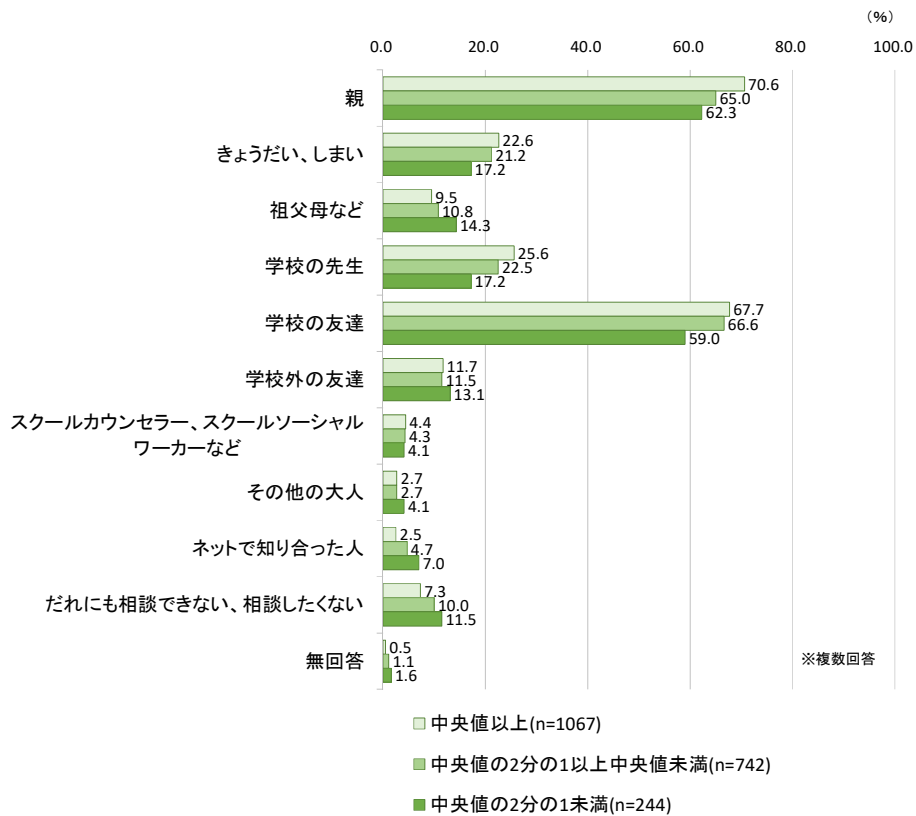


図 2-2-4-12 等価世帯収入の水準別、相談できると思う相手

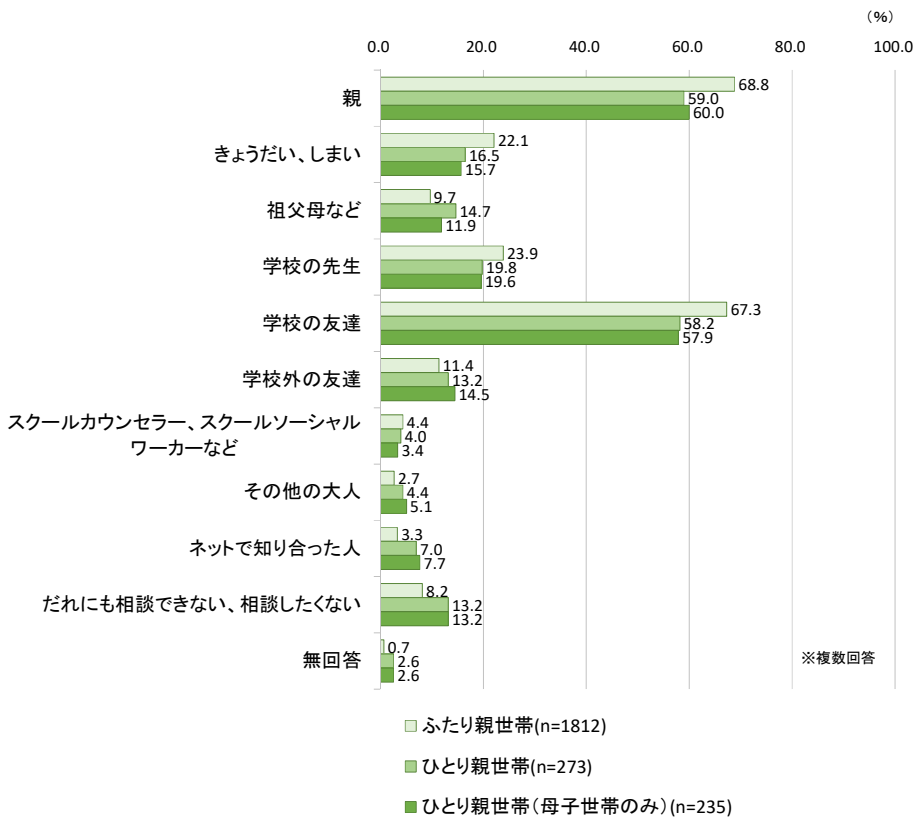


図 2-2-4-13 世帯の状況別、相談できると思う相手

#### (4) 生活満足度

中学生票問14. 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。(SA)

最近の生活の満足度については<sup>6</sup>、「0～2」に該当する割合が3.6%、「3～4」に該当する割合が10.3%、「5」に該当する割合が13.4%、「6～7」に該当する割合が25.4%、「8～10」に該当する割合が46.6%となっている。満足度が高い方の回答（6～10）割合は72.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「6～10」に該当する割合は61.9%で、他の世帯と比べて生活満足度が低くなっている。

世帯の状況別についてみると、「ひとり親世帯」では、「6～10」に該当する割合は57.1%で、「ふたり親世帯」と比べて生活満足度が低くなっている。

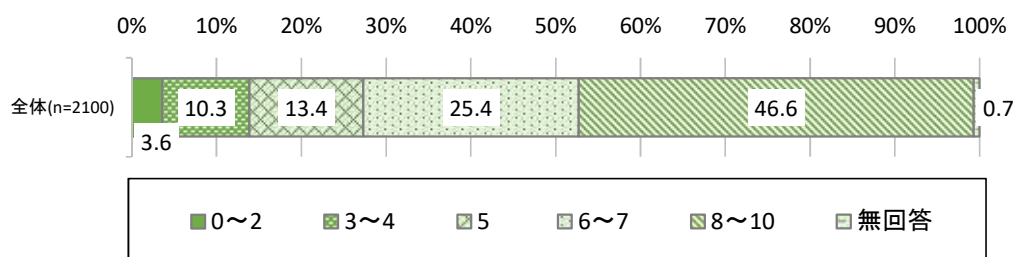


図 2-2-4-14 生活満足度

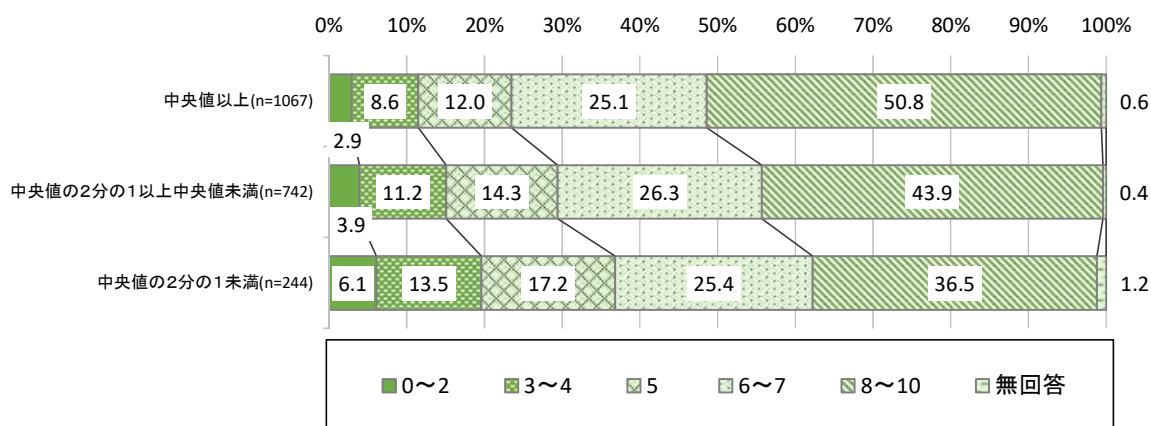


図 2-2-4-15 等価世帯収入の水準別、生活満足度

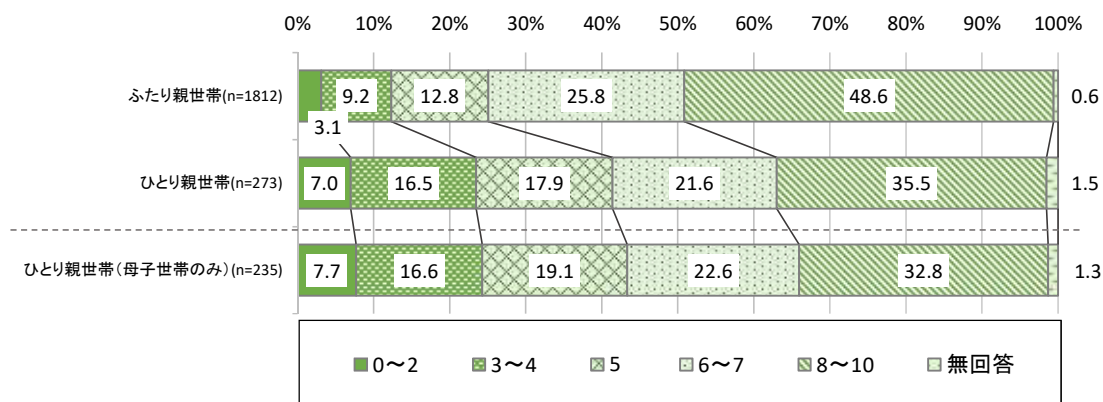


図 2-2-4-16 世帯の状況別、生活満足度

<sup>6</sup> 「0：まったく満足していない」から「10：十分に満足している」の11段階で回答を得たものを、5つの分類に再分類して集計した。

## 2.2.5 子どもの心理的な状態

「子どもの心理的な状態」に関して、調査では「強さと困難さアンケート (SDQ : Strength and Difficulties Questionnaire)」の調査項目のうち、「情緒 (不安や抑うつなど)」の問題、「仲間関係」の問題、「向社会性」を把握するための項目を設定した

### (1) 情緒の問題

中学生票問15. 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。(SA)

- b. 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。
- e. 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。
- h. 私は、落ち込んでしずんでいたたり、涙ぐんだりすることがよくある。
- j. 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。
- o. 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする

「情緒の問題」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した (0~10点、得点が高いほど、問題性が高いと考えられる)。全体の平均値は3.24となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「情緒の問題」の平均値は、「中央値以上」の世帯では3.11、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では3.29、「中央値の2分の1未満」の世帯では3.66となっている。

世帯の状況別にみると、「ふたり親世帯」では3.19、「ひとり親世帯」全体では3.56、「母子世帯」のみでは3.63となっている。

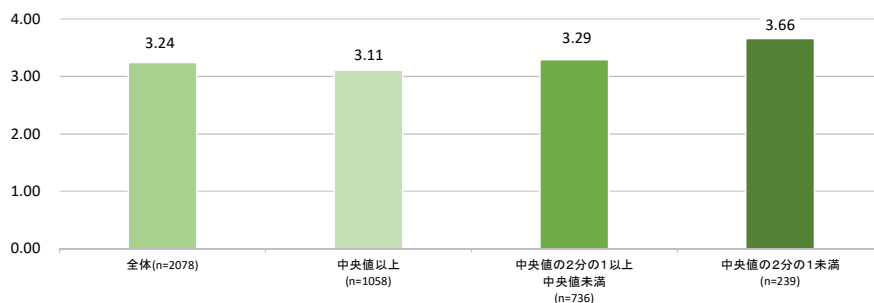


図 2-2-5-1 等価世帯収入の水準別、「情緒の問題」に関するスコアの平均値

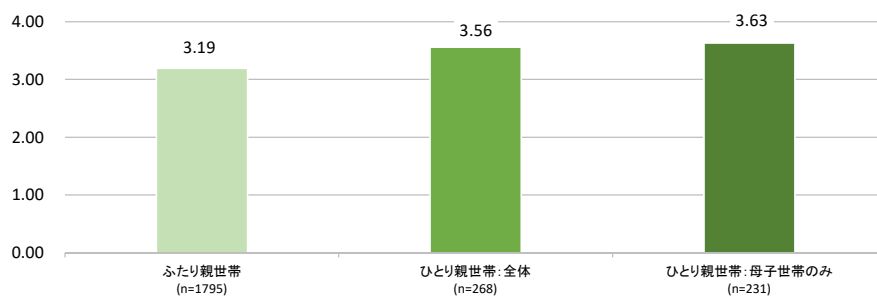


図 2-2-5-2 世帯の状況別、「情緒の問題」に関するスコアの平均値

## (2) 仲間関係の問題

中学生票問15. 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。(SA)

d. 私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。

g. 私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。

i. 私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたいは好かれている。

l. 私は、他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。

n. 私は、他の子どもたちより、大人という方がうまくいく。

「仲間関係の問題」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した（0～10点、得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。全体の平均値は3.91となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「仲間関係の問題」の平均値は、「中央値以上」では3.91、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では3.88、「中央値の2分の1未満」の世帯では4.03となっている。

世帯の状況別にみると、「ふたり親世帯」では3.92、「ひとり親世帯」全体では3.88、「母子世帯」のみでは3.86となっている。

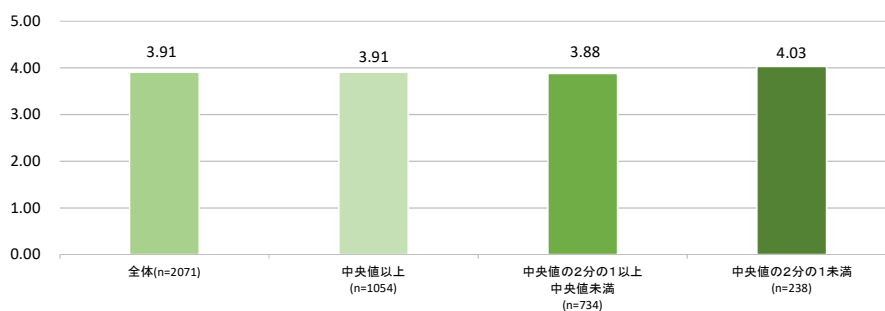


図 2-2-5-3 等価世帯収入の水準別、「仲間関係の問題」に関するスコアの平均値

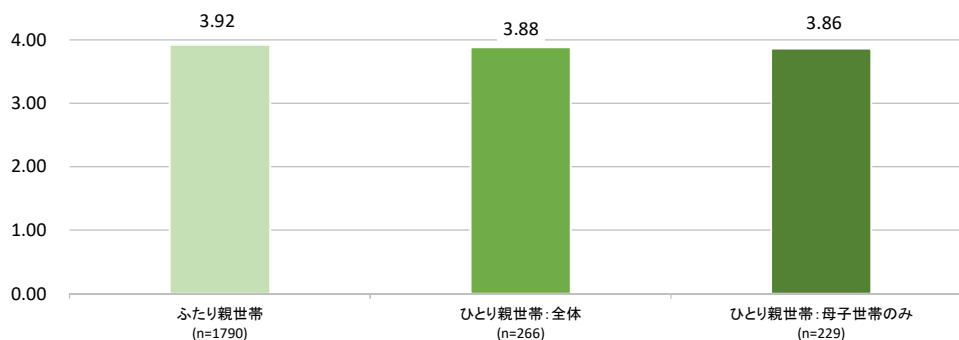


図 2-2-5-4 世帯の状況別、「仲間関係の問題」に関するスコアの平均値



### (3) 向社会性

中学生票問15. 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。(SA)

- a. 私は、他人に対して親切にしようとしている。私は、他人の気持ちをよく考える。
- c. 私は、他の子どもたちと、よく分け合う(食べ物・ゲーム・ペンなど)。
- f. 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。
- k. 私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。
- m. 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする(親・先生・子どもたちなど)。

「向社会性」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した(0~10点、得点が高いほど、社会性が高いと考えられる)。全体の平均値は5.82となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「向社会性」の平均値は、「中央値以上」の世帯では5.81、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では5.83、「中央値の2分の1未満」の世帯では5.80となっている。

世帯の状況別にみると、「ふたり親世帯」では5.84、「ひとり親世帯」全体では5.68、「母子世帯」のみでは5.63となっている。

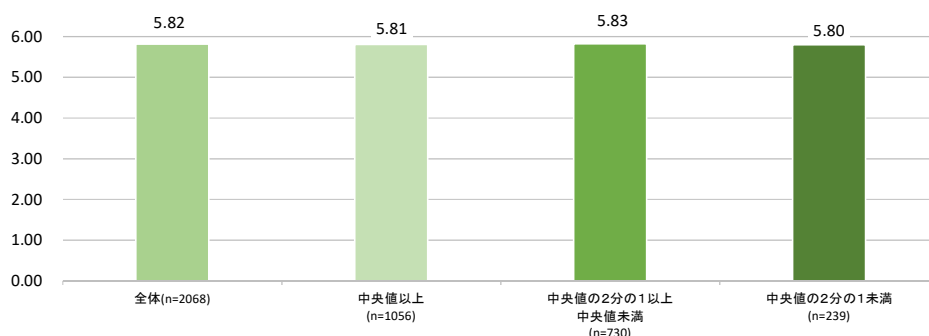


図 2-2-5-5 等価世帯収入の水準別、「向社会性」に関するスコアの平均値

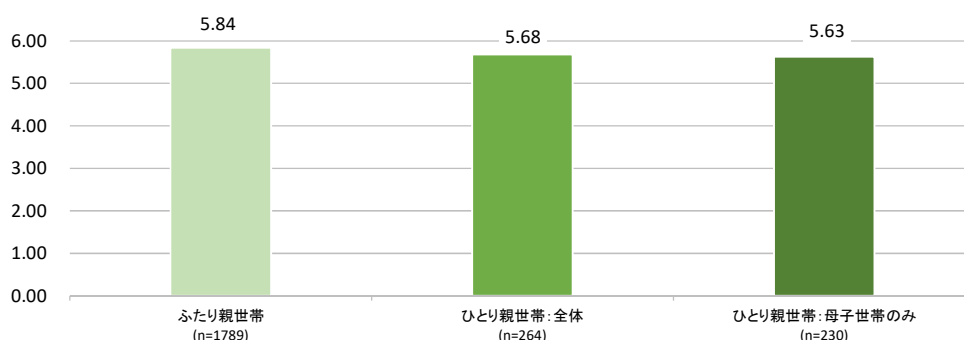


図 2-2-5-6 世帯の状況別、「向社会性」に関するスコアの平均値

## 2.2.6 逆境体験

### (1) 保護者の状況と逆境体験

- 中学生票問17. あなたは今までに、以下の a～h のようなことがありましたか。あてはまる個数を教えてください。(SA)
- a.一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
  - b.一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
  - c.家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
  - d.必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある
  - e.両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
  - f.一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある
  - g.一緒に住んでいる人にお酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
  - h.一緒に住んでいる人におう病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる

「逆境体験」について、8つの項目を基に状況把握を行った。8つの項目のうち、「ひとつもあてはまらない(0個)」は82.2%、「1～2個あてはまる」は16.7%、「3個以上あてはまる」は1.0%となっている<sup>7</sup>。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「ひとつもあてはまらない(0個)」が45.9%で他の世帯と比べて低くなっており、他方で、1個以上あてはまる割合が高くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「ひとつもあてはまらない(0個)」は23.8%、「1～2個あてはまる」は72.9%、「3個以上あてはまる」は3.3%となっている。

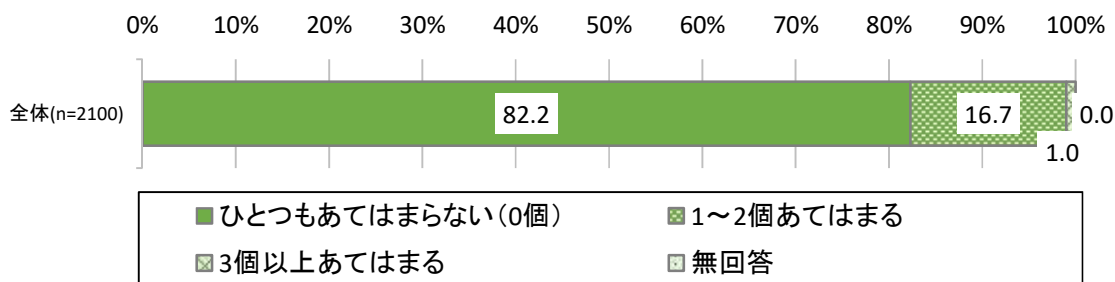


図 2-2-6-1 逆境体験

<sup>7</sup>調査票では、「ひとつもあてはまらない(0個)」、「1～2個あてはまる」、「3～4個あてはまる」、「5～7個あてはまる」、「すべてあてはまる(8個)」の選択肢で回答を得たが、該当する件数が少ないことも踏まえ、「3～4個あてはまる」、「5～7個あてはまる」、「すべてあてはまる(8個)」の回答を「3個以上あてはまる」として集計した。

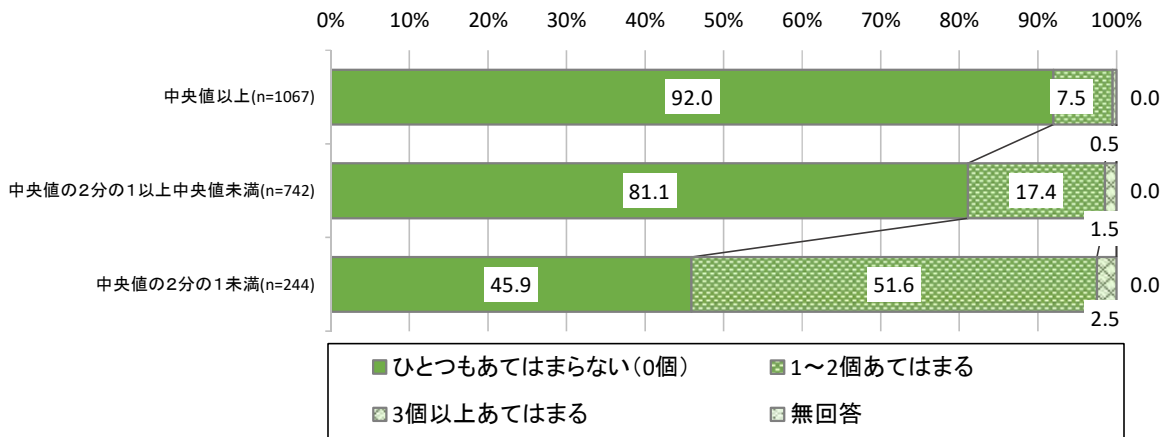


図 2-2-6-2 等価世帯収入の水準別、逆境体験

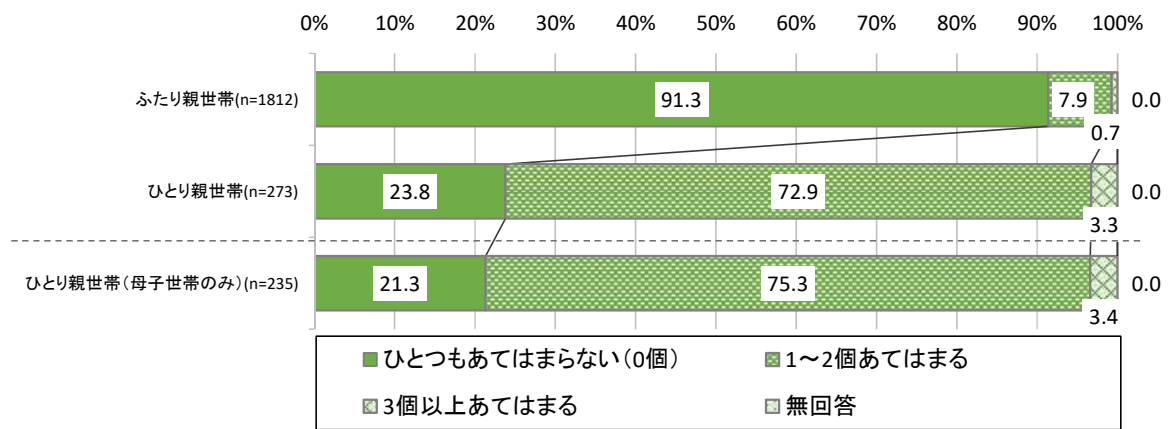


図 2-2-6-3 世帯の状況別、逆境体験

## (2) 逆境体験と子どもの状況

逆境体験の経験の有無（「ひとつもあてはまらない（0個）」であるか、1個以上あてはまるか）により分類し、子どもの生活満足度の平均値を比較すると、逆境体験がない場合には生活満足度の平均値は7.3、逆境体験がある場合には5.9となっている。

また、等価世帯収入の水準で分類した上で、逆境体験の経験の有無別に子どもの生活満足度をみると、等価世帯収入の水準がいずれの場合であっても、逆境体験がある場合は生活満足度の平均値が低くなっている。

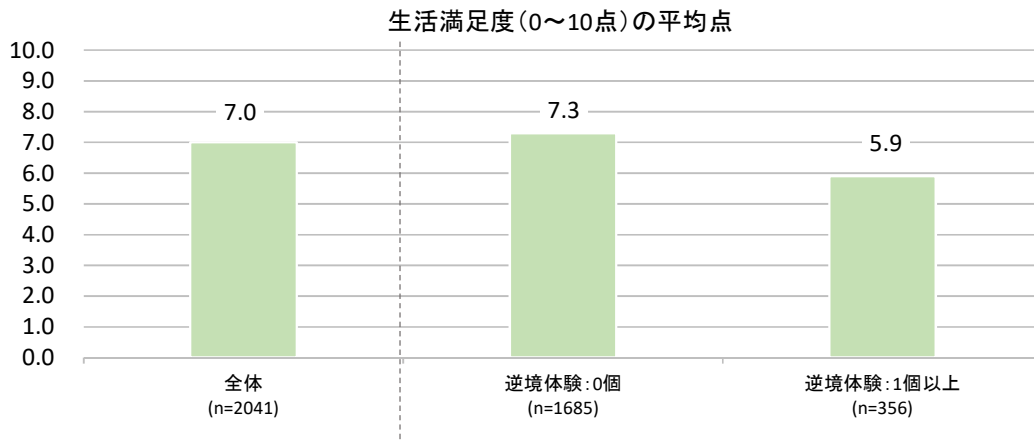


図 2-2-6-4 逆境体験の有無別、生活満足度

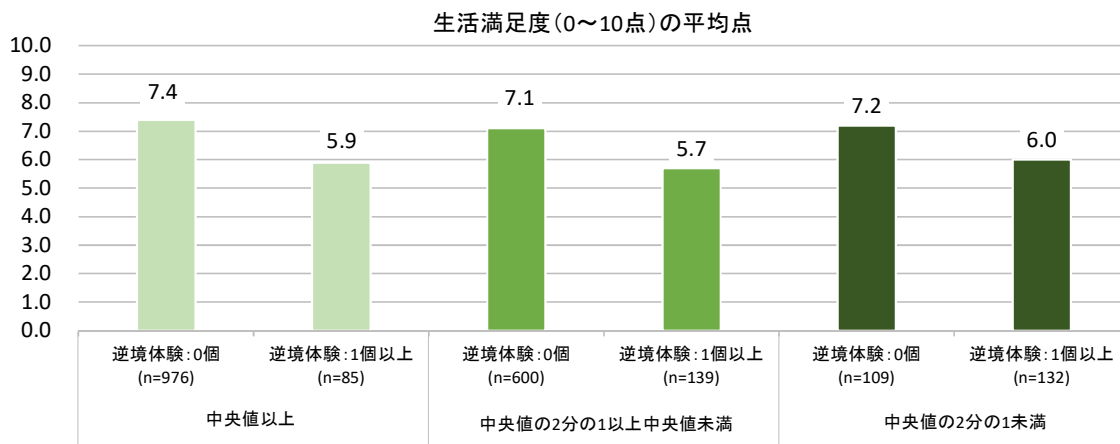


図 2-2-6-5 等価世帯の水準別、逆境体験の有無別、生活満足度

## 2.3. 新型コロナウイルス感染症の影響

### 2.3.1. 保護者の状況

#### (1) 世帯全体の収入の変化

保護者票問23. あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。(SA)

##### a. 世帯全体の収入の変化

新型コロナウイルス感染症の拡大により変化があった内容について、「世帯全体の収入の変化」は、「増えた」が2.3%、「減った」が29.2%、「変わらない」が68.2%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「減った」の割合は、「中央値以上」の世帯では19.6%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では36.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では49.4%となっている。

世帯の状況別にみると、「減った」の割合は、「ふたり親世帯」では28.2%、「ひとり親世帯」全体では35.0%、「母子世帯」のみでは33.9%となっている。

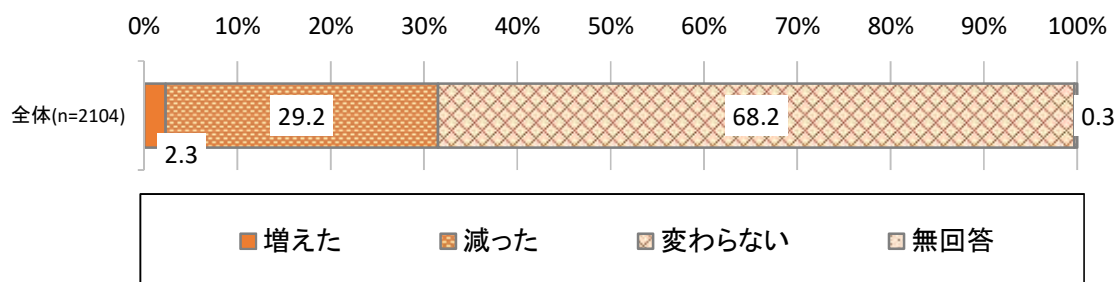


図 2-3-1-1 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (世帯全体の収入の変化)

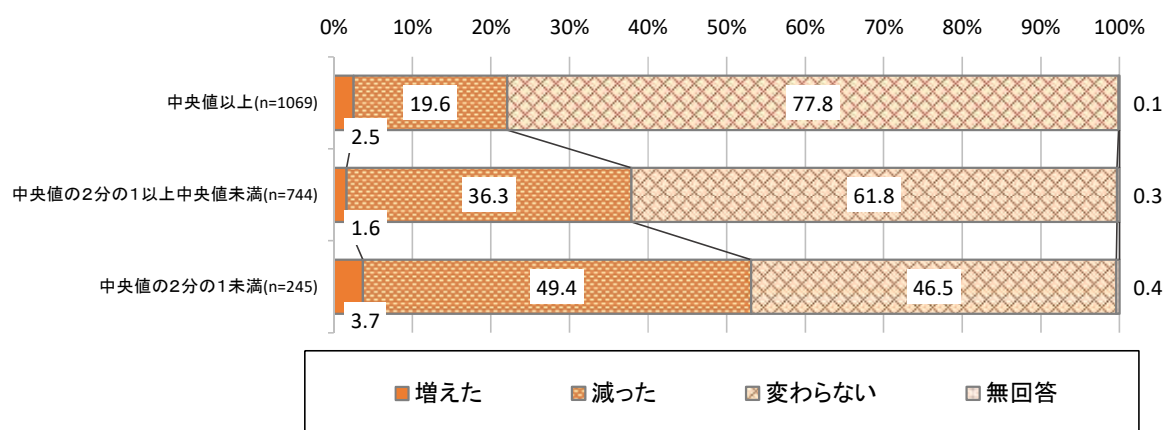


図 2-3-1-2 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (世帯全体の収入の変化)

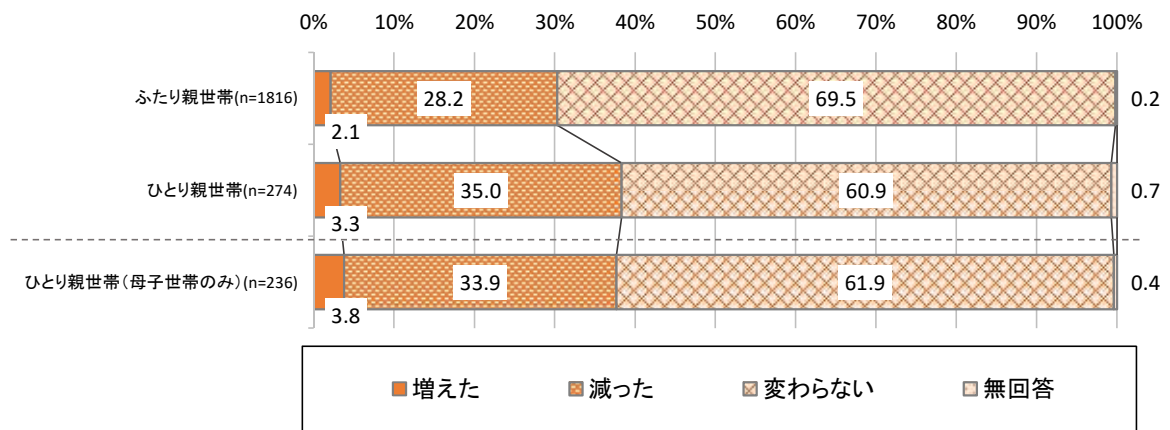


図 2-3-1-3 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容（世帯全体の収入の変化）

## (2) 生活に必要な支出の変化

保護者票問23. あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。(SA)

### b.生活に必要な支出の変化

新型コロナウイルス感染症の拡大により変化があった内容について、「生活に必要な支出の変化」は、「増えた」が38.8%、「減った」が7.7%、「変わらない」が53.1%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「増えた」の割合は、「中央値以上」の世帯では31.2%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では43.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では58.8%となっている。

世帯の状況別にみると、「増えた」の割合は、「ふたり親世帯」では37.3%、「ひとり親世帯」全体では48.5%、「母子世帯」のみでは52.5%となっている。

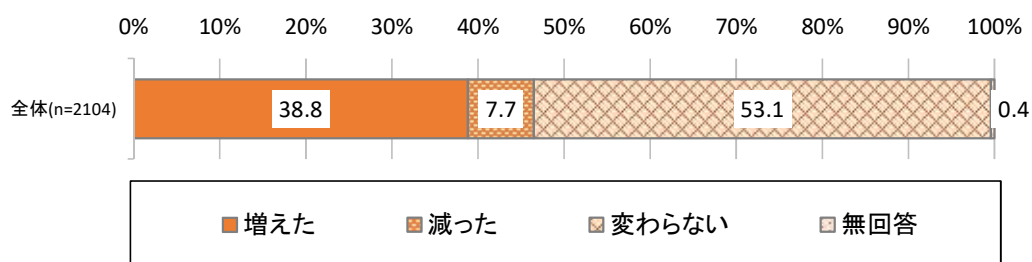


図 2-3-1-4 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (生活に必要な支出の変化)

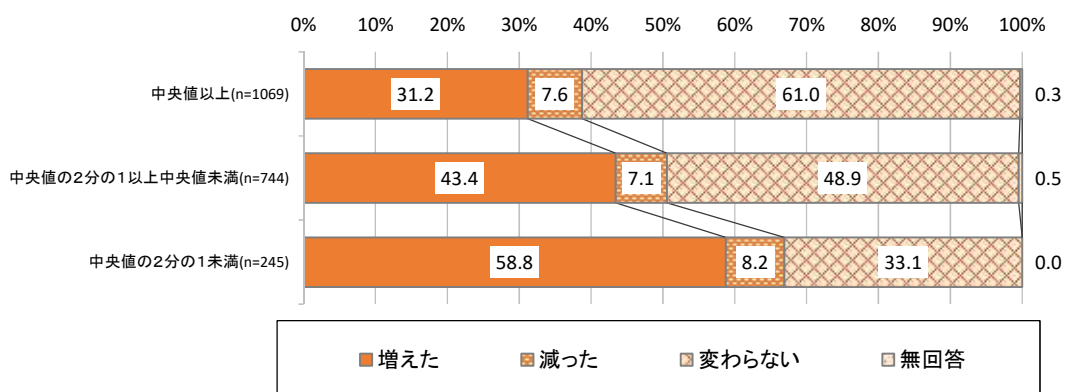


図 2-3-1-5 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (生活に必要な支出の変化)

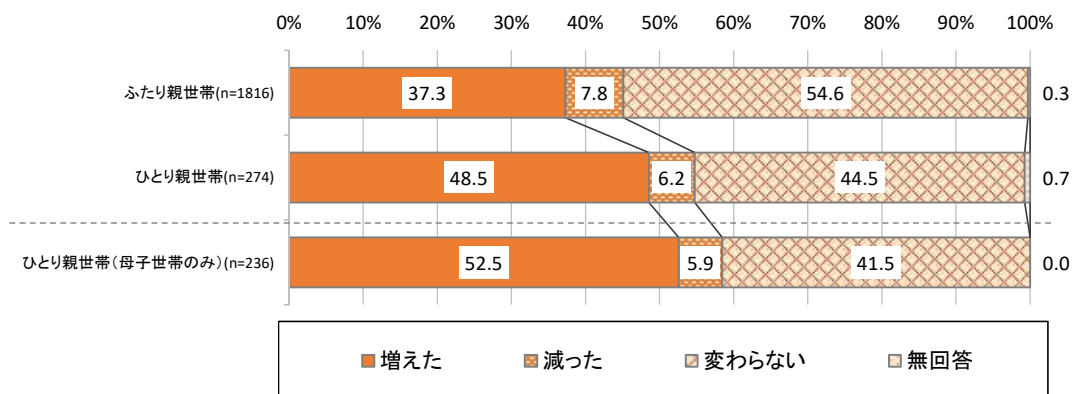


図 2-3-1-6 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (生活に必要な支出の変化)

### (3) お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと

保護者票問23. あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。(SA)

c. お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと

新型コロナウイルス感染症の拡大により変化があった内容について、「お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」は、「増えた」が12.5%、「減った」が1.7%、「変わらない」が84.8%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「増えた」の割合は、「中央値以上」の世帯では3.3%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では17.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では38.4%となっている。

世帯の状況別にみると、「増えた」の割合は、「ふたり親世帯」では10.2%、「ひとり親世帯」全体では27.4%、「母子世帯」のみでは29.7%となっている。

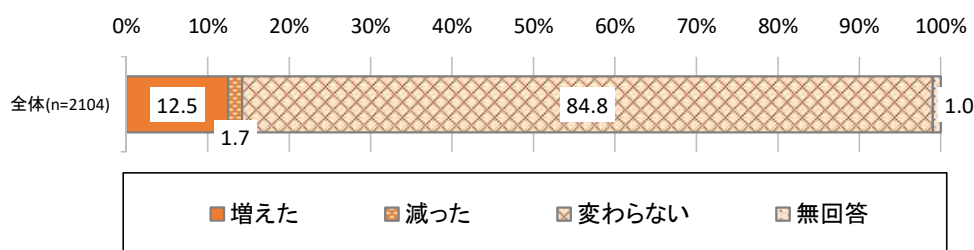


図 2-3-1-7 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと)

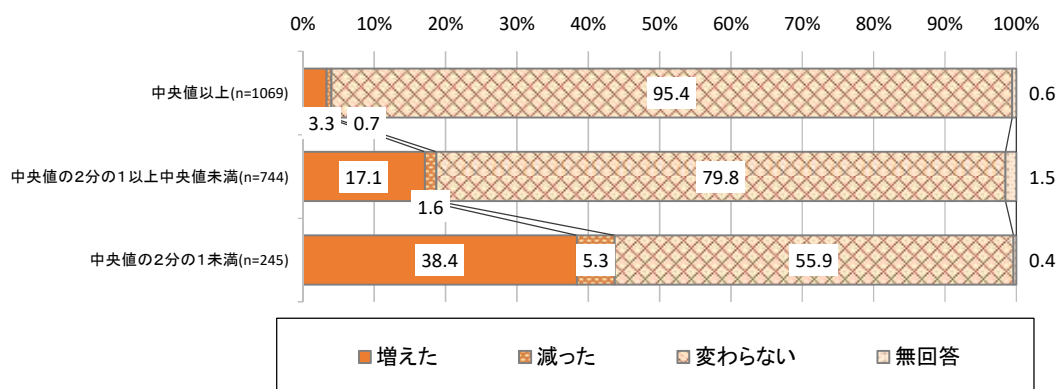


図 2-3-1-8 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと)

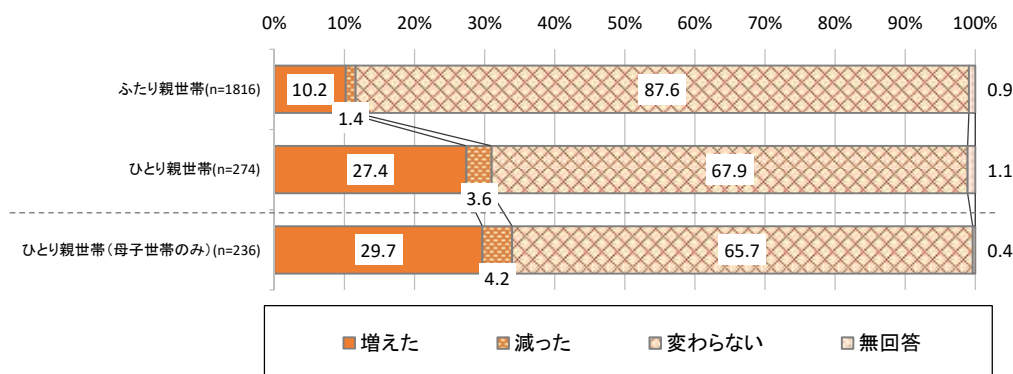


図 2-3-1-9 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと)



#### (4) お子さんと話をすること

保護者票問23. あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。(SA)

d. お子さんと話をすること

新型コロナウイルス感染症の拡大により変化があった内容について、「お子さんと話をすること」は、「増えた」が22.6%、「減った」が3.9%、「変わらない」が73.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「減った」の割合は、「中央値以上」の世帯では2.3%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では4.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では8.2%となっている。

世帯の状況別にみると、「減った」の割合は、「ふたり親世帯」では3.5%、「ひとり親世帯」全体では6.9%、「母子世帯」のみでは6.4%となっている。

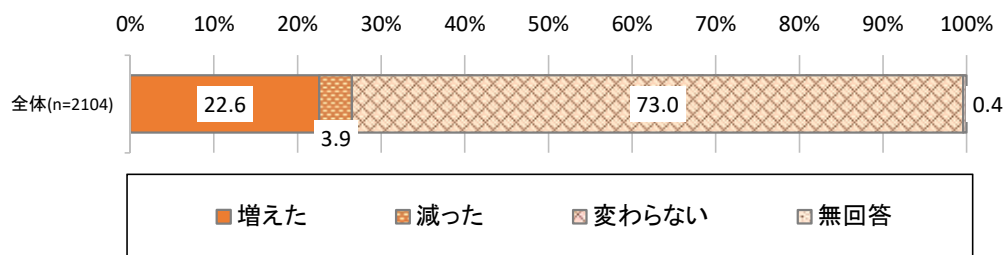


図 2-3-1-10 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (お子さんと話をすること)

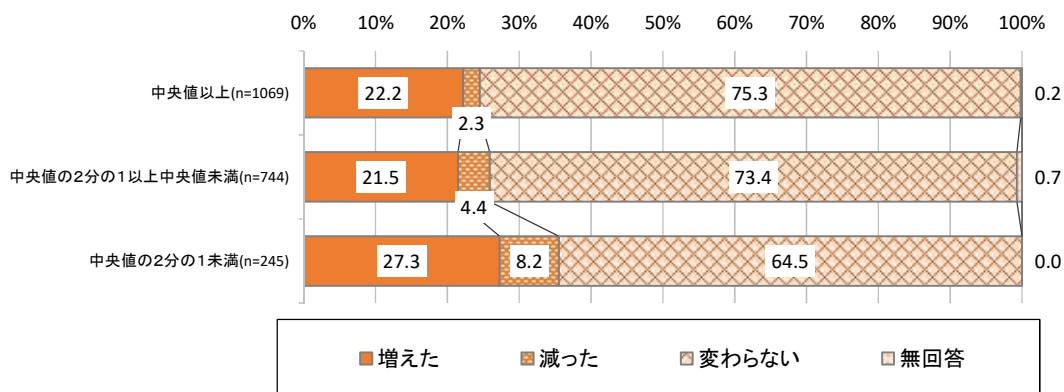


図 2-3-1-11 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (お子さんと話をすること)

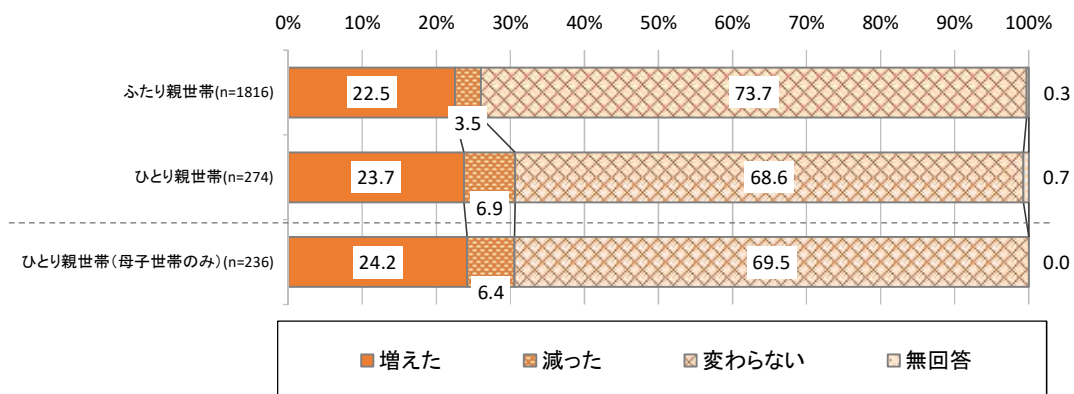


図 2-3-1-12 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (お子さんと話をすること)

(5) 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

保護者票問23. あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。(SA)

e.家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

新型コロナウイルス感染症の拡大により変化があった内容について、「家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること」は、「増えた」が15.2%、「減った」が4.0%、「変わらない」が80.5%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「増えた」の割合は、「中央値以上」の世帯では12.2%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では17.9%、「中央値の2分の1未満」の世帯では20.4%となっている。

世帯の状況別にみると、「増えた」の割合は、「ふたり親世帯」では14.5%、「ひとり親世帯」全体では19.3%、「母子世帯」のみでは21.2%となっている。

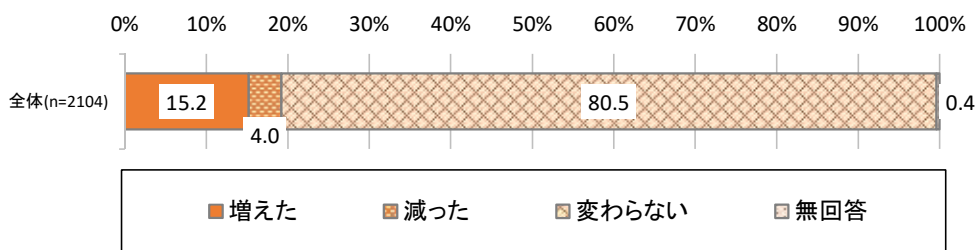


図 2-3-1-13 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること)

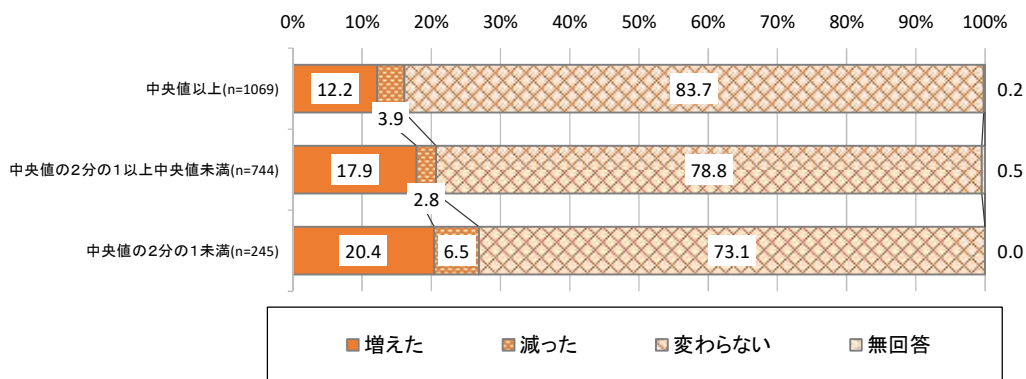


図 2-3-1-14 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること)

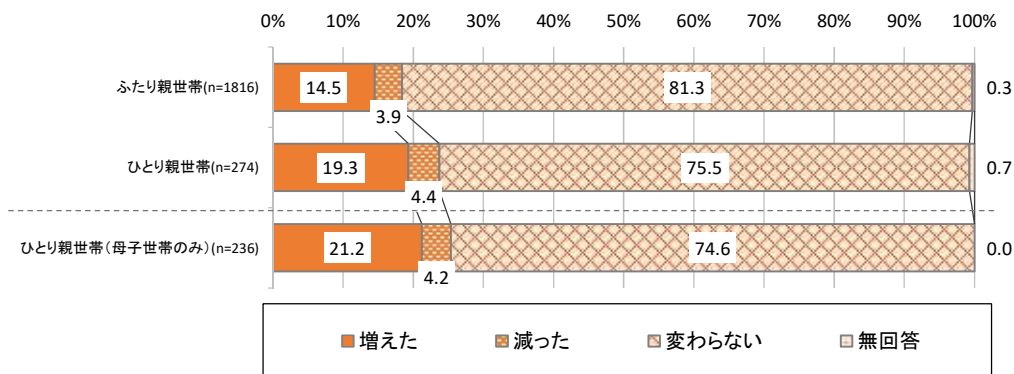


図 2-3-1-15 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること)

(6) あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

保護者票問23. あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。(SA)

f.あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

新型コロナウイルス感染症の拡大により変化があった内容について、「あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」は、「増えた」が33.5%、「減った」が1.9%、「変わらない」が64.3%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「増えた」の割合は、「中央値以上」の世帯では27.2%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では36.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では51.4%となっている。

世帯の状況別にみると、「増えた」の割合は、「ふたり親世帯」では31.7%、「ひとり親世帯」全体では45.6%、「母子世帯」のみでは49.2%となっている。

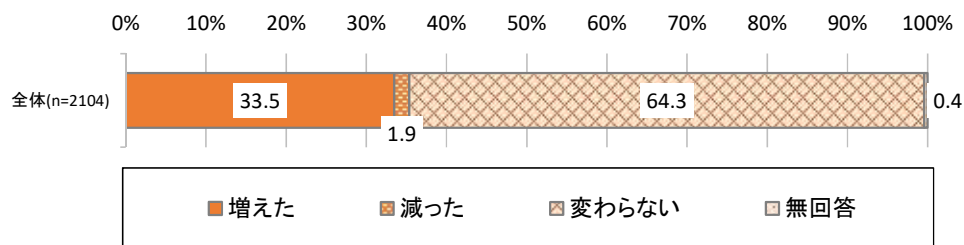


図 2-3-1-16 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと)

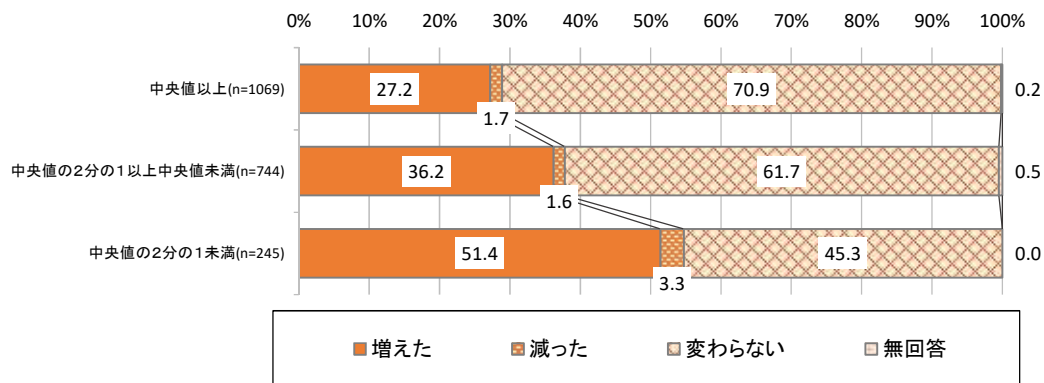


図 2-3-1-17 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと)

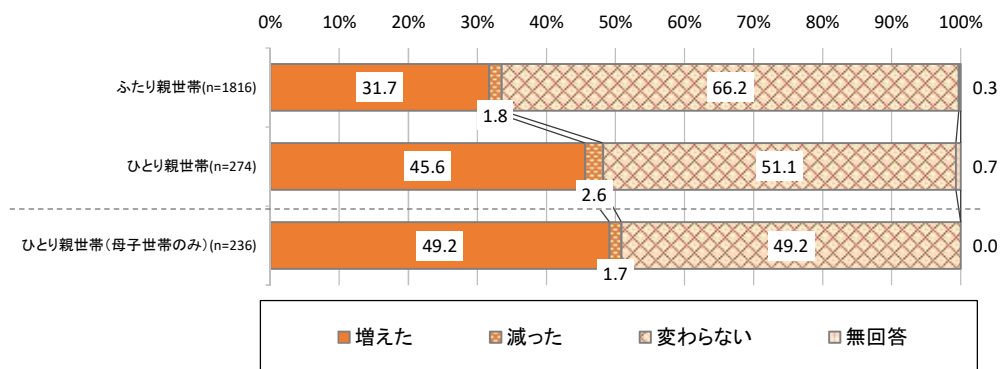


図 2-3-1-18 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと)

## (7) 新型コロナウイルス感染症の影響と保護者の現在の状況との関係

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響について、「世帯全体の収入の変化」の状況別に保護者の心理的な状態（K6のスコア）について集計をした。収入の変化について「減った」と回答した場合、K6のスコアが「13点以上」の割合は13.5%となっており、収入の変化が「変わらない」場合と比べて高くなっている。

また、等価世帯収入の水準で分類した上で、「世帯全体の収入の変化」の状況別に保護者の心理的な状態（K6のスコア）について集計すると、等価世帯収入の水準がいずれの場合であっても、収入の変化について「減った」と回答した場合、「変わらない」と回答した場合と比べて、K6のスコアが「13点以上」の割合が高くなっている。「中央値の2分の1未満」の世帯で、かつ、「世帯全体の収入の変化」に関して「減った」と回答した場合、K6のスコアが「13点以上」の割合は28.9%と高くなっている。

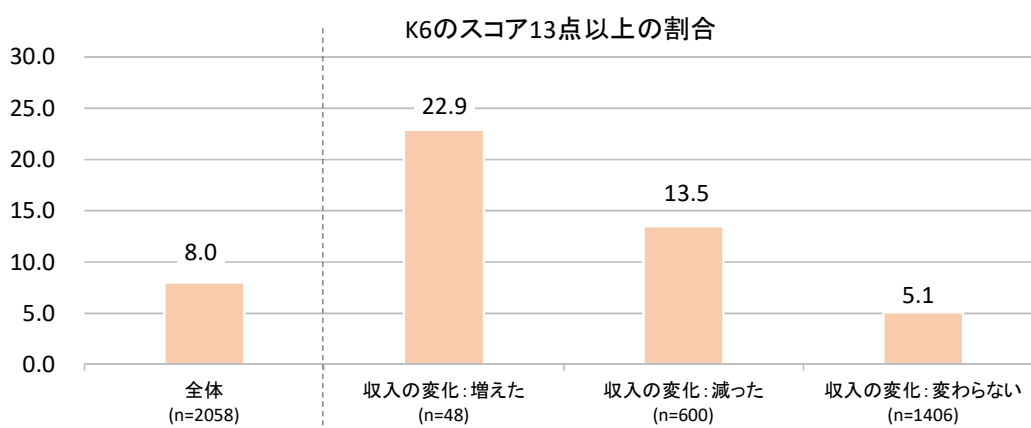


図 2-3-1-19 新型コロナウイルス感染症の拡大による影響について「世帯全体の収入の変化」の状況別、保護者の心理的な状態（K6のスコア）

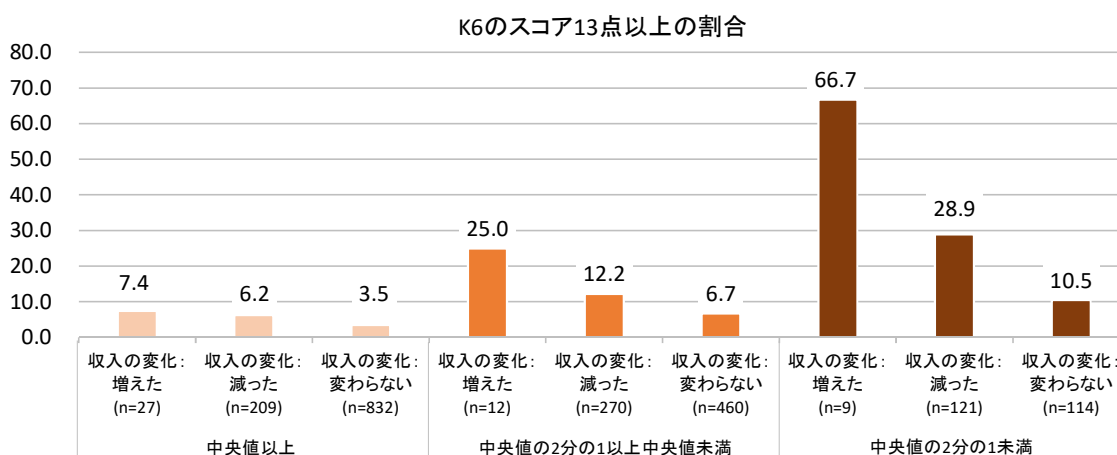


図 2-3-1-20 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響について「世帯全体の収入の変化」の状況別、保護者の心理的な状態（K6のスコア）

## 2.3.2.子どもの状況

### (1) 学校の授業以外で勉強する時間

中学生票問16. あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前(2020年2月以前)と比べて、どのように変わったと思いますか。(SA)

a.学校の授業以外で勉強する時間

新型コロナウイルス感染症の拡大により子どもに変化があった内容について、「学校の授業以外で勉強する時間」は、「増えた」が19.1%、「減った」が9.1%、「変わらない」が70.8%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「増えた」の割合は、「中央値以上」の世帯では21.3%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では17.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では16.0%となっている。

世帯の状況別にみると、「増えた」の割合は、「ふたり親世帯」では20.0%、「ひとり親世帯」全体では14.3%、「母子世帯」のみでは15.3%となっている。

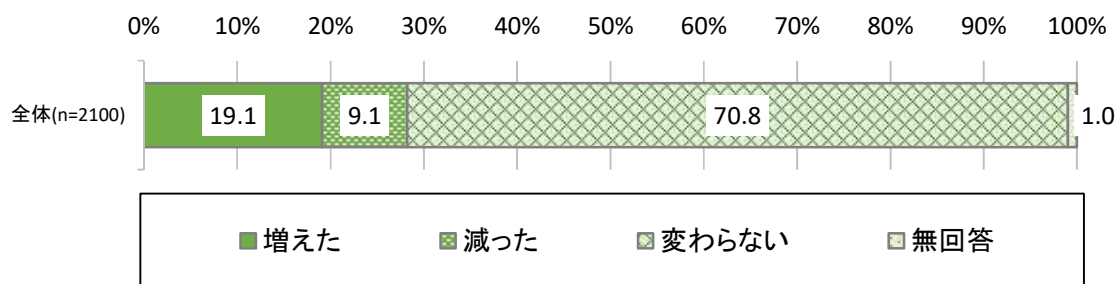


図 2-3-2-1 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (学校の授業以外で勉強する時間)

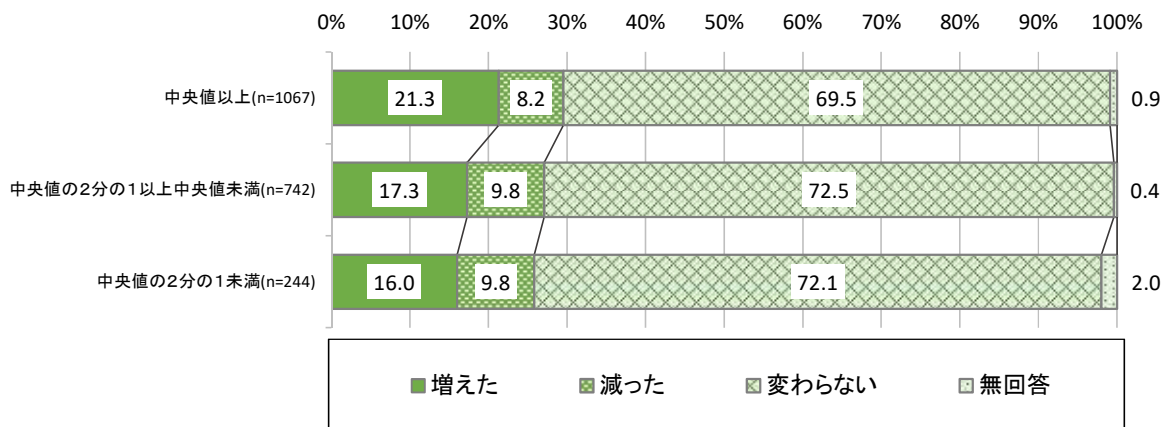


図 2-3-2-2 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (学校の授業以外で勉強する時間)

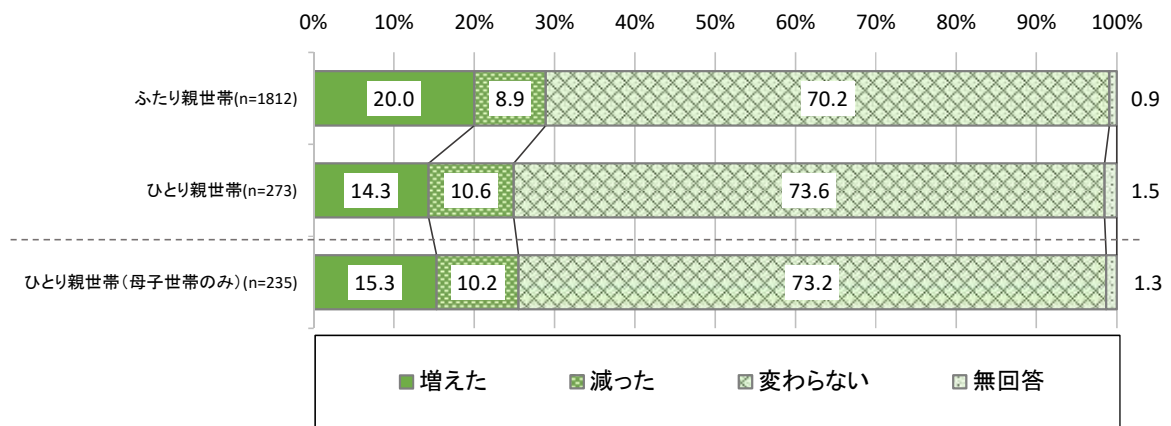


図 2-3-2-3 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容（学校の授業以外で勉強する時間）

## (2) 学校の授業がわからないと感じること

中学生票問16. あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前(2020年2月以前)と比べて、どのように変わったと思いますか。(SA)

b.学校の授業がわからないと感じること

新型コロナウイルス感染症の拡大により子どもに変化があった内容について、「学校の授業がわからないと感じること」は、「増えた」が26.1%、「減った」が4.9%、「変わらない」が68.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「増えた」の割合は、「中央値以上」の世帯では20.0%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では29.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では43.4%となっている。

世帯の状況別にみると、「増えた」の割合は、「ふたり親世帯」では24.4%、「ひとり親世帯」全体では36.3%、「母子世帯」のみでは38.3%となっている。

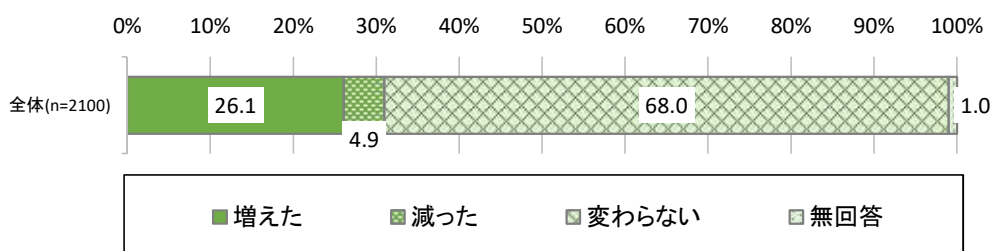


図 2-3-2-4 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (学校の授業がわからないと感じること)

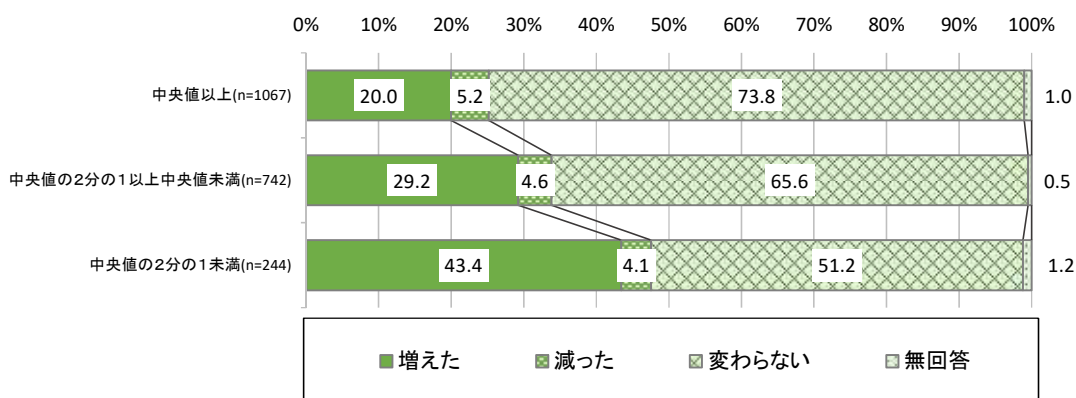


図 2-3-2-5 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (学校の授業がわからないと感じること)

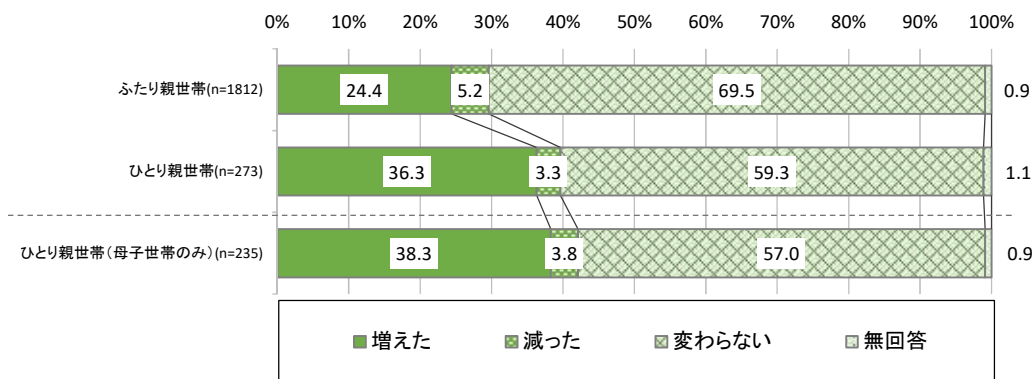


図 2-3-2-6 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (学校の授業がわからないと感じること)

### (3) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数

中学生票問16. あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前(2020年2月以前)と比べて、どのように変わったと思いますか。(SA)

c.地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数

新型コロナウイルス感染症の拡大により子どもに変化があった内容について、「地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数」は、「増えた」が8.1%、「減った」が52.0%、「変わらない」が38.7%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「減った」の割合は、「中央値以上」の世帯では54.2%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では53.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では41.8%となっている。

世帯の状況別にみると、「減った」の割合は、「ふたり親世帯」では53.2%、「ひとり親世帯」全体では44.0%、「母子世帯」のみでは45.1%となっている。

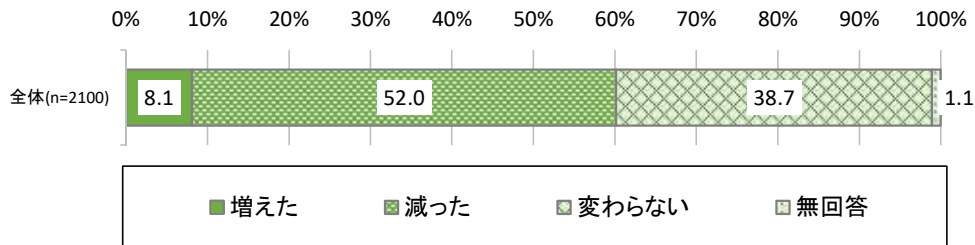


図 2-3-2-7 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数)

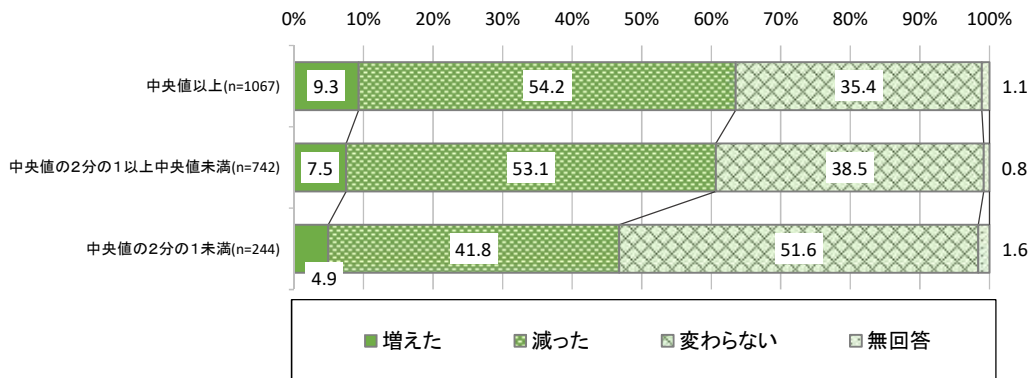


図 2-3-2-8 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数)

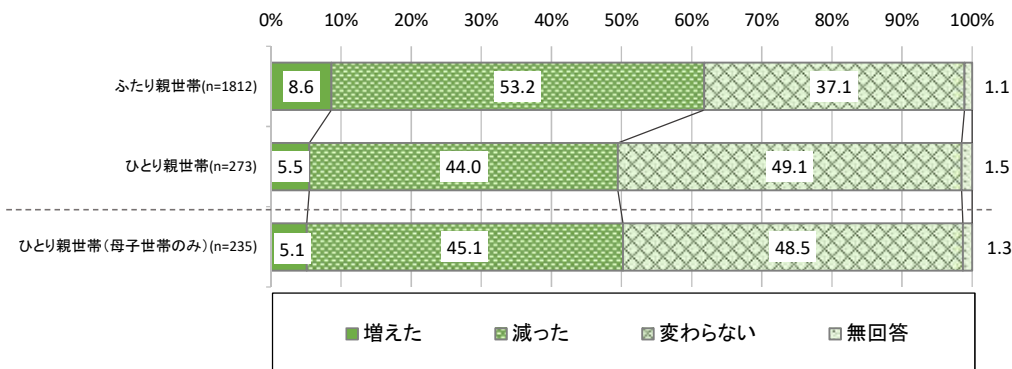


図 2-3-2-9 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数)



#### (4) 食事を抜く回数

中学生票問16. あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前(2020年2月以前)と比べて、どのように変わったと思いますか。(SA)

d.食事を抜く回数

新型コロナウイルス感染症の拡大により子どもに変化があった内容について、「食事を抜く回数」は、「増えた」が5.6%、「減った」が3.6%、「変わらない」が90.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「増えた」の割合は、「中央値以上」の世帯では4.0%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では6.7%、「中央値の2分の1未満」の世帯では9.4%となっている。

世帯の状況別にみると、「増えた」の割合は、「ふたり親世帯」では4.8%、「ひとり親世帯」全体では10.3%、「母子世帯」のみでは10.6%となっている。

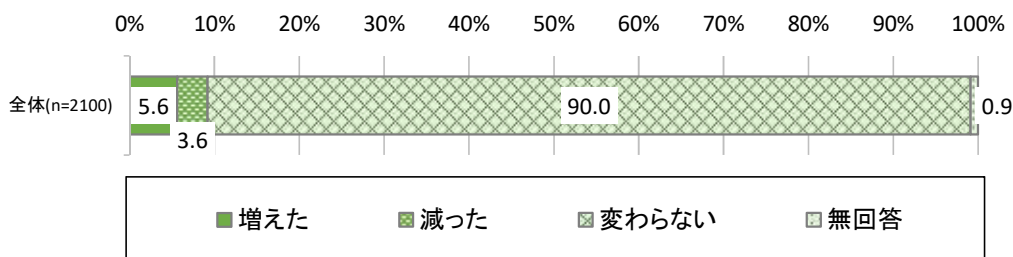


図 2-3-2-10 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (食事を抜く回数)

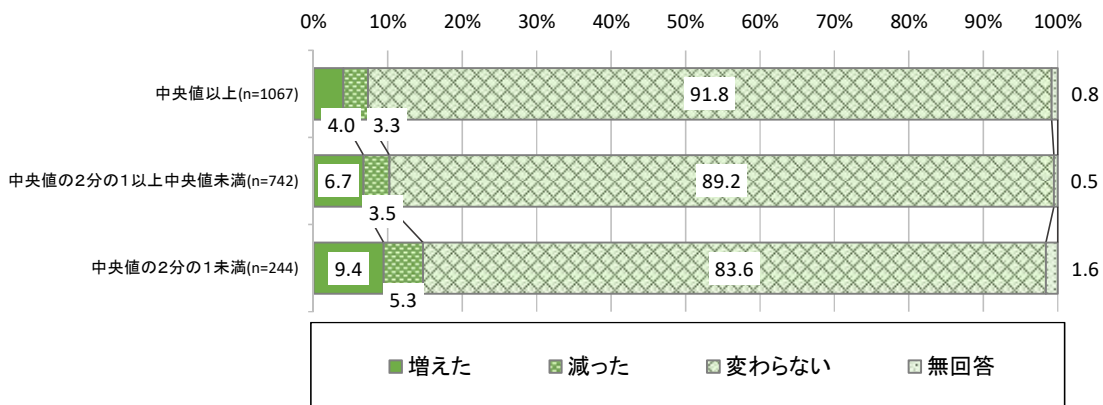


図 2-3-2-11 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (食事を抜く回数)

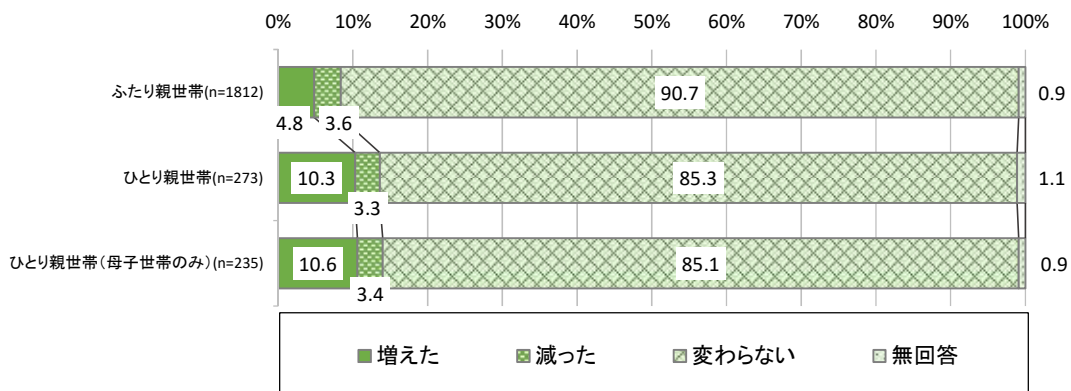


図 2-3-2-12 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (食事を抜く回数)

### (5) 夜遅くまで起きている回数

中学生票問16. あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前(2020年2月以前)と比べて、どのように変わったと思いますか。(SA)

e.夜遅くまで起きている回数

新型コロナウイルス感染症の拡大により子どもに変化があった内容について、「夜遅くまで起きている回数」は、「増えた」が39.0%、「減った」が3.7%、「変わらない」が56.3%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「増えた」の割合は、「中央値以上」の世帯では36.7%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では42.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では40.2%となっている。

世帯の状況別にみると、「増えた」の割合は、「ふたり親世帯」では38.6%、「ひとり親世帯」全体では40.7%、「母子世帯」のみでは41.3%となっている。

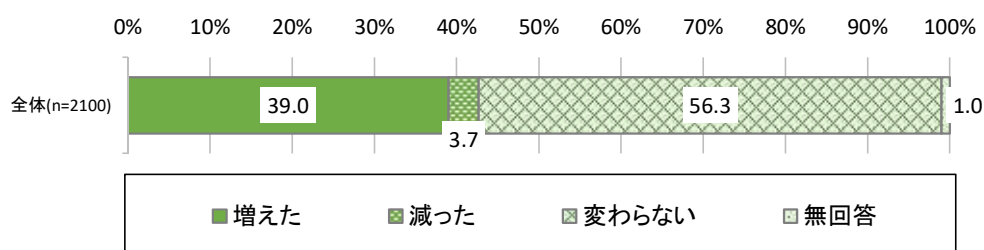


図 2-3-2-13 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (夜遅くまで起きている回数)

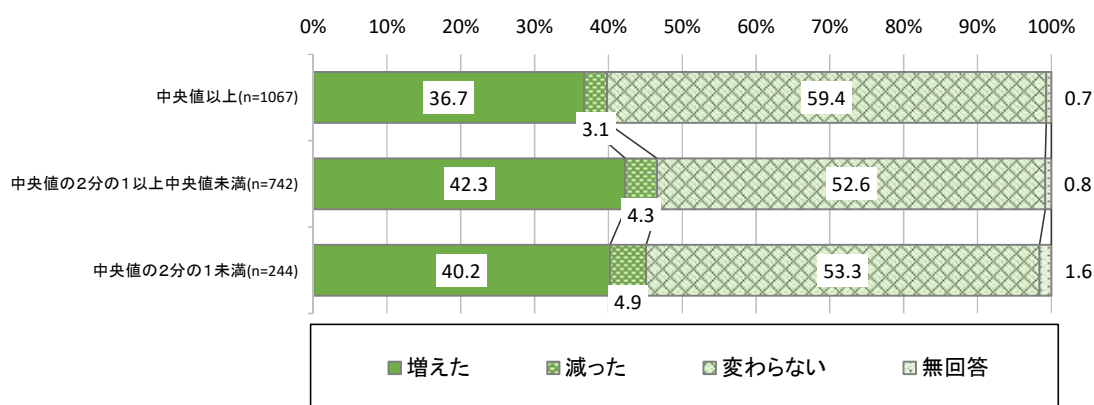


図 2-3-2-14 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (夜遅くまで起きている回数)

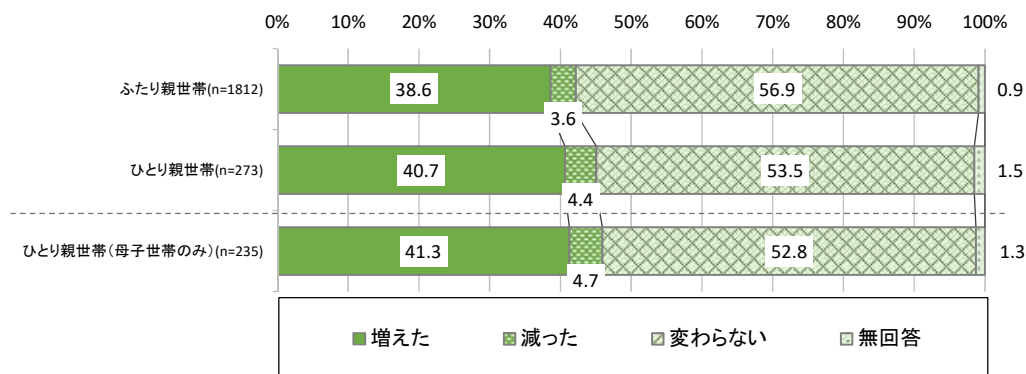


図 2-3-2-15 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (夜遅くまで起きている回数)

(6) 親以外の大人や友達と話をすること

中学生票問16. あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前(2020年2月以前)と比べて、どのように変わったと思いますか。(SA)

f.親以外の大人や友達と話をすること

新型コロナウイルス感染症の拡大により子どもに変化があった内容について、「親以外の大人や友達と話をすること」は、「増えた」が19.7%、「減った」が18.0%、「変わらない」が61.5%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「減った」の割合は、「中央値以上」の世帯では19.4%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では16.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では17.2%となっている。

世帯の状況別にみると、「減った」の割合は、「ふたり親世帯」では18.2%、「ひとり親世帯」全体では16.5%、「母子世帯」のみでは16.2%となっている。

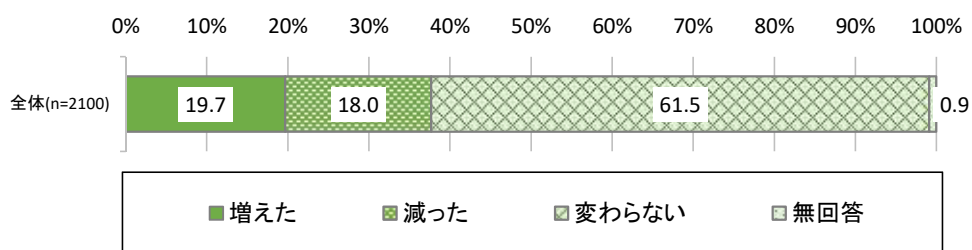


図 2-3-2-16 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (親以外の大人や友達と話をすること)

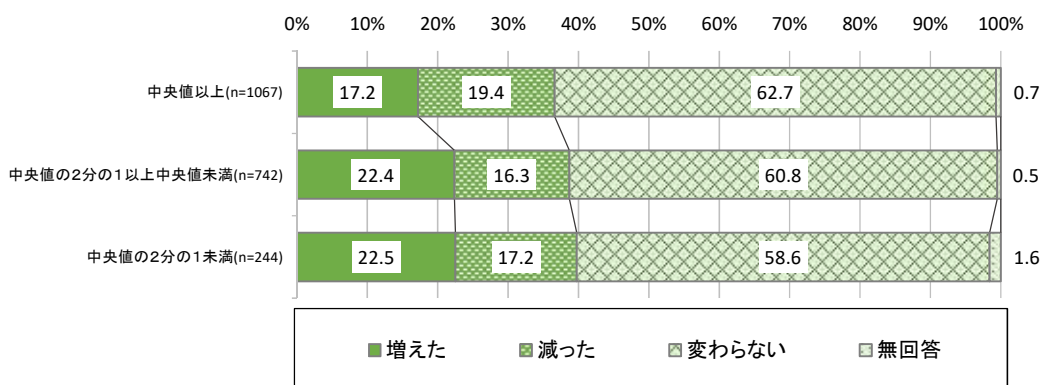


図 2-3-2-17 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (親以外の大人や友達と話をすること)

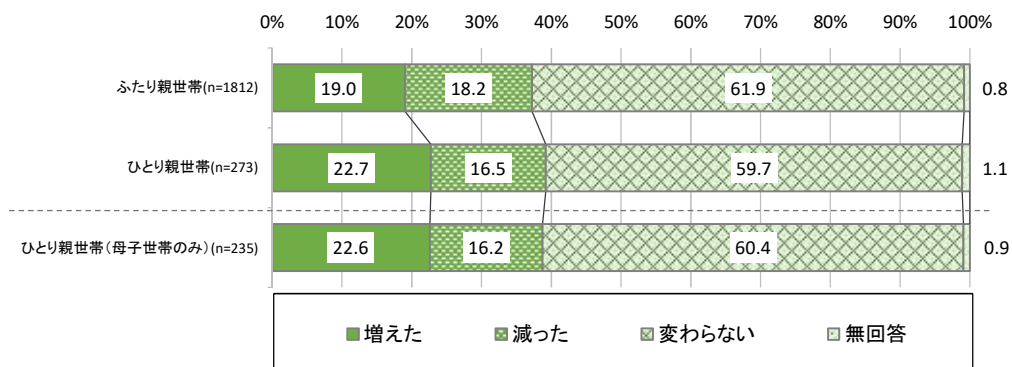


図 2-3-2-18 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容 (親以外の大人や友達と話をすること)

(7) イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

中学生票問16. あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前(2020年2月以前)と比べて、どのように変わったと思いますか。(SA)

g.イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

新型コロナウイルス感染症の拡大により子どもに変化があった内容について、「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」は、「増えた」が26.6%、「減った」が5.1%、「変わらない」が67.4%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「増えた」の割合は、「中央値以上」の世帯では25.4%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では28.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では27.9%となっている。

世帯の状況別にみると、「増えた」の割合は、「ふたり親世帯」では26.5%、「ひとり親世帯」全体では26.7%、「母子世帯」のみでは26.0%となっている。

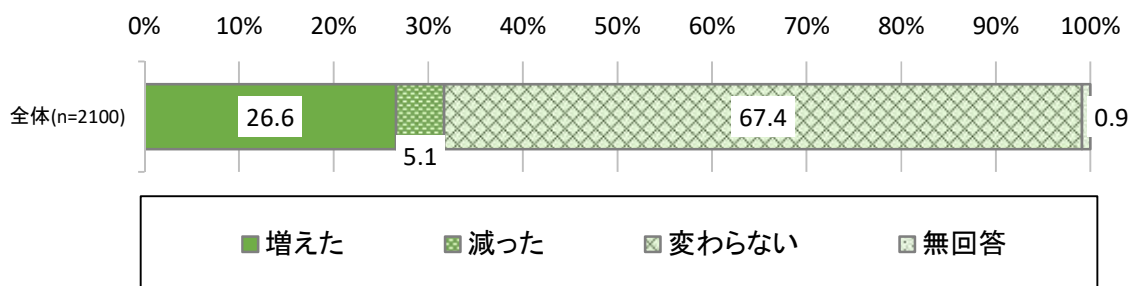


図 2-3-2-19 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容（イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと）

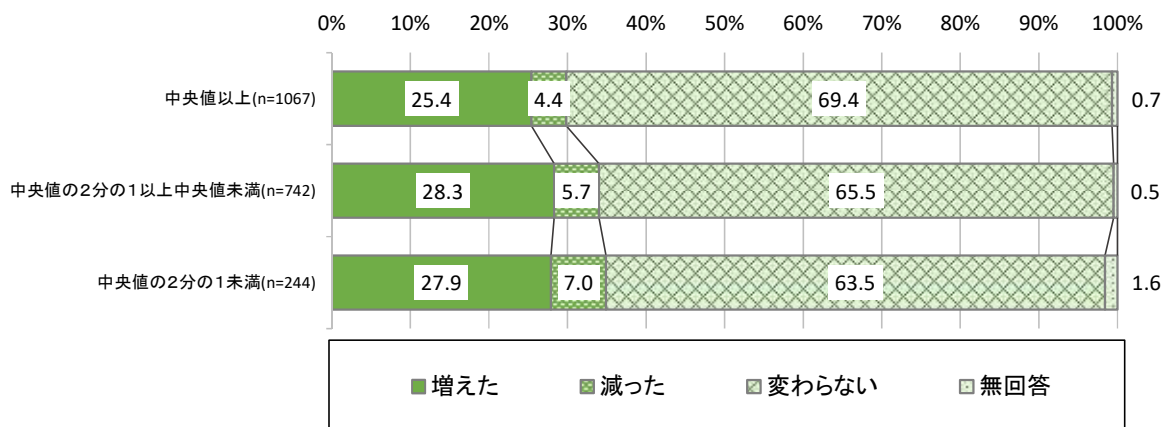


図 2-3-2-20 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容（イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと）

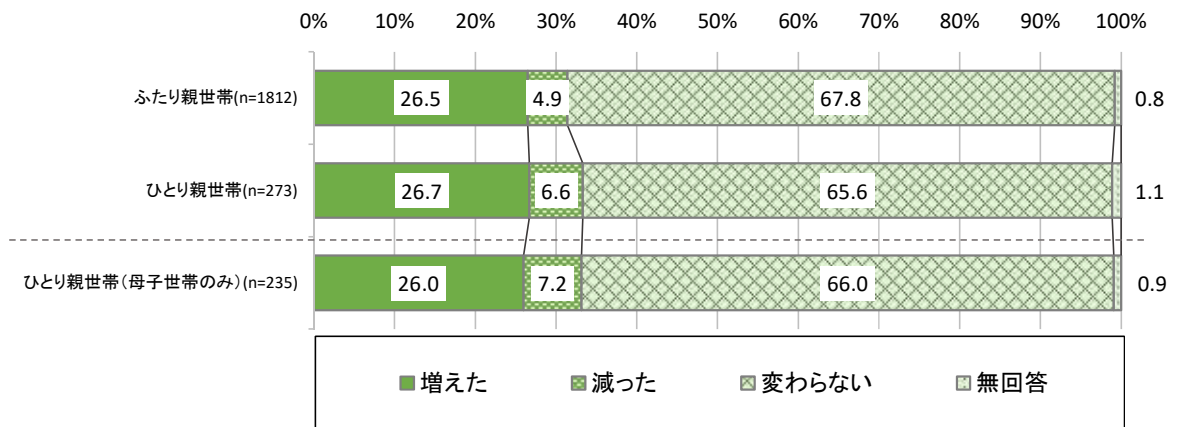


図 2-3-2-21 世帯の状況別、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたことの内容（イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと）

## (8) 新型コロナウイルス感染症の影響と子どもの現在の状況との関係

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響について、「学校の授業がわからないと感じること」の状況別に子どもの生活満足度について集計すると、生活満足度の平均値は、「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した場合は6.2、「減った」と回答した場合は7.3、「変わらない」と回答した場合は7.3となっている。

また、等価世帯収入の水準で分類した上で、「学校の授業がわからないと感じること」の状況別に子どもの生活満足度について集計すると、等価世帯収入の水準がいずれの場合であっても、「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した場合は生活満足度の平均値が低くなっている。

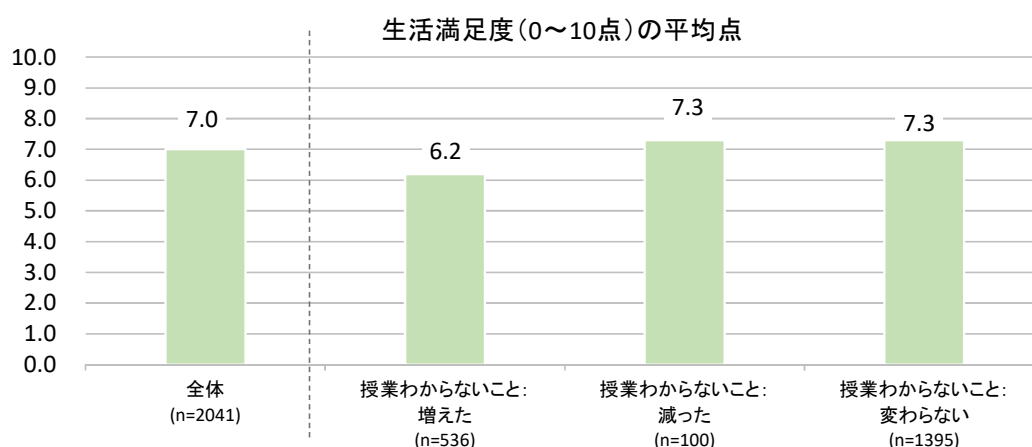


図 2-3-2-22 新型コロナウイルス感染症の拡大による影響について「学校の授業がわからないと感じること」の状況別、子どもの生活満足度

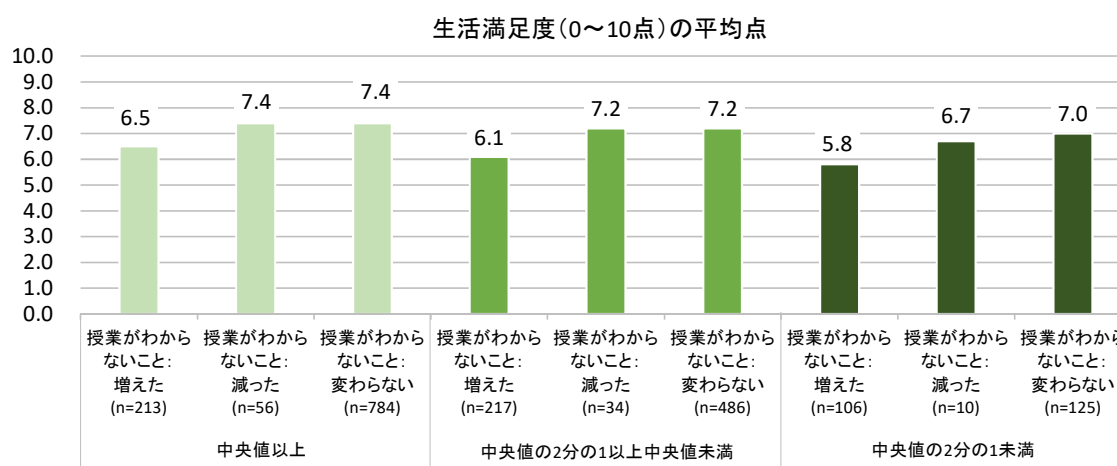


図 2-3-2-23 等価世帯収入の水準別、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響について「学校の授業がわからないと感じること」の状況別、子どもの生活満足度

## 2.4. 支援の利用状況や効果等

### 2.4.1. 保護者の状況

#### (1) 支援制度の利用状況

保護者票問24. あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。(SA)

支援制度の利用状況について、「就学援助」や「児童扶養手当」に関しては、「現在利用している」の割合が約1割、「生活保護」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「北九州市立母子・父子福祉センター」について「現在利用している」の割合は全体の1%以下となっている。

等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の世帯に限って集計すると、「現在利用している」の割合は、「就学援助」については65.7%、「児童扶養手当」については52.2%となっている。それ以外は、「現在利用している」の割合は1割未満となっている。

「ひとり親世帯」に限って集計すると、「現在利用している」の割合は、「就学援助」については65.7%、「児童扶養手当」については69.7%となっている。「母子世帯」のみに限って集計すると、「現在利用している」の割合は、「就学援助」については71.7%、「児童扶養手当」については75.9%となっている。

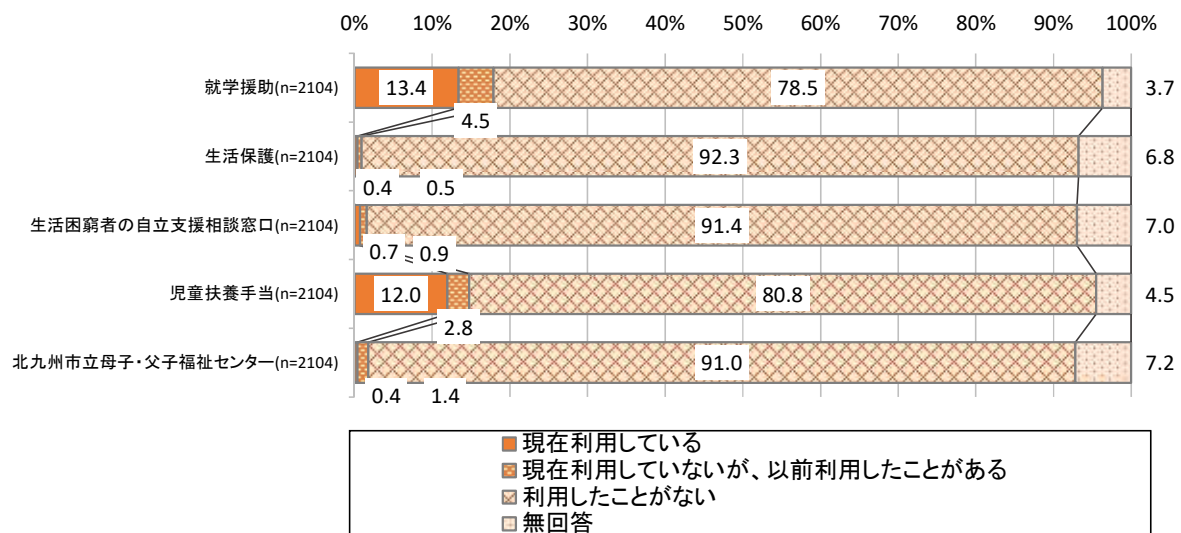


図 2-4-1-1 支援制度の利用状況

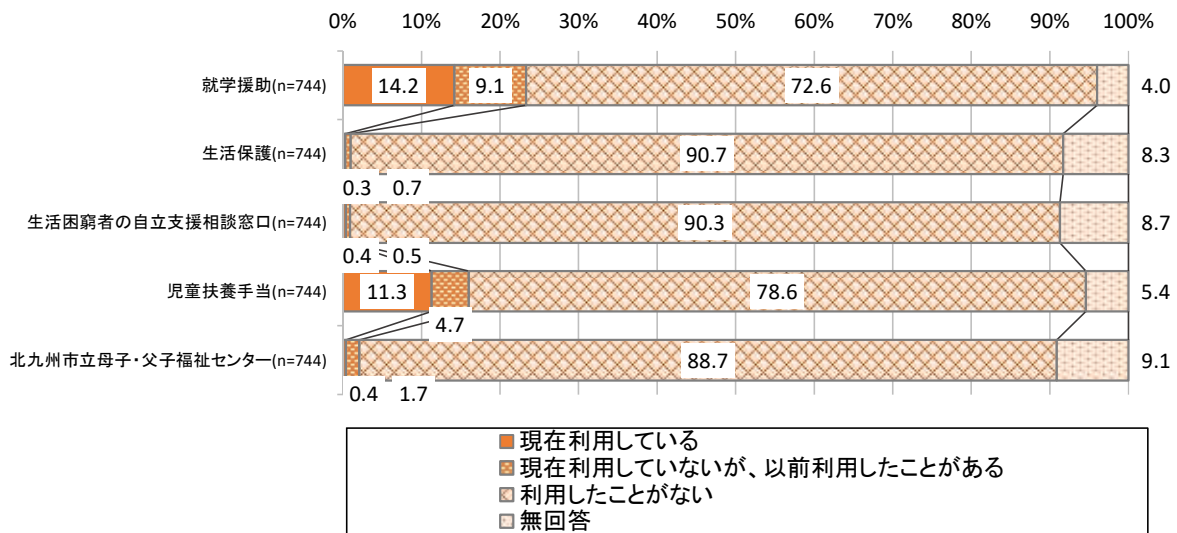


図 2-4-1-2 等価世帯収入が「中央値の2分の1以上中央値未満」の場合の支援制度の利用状況

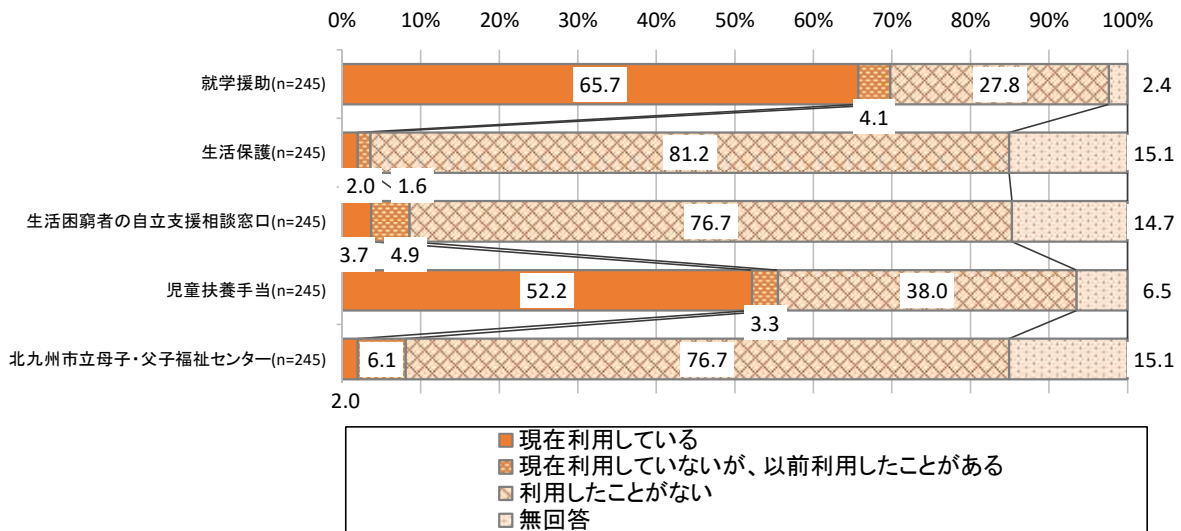


図 2-4-1-3 等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の場合の支援制度の利用状況



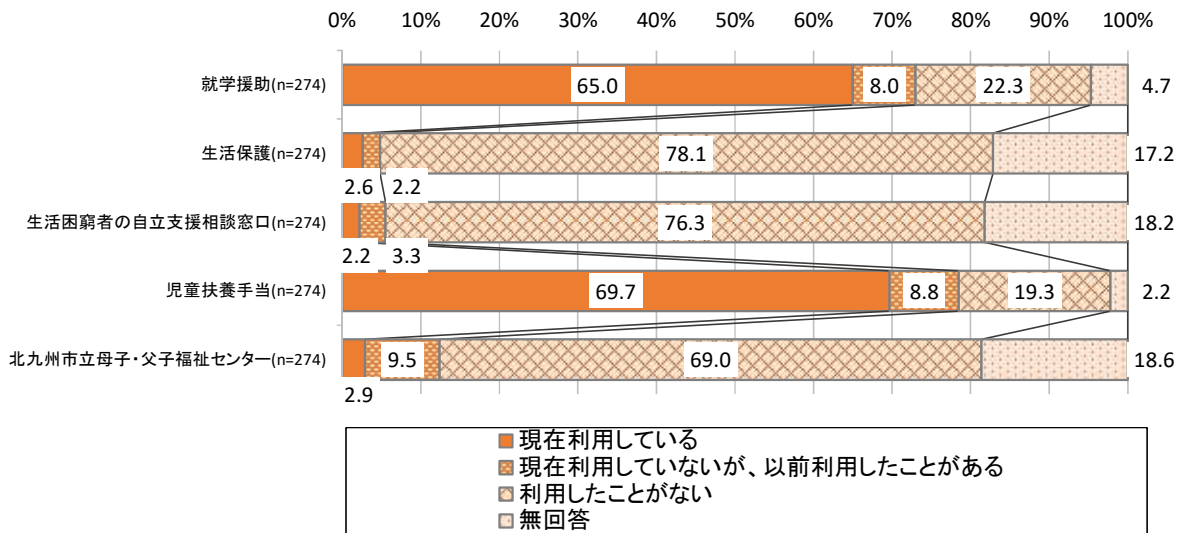


図 2-4-1-4 世帯の状況が「ひとり親世帯」(全体)の場合の支援制度の利用状況

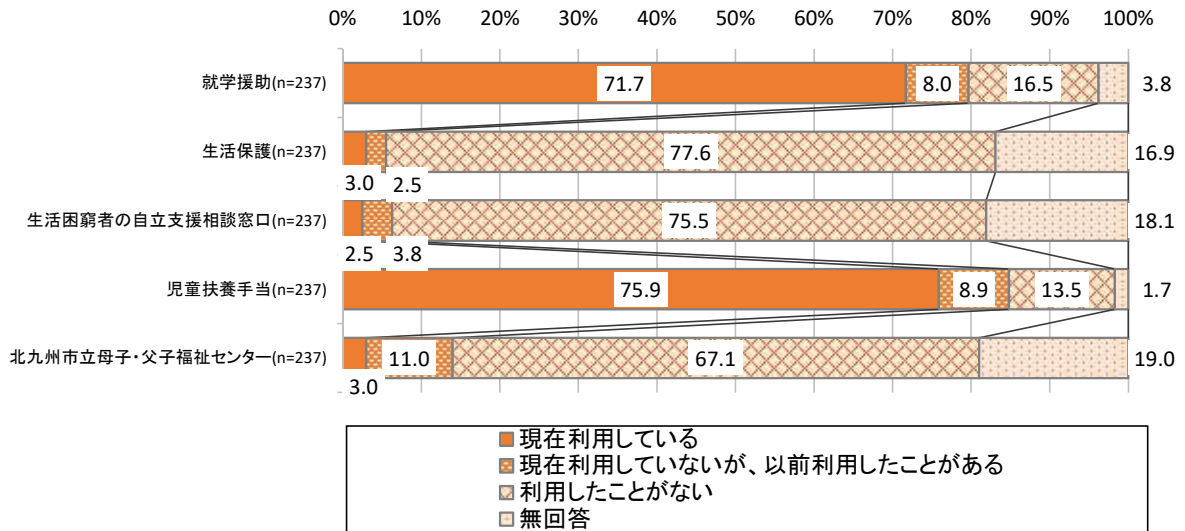


図 2-4-1-5 世帯の状況が「ひとり親世帯」(母子世帯のみ)の場合の支援制度の利用状況

## (2) 支援制度を利用していない理由

【問 24 で 3 と答えた方に】

保護者票問24-1. その理由は何ですか。(SA)

各支援制度を利用していない理由について、等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の世帯に限って集計すると、いずれの制度に関しても「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思ふから」の回答割合が最も高くなっている。「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」を合わせた回答は、「就学援助」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「北九州市立母子・父子福祉センター」に関して、約1割となっている。また、それぞれ、「それ以外の理由」の割合も約1～2割となっている。

「ひとり親世帯」に限って集計すると、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」を合わせた割合は、「就学援助」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「北九州市立母子・父子福祉センター」に関して約1割となっている。「母子世帯」のみに限って集計すると、同様に、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」を合わせた割合は、「就学援助」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「北九州市立母子・父子福祉センター」に関して約1割となっている。

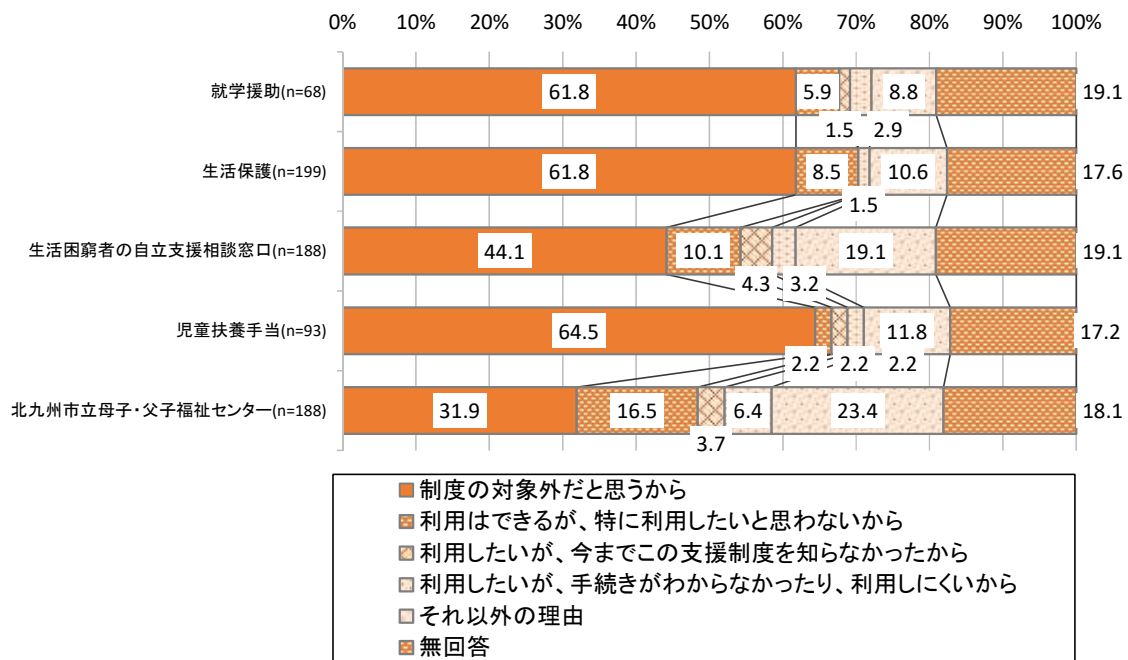


図 2-4-1-6 等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の場合の支援制度を利用していない理由

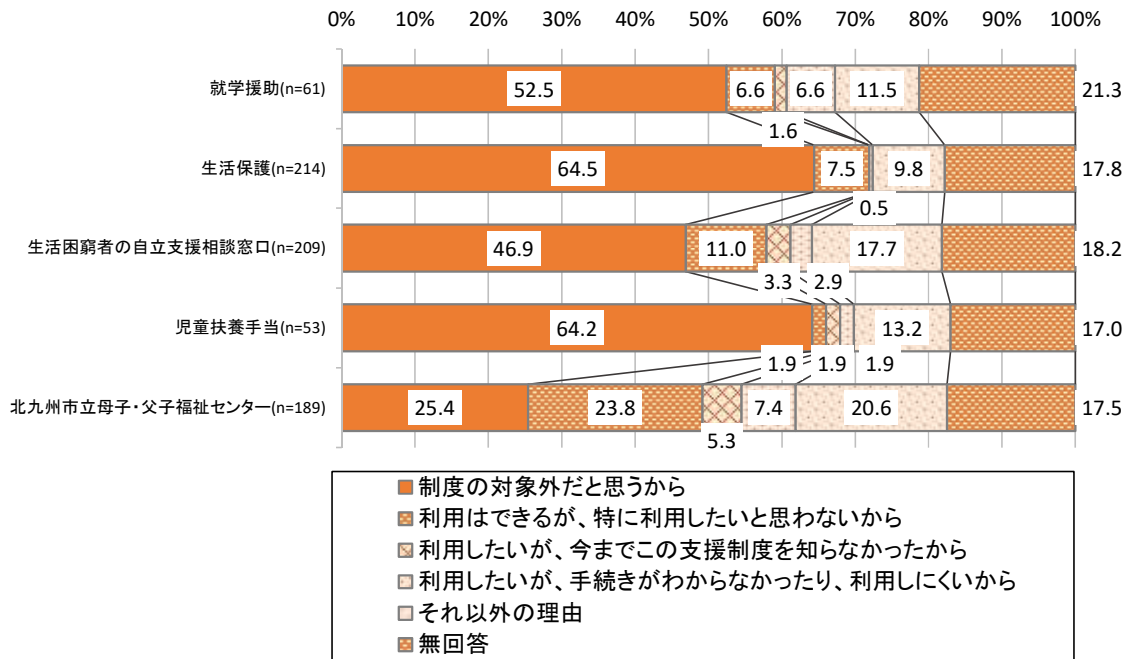


図 2-4-1-7 世帯の状況が「ひとり親世帯」(全体)の場合の支援制度を利用していない理由

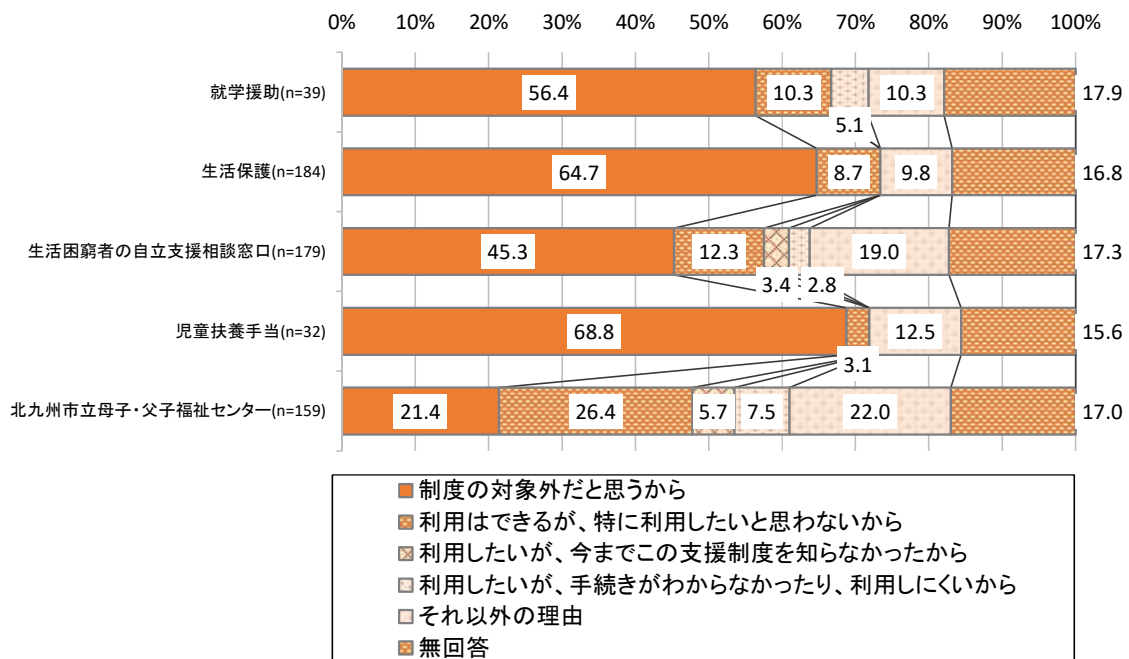


図 2-4-1-8 世帯の状況が「ひとり親世帯」(母子世帯のみ)の場合の支援制度を利用していない理由

## 2.4.2. 子どもの状況

### (1) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所

中学生票問18. あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(SA)

a. (自分や友人の家以外で)平日の夜や休日を過ごすことができる場所

支援制度・居場所等の利用状況について、「(自分や友人の家以外で)平日の夜や休日を過ごすことができる場所」に関しては、「利用したことがある」が13.6%、「あれば利用したいと思う」が17.4%、「今後も利用したいと思わない」が34.3%、「今後も利用したいかどうか分からない」が33.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「利用したことがある」の割合は、「中央値以上」の世帯では13.5%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では14.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では11.1%となっている。「あれば利用したいと思う」の割合は、それぞれ、16.4%、19.1%、18.0%となっている。

世帯の状況別にみると、「利用したことがある」の割合は、「ふたり親世帯」では13.1%、「ひとり親世帯」全体では16.8%、「母子世帯」のみでは15.7%となっている。「あれば利用したいと思う」の割合は、それぞれ、16.9%、19.4%、20.4%となっている。

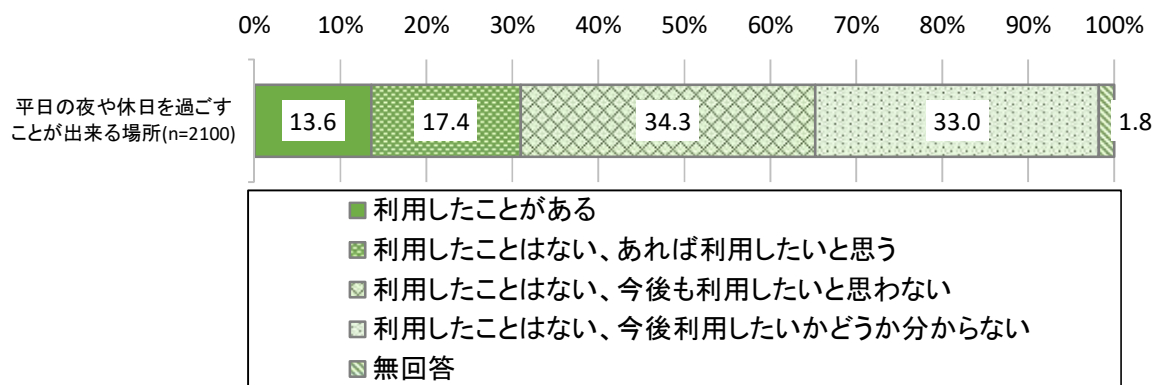


図 2-4-2-1 支援制度・居場所等の利用状況（平日の夜や休日を過ごすことができる場所）

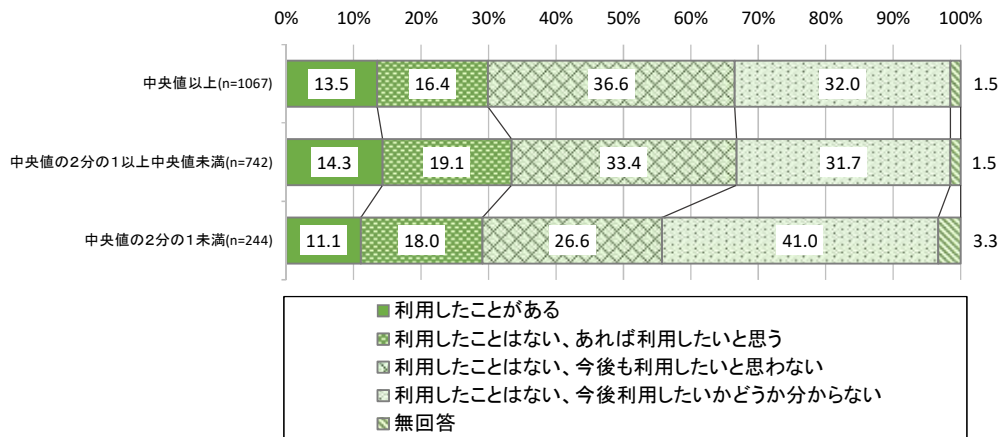


図 2-4-2-2 等価世帯収入の水準別、支援制度・居場所等の利用状況  
(平日の夜や休日を過ごすことができる場所)

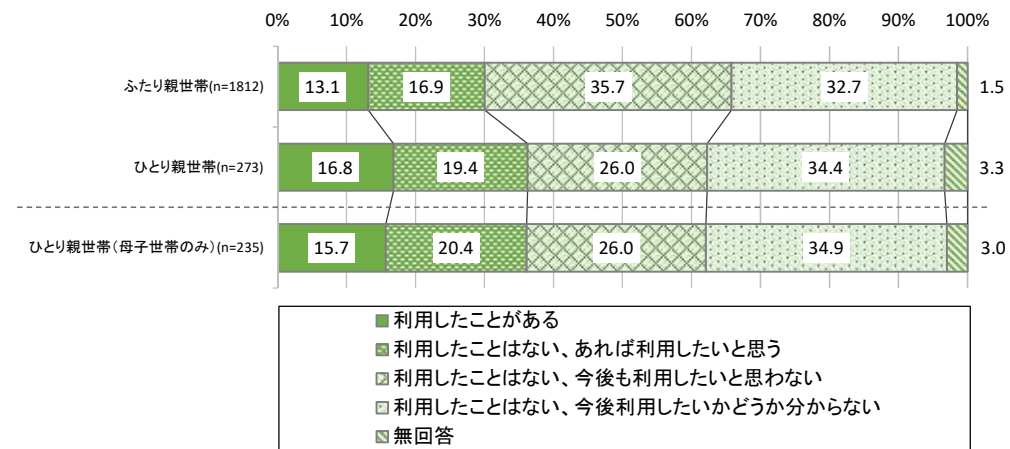


図 2-4-2-3 世帯の状況別、支援制度・居場所等の利用状況  
(平日の夜や休日を過ごすことができる場所)

## (2) タごはんを無料か安く食べることができる場所

中学生票問18. あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(SA)

b. (自分や友人の家以外で)タごはんを無料か安く食べることができる場所(子ども食堂など)

支援制度・居場所等の利用状況について、「(自分や友人の家以外で)タごはんを無料か安く食べることができる場所(子ども食堂など)」に関しては、「利用したことがある」が4.0%、「あれば利用したいと思う」が23.3%、「今後も利用したいと思わない」が37.8%、「今後も利用したいかどうか分からない」が33.1%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「利用したことがある」の割合は、「中央値以上」の世帯では3.7%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では3.8%、「中央値の2分の1未満」の世帯では5.3%となっている。「あれば利用したいと思う」の割合は、それぞれ、21.5%、24.8%、25.4%となっている。

世帯の状況別にみると、「利用したことがある」の割合は、「ふたり親世帯」では4.0%、「ひとり親世帯」全体では4.0%、「母子世帯」のみでは3.8%となっている。「あれば利用したいと思う」の割合は、それぞれ、22.8%、24.9%、27.2%となっている。

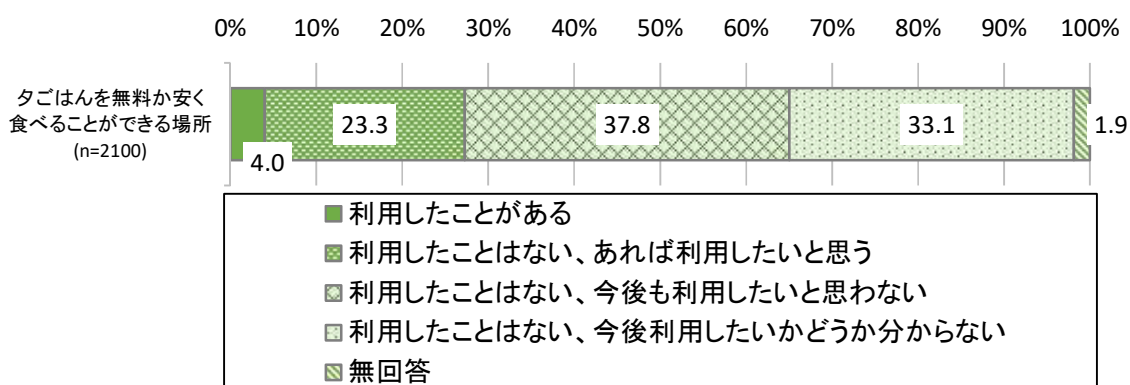


図 2-4-2-4 支援制度・居場所等の利用状況 (タごはんを無料か安く食べることができる場所)

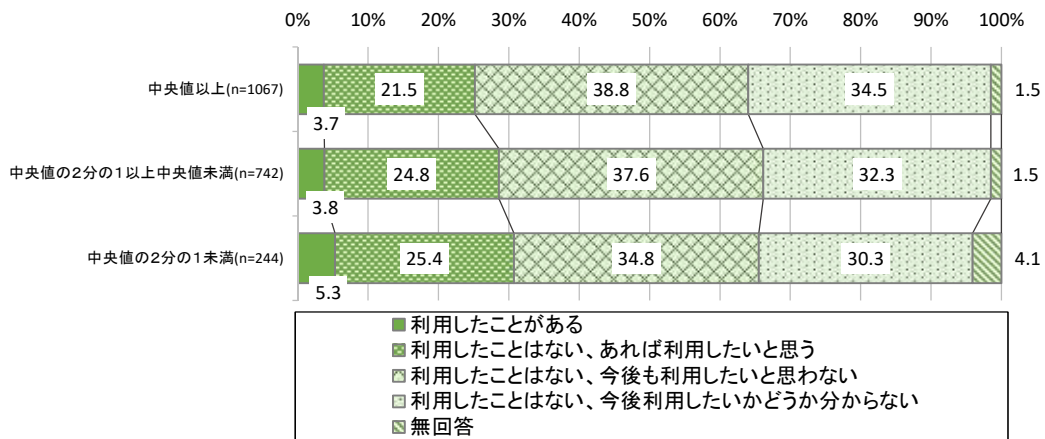


図 2-4-2-5 等価世帯収入の水準別、支援制度・居場所等の利用状況  
(夕ごはんを無料か安く食べることができる場所)

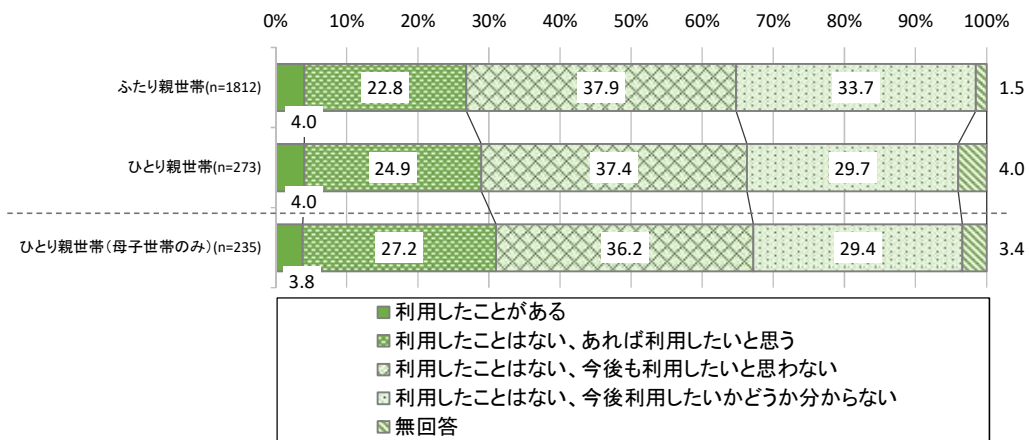


図 2-4-2-6 世帯の状況別、支援制度・居場所等の利用状況  
(夕ごはんを無料か安く食べることができる場所)

### (3) 勉強を無料でみてる場所

中学生票問18. あなたは、次の a~d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(SA)

c. 勉強を無料でみてる場所

支援制度・居場所等の利用状況について、「勉強を無料でみてる場所」に関しては、「利用したことがある」が3.3%、「あれば利用したいと思う」が37.6%、「今後も利用したいと思わない」が29.3%、「今後も利用したいかどうか分からない」が28.2%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「利用したことがある」の割合は、「中央値以上」の世帯では3.4%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では3.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では4.1%となっている。「あれば利用したいと思う」の割合は、それぞれ、35.0%、40.0%、41.8%となっている。

世帯の状況別にみると、「利用したことがある」の割合は、「ふたり親世帯」では3.4%、「ひとり親世帯」全体では2.6%、「母子世帯」のみでは2.6%となっている。「あれば利用したいと思う」の割合は、それぞれ、37.5%、36.6%、37.0%となっている。

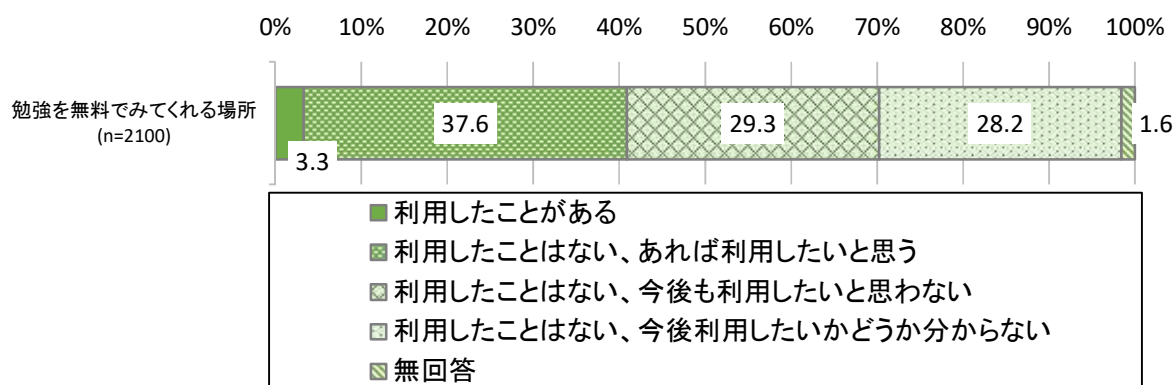


図 2-4-2-7 支援制度・居場所等の利用状況（勉強を無料でみてる場所）



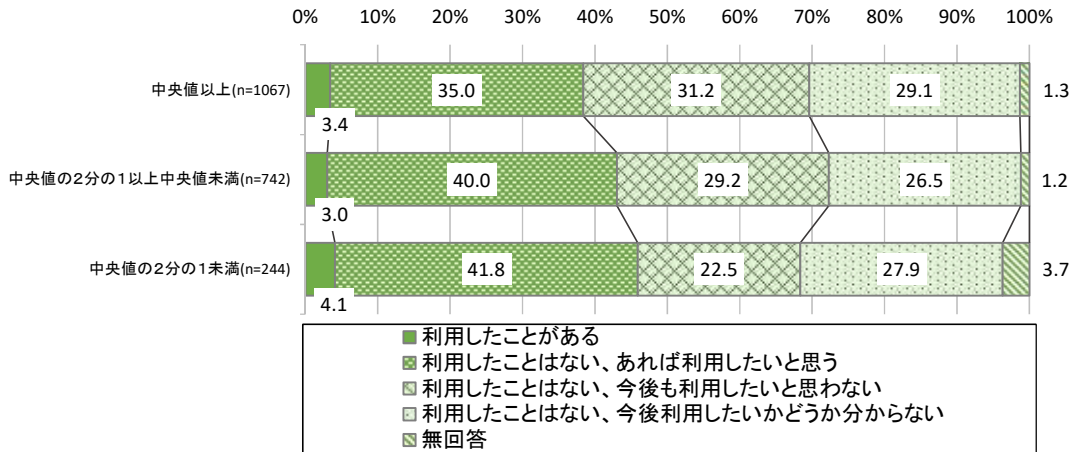


図 2-4-2-8 等価世帯収入の水準別、支援制度・居場所等の利用状況  
(勉強を無料でみてくれる場所)

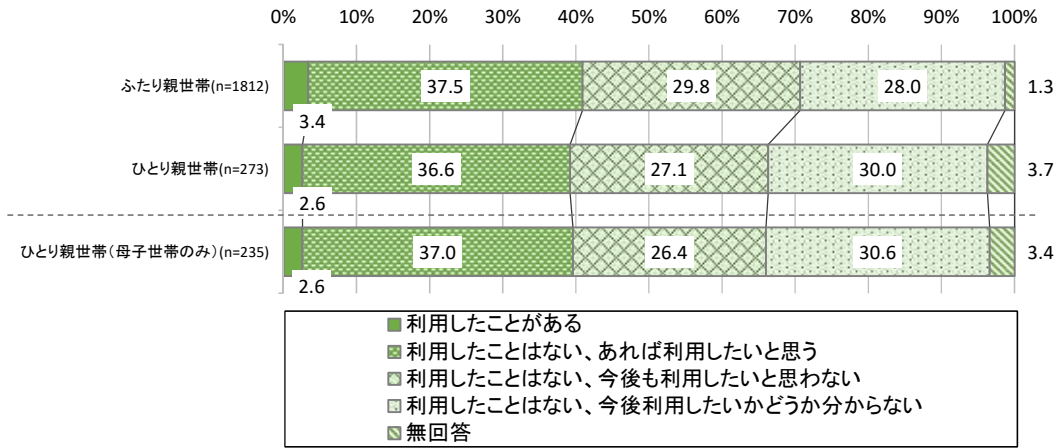


図 2-4-2-9 世帯の状況別、支援制度・居場所等の利用状況  
(勉強を無料でみてくれる場所)

#### (4) 何でも相談できる場所

中学生票問18. あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(SA)

d. (家や学校以外で)何でも相談できる場所(電話やネットの相談を含む。)

支援制度・居場所等の利用状況について、「何でも相談できる場所」に関しては、「利用したことがある」が2.6%、「あれば利用したいと思う」が17.7%、「今後も利用したいと思わない」が36.0%、「今後も利用したいかどうか分からない」が42.0%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「利用したことがある」の割合は、「中央値以上」の世帯では2.8%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では1.8%、「中央値の2分の1未満」の世帯では4.5%となっている。「あれば利用したいと思う」の割合は、それぞれ、17.9%、18.6%、15.2%となっている。

世帯の状況別にみると、「利用したことがある」の割合は、「ふたり親世帯」では2.4%、「ひとり親世帯」全体では2.9%、「母子世帯」のみでは2.6%となっている。「あれば利用したいと思う」の割合は、それぞれ、18.0%、15.8%、16.2%となっている。

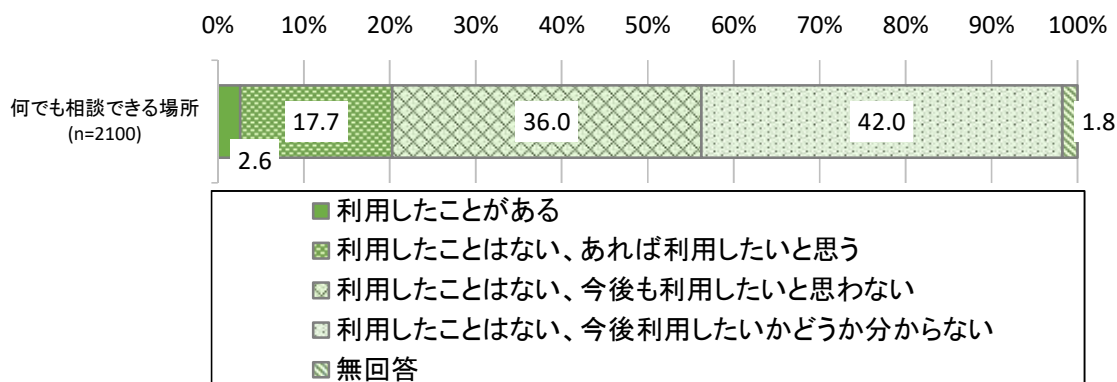


図 2-4-2-10 支援制度・居場所等の利用状況（何でも相談できる場所）

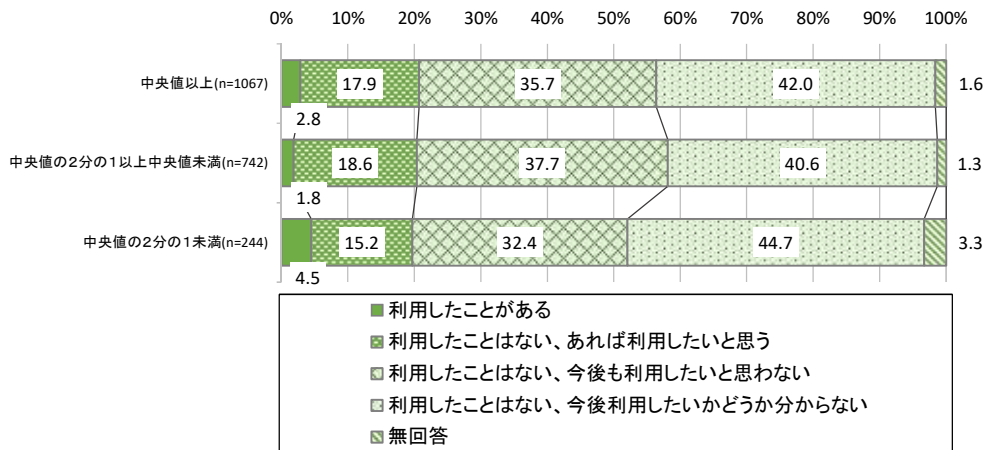


図 2-4-2-11 等価世帯収入の水準別、支援制度・居場所等の利用状況  
(何でも相談できる場所)

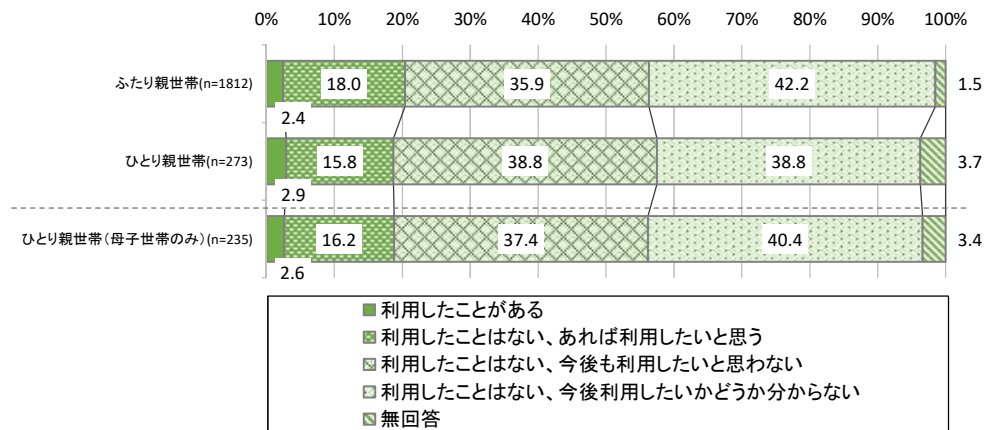


図 2-4-2-12 世帯の状況別、支援制度・居場所等の利用状況  
(何でも相談できる場所)

## (5) 支援制度・居場所等の利用による変化

【問18で1つでも1(「利用したことがある」と答えた方に)】

中学生票問19. そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。(MA)

いずれかの支援制度・居場所等を利用したことがある場合に、利用による変化をどのように考えているかについて集計を行った。「特に変化はない」以外の回答では、「生活の中で楽しみなことが増えた」が25.1%、「ほっとできる時間が増えた」が23.8%、「友だちが増えた」22.7%となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「気軽に話せる大人が増えた」などの割合が比較的高くなっている。

世帯の状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「気軽に話せる大人が増えた」の割合が22.2%で、「ふたり親世帯」と比べて高くなっている。

また、利用した支援制度・利用場所の内容別に集計すると、「勉強を無料でみてくれる場所」を利用したことがある場合は、「勉強する時間が増えた」が40.6%、「勉強がわかるようになった」が30.4%となっている。また、「何でも相談できる場所」を利用したことがある場合は、「ほっとできる時間が増えた」が35.2%、「気軽に話せる大人が増えた」が29.6%となっている。

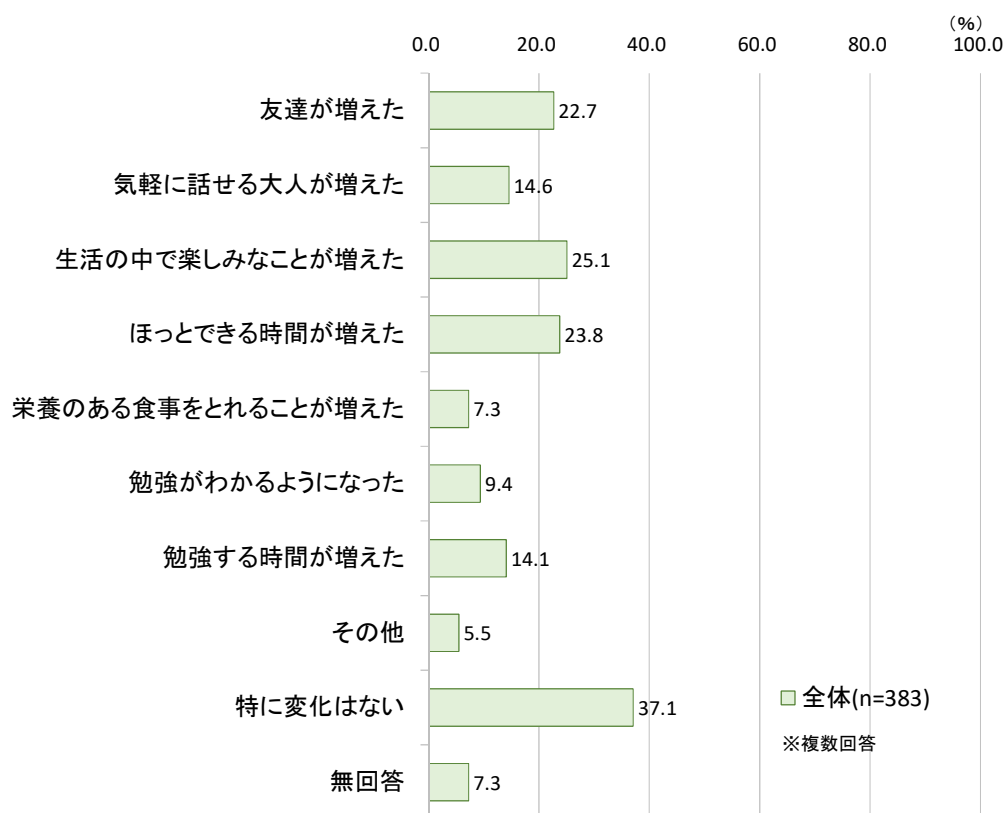


図 2-4-2-13 支援制度・居場所等の利用による変化

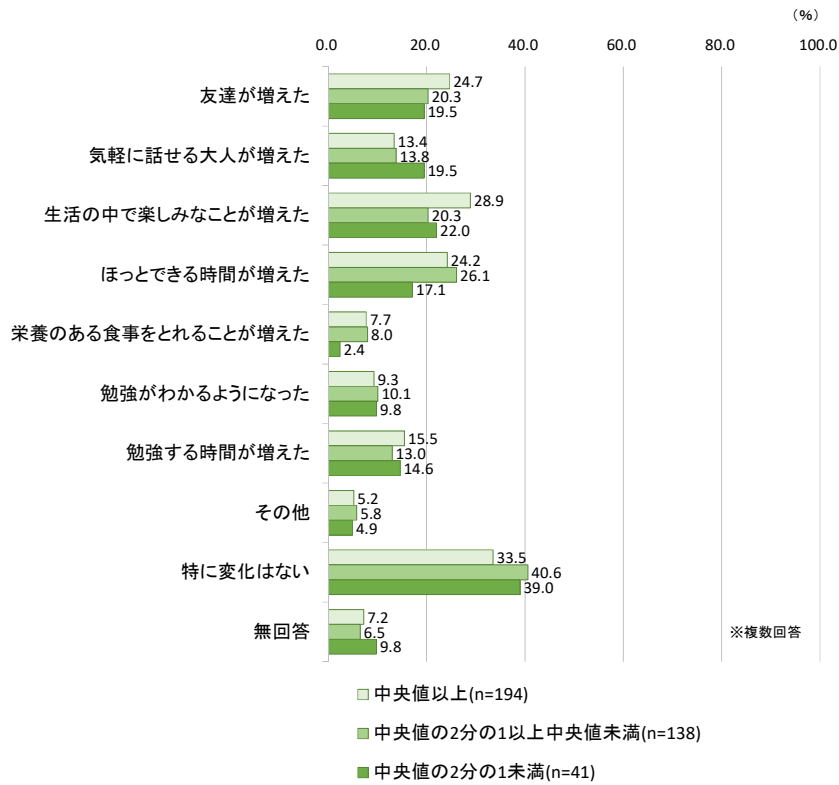


図 2-4-2-14 等価世帯収入の水準別、支援制度・居場所等の利用による変化

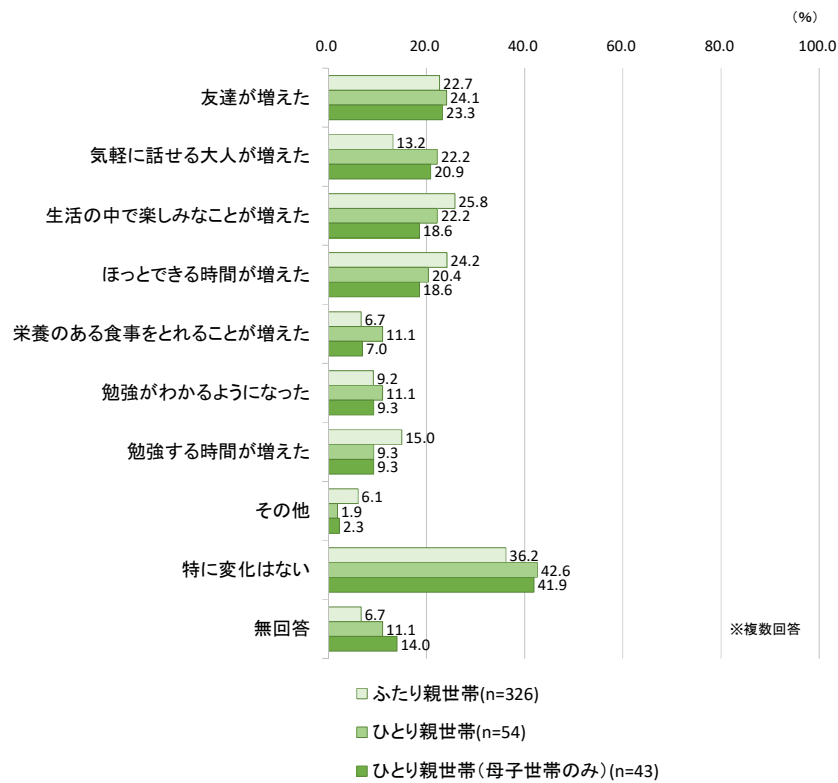


図 2-4-2-15 世帯の状況別、支援制度・居場所等の利用による変化

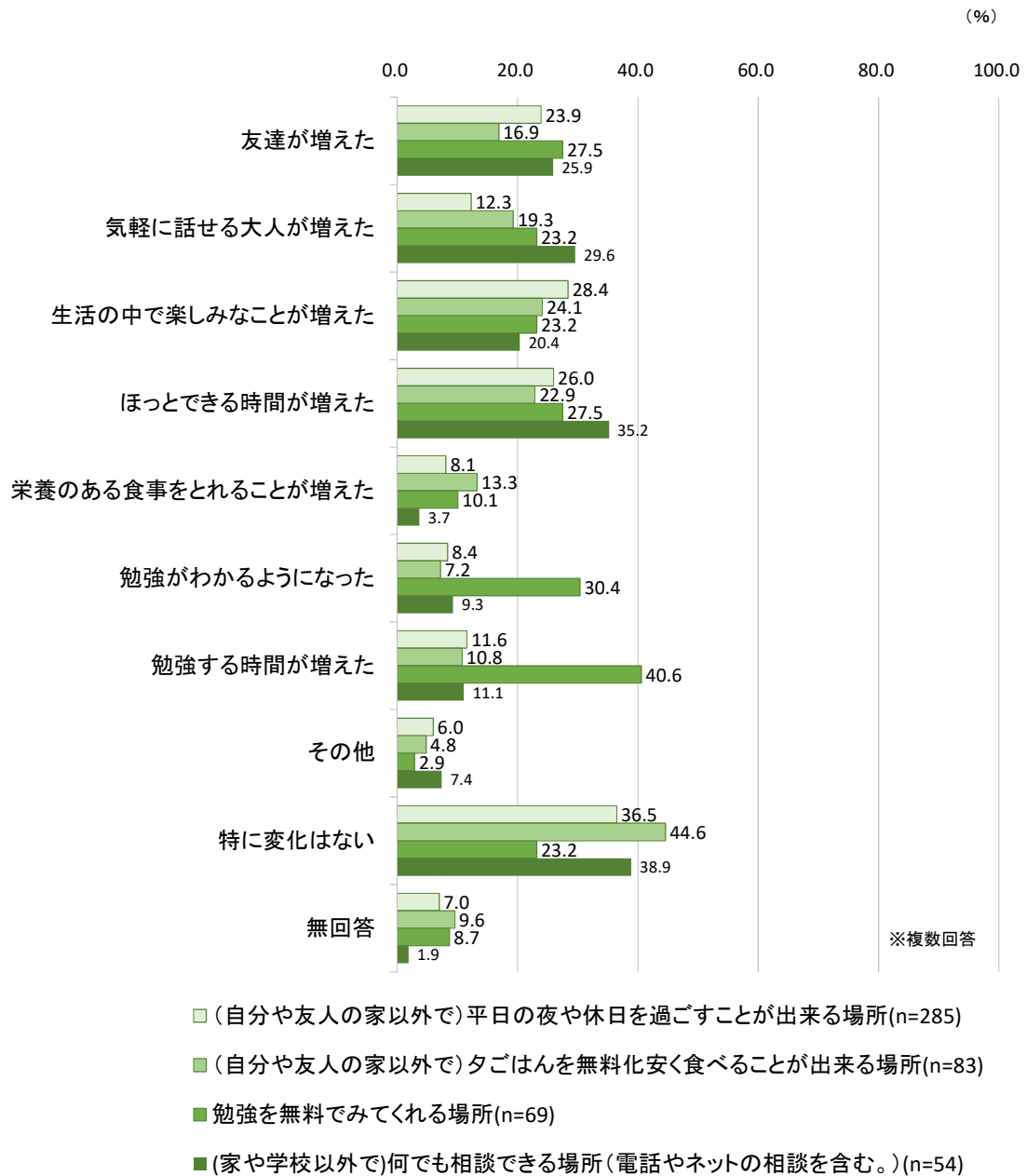


図 2-4-2-16 利用経験のある支援制度・居場所等の内容別、利用による変化

### 3. 參考資料

## 3.1. 調査票

### 3.1.1. 保護者票

# 子どもの生活状況調査

## 【保護者票】

～～ 調査に回答する前に次の内容を確認してください ～～

- ◆ この調査は、中学2年生のお子さんがある保護者の方に、生活の状況やお子さんのことなどについて何うための調査で、北九州市役所が実施します。
- ◆ 調査の結果は、子育て世帯等への施策に役立てることを目的としています。
- ◆ 調査項目は内閣府が作成したもので、全国共通の調査項目です。
- ◆ この調査票は、中学2年生のお子さんの保護者の方がお答えください。
- ◆ この調査票は無記名です。名前を書く必要はありません。
- ◆ ご回答は、回答の番号に○をつけてください。
- ◆ ご記入いただいた調査票は黄緑色の回答用封筒に入れ、のりやセロハンテープで封をしてください。それをお子さんの回答用封筒と一緒に大きい返信用封筒に入れて、封をして近くの郵便ポストに入れてください。
- ◆ この調査票は調査の目的以外には使用しません。  
また、個人が特定されることはありません。
- ◆ 調査についてのお問い合わせは、以下までお願いします。

### 【問い合わせ先】

- 調査に関すること  
北九州市役所広報室広聴課 電話（093）582-2527
- 質問内容に関すること  
北九州市役所子ども家庭局子育て支援課 電話（093）582-2410



**問1** お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた<sup>ぞくから</sup>続柄でお答えください。（あてはまるもの1つに○）  
※この調査で「お子さん」とは、調査対象となる中学2年生のお子さんのことをいいます。以下同じ。

- 1 母親（<sup>びいぼ</sup>継母を含む。）
- 2 父親（<sup>けいふ</sup>継父を含む。）
- 3 祖父母
- 4 その他

**問2** お子さんと同じ、生計を同一にしているご家族の人数（お子さんを含む。）を教えてください。単身赴任<sup>ふにん</sup>中の方は含めないでください。

ご家族の人数  人

**問3** 前問で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 母親
- 2 父親
- 3 祖父母
- 4 兄弟姉妹
- 5 その他

**問4** お子さんと同居し、生計を同一にしている親の<sup>ごんいん</sup>婚姻状況を教えてください。  
(あてはまるもの1つに○)

- 1 結婚している(再婚や事実婚を含む。)
- 2 離婚
- 3 死別
- 4 未婚
- 5 いない、わからない

**問5** 前問で「2 離婚」を選んだ場合、離婚相手と子供の養育費の取り決めをしていますか。  
また養育費を現在受け取っていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1 取り決めしており、養育費を受け取っている
- 2 特に取り決めはしていないが、養育費を受け取っている
- 3 養育費の取り決めをしているが、受け取っていない
- 4 養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない

**問6** ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1 日本語のみを使用している
- 2 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
- 3 日本語以外の言語を使うことが多い

**問7** お子さんの親(母及び父)の最終学歴(卒業した学校)をお答えください。  
(a,bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) 母親	b) 父親
中学(中学部)まで	1	1
高校(高等部)まで	2	2
短大・高専・専門学校(専攻科)まで	3	3
大学またはそれ以上	4	4
いない、わからない	5	5

**問8** お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。  
 (a,b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) 母親	b) 父親
正社員・正規職員・会社役員	1	1
嘱託・契約社員・派遣職員 <small>しよくたく</small>	2	2
パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	3	3
自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)	4	4
働いていない(専業主婦/主夫を含む。)	5	5
いない、わからない	6	6

**問9** 前の質問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。(a,b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) 母親	b) 父親
働きたいが、希望する条件の仕事がないため	1	1
子育てを優先したため	2	2
家族の介護・介助のため	3	3
自分の病気や障害のため	4	4
通学しているため	5	5
その他の理由	6	6

5に○をつけた場合のみ

**問10** お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

- 1 認可保育所・認定こども園
- 2 その他の教育・保育等の施設
- 3 親・親族以外の個人
- 4 もっぱら親・親族が面倒を見ていた

**問 1 1** お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

- 1 幼稚園・認可保育所・認定こども園
- 2 その他の教育・保育等の施設
- 3 親・親族以外の個人
- 4 もっぱら親・親族が面倒を見ていた

**問 1 2** あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。（a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

	あてはまる	あてはまる どちらかといえば、	あてはまらない どちらかといえば、	あてはまらない
a) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている	1	2	3	4
b) お子さんに本や新聞を読むように勧めている	1	2	3	4
c) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた	1	2	3	4
d) お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる	1	2	3	4

**問13** あなたは、次のようなことをどの程度していますか。

(a,bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

※新型コロナウイルス感染症拡大により、学校行事などが休止している場合は、それ以前の状況をお答えください。

	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない
a) 授業参観や運動会などの学校行事への参加	1	2	3	4
b) P T A 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加	1	2	3	4

**問14** お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか。

(あてはまるもの1つに○)

- 1 中学まで
- 2 高校まで
- 3 短大・高専・専門学校まで
- 4 大学またはそれ以上
- 5 まだわからない

**問15** 前問で1～4と答えた場合、その理由は何ですか。

(1～5については、あてはまるものすべてに○)

- 1 お子さんがそう希望しているから
- 2 一般的な進路だと思うから
- 3 お子さんの学力から考えて
- 4 家庭の経済的な状況から考えて
- 5 その他
- 6 特に理由はない

**問16** あなたは次に挙げる<sup>こと柄</sup>事柄で頼れる人はいますか。

(a~cそれぞれについて、1~3のあてはまるもの1つに○)

また、「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。(①~⑦のあてはまるものすべてに○)

	a) 子育てに関する相談	b) 重要な事柄の相談	c) いざという時のお金の援助
頼れる人がいる	1	1	1
家族・親族	①	①	①
友人・知人	②	②	②
近所の人	③	③	③
職場の人	④	④	④
民生委員・児童委員	⑤	⑤	⑤
相談・支援機関や福祉の人	⑥	⑥	⑥
その他	⑦	⑦	⑦
いない	2	2	2
そのことでは人に頼らない	3	3	3

1に○をつけた場合、  
①~⑦のあてはまるものすべてに○

**問17** あなたは、現在の生活状況についてどのように感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1 大変ゆとりがある
- 2 ゆとりがある
- 3 ふつう
- 4 苦しい
- 5 大変苦しい

**問 18** 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの1つに○)

※ 2020年の年間収入についてお答えください。

※収入には、同居し、生計を同一にしている家族全員の以下の収入が含まれます。

- ・勤め先収入（定期収入、賞与等）
- ・事業所得（原材料費、人件費、営業上の諸経費等を除く）、内職収入（材料費等を除く）
- ・公的年金・恩給、その他の社会保障給付金（生活保護、児童手当、児童扶養手当等）
- ・農林漁業収入（農機具等の材料費、営業上の諸経費等を除く）
- ・財産所得（預貯金利子、家賃収入等）
- ・その他の収入（仕送り、養育費、個人年金、各種祝い金等）

- 1 50万円未満
- 2 50~100万円未満
- 3 100~150万円未満
- 4 150~200万円未満
- 5 200~250万円未満
- 6 250~300万円未満
- 7 300~350万円未満
- 8 350~400万円未満
- 9 400~450万円未満
- 10 450~500万円未満
- 11 500~600万円未満
- 12 600~700万円未満
- 13 700~800万円未満
- 14 800~900万円未満
- 15 900~1000万円未満
- 16 1000万円以上

**問19** あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品しこうひんは含みません。(あてはまるもの1つに○)

- 1 よくあった
- 2 ときどきあった
- 3 まれにあった
- 4 まったくなかった

**問20** あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服たかひなな ころもや貴金属・宝飾品ききんもく ほうじやくひんは含みません。(あてはまるもの1つに○)

- 1 よくあった
- 2 ときどきあった
- 3 まれにあった
- 4 まったくなかった

**問21** あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 電気料金
- 2 ガス料金
- 3 水道料金



**問 2 2** 次の a)～f)の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。  
(a～fそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない
a) 神経過敏 <small>かびん</small> に感じた	1	2	3	4	5
b) 絶望的だと感じた	1	2	3	4	5
c) そわそわ、落ち着かなく感じた	1	2	3	4	5
d) 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた	1	2	3	4	5
e) 何をするのも面倒だと感じた	1	2	3	4	5
f) 自分は価値のない人間だと感じた	1	2	3	4	5

**問 2 3** あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を受ける前と比べて、どのように変わりましたか。  
(a～fそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	増えた	減った	変わらない
a) 世帯全体の収入の変化	1	2	3
b) 生活に必要な支出の変化	1	2	3
c) お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと	1	2	3
d) お子さんと話をする事	1	2	3
e) 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること	1	2	3
f) あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと	1	2	3

問24 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

(a～eそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。

(①～⑤のあてはまるもの1つに○)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の自立 支援相談窓 口 <small>こんきゆうしや じふし</small>	d 児童扶養手当 ※3 <small>ふよう</small>	e 北九州市立母子 福祉センター 母子 生活支援センター
現在利用している	1	1	1	1	1
現在利用していないが、以前利用 したことがある	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3
制度の対象外（収入等の条 件を満たさない）だと思うから	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に利用した と思わなかったから	②	②	②	②	②
利用したいが、今までこの支援 制度を知らなかったから	③	③	③	③	③
利用したいが、手続きがわからな かったり、利用しにくいから	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

3に○をつけた場合、  
①～⑤のあてはまるもの1つに○

(参考)

- ※1 就学援助：経済的理由により子供の就学が困難な場合に、学用品費等を補助する制度。
- ※2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※3 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。  
(児童手当とは異なります。)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

# 子どもの生活状況調査

## 【中学生票】

～～ 調査に回答する前に次の内容を確認してください ～～

- ◆ これは子どもの生活状況などを調べるための調査で、北九州市役所が実施します。
- ◆ 調査項目は内閣府が作成したもので、全国共通の調査項目となっています。
- ◆ 調査票の回答は、あなた自身が回答してください。
- ◆ 名前は書かないでください。
- ◆ 自分が思う答えを書いてください。まちがった答えや、正しい答えはありません。
- ◆ 答えは、あてはまる番号に○をつけてください。
- ◆ ○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまるもの1つに○」や、「あてはまるものすべてに○」などと書いてありますので、それにしたがってください。
- ◆ 全部書き終わったら、自分で桃色の回答用封筒に入れて、のりやセロハンテープでとじて、おうちの方に渡してください。
- ◆ この調査票は調査の目的以外には使用しません。  
また、この調査票に名前は書かないので、あなたがどのように答えたかはだれにもわかりません。
- ◆ 調査についてのお問い合わせは、以下までお願いします。

### 【問い合わせ先】

- 調査に関すること  
北九州市役所広報室広聴課 電話 (093) 582-2527
- 質問内容に関すること  
北九州市役所子ども家庭局子育て支援課 電話 (093) 582-2410

問1 あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- 1 男
- 2 女
- 3 その他・答えたくない

問2 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。  
 ※勉強には学校の宿題もふくみます。(1～8については、あてはまるものすべてに○)

- 1 自分で勉強する
- 2 塾で勉強する
- 3 学校の補習を受ける
- 4 家庭教師に教えてもらう
- 5 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する
- 6 家の人に教えてもらう
- 7 友達と勉強する
- 8 その他
- 9 学校の授業以外で勉強はしない

問3 あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。  
 ※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。  
 (a,bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	まったくしない	30分より少ない	1時間より少ない 30分以上、	2時間より少ない 1時間以上、	3時間より少ない 2時間以上、	3時間以上
a) 学校がある日(月～金曜日)	1	2	3	4	5	6
b) 学校がない日(土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6

**問4** あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

- 1 上のほう
- 2 やや上のほう
- 3 まん中あたり
- 4 やや下のほう
- 5 下のほう
- 6 わからない

**問5** あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。（あてはまるもの1つに○）

- 1 いつもわかる
- 2 だいたいわかる
- 3 教科によってはわからないことがある
- 4 わからないことが多い
- 5 ほとんどわからない

→問7にすすんでください。

**問6** 前の質問で「3 教科によってはわからないことがある」「4 わからないことが多い」「5 ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。

いつごろから、授業がわからないと感じるようになりましたか。（あてはまるもの1つに○）

- 1 小学1・2年生のころ
- 2 小学3・4年生のころ
- 3 小学5・6年生のころ
- 4 中学1年生のころ
- 5 中学2年生になってから

問7 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。（あてはまるもの1つに○）

- 1 中学まで
- 2 高校まで
- 3 短大・高専・専門学校まで
- 4 大学またはそれ以上
- 5 まだわからない →問9にすすんでください。

問8 前の質問で1～4と答えた場合、その理由を教えてください。

（1～8については、あてはまるものすべてに○）

- 1 希望する学校や職業があるから
- 2 自分の成績から考えて
- 3 親がそう言っているから
- 4 兄・姉がそうしているから
- 5 まわりの先輩や友達がそうしているから
- 6 家にお金がないと思うから
- 7 早く働く必要があるから
- 8 その他
- 9 とくに理由はない

**問 9** あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。  
(あてはまるもの1つに○)

- 1 参加している →問 11 にすすんでください。  
2 参加していない

**問 1 0** 前の質問で「2 参加していない」と答えた人にお聞きします。  
参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 入りたいクラブ・部活動がないから  
2 塾や習い事が忙しいから  
3 費用がかかるから  
4 家の事情(家族の世話、家事など)があるから  
5 一緒に入る友達がいないから  
6 その他

**問 1 1** あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。  
(a~cそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	毎日食べる (週7日)	週5 〜 6日	週3 〜 4日	ない ほとん ど食 べ ない 週1 〜 2日
a) 朝食	1	2	3	4
b) 夕食	1	2	3	4
c) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食	1	2	3	4

**問 1 2** あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間じかんに寝ねていますか。  
 (あてはまるもの1つに○)

- 1 そうである
- 2 どちらかといえばそうである
- 3 どちらかといえばそうではない
- 4 そうではない

**問 1 3** あなたに困こまっていることや悩なやみごとがあるとき、あなたが相談そうざんできる人はだれですか。  
 (1～9については、あてはまるものすべてに○)

- 1 親
- 2 きょうだい、しまい
- 3 祖父母そふぼなど
- 4 学校の先生
- 5 学校の友達
- 6 学校外の友達
- 7 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど
- 8 その他の大人じゅくなら(塾・習い事の先生、地域ちいきの人など)
- 9 ネットで知り合った人
- 10 だれにも相談そうざんできない、相談そうざんしたくない

**問 1 4** 全体として、あなたは最近さいきんの生活に、どのくらい満足まんぞくしていますか。「0」(まったく満足まんぞくしていない)から「10」(十分に満足じゅうぶんしている)の数字で教えてください。  
 (あてはまるもの1つに○)

0 : まったく満足 <small>まんぞく</small> していない					10 : 十分に満足 <small>じゅうぶん</small> している					
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10



**問15** 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、全部の質問に答えてください。  
 あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。  
 (a~o それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
a) 私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。	1	2	3
b) 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。	1	2	3
c) 私は、他の子供たちと、よく分け合う（食べ物・ゲーム・ペンなど）。	1	2	3
d) 私は、たいてい一人である。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合いを避ける。	1	2	3
e) 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。	1	2	3
f) 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。	1	2	3
g) 私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。	1	2	3
h) 私は、落ち込んでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。	1	2	3
i) 私は、同じくらいの年齢の子供からは、だいたい好かれている。	1	2	3
j) 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。	1	2	3
k) 私は、年下の子供たちに対してやさしくしている。	1	2	3
l) 私は、他の子供から、いじめられたり、からかわれたりする。	1	2	3
m) 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・子供たちなど）。	1	2	3
n) 私は、他の子供たちより、大人という方がうまくいく。	1	2	3
o) 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。	1	2	3

**問 16** あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を受ける前と比べて、どのように変わったと思いますか。

(a~gそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	増えた	減った	変わらない
a) 学校の授業以外で勉強する時間	1	2	3
b) 学校の授業がわからないと感じること	1	2	3
c) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数	1	2	3
d) 食事を抜く回数	1	2	3
e) 夜遅くまで起きている回数	1	2	3
f) 親以外の大人や友達と話をすること	1	2	3
g) イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと	1	2	3

**問 17** あなたは今までに、以下の a~h のようなことがありましたか。あてはまる個数を教えてください。  
(a~hについて、あてはまるものすべてに○)

- a 一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
- b 一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
- c 家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
- d 必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある
- e 両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
- f 一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある
- g 一緒に住んでいる人に、お酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
- h 一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる

※上のようなことで、つらい気持ちの場合は、学校のスクールカウンセラーや「チャイルドライン」（フリーダイヤル：0120-99-7777）に話してみてください。

問18 あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。（a～d それぞれについて、あてはまるもの1つに○）

	利用したことがある	利用したことはない		
		あれば利用したいと思う	今後も利用したいと思わない	今後利用したいかどうか分からない
a) (自分や友人の家以外で)平日の夜や休日を過ごすことができる場所	1	2	3	4
b) (自分や友人の家以外で)夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（子供食堂など）	1	2	3	4
c) 勉強を無料でみてくれる場所	1	2	3	4
d) (家や学校以外で)何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む。）	1	2	3	4

問19 前の質問で、1つでも「1 利用したことがある」と答えた方にお聞きます。そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。（1～8については、あてはまるものすべてに○）

- 1 友だちが増えた
- 2 気軽に話せる大人が増えた
- 3 生活の中で楽しみなことが増えた
- 4 ほっとできる時間が増えた
- 5 栄養のある食事をとれることが増えた
- 6 勉強がわかるようになった
- 7 勉強する時間が増えた
- 8 その他
- 9 特に変化はない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

## 3.2. 等価世帯収入の算出

- 年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする（例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1000万円以上」は1050万円とする。）
- 上記の値を、保護者票問2で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
- 上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで分類する<sup>8</sup>。

### ●等価世帯収入の中央値:317.54万円、等価世帯収入の中央値の2分の1:158.77万円

等価世帯収入	世帯	有効パーセント	累積パーセント
9.4	1	0.0	0.0
10.2	2	0.1	0.1
12.5	2	0.1	0.2
14.4	2	0.1	0.3
26.5	1	0.0	0.4
30.6	1	0.0	0.4
33.5	1	0.0	0.5
37.5	4	0.2	0.7
43.3	9	0.4	1.1
51.0	4	0.2	1.3
53.0	3	0.1	1.5
55.9	4	0.2	1.7
58.3	1	0.0	1.7
62.5	8	0.4	2.1
71.4	1	0.0	2.1
72.2	15	0.7	2.9
75.0	1	0.0	2.9
78.3	3	0.1	3.1
85.0	2	0.1	3.2
87.5	9	0.4	3.6
88.4	6	0.3	3.9
91.9	3	0.1	4.0
100.6	5	0.2	4.3
101.0	27	1.3	5.6
108.3	1	0.0	5.6
112.3	2	0.1	5.7
112.5	21	1.0	6.8
114.9	1	0.0	6.8
118.6	1	0.0	6.9
122.8	3	0.1	7.0
123.0	13	0.6	7.6
123.7	8	0.4	8.0
129.9	28	1.4	9.4
132.7	6	0.3	9.7
137.5	21	1.0	10.7
141.7	2	0.1	10.8
145.3	12	0.6	11.4
150.2	1	0.0	11.4
153.1	10	0.5	11.9

等価世帯収入	世帯	有効パーセント	累積パーセント
158.8	19	0.9	12.8
159.1	9	0.4	13.3
160.6	6	0.3	13.6
162.5	38	1.8	15.4
167.7	17	0.8	16.2
173.5	10	0.5	16.7
179.5	1	0.0	16.8
183.3	1	0.0	16.8
187.5	32	1.6	18.4
187.6	21	1.0	19.4
190.1	21	1.0	20.4
193.9	5	0.2	20.7
194.5	12	0.6	21.2
207.9	9	0.4	21.7
212.4	37	1.8	23.5
212.5	47	2.3	25.8
216.5	21	1.0	26.8
224.5	16	0.8	27.6
229.8	6	0.3	27.8
237.2	1	0.0	27.9
237.5	64	3.1	31.0
245.4	27	1.3	32.3
245.7	6	0.3	32.6
246.0	64	3.1	35.7
265.2	4	0.2	35.9
265.4	21	1.0	36.9
274.2	24	1.2	38.1
275.0	109	5.3	43.4
283.5	3	0.1	43.5
290.7	76	3.7	47.2
300.5	4	0.2	47.4
306.2	13	0.6	48.1

等価世帯収入	世帯	有効パーセント	累積パーセント
317.5	42	2.0	50.1
321.3	1	0.0	50.1
325.0	121	5.9	56.0
335.4	76	3.7	59.7
335.9	2	0.1	59.8
347.0	10	0.5	60.3
350.0	2	0.1	60.4
359.1	4	0.2	60.6
371.2	2	0.1	60.7
375.0	104	5.1	65.7
375.3	32	1.6	67.3
380.1	49	2.4	69.7
387.8	10	0.5	70.2
388.9	2	0.1	70.3
396.9	7	0.3	70.6
424.9	36	1.7	72.4
425.0	86	4.2	76.5
428.7	20	1.0	77.5
433.0	59	2.9	80.4
459.6	3	0.1	80.5
469.6	70	3.4	83.9
475.0	75	3.6	87.6
490.7	30	1.5	89.0
525.0	130	6.3	95.3
530.3	5	0.2	95.6
548.5	28	1.4	96.9
601.0	2	0.1	97.0
606.2	48	2.3	99.4
671.8	7	0.3	99.7
742.5	6	0.3	100.0

<sup>8</sup>全回答件数 2,104 のうち、46 件(2.2%)は、年間収入または同居家族の人数の情報が「不明・無回答」であったことから、分類ができなかった。